

青森県埋蔵文化財調査報告書 第236集

幸畑（４）遺跡

幸畑（１）遺跡

— 県道尾駁有戸停車場線改良事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1998年3月

青森県教育委員会

序

青森県教育委員会は、県道尾駮有戸停車場線改良事業に伴い、工事予定地内に所在する六ヶ所村幸畑(4)・(1)遺跡の記録保存を図るため、平成8年に発掘調査を実施しました。

今回の調査により、縄文時代早期から平安時代にかけての遺構や遺物が発見されました。

特に幸畑(1)遺跡B区からは、縄文時代早期白浜式に比定される土器の中に、早期では稀な円孔を巡らし、口縁内側に瘤を持つ土器が出土しました。

本報告書は、この発掘調査の成果をまとめたものであり、いささかでも今後の文化財の保護及び活用に資するところがあれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査の実施と報告書の作成にあたり関係各位から御協力、御指導を賜りましたことに対して、心から感謝の意を表します。

平成10年3月

青森県教育委員会

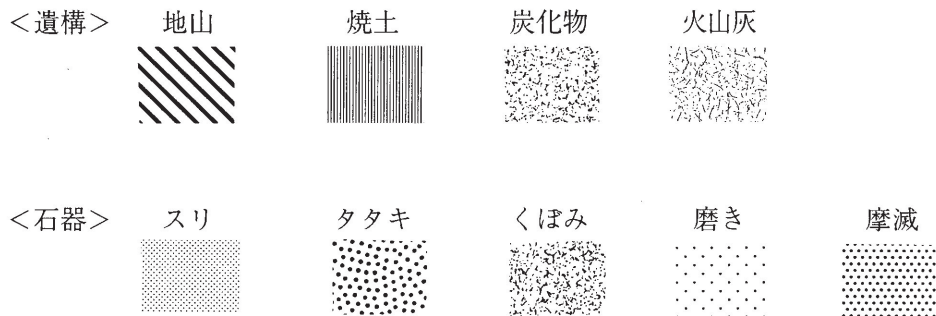
教育長 松森 永祐

例 言

- 1 本報告書は、平成8年度に県道尾鮫有戸停車場線改良事業に伴い実施した、六ヶ所村幸畑(4)・(1)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 この遺跡の遺跡番号は幸畑(4)遺跡が50035、幸畑(1)遺跡が50032である。
- 3 執筆者名の氏名は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は各節の文末に記してある。
- 4 資料分析、鑑定については下記の方々に依頼した。

火山灰の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
石器の石質鑑定	八戸市文化財保護審議委員	松山 力
放射性炭素の年代測定	学習院大学教授	木越 邦彦

- 5 本書に掲載した地形図(遺跡の位置)は建設省国土地理院発行の5万分の1の地形図を復写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。なお、遺物写真の縮尺は不同である。
- 7 遺構・遺物の文、図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。
 - (1) 遺構内外の堆積土の注記は、『新版標準土色帖』(小山正忠、竹原秀雄 1993)を用いた。
 - (2) 図中で使用したスクリーン・トーンの表示は次のとおりである。



- (3) 土器の分類については各遺跡の主要時期が明確に異なるため、各遺跡・調査区毎に基準を設定した。
 - (4) 石器の分類については統一基準を設け、分類を行った。(基準については次頁参照)
- 8 参考文献については、本文末に収めた。文中に引用した文献については、著者名と刊行西暦年を示した。
 - 9 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
 - 10 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関と個人から御教授、御指導をいただいた(順不同、敬称略)。

長尾正義、領塚正浩、畑 宏明、越田健一郎、熊谷仁志、富永勝也、森秀之、松谷純一、中野拓大、山口義伸

石器の分類基準について

本書では幸畑（4）・（1）遺跡出土の石器の分類基準を統一した。なお、文中での石器の面の呼称は主要剝離面のある側を腹面、その反対側を背面とした。

1. 石鏃
 - 茎部 I類：無茎のもの
II類：有茎のもの
 - 基部 a) 直線的なもの
b) 丸味をおびるもの・尖るもの
c) 抉りのあるもの
2. 石槍
3. 石銛状石器
4. 石匙
 - a) 細身の縦形
 - b) 幅広の縦形
 - c) 横形
5. 石錐
6. 石篋
 - 基部 I類：作出しているもの
II類：なし
 - 刃部 a) 刃部が平刃のもの
b) 刃部が円刃・偏刃のもの
7. 打製石斧
8. 磨製石斧
9. 敲磨器類
 - 擦り・磨き・敲き・凹みがみられるものを一括した。
 - a) 側面に加工がみられるもの
 - b) 端部に加工がみられるもの
 - c) 中央面に加工がみられるもの
10. 石錘
 - 位置 I類：楕円形の礫の長軸
II類：長軸が幅の2倍ある礫
III類：短軸（抉りのある軸が素材の幅より狭い）
 - 加工 a) 片端片面加工、もう一端は抉りなし
b) 両端片面加工
c) 片端両面加工、もう一端が片面加工
d) 両端両面加工
11. 石棒
12. 石製品
13. 石核
14. 不定形石器
 - 二次加工剝片の中で一定の箇所に調整を施したものの、器種が想定できるものを含めた。
15. 打製石器
 - 礫を素材とした石器で器種が定まらないものを一括した。
16. 二次加工剝片
 - 意図的に加えられたと思われる剝離面を持つもので、刃部を作出してないものを一括した。
17. 剝片
 - 意図的に施された剝離面をもたないもの

本文目次

序

例言

第I章 発掘調査の概要	2
第1節 調査要項	2
第2節 調査方法	3
第3節 調査経過	3
第4節 遺跡の立地と基本層序	4
第II章 幸畑（4）遺跡	11
第1節 検出遺構と出土遺物	11
1 竪穴住居跡	11
2 溝状土坑	37
3 土坑	37
第2節 遺構外出土遺物	39
1 土器、土製品	39
2 石器	49
第III章 幸畑（1）遺跡A区	57
第1節 検出遺構と出土遺物	57
1 竪穴住居跡	57
2 土坑	68
3 溝状土坑	82
4 焼土遺構	82
第2節 遺構外出土遺物	83
1 土器	83
2 石器	91
第IV章 幸畑（1）遺跡B区	97
第1節 検出遺構と出土遺物	97
1 竪穴住居跡	97
2 溝状土坑	107
3 土坑	120
4 溝	121
第2節 遺構外出土遺物	122
1 土器	122
2 石器、石製品	135
第3節 早期の土器について	144

1 第Ⅰ群・第Ⅱ群土器について（白浜・小舟渡平式土器）	144
2 突瘤・内瘤、円孔を施した土器	144
第Ⅴ章 自然科学的分析の成果	148
第1節 火山灰の蛍光X線分析	148
第2節 炭化材の年代測定	150
第Ⅵ章 まとめ	151
引用・参考文献	152
写真図版	153
抄録	175

図 版 目 次

図1 遺跡の位置	1	図22 第5号住居跡出土遺物②	32
図2 基本層序	7	図23 第6号住居跡	34
図3 調査区域図	8	図24 第6号住居跡カマド	35
図4 試掘坑配置図及び発掘調査範囲図	9	図25 第6号住居跡出土遺物	36
図5 幸畑（4）遺跡遺構配置図	10	図26 溝状土坑、土坑出土遺物	37
図6 第1号住居跡	12	図27 溝状土坑、土坑	38
図7 第1号住居跡カマド	13	図28 遺構外出土土器①	42
図8 第1号住居跡出土遺物	14	図29 遺構外出土土器②	43
図9 第2号住居跡	16	図30 遺構外出土土器③	44
図10 第2号住居跡カマド	17	図31 遺構外出土土器④	45
図11 第2号住居跡出土遺物	18	図32 遺構外出土土器⑤	46
図12 第3号住居跡	20	図33 遺構外出土石器①	50
図13 第3号住居跡カマド	21	図34 遺構外出土石器②	51
図14 第3号住居跡出土遺物①	22	図35 遺構外出土石器③	52
図15 第3号住居跡出土遺物②	23	図36 遺構外出土石器④	53
図16 第4号住居跡	25	図37 遺構外出土石器⑤	54
図17 第4号住居跡カマド	26	図38 遺構外出土石器⑥	55
図18 第4号住居跡出土遺物	27	図39 幸畑（1）遺跡A区遺構配置図	58
図19 第5号住居跡	29	図40 第1号住居跡	60
図20 第5号住居跡カマド	30	図41 第1号住居跡出土遺物①	61
図21 第5号住居跡出土遺物①	31	図42 第1号住居跡出土遺物②	62

図43	第2号住居跡	63	図72	溝状土坑(1)[3T~8T]	109
図44	第2号住居跡出土遺物	64	図73	溝状土坑(2)[9T~14T]	110
図45	第3号住居跡	65	図74	溝状土坑(3)[15T~20T]	111
図46	第3号住居跡出土遺物①	66	図75	溝状土坑(4)[21T~24T、28T]	112
図47	第3号住居跡出土遺物②	67	図76	溝状土坑(5)[25T~27T、29T、31T]	113
図48	土坑(1)[1土~4土]	72	図77	溝状土坑(6)[30T、32T~36T]	114
図49	土坑(2)[5土~8土]	73	図78	溝状土坑(7)[37T~42T]	115
図50	土坑(3)[9土~13土]	74	図79	溝状土坑(8)[43T~47T、54T]	116
図51	土坑出土遺物①	75	図80	溝状土坑(9)[48T~52T、55T]	117
図52	土坑出土遺物②	76	図81	溝状土坑(10)[53T、56T~60T]	118
図53	土坑出土遺物③	77	図82	溝状土坑出土遺物	119
図54	土坑出土遺物④	78	図83	第14号・第15号土坑	120
図55	土坑出土遺物⑤	79	図84	第1号・第2号溝	121
図56	溝状土坑、焼土遺構	82	図85	遺構外出土土器分布図	122
図57	遺構外出土土器①	85	図86	遺構外出土土器①	125
図58	遺構外出土土器②	86	図87	遺構外出土土器②	126
図59	遺構外出土土器③	87	図88	遺構外出土土器③	127
図60	遺構外出土土器④	88	図89	遺構外出土土器④	128
図61	遺構外出土石器①	93	図90	遺構外出土土器⑤	129
図62	遺構外出土石器②	94	図91	遺構外出土土器⑥	130
図63	遺構外出土石器③	95	図92	遺構外出土土器⑦	131
図64	幸畑(1)遺跡B区遺構配置図	98	図93	遺構外出土石器①	136
図65	第4号住居跡	99	図94	遺構外出土石器②	137
図66	第5号住居跡	100	図95	遺構外出土石器③	138
図67	第5号住居跡出土遺物①	101	図96	遺構外出土石器④	139
図68	第5号住居跡出土遺物②	102	図97	遺構外出土石器⑤	140
図69	第5号住居跡出土遺物③	103	図98	遺構外出土石器⑥	141
図70	第5号住居跡出土遺物④	104	図99	早期の円孔を施した土器分布図	146
図71	第5号住居跡出土遺物⑤	105	図100	早期の円孔を施した土器	147

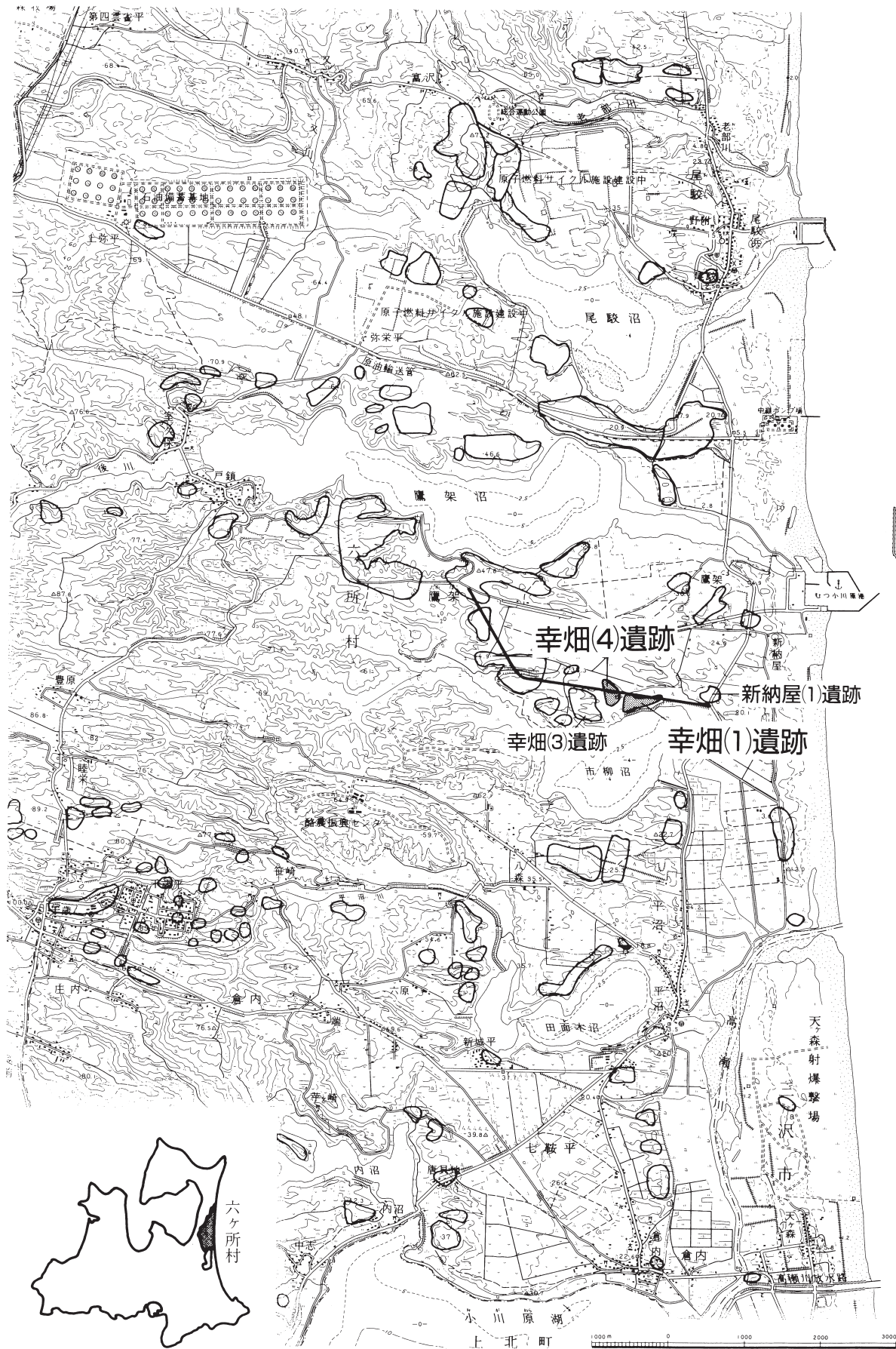


図1 遺跡の位置

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査の要項

1 調査目的

県道尾駸有戸線改良事業の実施に先立ち、当該地区に所在する幸畑(4)・(1)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用資する。

2 調査期間 平成8年5月7日(火)から同年10月31日(木)まで

3 遺跡名及び所在地 幸畑(4)遺跡 (青森県遺跡台帳番号 50035)
上北郡六ヶ所村大字鷹架字道ノ下896、外

幸畑(1)遺跡 (青森県遺跡台帳番号 50032)
上北郡六ヶ所村大字鷹架字道ノ下904、外

4 発掘調査面積 10,000平方メートル

5 調査委託者 青森県土木部

6 調査受託者 青森県教育委員会

7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関 六ヶ所村、六ヶ所村教育委員会、上北教育事務所

9 調査参加者

調査指導員 村越 潔 青森大学教授 (考古学)

調査協力員 橋本 寿 六ヶ所村教育委員会教育長

調査員 滝沢 幸長 八戸市文化財審議委員 (考古学)

〃 天間 勝也 東北町立清水目小学校校長 (考古学)
(現、天間林村立天間西小学校校長)

〃 佐々木辰雄 青森県立八戸南高等学校教諭 (地質学)

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター
調査第三課長 大湯 卓二
総括主査 伊藤 昭雄 (現、青森県立木造高等学校車力分校教諭)
主 事 杉野森淳子
調査補助員 柴田 君仁、杉田 幸子、福士 忠博、盛 祐子

第2節 調査方法

平成8年度の調査対象遺跡は、各遺跡が立地する台地が地続きであることと、各遺跡の範囲が明確でないため、遺跡範囲にとらわれずに建設予定路線内全体を調査対象とした。調査方法も平成7年度同様、試掘を先行し、遺構および遺物が確認された範囲を適宜拡張しながら本発掘調査を行った。

試掘は、道路建設用中心杭を基準として、4 m間隔毎に2 m×4 mのトレンチを道路建設用中心杭の両側に一列ずつ設定した。予定路線幅や立木および地形による制約により、トレンチの位置、大きさを適宜変更した。試掘トレンチの呼称は中心杭の起点寄り番号を用い、終点側に向かい、中心杭の北側のトレンチにアルファベットを、南側のトレンチに算用数字を記すこととした。(例 北側：No120-a、b、c 南側：No120-1、2、3)

本調査では建設用中心杭を基準に4 m×4 mのグリッドを路線内に設定した。中心杭ラインをEラインとして北から南へA、B、Cとアルファベットを、西から東へ1、2、3と算用数字を付した。東西軸の基準は遺跡毎にわけ、次の様に設定した。幸畑(4)遺跡は道路中心杭No100を100ラインとした。幸畑(1)遺跡は道路中心杭No113を1ラインとし、B区まで通しで設定した。グリッドの呼称は北西隅の交点をアルファベット優先で読み取ることとした。(例:A-120、E-160)

遺構の精査にあたっては適宜セクションベルトを設定し、層ごとに掘り下げた。実測図の縮尺は必要に応じて20分の1、10分の1を使い分けた。

幸畑(1)遺跡の遺構番号は、試掘当初、A区とB区、および幸畑(1)遺跡と東に隣接する新納屋(1)遺跡との境界が不明確なため、幸畑(1)遺跡の遺構番号はA区、B区に通しで付した。

写真撮影はカラーリバーサルとモノクロームの2種類を用いた。

出土遺物の取り上げは、遺構内出土のものは遺構毎に、遺構外出土のものは試掘トレンチおよびグリッド毎に取り上げた。取り上げの際、遺物カードに出土層位を明記した。

第3節 調査の経過

平成8年5月7日、調査器材を運搬し、前年度試掘調査した幸畑(4)遺跡の本発掘調査と幸畑(1)遺跡の試掘調査を平行して開始した。幸畑(4)遺跡は道路中心杭No101からNo105付近とNo106からNo112間を全面調査した。幸畑(1)遺跡は中心杭No117から試掘を行った。

5月下旬、幸畑(1)遺跡の試掘がNo127付近までと予想以上に進行したことと、幸畑(4)遺跡

の遺構数が増加し、さらに包含層中の遺物が予想より多かったため、幸畑（１）遺跡の試掘を一時中断し、幸畑（４）遺跡の調査に集中して取り組んだ。この時点で、幸畑（１）遺跡の発掘調査対象範囲を中心杭No120からNo124間に確定する。

6月12日、調査関係機関ならび調査員との打ち合わせ会議を開催した。

6月下旬、幸畑（４）遺跡の精査が進んだため、一部、幸畑（１）遺跡の全面調査に入る。幸畑（１）遺跡は調査範囲が狭いことと包含層の大半が現代の耕作により削平されているため、確認面まで人力による掘り下げを行った。

6月末、幸畑（４）遺跡の発掘調査を完了する。

7月、幸畑（１）遺跡の遺構精査を開始する。合わせて、中心杭No127以降の試掘を再開した。試掘の結果、中心杭No125からNo146までは耕作による削平が大きく、遺物・遺構が検出されなかった。中心杭No146以降は縄文時代早期の爪形刺突を施した白浜式土器片が多く出土し、溝状土坑も検出された。この区間は幸畑（１）遺跡の登録範囲に隣接することから、幸畑（１）遺跡とし、この時点で中心杭No117から中心杭No124までを幸畑（１）遺跡A区、中心杭No146からNo165までを幸畑（１）遺跡B区と調査区域を区分した。

8月、幸畑（１）A区と平行して、幸畑（１）B区の表土剥ぎを開始し、遺構の分布範囲の確認に入る。溝状土坑が広範囲に渡って分布することと、盛土があることから、重機を導入して表土剥ぎを行った。A区はグリッド30以東とグリッド15以西は試掘で遺物・遺構が確認されなかったため、本調査の範囲をグリッド15から30の間と、D-7グリッドとE-36グリッドに限定して行った。

8月末、幸畑（１）遺跡A区発掘調査を完了する。

9月、幸畑（１）B区では試掘および第Ⅲ層で遺構が確認されたグリッドとその周辺を、第Ⅳ層まで掘り下した。第Ⅳ層を確認面として、グリッド150ラインから、東に向かい遺構精査を行った。

試掘調査が順調に進んだため、幸畑（１）遺跡に隣接し、道路建設予定地内の新納屋（１）遺跡の試掘調査を開始することとなった。9月末に試掘調査は完了した。

なお、幸畑（１）遺跡と新納屋（１）遺跡の境界は中心杭No165とNo166間にある小谷を基準にした。

10月31日、幸畑（１）B区の調査を完了し、平成8年度の調査を終了した。

（杉野森 淳子）

第4節 遺跡の立地と基本層序

遺跡の位置

幸畑（４）・（１）遺跡は、上北郡六ヶ所村の中央部の鷹架沼と市柳沼の間に形成された七鞍平段丘面に位置する。市柳沼北側には、沼に注ぐ小支谷が複数形成され、複雑に曲がりくねる段丘が存在する。この段丘面は、平坦面が多く残され、全体的にごくゆるやかに東方に傾斜している。

遺跡周辺は従来牧草地であり、台地の大部分は削平や埋め立てによって、平坦な地形になっている。しかし、調査の結果、本来は小支谷・斜面が現在よりも多く存在し、起伏に富んだ地形であったと想定できる。

幸畑（４）遺跡は市柳沼から400m離れた標高20～25mの、沼面に突き出た舌状台地南端の平坦面に位置する。台地東側にある小支谷を挟んで幸畑（１）遺跡と隣接している。

幸畑（１）遺跡は市柳沼から200m離れた標高20～23mの七鞍平段丘面と、標高13～15mの洪積世低位段丘面にまたがる、全長800mの遺跡である。A区は舌状台地から東西南の三方に下る斜面上に、B区は七鞍平面から市柳沼北縁になだらかに続く低位段丘面に存在する。

同段丘上には幸畑（７）・（３）、新納屋（１）遺跡をはじめ、多くの遺跡が点在している。

遺跡の層序

幸畑（４）遺跡、幸畑（１）遺跡A区・B区の層序は基本的に共通している。第Ⅶ層まで分層した。各調査区とも、第Ⅰ層から第Ⅴ層までは共通している。第Ⅵ層については様相が異なるため、各調査区毎に記載する。

第Ⅰ層 黒色土（10YR1.7/1）

表土。下半部しまりあり。ローム粒・炭化物微量。B区ではロームブロックが混入している。

第Ⅱ層 黒色土（10YR2/1）

しまりややあり。不連続な層で、ブロック状もしくはレンズ状に堆積している。削平により、残存状態が悪く、層状にとらえられない。幸畑（４）遺跡の145ラインから160ラインにかけて確認されている。

第Ⅲ層 暗褐色土（10YR3/3）

しまりあり。Ⅳ層に近くなるにつれ、色調が明るくなる。木根微量。ローム粒・ロームブロックが少量含まれ、第Ⅳ層に近い下部ほど多くなる。縄文時代の遺物包含層である。

第Ⅳ層 黄褐色土（10YR5/8）

漸移層。しまりあり。褐色土（10YR4/4）が凹状に中量含まれる。

第Ⅴ層 明黄褐色ローム（10YR7/6）

千曳浮石層。しまりあり。小礫少量。上半部はφ3mm～2cm（最多3～5mm）の浮石を5%含む。この浮石は、元は白色であったものが、周りのロームの影響で黄ばんでいることが特徴として上げられる。上半部は酸化により、下半部より黄ばんでいる。上半部は粘土質であり、下半部は砂質である。下半部には浮石（φ5mm～4cm）および灰色火山礫（φ5mm以下）等が中量～多量含まれ、層厚5～10cmである。第Ⅵa層との境界付近には、長径1.8cmの流紋岩質円礫がみられる。第Ⅴ層は層理状の縞模様がみられないことから、短期間に堆積したものと思われる。

第Ⅵ層

幸畑（４）遺跡

第Ⅵa層 黄褐色ローム（10YR5/8） 砂質。粘性・しまりあり。第Ⅵb層との境界は不明瞭である。

第Ⅵb層 褐色ローム（10YR4/6） 粘土質。粘性・しまりあり。

第Ⅵc層 明褐色ローム（10YR6/6） 砂質。粘性・しまりあり。

幸畑（1）遺跡A区

第VI層 黄褐色ローム（10YR5/8） ϕ 2cm大の赤色粒子を少量、 ϕ 1cmのパミスブロック・小礫含む。

幸畑（1）B区

第VI a層 明褐色ローム（7.5YR5/6）

粘性あり。流紋岩質円礫（ ϕ 9mm）が数個含まれる。全体的に塊状無層理である。色調は部分的に明るく、橙色（7.5YR5/6）を呈する箇所もある。上部に鈍い赤褐色粘土（5YR5/3）を層理状に含む。

第VI b層 黄褐色砂質ローム（10YR5/6）

VI a層とは漸位関係にある。しまりあり。流紋岩質円礫（ ϕ 1cm以下内）が数個確認される。VI c層に近くなるほど砂質の度合いが高くなる。部分的に暗褐色の斑点部が認められる。

第VI c層 黄褐色砂（10YR5/6）

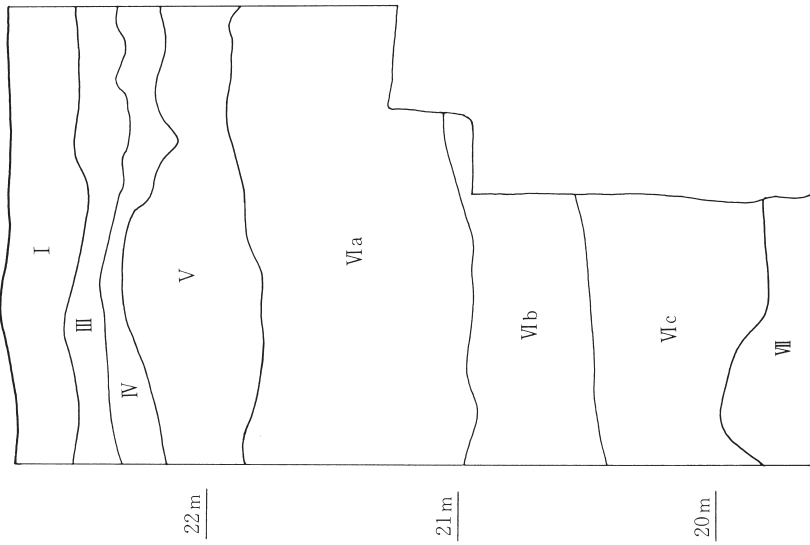
中粒～細粒砂を含み、中粒が比較的多く含まれる。暗色部（5YR4/6）の砂質ロームとの交互堆積を呈する。最下部（第VII層直上）においては、砂質ロームの中に中粒砂も部分的に含まれている。第VII層との境は明瞭である。

第VII層 オリーブ褐色砂（2.5YR4/4）

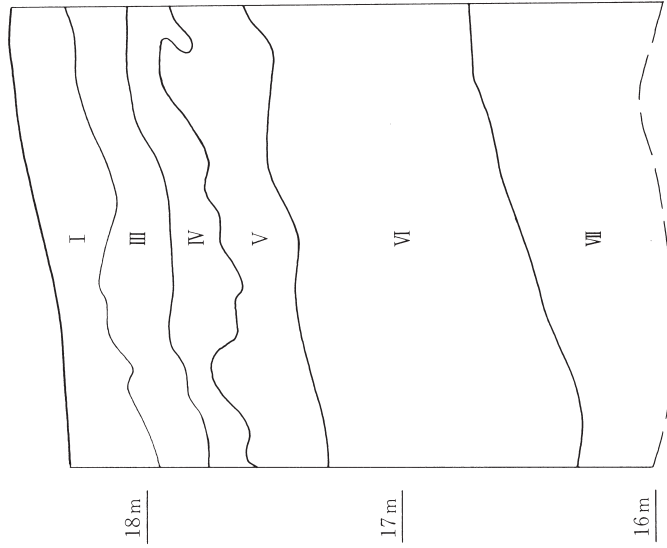
中粒砂。浮石が多量に散在している。粘性なし、しまりあり。塊状無層理を呈する。黄褐色シルト（10YR5/6）や粘土ブロックを含む。

（伊藤昭雄、杉野森淳子）

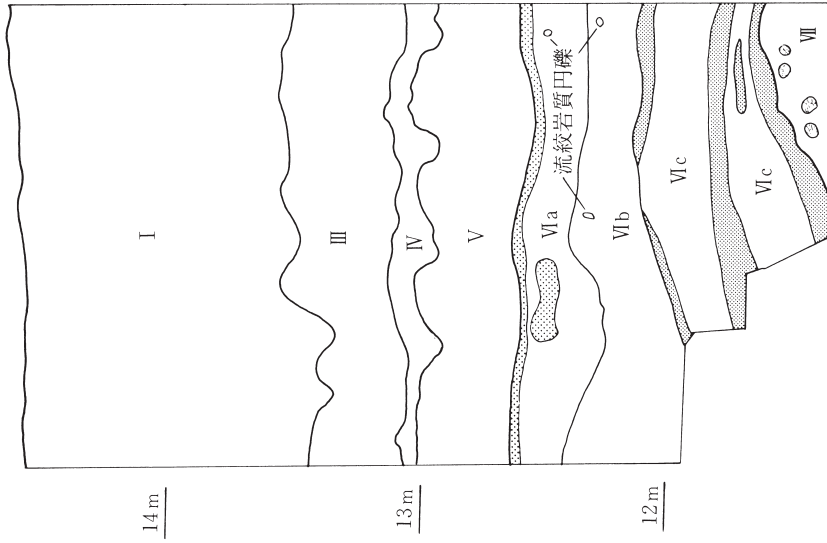
幸畑（4）遺跡
 (G-156グリッド南壁)



幸畑（1）遺跡A区
 (試掘坑117-b 東壁)



幸畑（1）遺跡B区
 (G-184グリッド南壁)



粘土

砂質ローム (暗色部)

黄褐色シルト

図2 基本層序

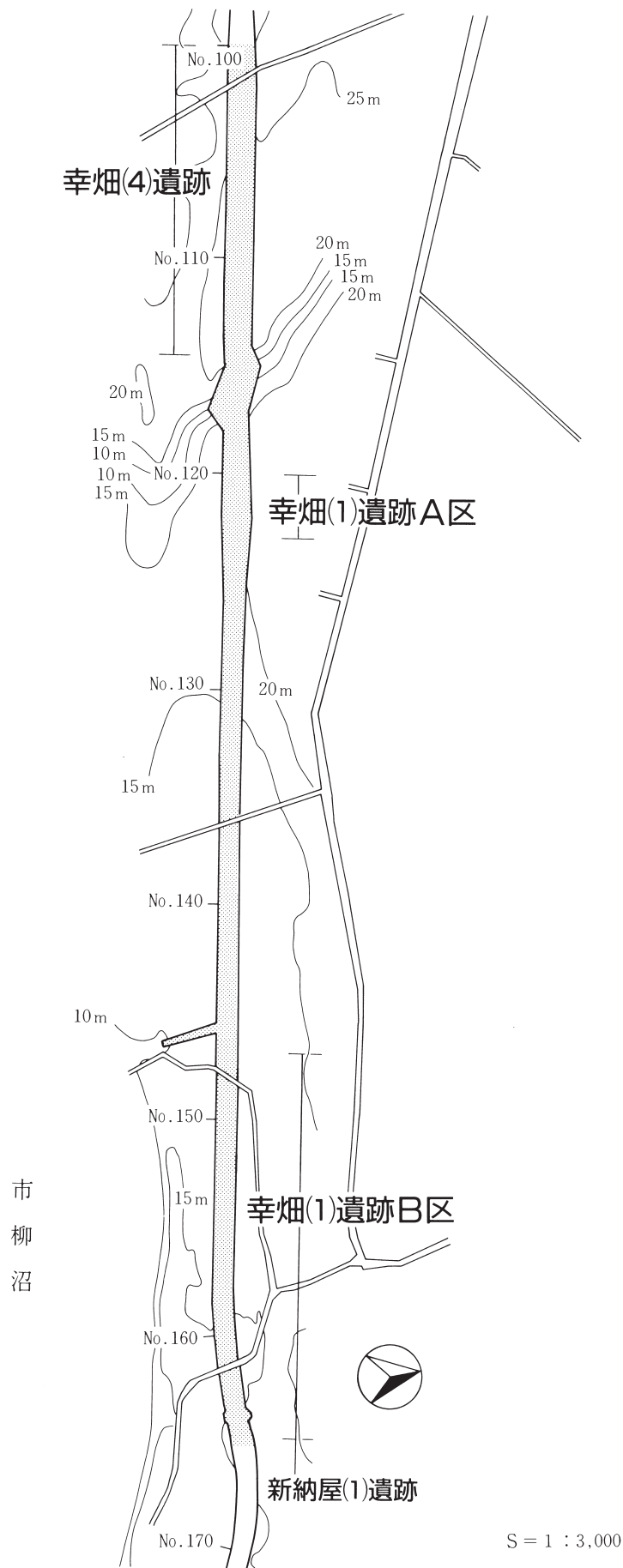
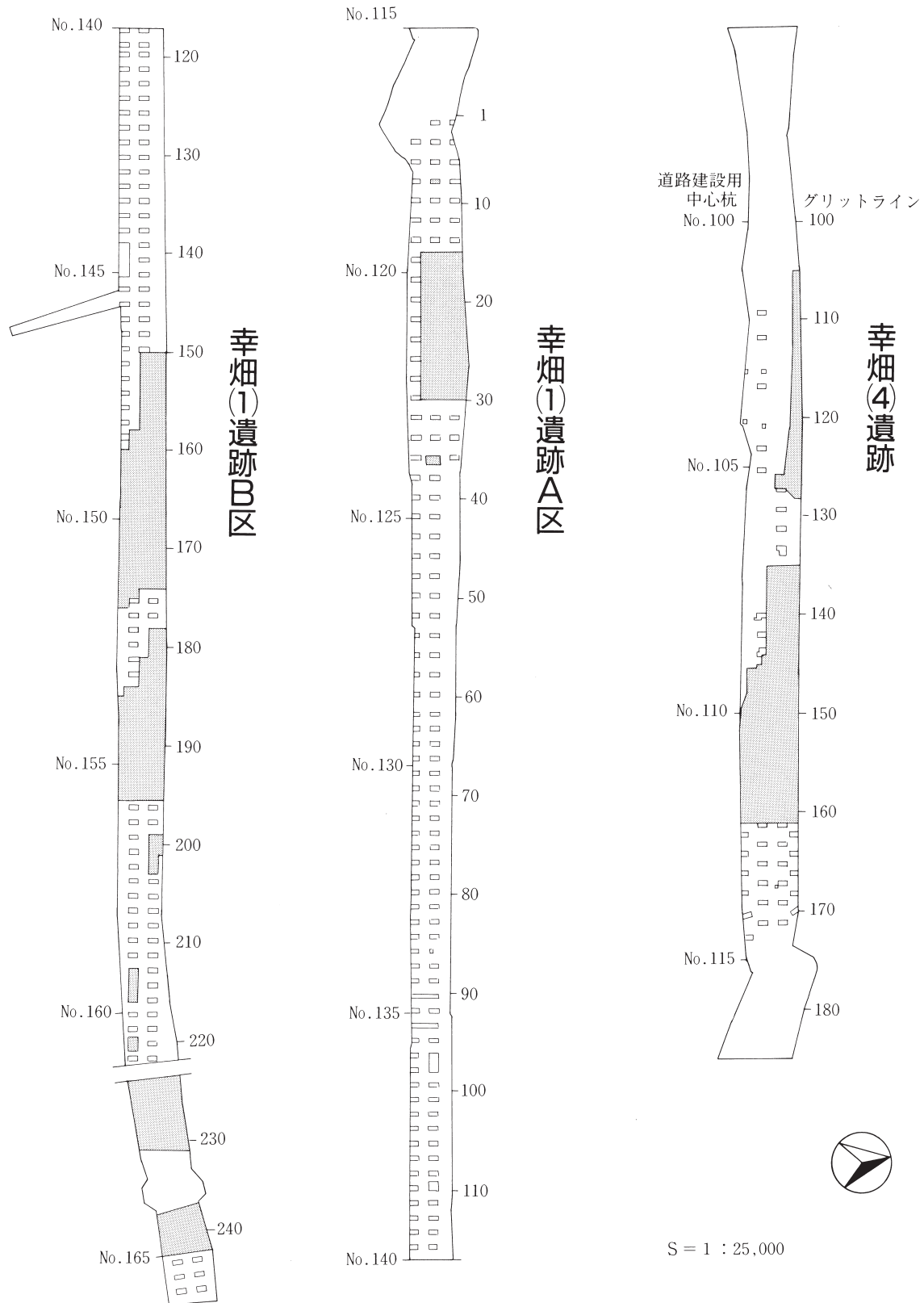


图3 調査区域图



スクリーントーン部は発掘調査実施部分

図4 試掘坑配置図及び発掘調査範囲図

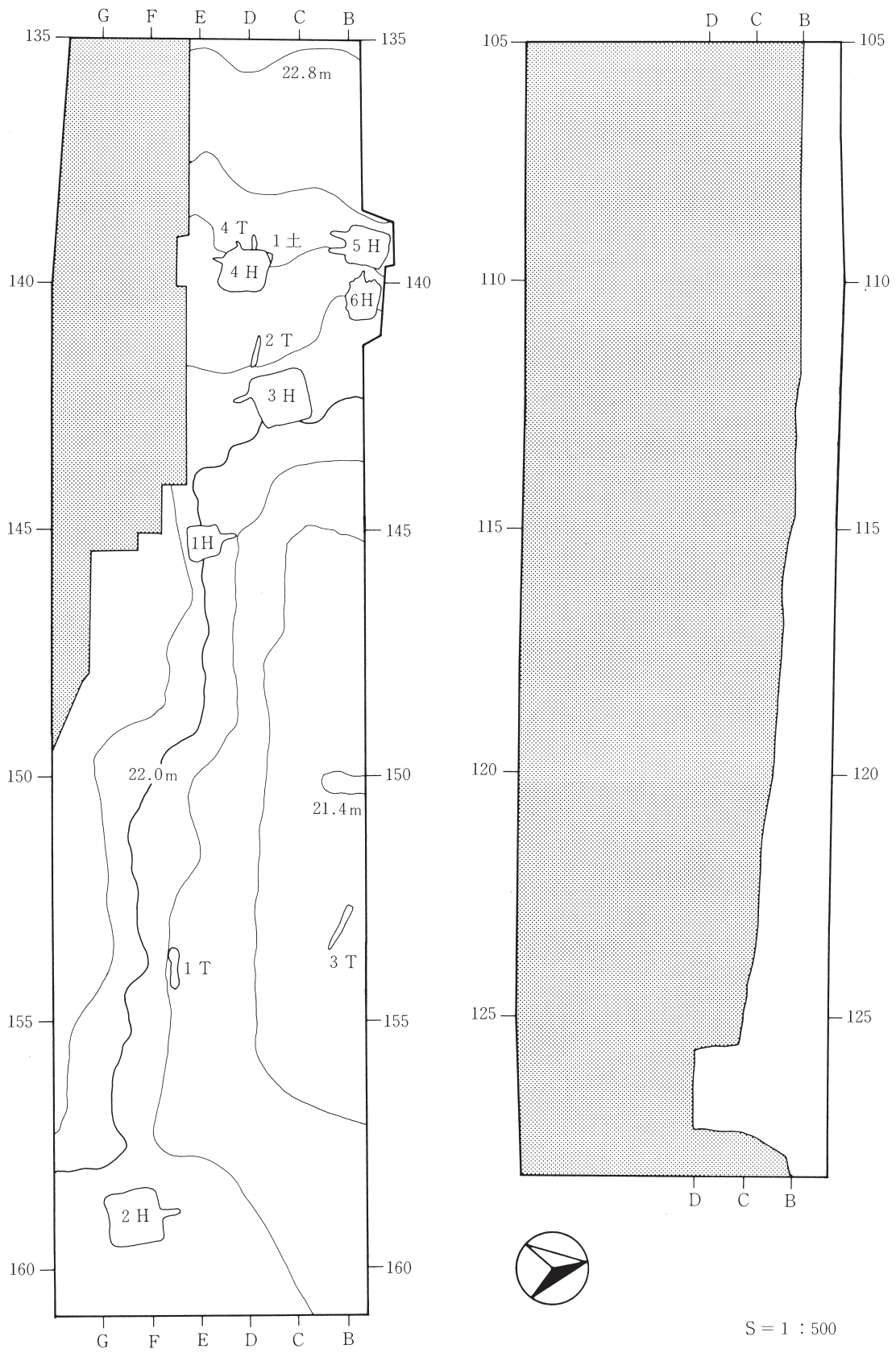


图5 幸畑(4)遺跡遺構配置図

第Ⅱ章 幸畑（４）遺跡

検出遺構は平安時代の竪穴住居跡 6 軒、縄文時代と思われる溝状土坑 4 基、時期不明の円形土坑 1 基である。

第 1 節 検出遺構と遺物

1 竪穴住居跡

第 1 号竪穴住居跡（図 6～8）

〔位置〕 D・E-144・145グリッドに位置する。地形が傾斜しているため、確認面は第Ⅱ層および第Ⅲ層である。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 東壁辺2.32m、西壁辺2.48m、南壁辺2.45m、北壁辺2.16mで北側が若干狭くなった方形を呈する。主軸はN-5°-Eである。比較的小規模の住居である。

〔堆積土〕 11層に分層した。第1層から第6層には焼土が含まれ、第4層には多量の焼土と共に炭化物が含まれている。全体的にローム粒を含む。床面中央に焼土が検出された。

〔壁・床面〕 第Ⅳ層を壁面とし、壁はやや外反して立ち上がる。確認面からの壁高は東壁64cm、西壁50cm、南壁52cm、北壁50cmである。床面は中央が堅く締まり、壁側は比較的柔らかい。

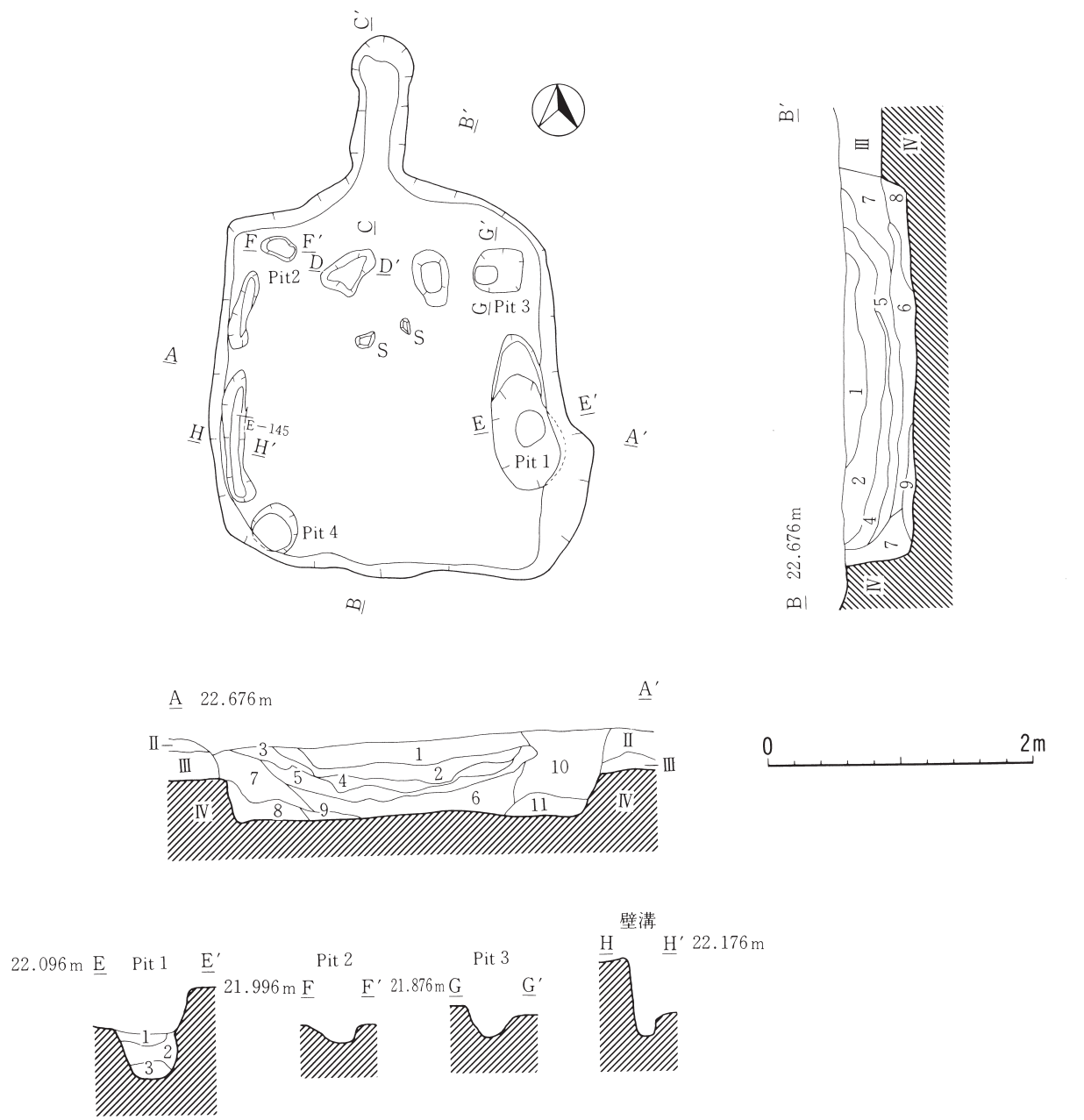
〔壁溝〕 西壁に断続で2カ所確認された。南寄りの壁溝は長さ1m、幅20cm、北寄りの壁溝は長さ60cm、幅10cmで共に深さは15cm前後である。

〔柱穴・ピット〕 浅いピットが3基と深めのピットが1基検出された。床面からの深さは以下の通りである。ピット1：40cm、ピット2：14cm、ピット3：23cm

〔カマド〕 カマドは北壁中央に位置し、残存状態は良くない。煙道部と煙出し孔の底面と袖が一部残っているのみである。袖は粘土をつき固めて構築しており、その一部のみが残存する。袖の位置と遺物の分布状況から、カマド本体は煙道部入り口からやや手前に位置していたと思われる。煙道部の長さは60cmで、煙出し孔の底部径は40cmを測る。カマド長軸方向は住居主軸と同方向である。

〔出土遺物〕 はほぼ完形の甕が出土している。この破片はカマド覆土と床面に散在していた。覆土からは石器と縄文時代早期後半の表館Ⅵ群と早稲田5類の土器片が出土している。

〔小結〕 白頭山火山灰が含まれていないことから10世初頭以前のものと考えられる。



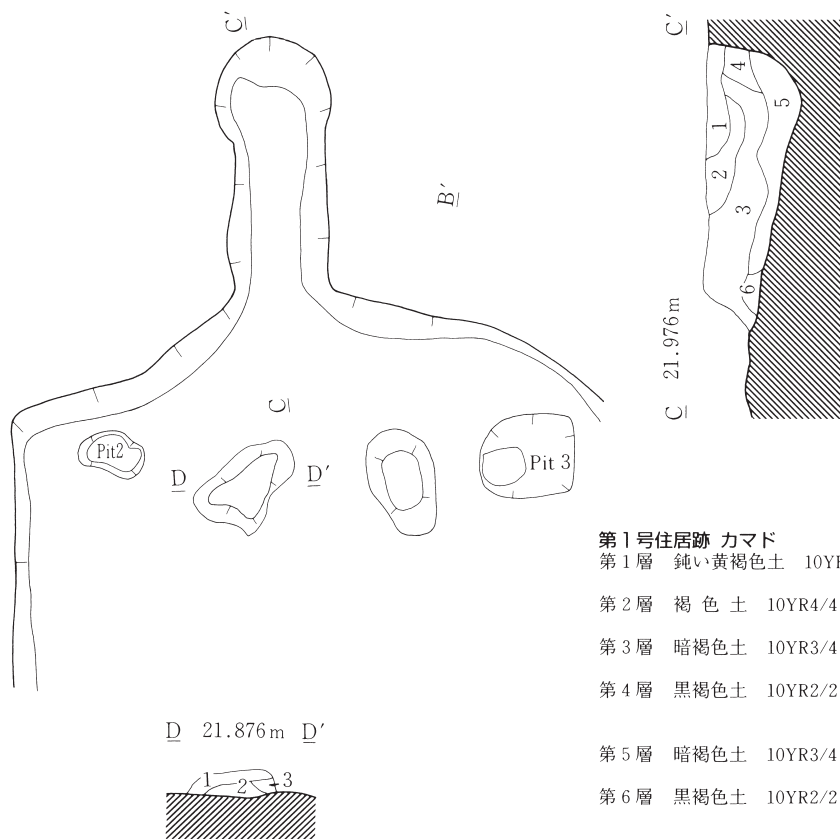
第1号住居跡

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量、焼土微量、パミス少量。しまりあり。
第2層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量、焼土粒中量、焼土ブロック微量。
第3層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量、焼土中量、炭化物少量。しまりあり。
第4層	黒色土	10YR2/1	
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量、焼土多量、炭化物中量。
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、ロームブロック少量、焼土粒微量、炭化物少量。
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、ロームブロック微量。炭化物少量。しまりあり。
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量。しまり・粘性あり。
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ロームブロック微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、黒色土(10YR2/1)混入。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量。

第1号住居跡 ビット1

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土・炭化物少量。しまりあり。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ロームブロック少量、黒色土混入。
第3層	鈍い黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量。粘性あり。

図6 第1号住居跡



第1号住居跡 カマド

- 第1層 鈍い黄褐色土 10YR5/4 ローム粒・ロームブロック少量。しまりあり。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量、ロームブロック微量。しまりややあり。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、ロームブロック中量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・ロームブロック少量、焼土少量、炭化物微量。しまりあり。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロック少量。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・ロームブロック少量。しまりあり。

第1号住居跡 カマドのソデ

- 第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、ロームブロック少量。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 焼土(5YR4/8)多量、炭化物微量。

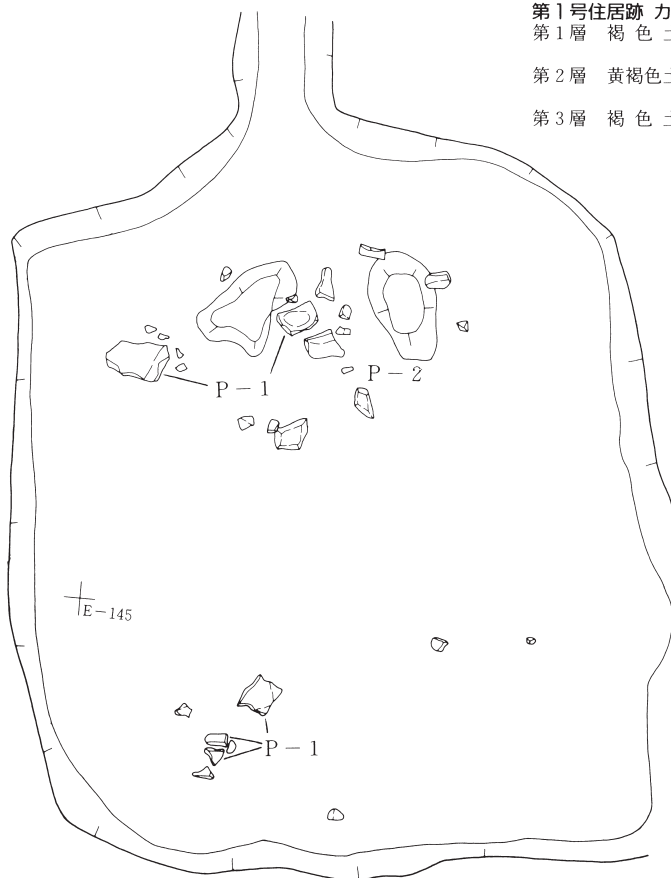


図7 第1号住居跡カマド

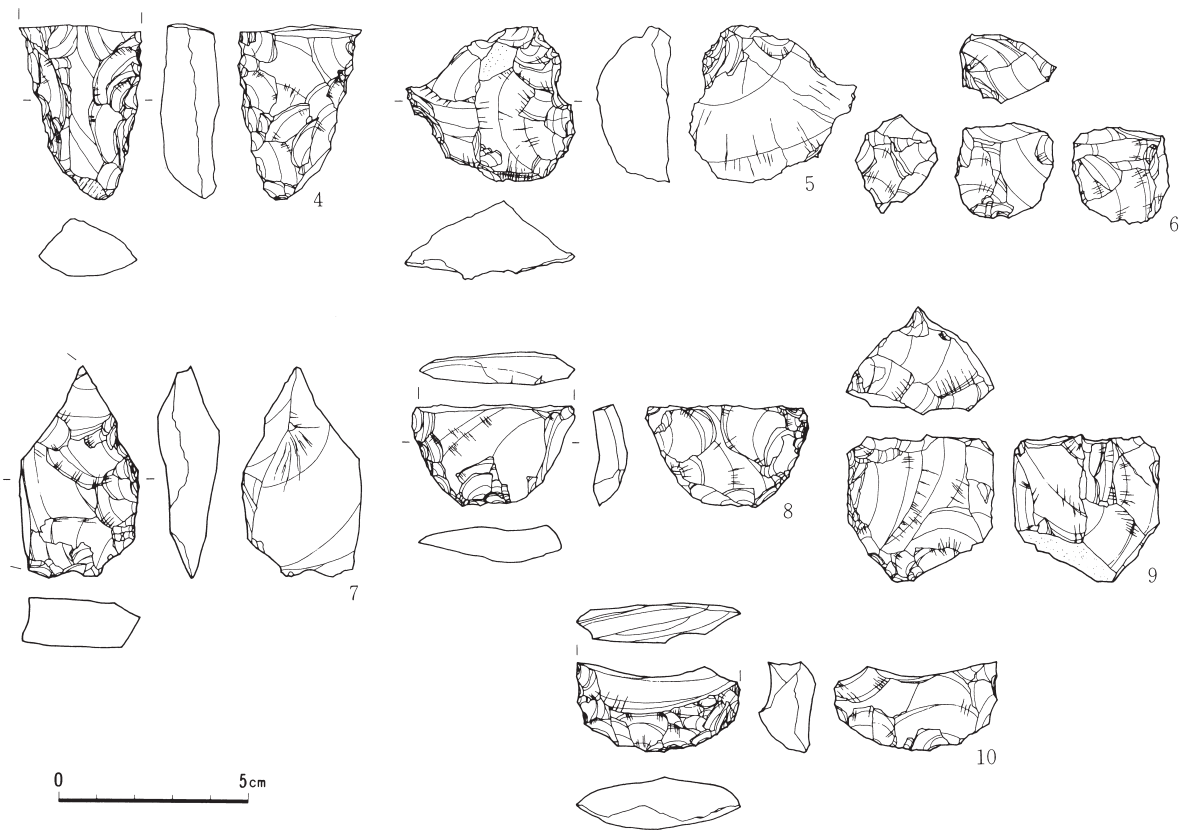
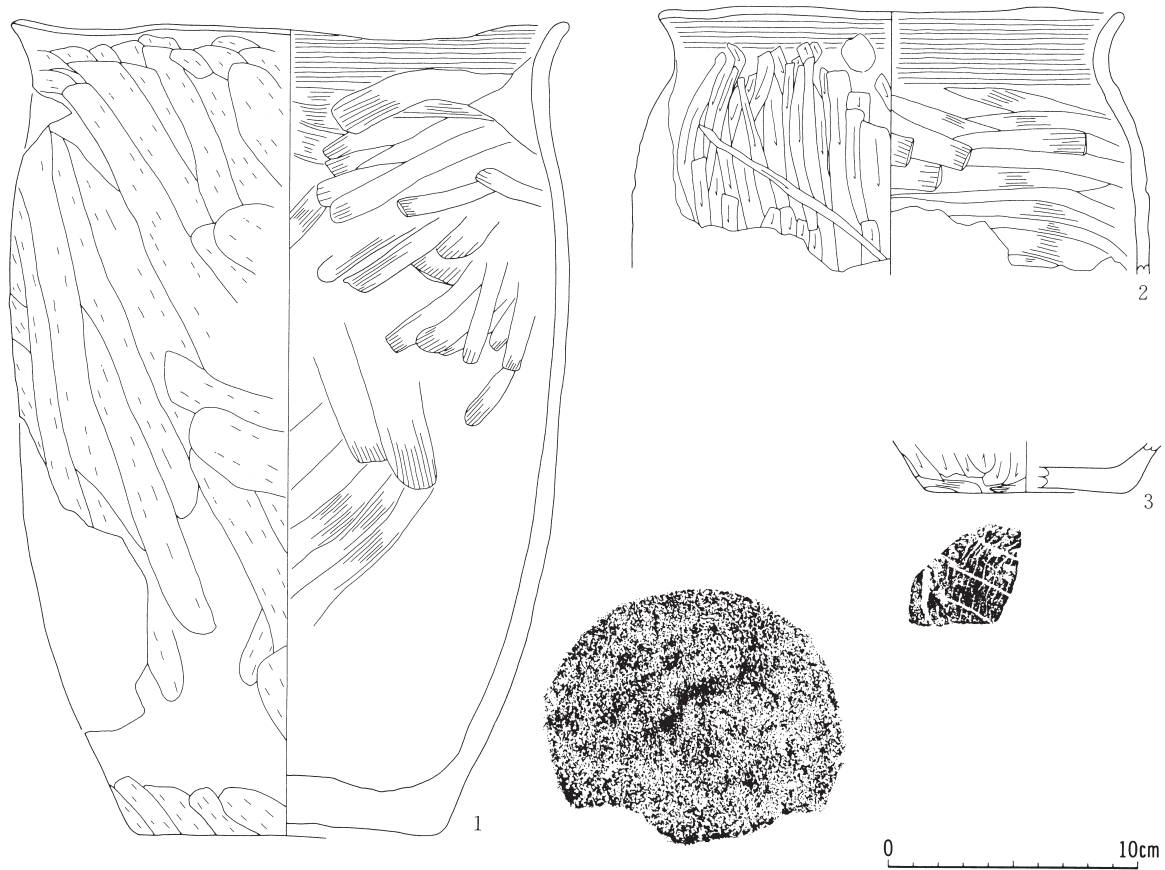


图8 第1号住居迹出土遺物

表1 第1号住居跡出土土師器観察表

図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整（内部調整）	備考	口径：cm	底径：cm	器高：cm
図8-1	床面	甕	完形	ケズリ（ナデ）		22.0	12.0	32.8
図8-2	床面	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ（ヨコナデ、ヘラナデ）		(18.5)		16.0
図8-3	ピット2	甕	底	ケズリ（ナデ）	底：木葉痕		(8.0)	(2.0)

表2 第1号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材	備考
図8-4	覆土	石槍	(46.0)	15.5	20.9	20.9	珪質頁岩	
図8-5	覆土	不定形石器	43.0	41.5	18.1	27.5	珪質頁岩	階段状剝離顕著
図8-6	覆土	石核	22.5	26.0	20.0	12.2	珪質頁岩	
図8-7	覆土	不定形石器	(55.5)	(31.5)	16.5	22.7	珪質頁岩	
図8-8	覆土	不定形石器	(26.5)	43.5	17.0	11.1	珪質頁岩	
図8-9	覆土	石核	39.0	38.5	28.0	40.7	珪質頁岩	
図8-10	覆土	不定形石器	(23.5)	43.0	15.0	11.1	珪質頁岩	

第2号竪穴住居跡（図9～11）

〔位置〕 遺跡東端のE・F-158・159グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 東壁辺3.90m、西壁辺3.87m、南壁辺4.20m、北壁辺3.90mの方形を呈する。主軸はN-3°-Wである。

〔堆積土〕 覆土上位から炭化材が大量に検出された。北壁際に集中し、南側は散在している。炭化材は、住居壁に巡らされていた腰板が崩落したものと思われる。覆土中位からは焼土が広範囲に分布している。覆土上位から白頭山火山灰が確認されている。

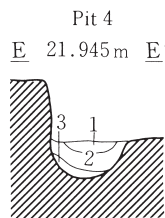
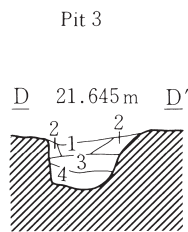
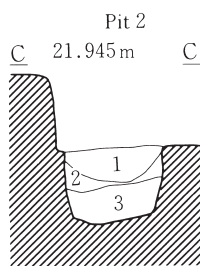
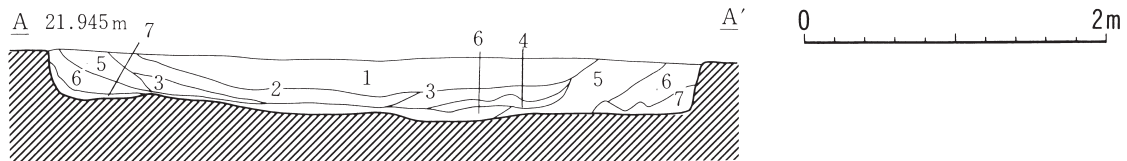
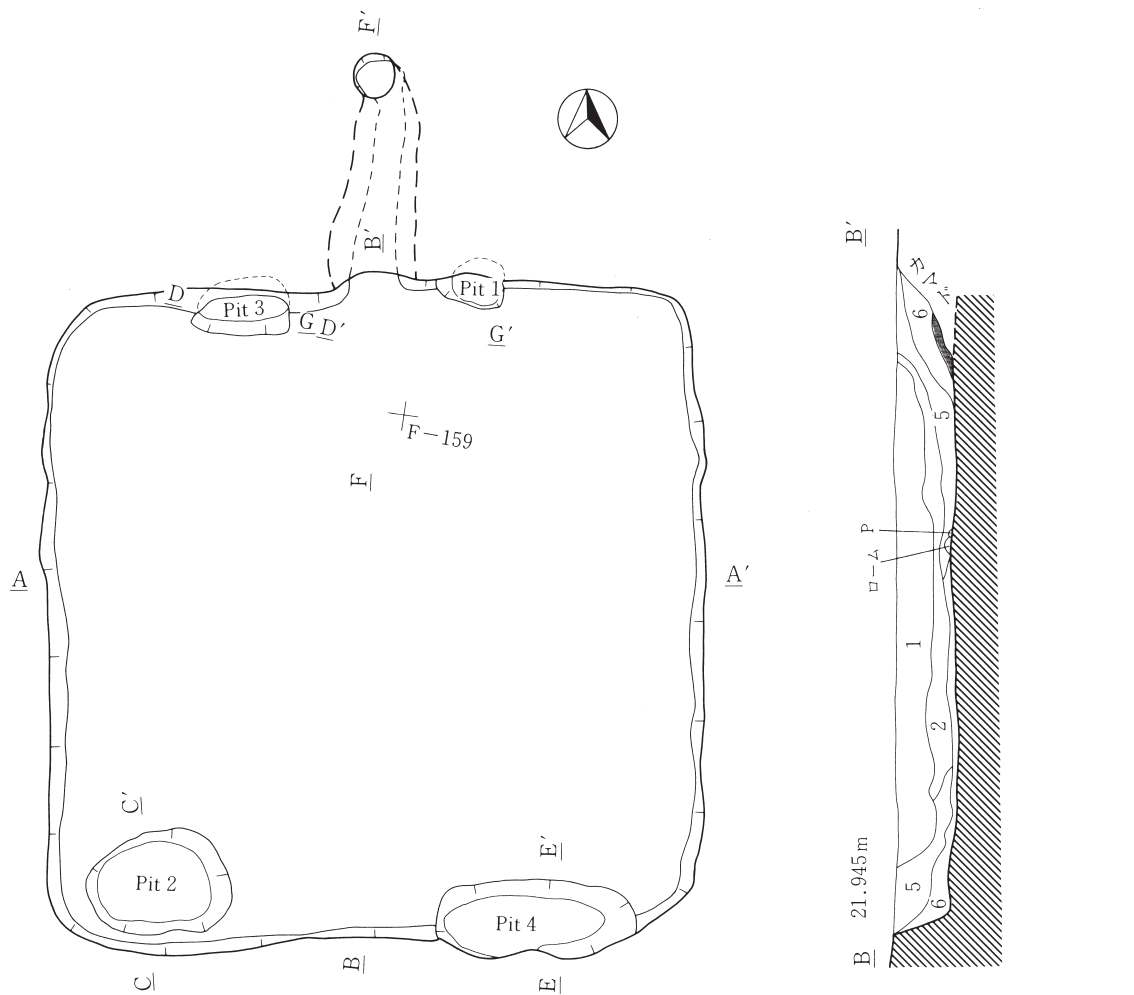
〔壁・床面〕 壁は緩やかに立ち上がる。壁高は東壁34cm、西壁33cm、南壁46cm、北壁39cmである。床面はやや凹凸がみられ、堅くしまっている。

〔柱穴・ピット〕 ピットは4個確認された。深さはピット2が49cm、ピット3が34cm、ピット4が23cmである。

〔カマド〕 北壁中央に地下式のカマドが構築されている。カマド本体は崩壊しており、残存状態は良くない。煙道部は地山を掘りこみ、緩やかな傾斜で下りながら煙出しまで掘り込まれている。煙道部長1.5m、煙出し孔直径30cm、煙出し深さ50cmである。カマド長軸方向は住居主軸と同方向である。

〔出土遺物〕 上げ底気味の甕の完形品が出土している。カマド覆土・床面およびピット1・ピット3の覆土から土師器の破片が出土している。他にカマドから鉄製品3点が出土している。住居確認面より須恵器が1点出土している。これは五所川原産の須恵器である。

〔小結〕 炭化材の状況から焼失家屋と考えられる。10世紀初頭以前の住居である。



第2号住居跡

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量、炭化物多量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量、焼土(5YR4/6)多量、パミス微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、ロームブロック少量。
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック少量、焼土中量、炭化物少量。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 ローム粒微量、ロームブロック少量。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量、ロームブロック中量、炭化物少量、パミス微量。しまりややあり。
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、ロームブロック中量。

第2号住居跡 ビット2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック中量、パミス少量。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 パミス少量。粘性あり。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 粘性あり。

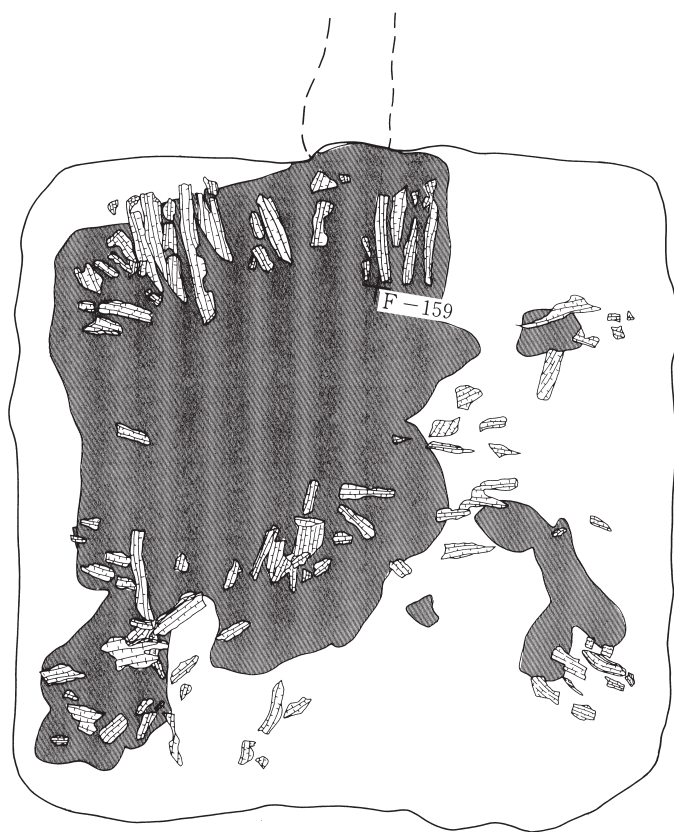
第2号住居跡 ビット3

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土微量、パミス微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・焼土少量、炭化物微量。しまりあり。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック少量・焼土ブロック中量、炭化物微量。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック微量、焼土ブロック中量、炭化物微量。

第2号住居跡 ビット4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、焼土微量、炭化物少量、パミス微量。
- 第3層 鈍い黄褐色土 10YR5/4 焼土微量、炭化物微量。粘性・しまりあり。

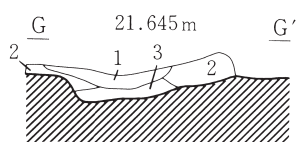
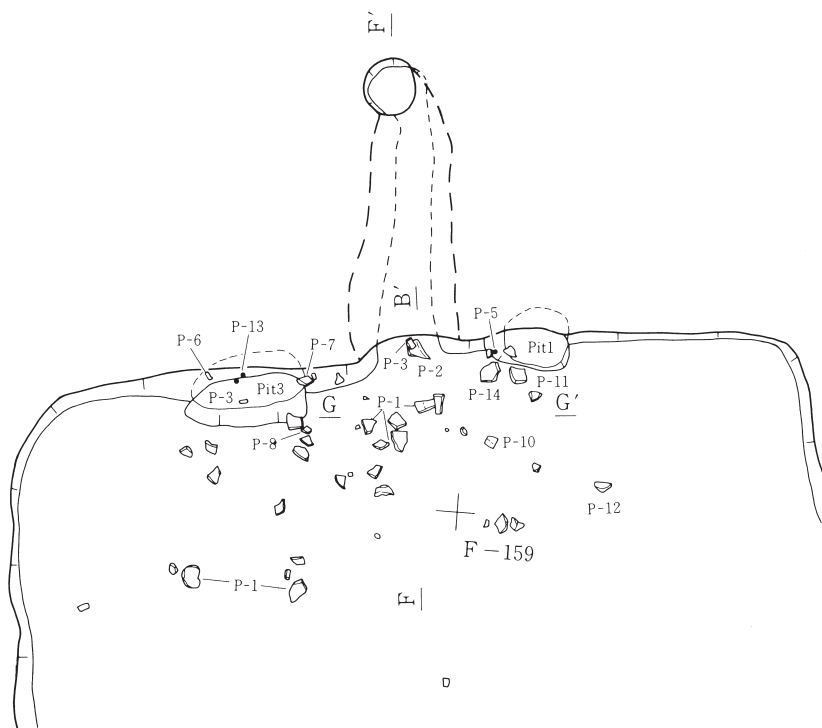
図9 第2号住居跡



第2号住居跡 カマド

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土微量、パミス少量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム少量、焼土少量、炭化物微量。
- 第3層 赤褐色土 5YR4/8 ロームブロック少量、焼土ブロック中量、炭化物微量。粘性ややあり。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック微量、焼土ブロック中量、炭化物微量。粘性ややあり。しまりあり。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・焼土微量。しまりややあり。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、焼土・焼土ブロック微量。
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 焼土・焼土ブロック微量、炭化物少量。しまりややあり。

0 2m



0 2m

図10 第2号住居跡カマド

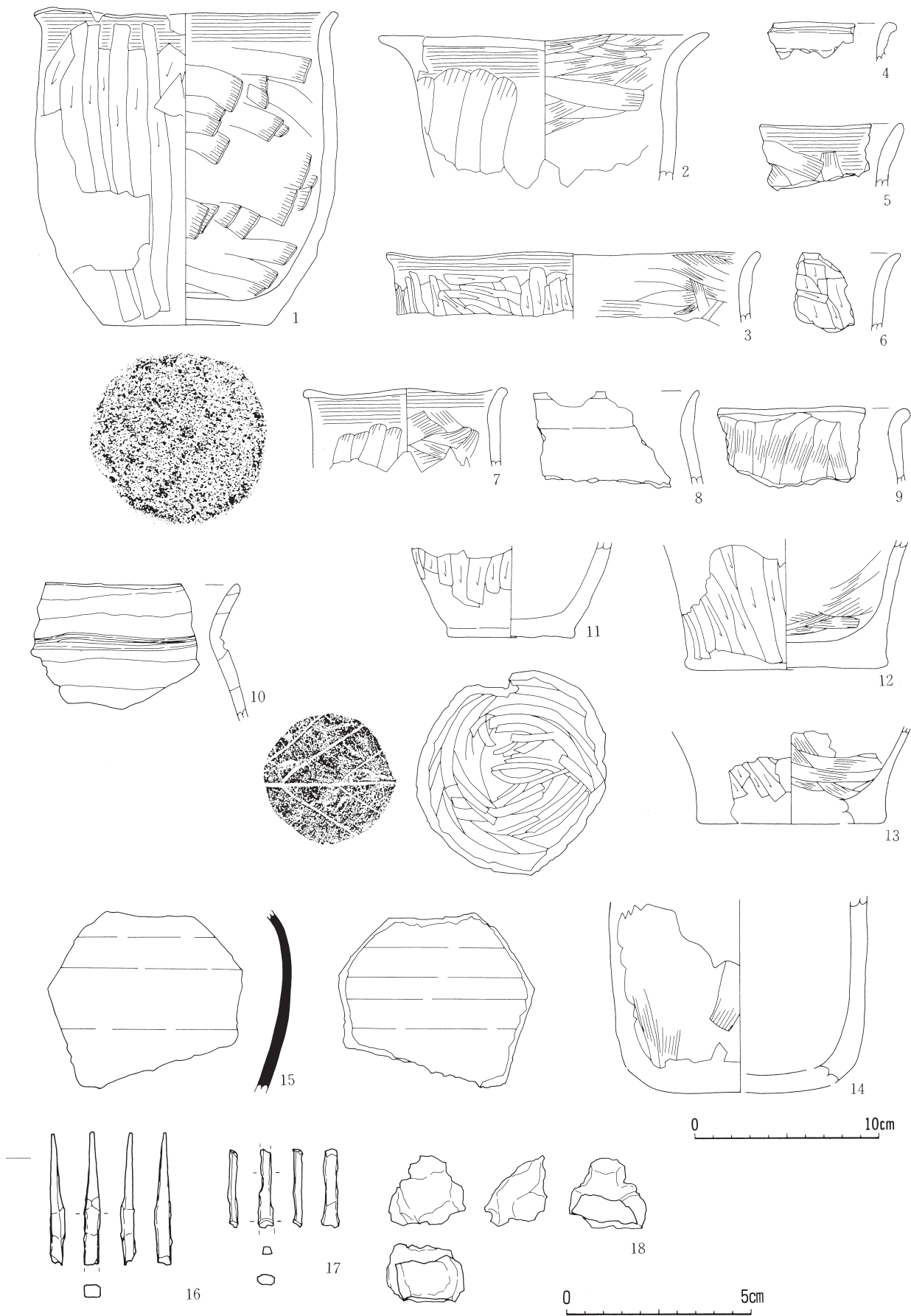


图11 第2号住居跡出土遺物

表3 第2号住居跡出土土師器・須恵器観察表

図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整 (内部調整)	備 考	口径:cm	底径:cm	器高:cm
図11-1	カマド	甕	完形	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ヘラナデ)		16.0	9.0	17.3
図11-2	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ナデ (ナデ)		(18.0)		(7.5)
図11-3	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ヘラケズリ (ナデ)		(20.0)		(3.4)
図11-4	カマド	甕	口縁	ヨコナデ (ヨコナデ)				(2.0)
図11-5	ピット1	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ)	内面煤付着			(3.3)
図11-6	カマド	甕	口縁	ヘラケズリ (ヨコナデ)				(4.2)
図11-7	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ナデ)		(11.0)		(5.0)
図11-8	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ナデ (ヨコナデ)				(4.7)
図11-9	ピット3	甕	口縁	ナデ (ヨコナデ)		(11.0)		(4.3)
図11-10	カマド	壺	口縁	ヨコナデ、ナデ、沈線2本 (ヨコナデ)	外面輪積痕			(7.0)
図11-11	カマド	甕	底	ヘラケズリ (ヘラナデ顕著)	底:木葉痕、外面煤付着		6.8	(4.9)
図11-12	カマド	甕	底	ヘラケズリ (ナデ)			(11.1)	(6.8)
図11-13	ピット3	甕	底	ケズリ (ナデ)		(10.0)		(5.0)
図11-14	カマド		胴	ナデ			(12.0)	(9.4)
図11-15	確認面	須恵器	胴	ロクロ (ロクロ)	生産地:五所川原			(9.5)

表4 第2号住居跡出土鉄製品観察表

図版番号	位置・層位	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	備 考
図11-16	カマド・覆土	(36.0)	4.5	3.5	棒状鉄製品、下部欠損
図11-17	カマド・覆土	(21.0)	5.0	2.5	棒状鉄製品、上下欠損
図11-18	カマド・覆土	19.0	21.0	16.0	球状鉄製品

第3号竪穴住居跡 (図12~15)

[位置] B・C-141・142グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東壁辺3.64m、西壁辺4.02m、南壁辺3.95m、北壁辺4.06mの方形である。主軸はN-90°-Sである。

[堆積土] 覆土全体に焼土・炭化物が混入している。住居確認面では白頭山火山灰が確認された。自然堆積と思われる。

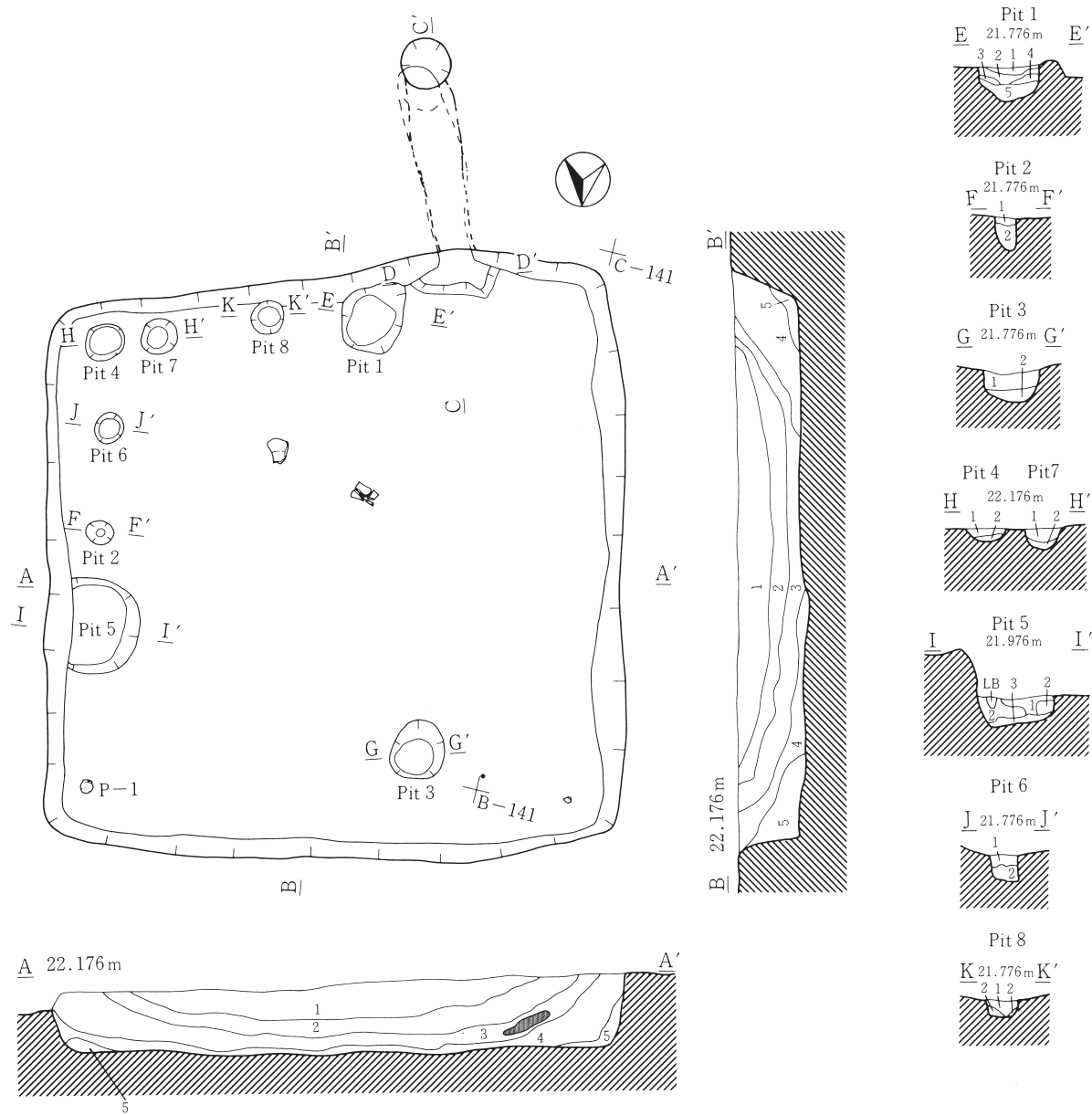
[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。壁高は東壁32cm、西壁53cm、南壁47cm、北壁47cmである。全体的にしまりのよい床面である。

[柱穴・ピット] ピットは9個確認された。この内、壁際に位置するピット2・6・4・7・8は柱穴の可能性がある。深さは以下の通りである。ピット1:24cm、ピット2:23cm、ピット3:13cm、ピット4:9cm、ピット5:22cm、ピット6:19cm、ピット7:16cm、ピット8:7cm

[カマド] 南壁西寄りに位置する。カマド本体は残っておらず、焼土が残っているのみである。煙道部入り口には地山を削り出して燃焼部との間に段差を設けている。この段差手前の火床面は直軸80cm、床面から10cm掘り込まれている。煙道部は煙出し孔に向かい緩やかに傾斜している。煙道部長は1.3m、煙出し孔直径30cm、掘り込み面からの煙出し孔の深さは90cmである。カマドの長軸方向はS-11°-Eである。

[出土遺物] 北東側の覆土上位から回転糸切り痕が施された小形の壺が出土している。覆土低位からは坏や甕が出土している。床面からの出土遺物は他の住居に比べ、とても少ない。覆土上位から石器・早期の早稲田5類の土器片が出土している。

[小結] 10世紀初頭以前の住居である。



第3号住居跡

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・焼土微量。しまりあり。
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・焼土微量、炭化物少量。しまりあり。
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量、ロームブロック微量、焼土少量。しまりあり。
- 第4層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック・炭化物少量。しまりあり。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、黄褐色土(10YR5/6)混入。しまりあり。

第3号住居跡 ビット1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ローム粒中量、ロームブロック微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、黒色土少量。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、焼土ブロック混入。
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム層。焼土微量、黒色土微量。

第3号住居跡 ビット2

- 第1層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/8 ローム層。

第3号住居跡 ビット3

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、黒色土微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 しまり・粘性あり。

第3号住居跡 ビット4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量、ロームブロック微量。

第3号住居跡 ビット5

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、ロームブロック微量。しまりあり。
- 第2層 褐色土 10Y4/6 ローム粒中量、ロームブロック微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム層。

第3号住居跡 ビット6

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、ロームブロック・焼土・炭化微量、粘土少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック微量。

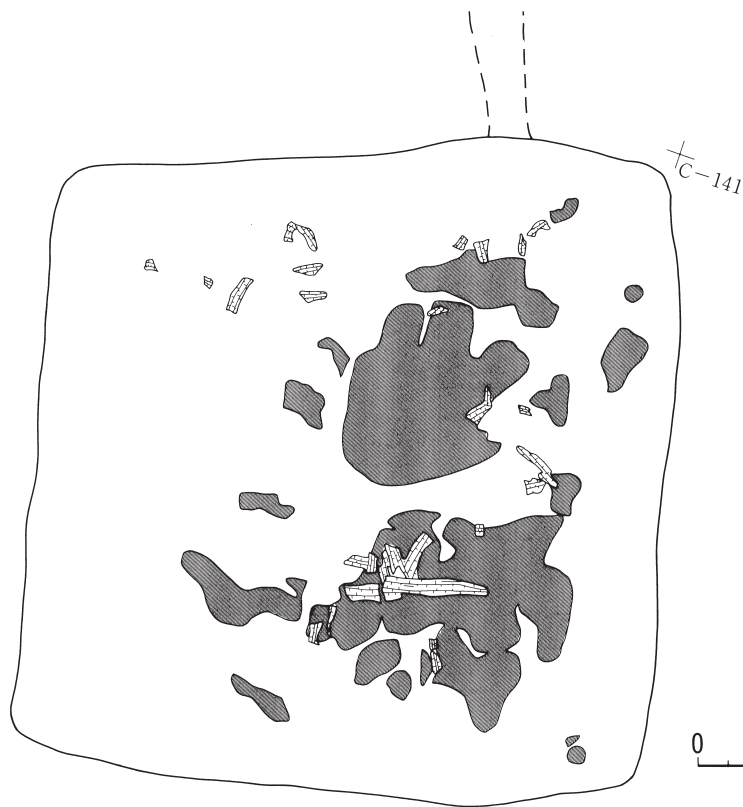
第3号住居跡 ビット7

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量。しまりあり。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 粘性・しまりあり。

第3号住居跡 ビット8

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム層。

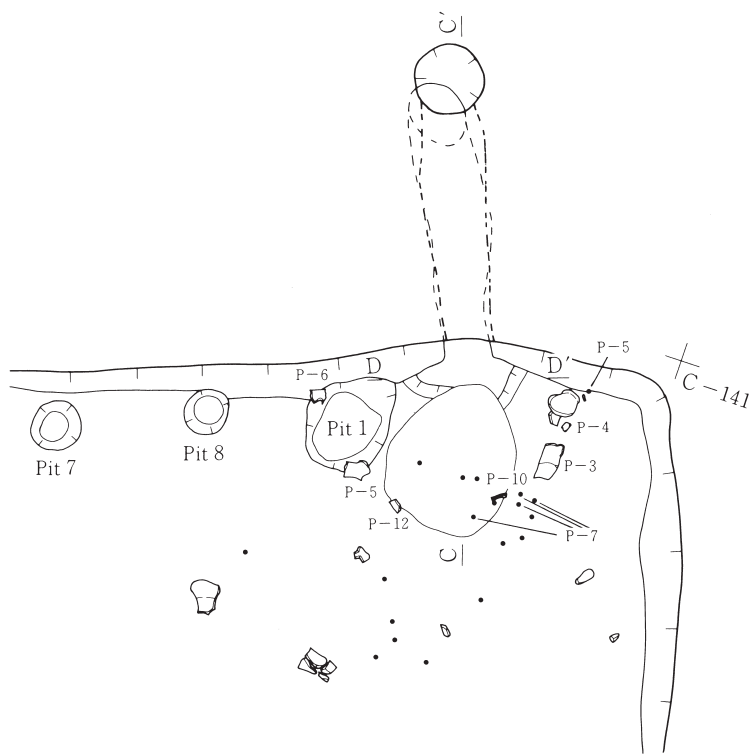
図12 第3号住居跡



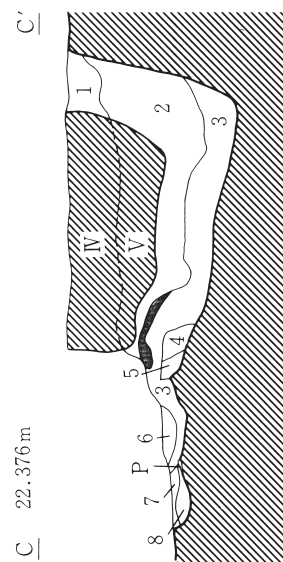
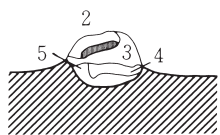
第3号住居跡 カマド

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 焼土少・炭化物少量、煙出し部分は暗赤褐色土(5YR3/6)混入。
- 第4層 黄褐色土 10YR5/8 粘性あり。
- 第5層 赤褐色土 10YR4/6 焼土層。粘性あり。
- 第6層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・ロームブロック・焼土微量、炭化物少量。
- 第7層 褐色土 10YR4/4 焼土微量。
- 第8層 褐色土 7.5YR4/6 ローム層。焼土多量。

0 2m



D 22.076 m D'



22.376 m

S = 1 : 40

図13 第3号住居跡カマド

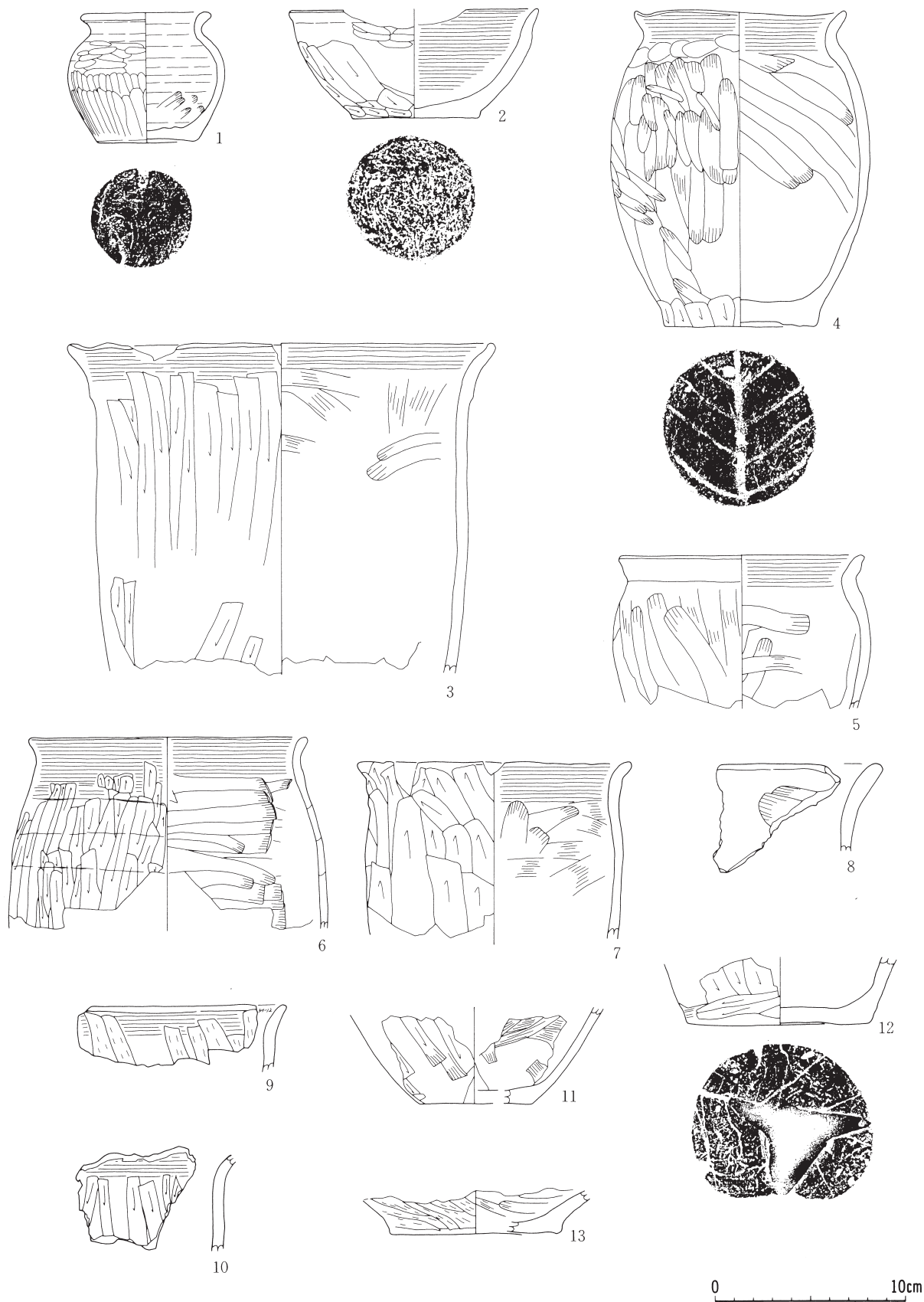


图14 第3号住居迹出土遺物①

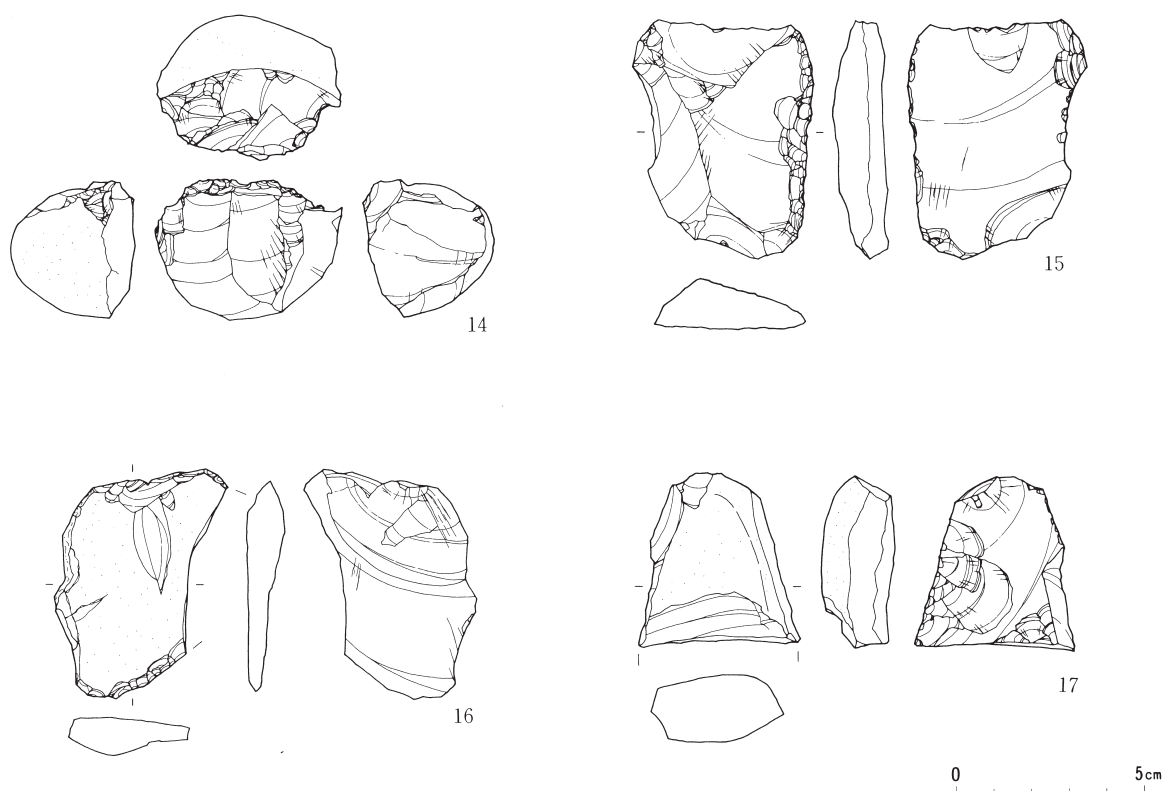


図15 第3号住居跡出土遺物②

表5 第3号住居跡出土土器観察表

図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整 (内部調整)	備 考	口径: cm	底径: cm	器高: cm
図14-1	覆土	小形壺	完形	ミガキ、ヘラナデ (ナデ)、口唇: ケズリ	ロクロ成形、底面: 回転糸切痕	6.8	5.2	6.8
図14-2	覆土	杯	完形	ミガキ、ケズリ (ヨコナデ)	底: 砂底	13.0	6.6	5.7
図14-3	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ナデ)		(22.4)		(17.3)
図14-4	カマド	甕	完	ヨコナデ、ナデ、ケズリ、指圧(ヨコナデ、ナデ)	内面煤付着	11.0	8.0	16.6
図14-5	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ヘラナデ)		(14.3)		9.9
図14-6	床面	甕	口縁	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ヘラナデ)	外面輪積痕、内面煤付着	(12.8)		(7.6)
図14-7	カマド	甕	口縁	ヨコナデ		14.3		(9.1)
図14-8	床面	甕	口縁	ナデ				(4.3)
図14-9	覆土	甕	口縁	ケズリ	内面煤付着	(18.0)		(3.0)
図14-10	床面	甕	胴	ヨコナデ (ナデ)				(4.4)
図14-11	覆土	甕	底	ケズリ (ナデ)	底: ナデ		(6.0)	(4.7)
図14-12	床面	甕	底	ナデ (ナデ)	底: 木葉痕		(9.3)	(3.2)
図14-13	覆土	甕	底	ケズリ (ナデ)			(9.0)	(2.0)

表6 第3号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器 種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石 材	備 考
図15-14	覆土	石核	37.0	48.0	34.0	61.0	珪質頁岩	
図15-15	覆土	不定形石器	63.5	47.5	15.0	40.1	珪質頁岩	片縁片面連続調整
図15-16	覆土	不定形石器	60.5	(45.5)	10.0	20.4	珪質頁岩	片側欠損
図15-17	覆土	不定形石器	(45.5)	(42.0)	19.0	36.0	珪質頁岩	側面に擦痕を有する

第4号竪穴住居跡 (図16～18)

[位置] C・D-139・140グリッドに位置する。

[重複] 第1号土坑と第4号溝状土坑と重複している。

[平面形・規模] 東壁辺3.25m、西壁辺3.03m、南壁辺3.03m、北壁辺3.08mの方形を呈する。主軸はS-14°-Wである。

[堆積土] 覆土第3層に白頭山火山灰が含まれている。火山灰は住居全体に分布している。焼土が第2層に含まれ、住居中央に分布する。自然堆積である。

[壁・床面] 壁は緩やかに立ち上がる。西カマドが位置する南西壁は内湾している。壁高は東壁48cm、西壁56cm、南壁33cm、北壁53cmである。南西壁はカマド②廃絶時にカマドと共に削られたものと思われる。床面のしまりは良い。

[柱穴・ピット] ピットは4個検出された。深さはピット1が59cm、ピット2が75cm、ピット3が13cm、ピット4が18cmである。ピット4・3は柱穴と思われる。

[カマド] カマドは2基確認された。南カマドをカマド①、西カマドをカマド②として記述する。南壁西寄りに位置するカマド①は地山を掘り込んで構築した地下式で、遺存状態は当遺跡の住居の中では比較的良好である。カマドの袖に角礫を使用し、火床面を床面から約20cm掘り下げている。煙道部長70cm、煙出し孔直径60cm、煙出しの深さは60cmである。カマドの長軸方向はS-18°-Wである。カマド②は西壁南寄りに位置し、煙道部と煙出し孔が残存するのみである。煙道部長50cm、煙出し孔直径30cm、煙出し深さ70cmを測る。カマドの長軸方向はW-10°-Nである。両カマド共、煙道部断面形状が一般的なL形ではなく、∟形を呈す。カマドの残存状況から西カマドが先に使用され、廃絶後、南カマドが使用されたと考えられる。

[出土遺物] 住居跡覆土下位から土師器甕の口縁、底部、鉄製品が出土している。覆土上位からは縄文時代早期後半の早稲田5類の土器片と石器2点が出土している。なお、カマドからは遺物が出土しなかった。

[小結] 10世紀初頭以前の住居である。

表7 第4号住居跡出土土器観察表

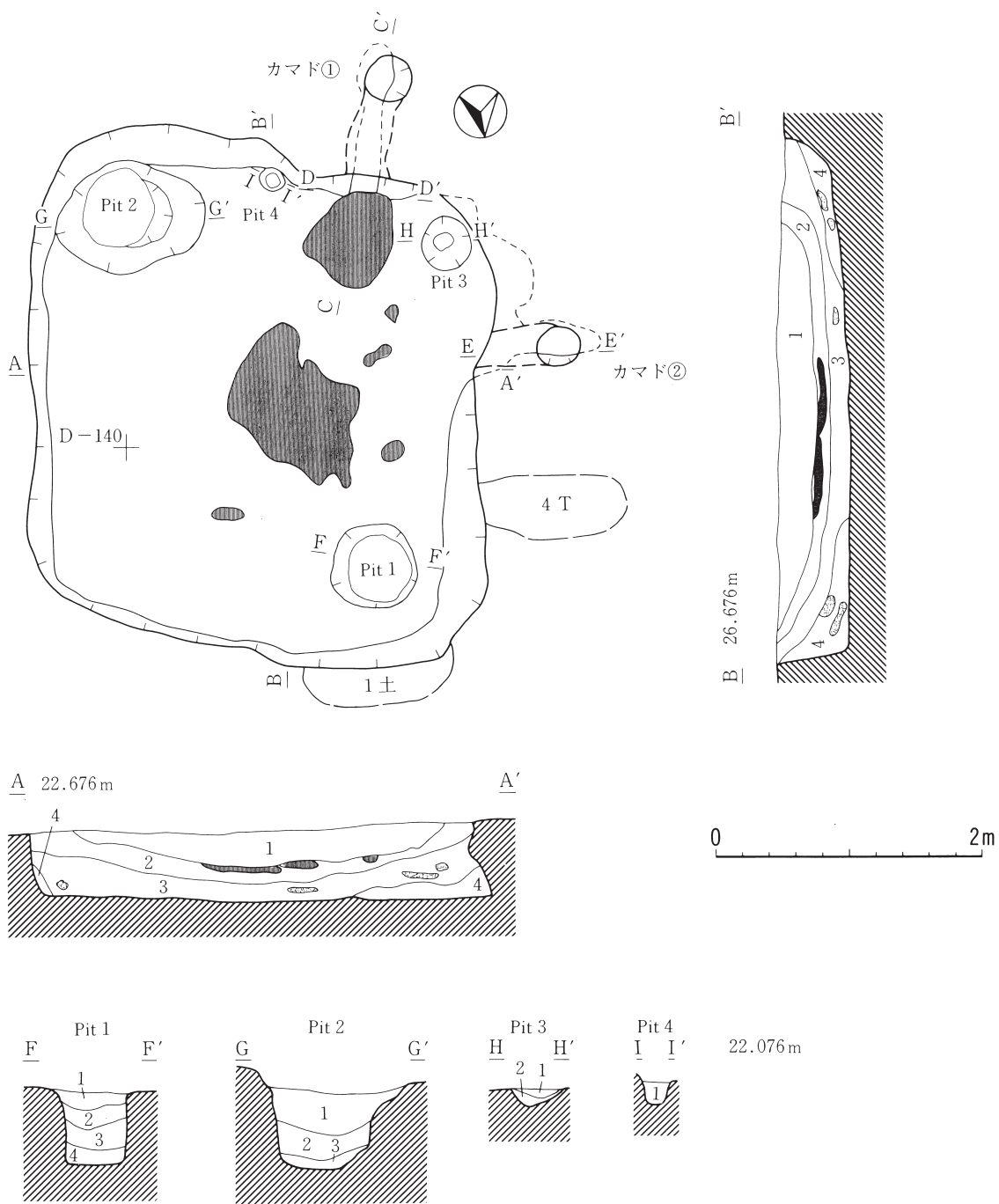
図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整 (内部調整)	備考	口径: cm	底径: cm	器高: cm
図18-1	覆土	甕	口・胴	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ナデ)		(12.2)		(11.4)
図18-2	覆土	甕	口縁	ナデ (ナデ)				(7.2)
図18-3	覆土	甕	底	ケズリ (ヘラナデ)	底: ナデ		(8.8)	(6.3)
図18-4	覆土	甕	底	ヘラケズリ (ナデ)	底: 木葉痕、輪積痕顕著		5.6	(6.2)
図18-5	覆土	甕	底	ケズリ (ナデ)	底: ナデ		(7.4)	(2.9)
図18-6	覆土	甕	底	ヘラケズリ (ナデ)	底: ナデ、木葉痕			(3.5)

表8 第4号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石材	備考
図18-7	覆土	石匙	80.5	30.5	15.5	32.1	珪質頁岩	a類
図18-8	覆土	不定形石器	(28.5)	35.5	12.0	13.2	珪質頁岩	下部欠損

表9 第4号住居跡出土鉄製品観察表

図版番号	位置・層位	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	備考
図18-9	覆土	45.0	10.5	8.0	棒状鉄製品: 4本結合



第4号住居跡

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、ロームブロック少量、焼土(7.5YR3/3)中量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、ロームブロック少量、白頭山火山灰(10YR5/4)少量。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、白頭山火山灰少量。

第4号住居跡 ピット1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、炭化物・火山灰少量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、炭化物微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、火山灰少量。
- 第4層 褐色土 10YR4/6 しまりややあり。粘性あり。

第4号住居跡 ピット2

- 第1層 褐色土 10YR4/6 火山灰少量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化物微量。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/8 しまり・粘性ややあり。

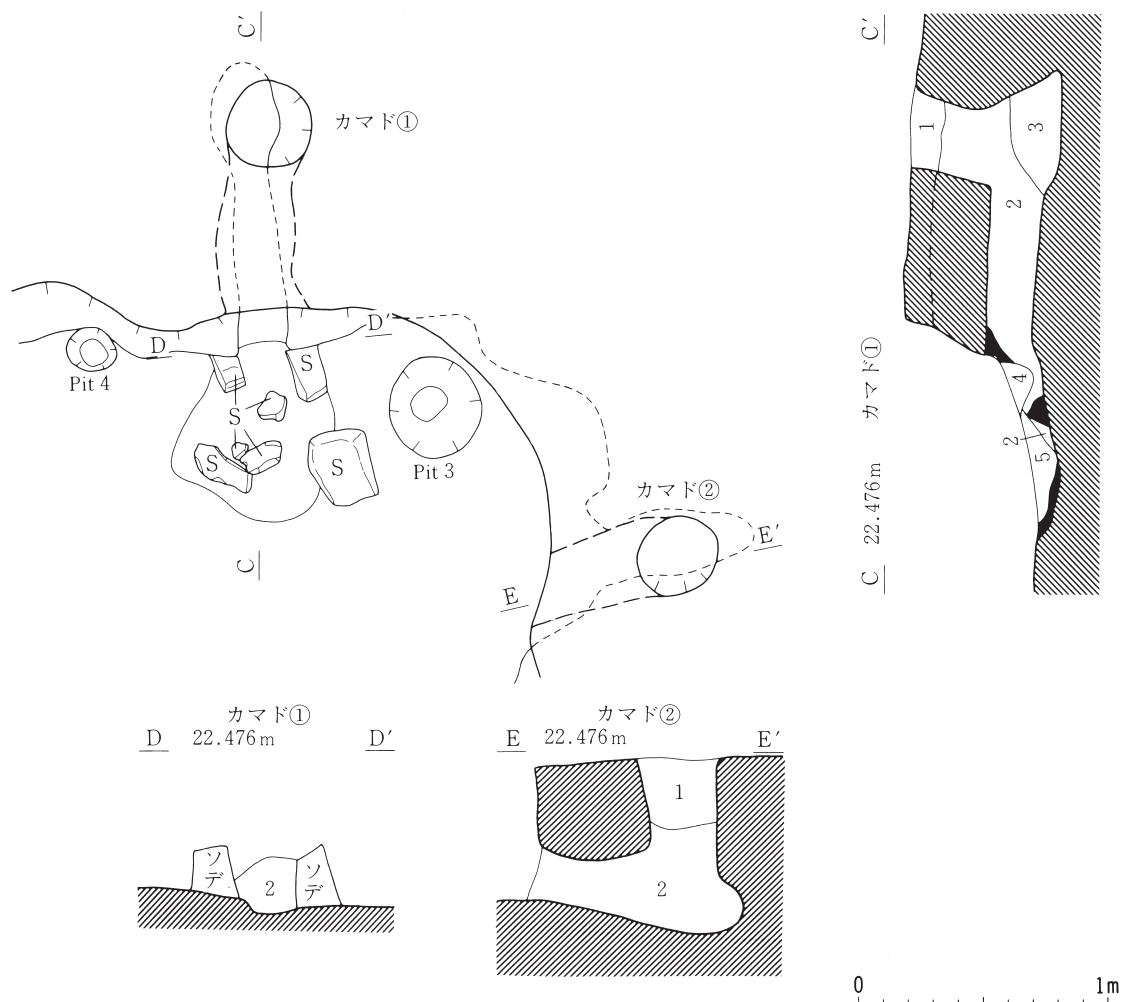
第4号住居跡 ピット3

- 第1層 褐色土 10YR4/6 焼土少量、炭化物微量。しまりあり。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 粘土層。しまりややあり。粘性あり。

第4号住居跡 ピット4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック少量、炭化物微量。粘性ややあり。

図16 第4号住居跡



第4号住居跡 カマド①

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土ブロック少量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック・焼土ブロック少量。粘性ややあり。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック・焼土粒少量。しまりあり。
- 第4層 赤褐色土 5YR4/8 焼土ブロック中量。しまりあり。粘性ややあり。

第4号住居跡 カマド②

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、ロームブロック微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。

図17 第4号住居跡カマド

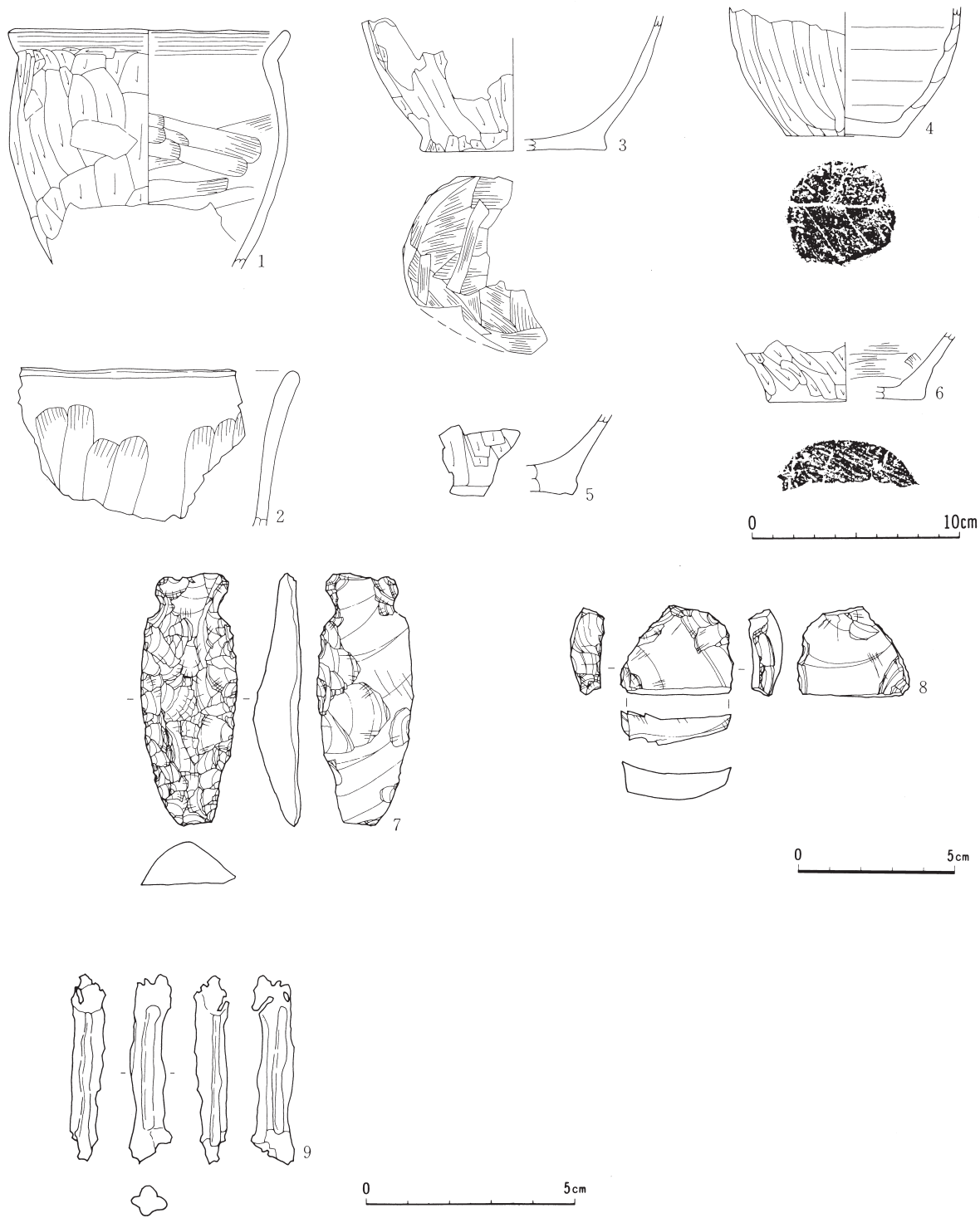


图18 第4号住居跡出土遺物

第5号竪穴住居跡 (図19～22)

[位置] A・B-138・139グリッドに位置する。第Ⅲ層・第Ⅳ層にて確認された。

[平面形・規模] 東壁辺2.63m、西壁辺3.05m、南壁辺2.80m、北壁辺2.80mの南側が若干膨らんだ方形である。主軸はS-27°-Wである。

[堆積土] カマドが設置された南側に焼土・炭化物が確認された。自然堆積である。

[壁・床面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は東壁が30cm、西壁が47cm、南壁が27cm、北壁が40cmである。床面は他の住居に比べ比較的柔らかい。

[柱穴・ピット] ピットが3個確認された。ピットの深さはピット1が床面から15cmである。カマドの両側に浅いピットが配置されている。カマドに付属する施設と思われる。

[カマド] 南側にカマドが2基検出された。両方とも確認面の段階で煙道部の天井部分が削平されている。本来は地下式のカマドと考えられる。東寄りのカマド①はカマド本体が残存している。粘土塊を袖に使用している。カマド長軸方向はS-15°-Wである。煙道部長は1.5m、深さは20cmである。西寄りのカマド②はカマド本体が残っておらず、煙道部と燃焼部の火床面のみが残っている。カマドの長軸方向はS-20°-Wである。煙道部長110cm、深さは30cmである。カマド②が先に使用を終えたものである。

[出土遺物] カマド①を中心に住居南側から出土している。カマド①覆土からは長胴甕をはじめとした土師器の甕や口縁部破片がみられる。底部外面に施文されたものが多くみられる。覆土上位から磨り石が1点出土している。

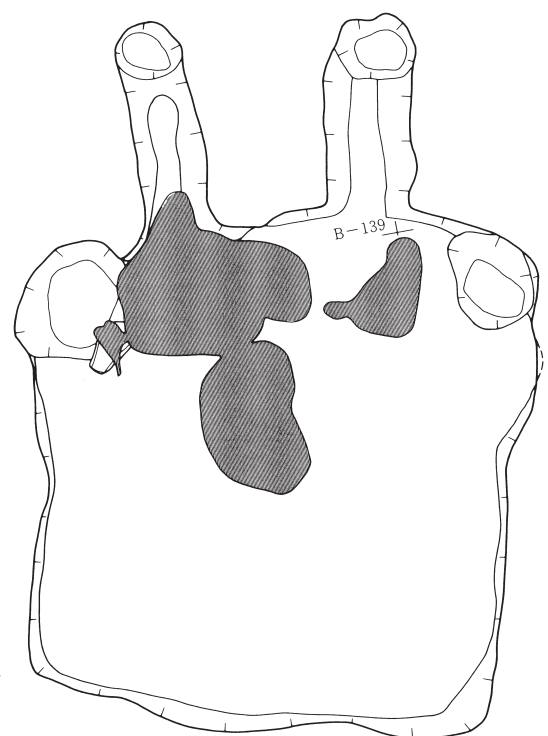
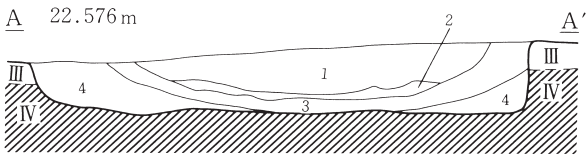
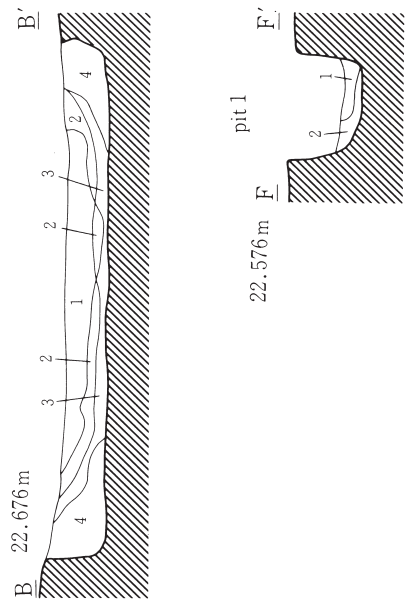
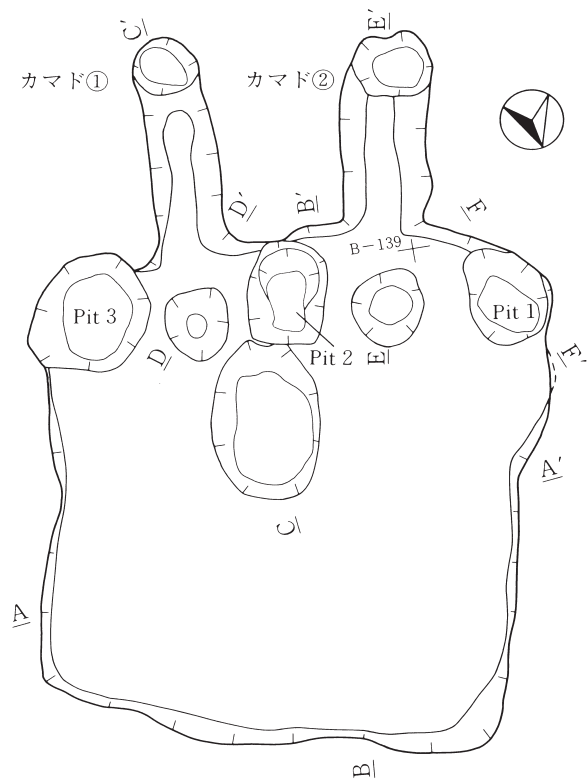
[小結] 10世紀初頭以前と思われる。

表10 第5号住居跡出土土師器観察表

図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整 (内部調整)	備 考	口径: cm	底径: cm	器高: cm
図21-1	カマド、ピット3	甕	完形	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ナデ)	底: 木葉痕	23.8	11.0	26.0
図21-2	カマド、ピット3	甕	口・胴	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ナデ)		(15.0)		(27.2)
図21-3	カマド、ピット1・3	甕	胴・底	ケズリ (ナデ)	底: 木葉痕、内面煤付着		8.5	(20.4)
図21-4	カマド、ピット1・2	長胴甕	完形	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ナデ)	底: 木葉痕、内面輪積痕	19.8	9.5	29.8
図22-5	カマド、ピット2・3	甕	口・胴	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ナデ)	外面煤付着、外面輪積痕	15.0		(16.8)
図22-6	床面	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ)	内面煤付着	(13.0)		(7.0)
図22-7	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ナデ)	外面輪積痕			(5.0)
図22-8	覆土	甕	口縁	ヨコナデ、ナデ (ナデ)				(3.5)
図22-9	カマド	甕	口縁	ナデ (ヨコナデ、ナデ)				(8.0)
図22-10	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ナデ (ヨコナデ、ナデ)				(3.1)
図22-11	床面・ピット2	甕	底	ケズリ (ナデ)	底: ナデ		(8.0)	(3.6)
図22-12	カマド	甕	底	ケズリ (ナデ)	底: 植物圧痕、内面煤付着		6.3	(2.8)

表11 第5号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器 種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石 材	備 考
図22-13	覆土	敲磨器	(65.5)	57.0	45.0	260.9	安山岩	a類、擦り・敲き痕



第5号住居跡

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒少量、ロームブロック・炭化物微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック微量、焼土(5YR4/4)中量、炭化物少量。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック少量、焼土中量、焼土ブロック(5YR4/8)微量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロック少量、焼土ブロック微量。

第5号住居跡 ピット1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック少量、焼土(5YR4/8)微量、炭化物少量。粘性ややあり。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック少量、焼土ブロック中量、炭化物少量。

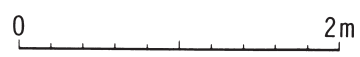
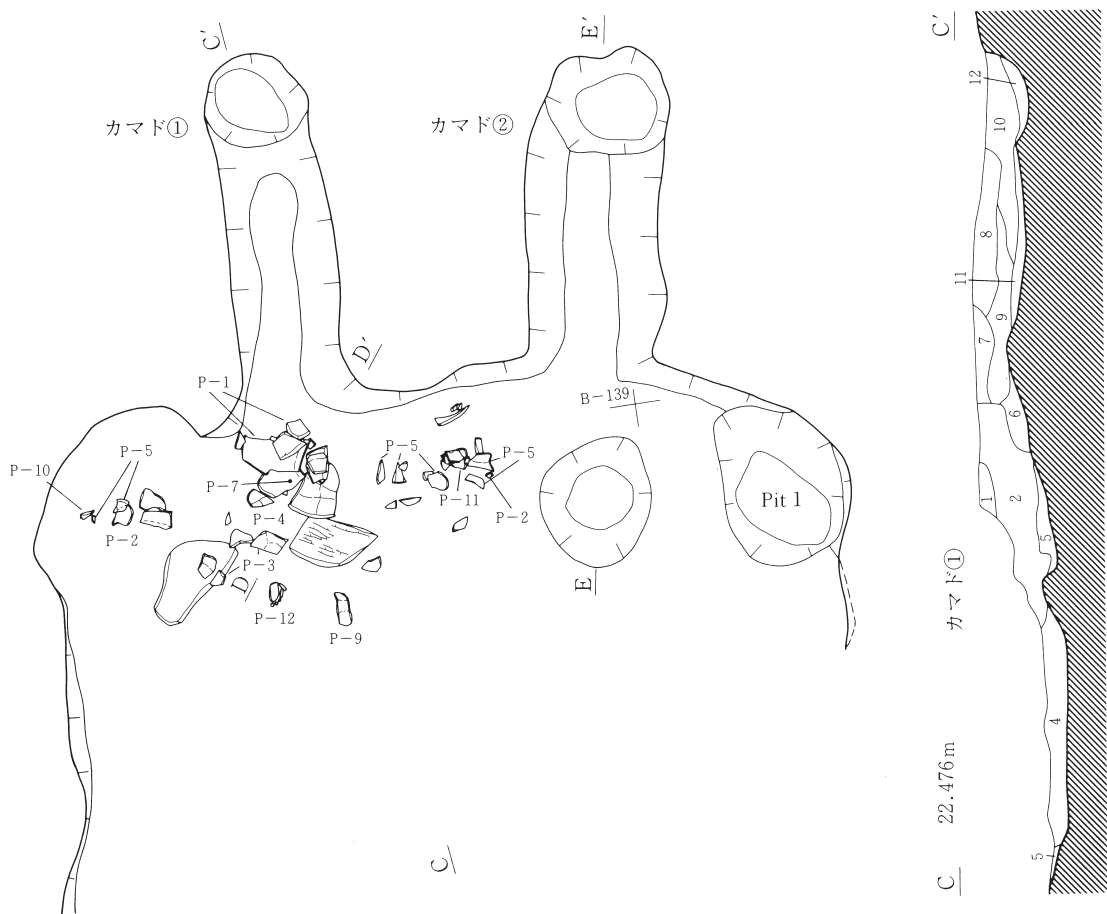
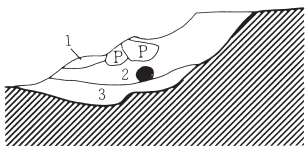


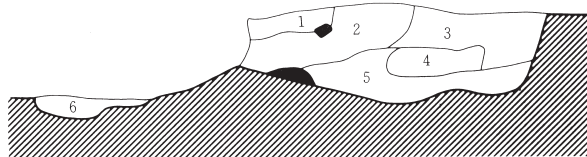
図19 第5号住居跡



D 22.676 m カマド① D'



E 22.576 m カマド② E'



0 1m

第5号住居跡 カマド1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック少量。
- 第2層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量。
- 第3層 赤褐色土 5YR4/8 ローム粒中量。しまり・粘性あり。
- 第4層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒中量、ロームブロック少量。しまりあり。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック微量、ローム全体的に含む。しまり・粘性あり。
- 第6層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム粒全体的に含む。粘性あり。
- 第7層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒多量、炭化物少量。
- 第8層 鈍い赤褐色土 5YR4/4 焼土層。
- 第9層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒少量。
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。
- 第11層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量。粘性あり。
- 第12層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量。

第5号住居跡 カマド2

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック中量、焼土ブロック微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック中量、焼土ブロック多量(5YR4/8)。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 焼土ブロック(5YR4/6)多量、炭化物少量。粘性あり。
- 第4層 褐色土 10YR4/6
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 焼土ブロック多量、炭化物少量。粘性あり。
- 第6層 赤褐色土 5YR4/8 ロームブロック・炭化物微量。しまりあり。

図20 第5号住居跡カマド



图21 第5号住居迹出土遺物①

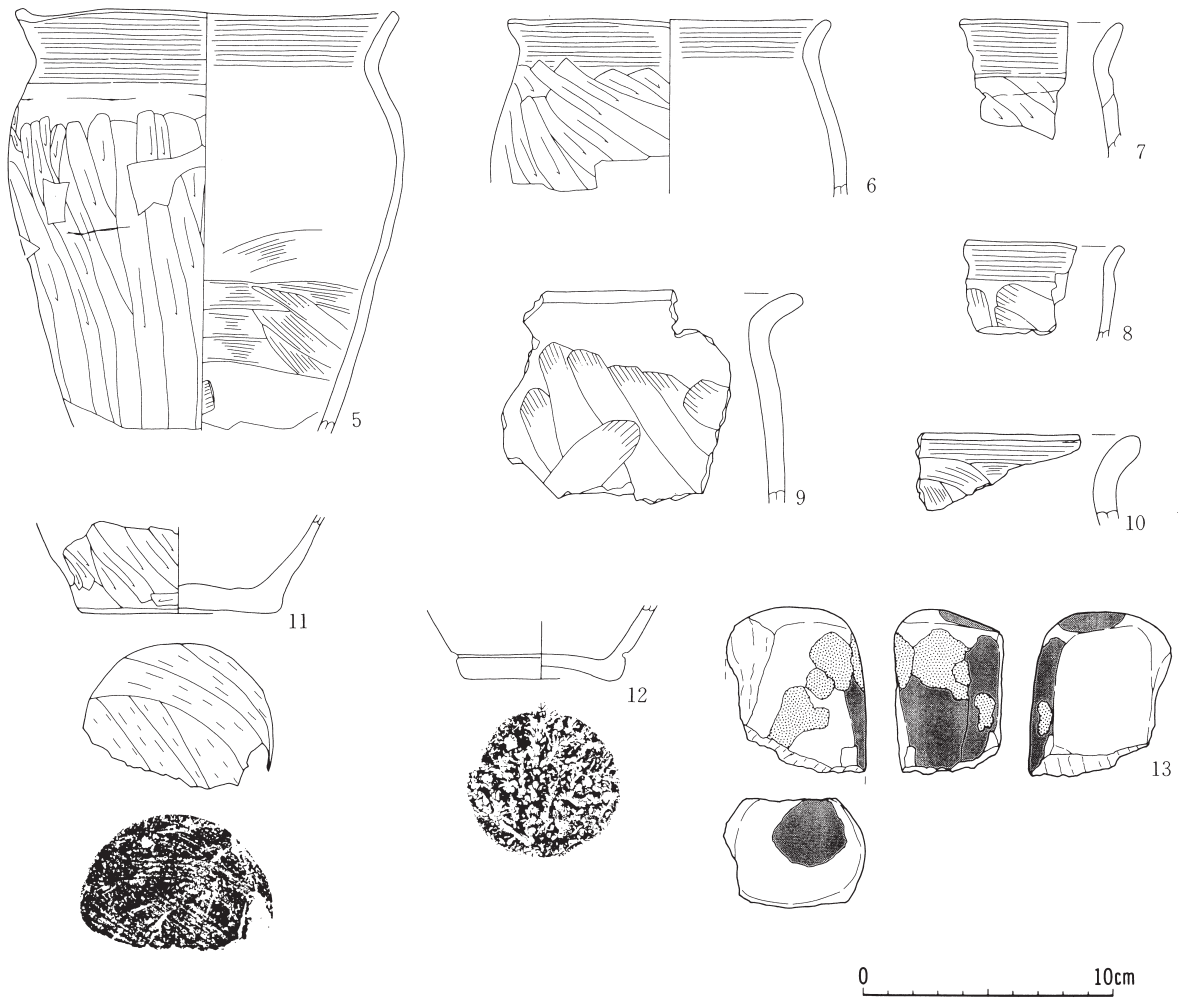


图22 第5号住居跡出土遺物②

第6号竪穴住居跡 (図23～25)

[位置] A・B-140グリッドに位置する。住居の確認が遅かったため、上部は削平されている。

[平面形・規模] 東壁辺2.25m、西壁辺2.30m、南壁辺2.60m、北壁辺2.50mの方形である。主軸はN-75°-Wである。

[堆積土] 床面から白頭山火山灰・焼土・炭が検出されている。

[壁・床面] 底面には若干の凹凸がある。残存している壁高は東壁7cm、西壁18cm、南壁7cm、北壁9cmである。

[柱穴・ピット] ピットは6個確認された。ピットの深さは以下の通りである。ピット1：34cm、ピット2：20cm、ピット3：12cm、ピット4：15cm、ピット5：38cm、ピット6：(40cm)

[カマド] 西壁中央に位置する確認面からの掘り込みが浅いため、カマドの全体像が捉えられない。カマド周辺には焼土ともに粘土塊が散在することから、粘土を袖として使用し、廃絶時に壊されたカマドと思われる。煙道部長は1m、深さは20cmである。カマドの長軸方向はW-15°-Nである。

[出土遺物] 床面、カマド覆土から完形の甕や口縁部破片が出土している。覆土から石器が2点出土している。

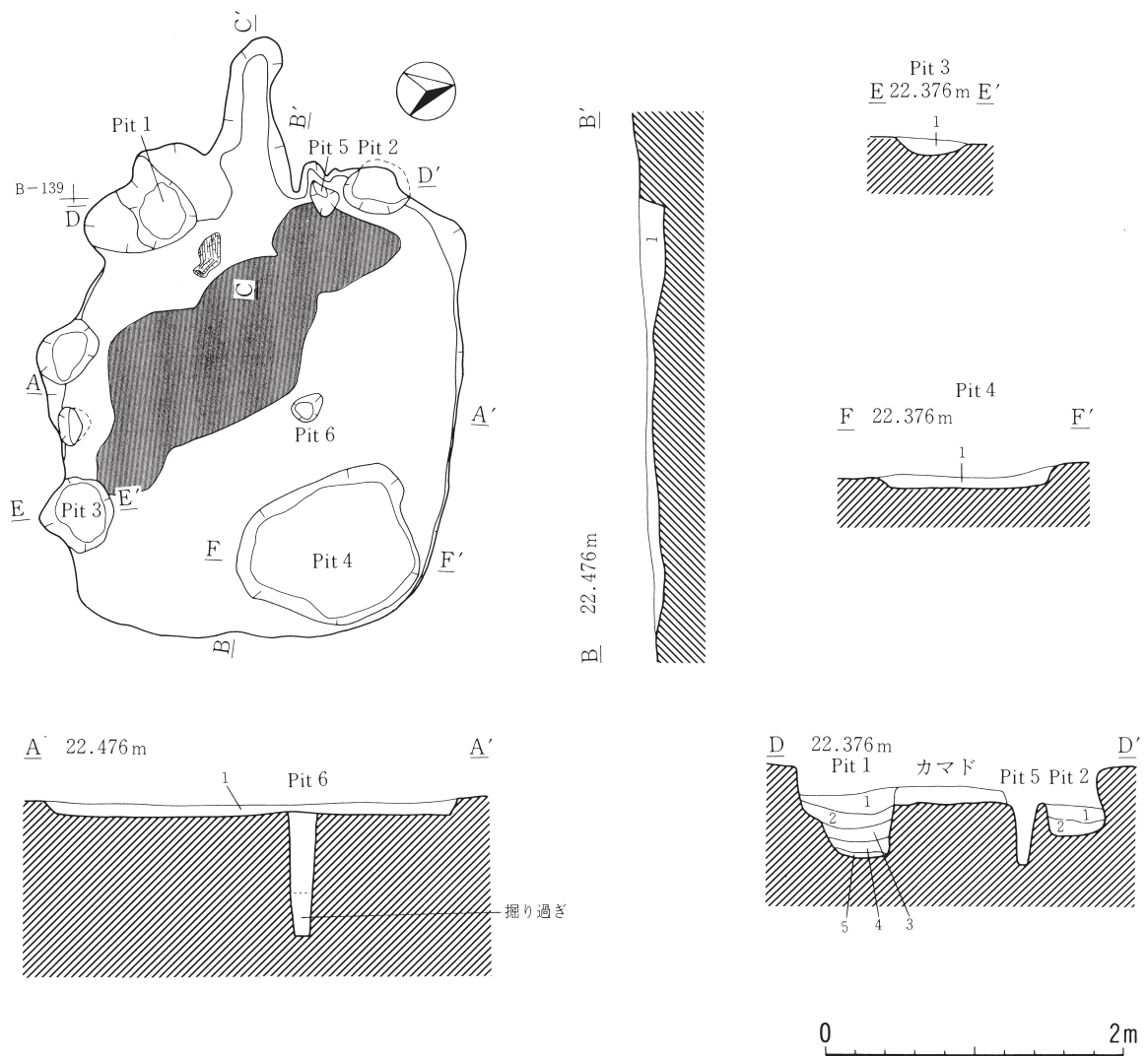
[小結] 10世紀初頭以前の住居と考えられる。

表12 第6号住居跡出土土師器観察表

図版番号	層位・位置	器形	部位	外部調整 (内部調整)	備 考	口径：cm	底径：cm	器高：cm
図25-1	カマド	甕	口・胴	ヨコナデ、ヘラケズリ (ヨコナデ、ナデ)	外面煤付着	23.6		(24.2)
図25-2	カマド	甕	完形	ヨコナデ、ナデ (ヨコナデ、ナデ)		21.4	8.3	20.9
図25-3	カマド	甕	完形	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ヘラナデ顕著)	外面輪積痕	16.0	6.8	17.0
図25-4	カマド、床面	甕	胴・底	ナデ (ナデ)	底：沈線、内面橙色付着		8.2	(16.0)
図25-5	カマド	甕	口縁	ヨコナデ (ヨコナデ)				(4.0)
図25-6	カマド	甕	底	ケズリ、底外面：ナデ、ケズリ			(7.9)	(1.8)
図25-7	カマド	甕	口縁	ヨコナデ、ケズリ (ヨコナデ、ナデ)	外面煤付着			(7.0)

表13 第6号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器 種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石 材	備 考
図25-8	覆土	不定形石器	50.5	32.5	10.5	13.2	珪質頁岩	上部欠損
図25-9	覆土	石匙	26.5	70.5	8.5	9.7	珪質頁岩	c類



第6号住居跡

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、焼土少量、焼土ブロック・炭化物微量、火山灰(10YR7/2)少量。しまりあり。

第6号住居跡 ビット1

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック・焼土ブロック微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック少量、焼土中量。
 第3層 褐色土 10YR4/4 焼土少量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・焼土少量。
 第5層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 焼土中量、炭化物少量、パミス微量。しまりあり。

第6号住居跡 ビット2

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・焼土微量、火山灰少量、パミス微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、焼土・火山灰微量。

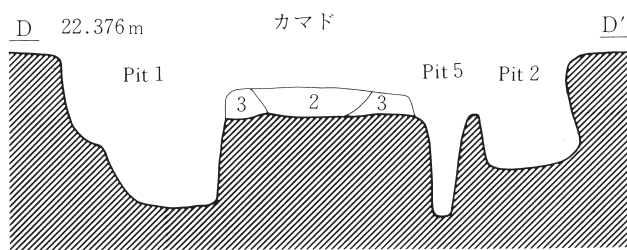
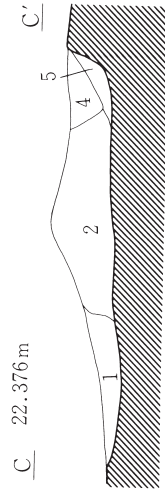
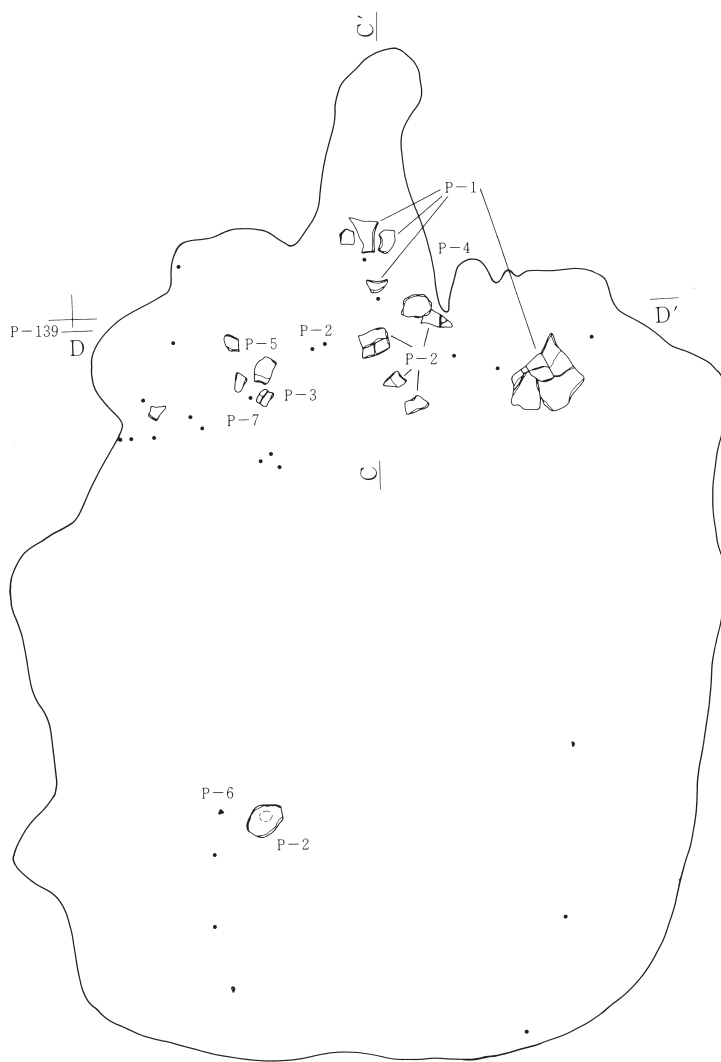
第6号住居跡 ビット3

第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・炭化物・パミス少量。しまりややあり。粘性あり。

第6号住居跡 ビット4

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック多量、焼土少量。しまり・粘性あり。

図23 第6号住居跡



第6号住居跡 カマド

- 第1層 褐色土 7.5YR4/6 ロームブロック微量、焼土多量、炭化物少量。しまりあり。
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土多量、炭化物・火山灰少量。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 しまりあり。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック少量。
- 第5層 暗褐色土 10YR4/3 火山灰少量。粘性あり。

図24 第6号住居跡カマド

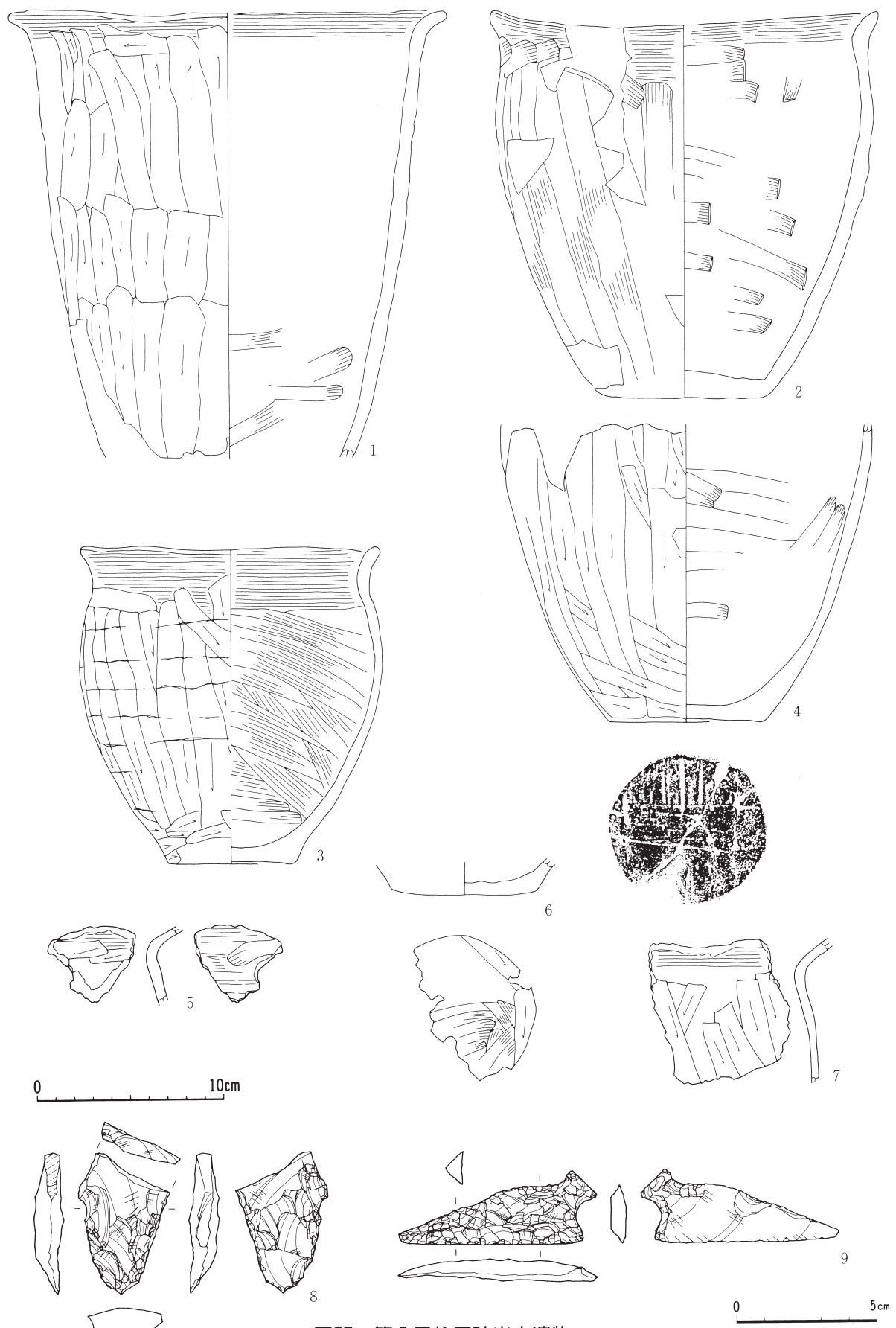


图25 第6号住居跡出土遺物

2 溝状土坑 (図26・27)

4基検出されている。1号の撥形以外は長円形を呈する。長軸は東西方向である。配置は市柳沼に続く南側斜面に平行する。小谷がある東側の緩斜面に直交する配置である。遺構から早期後半と思われる土器数点と石器が1点出土している。溝状土坑の時期については不明である。

表14 溝状土坑観察表

No	グリッド	長軸上(下)×短軸×深さ	長軸方向	平面形	長軸断	短軸断	堆積土	出土遺物	備考
1	E-153・154	326(316)×77×118	W-E	C	C	B	人為		
2	C-140・141	311(285)×29×133	W-E	A	A	A	自然		
3	A・B-152・153	395(347)×46×102	NE-SW	A	A	A	自然	石器、土師器	
4	C-139	327(321)×41×143	W-E	A	A	A	自然	土器、土師	

3 土坑 (図26・27)

第1号土坑

[位置・重複] C-139グリッドに位置し、第4号住居跡に切られている。

[平面形・規模] 深さ40cmの円形の土坑である。

[壁・底面] 底面は凹凸で、壁は片側が内湾する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土上部から土師器の口縁部片が出土している。

[時期] 住居との重複関係から平安時代以前の土坑である。

(杉野森 淳子)

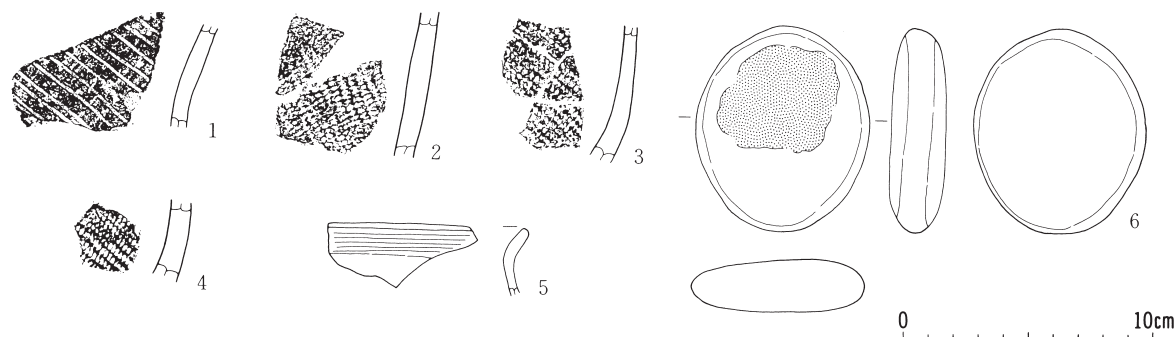


図26 溝状土坑、土坑出土遺物

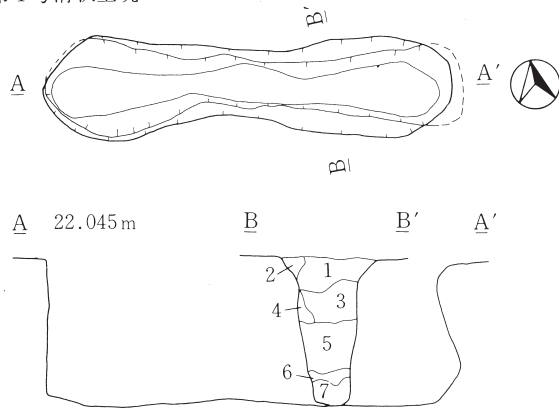
表15 溝状土坑、土坑出土土器・土師器観察表

図版番号	遺構	層位	種別	部位	施文文様/外面調整 (内面調整)	胎土	焼成	備考
図26-1	3 T	覆土	縄文土器	胴	沈線	緻密	良好	時期不明
図26-2	4 T	覆土	縄文土器	胴	RL単節	緻密	良	早期
図26-3	4 T	覆土	縄文土器	胴	RL単節	緻密	良	早期
図26-4	4 T	覆土	縄文土器	胴	RL単節	緻密	良	早期
図26-5	1 土	覆土	土師器	口縁	/ヨコナデ (ヨコナデ)	緻密	良	

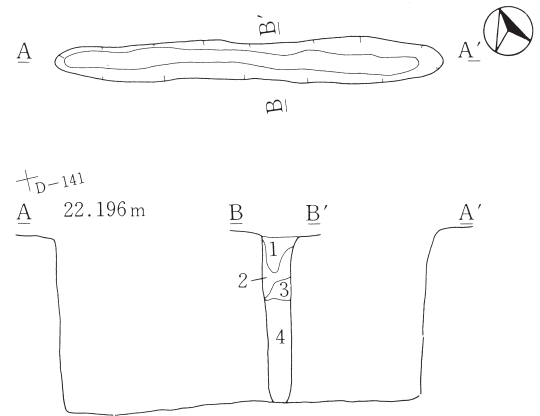
表16 溝状土坑出土石器観察表

図版番号	遺構	層位	器種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石材	備考
図26-6	3 T	覆土	敲磨器	82.0	70.0	22.0	177.7	珪質頁岩	c類、磨滅痕

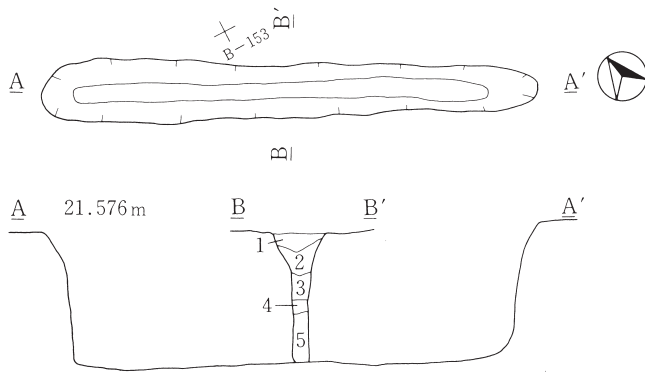
第1号溝状土坑



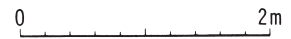
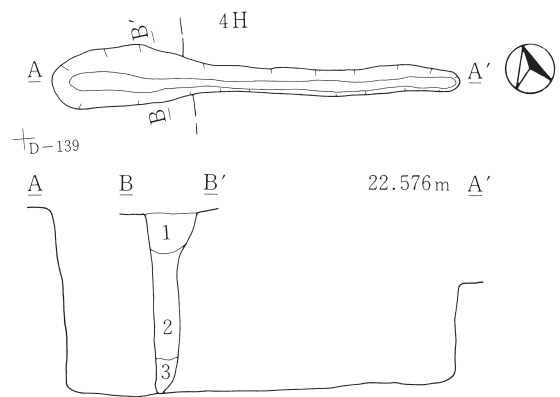
第2号溝状土坑



第3号溝状土坑



第4号溝状土坑



第1号溝状土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ロームブロック少量。
第2層	黒色土	10YR2/1	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ロームブロック多量。
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ロームブロック多量。
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ロームブロック多量。
第6層	褐色土	10YR4/6	ロームブロック少量。粘土層。
第7層	褐色土	7.5YR4/4	粘土層。

第2号溝状土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。しまりあり。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量。粘性ややあり。
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量。粘性ややあり。
第4層	鈍い黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量。

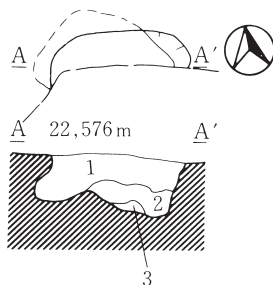
第3号溝状土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量。しまりあり。
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量。
第3層	褐色土	10YR4/6	ローム粒中量。
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒を部分的に含む。粘性あり。
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ロームブロック少量。粘性あり。

第4号溝状土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/2	しまり・粘性ややあり。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	しまりややあり。粘性あり。
第3層	褐色土	10YR4/6	しまり・粘性あり。

第1号土坑



第1号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土ブロック・火山灰微量、炭化物・パミス微量。しまりややあり。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ロームブロック少量、焼土微量。粘性ややあり。
第3層	褐色土	10YR4/6	ロームブロック微量。しまり・粘性あり。



図27 溝状土坑、土坑

第2節 遺構外出土遺物

幸畑（4）遺跡の試掘・本調査ではダンボール箱で11箱の土器と5箱の石器が遺構外から出土している。出土層位は第Ⅲ層が主体である。土器・石器とも分布範囲はグリッド107ラインから127ラインと、135ラインから151ラインである。土器はA-144、小谷の125・126ライン、住居周辺の139ラインから146ラインに集中している。

1 土器・土製品

縄文早期を中心に、縄文後期の土器および土師器片が出土している。早期の中でも後半の土器が大部分を占める。器形は平底・尖底の深鉢土器がほとんどと思われる。分類は文様構成を基準とした。

第Ⅰ群 早期の土器

- 第1類 吹切沢式に相当する土器
- 第2類 表館Ⅵ群に相当する土器
 - a 押し引き刺突を施したもの
 - b 沈線を施したもの
 - c 地文とは異なる縄文を施したもの
 - d 縄文のみのもの
- 第3類 赤御堂式に相当する土器
- 第4類 早稲田5類に相当する土器
- 第5類 時期が特定できない早期の土器

第Ⅱ群 前期初頭に相当する土器

第Ⅲ群 後期前半に相当する土器

第Ⅰ群

貝殻腹縁文を施した土器を第1類とした。第2類には隆帯のある口縁と斜縄文を施した平底を含めた。ここでは口縁部・胴部・底部の各部位毎にまとめた。第3類に斜縄文の尖底を分類した。第4類は綾杉文を施文した口縁部・胴部・底部を含む。

第1類 吹切沢式に相当する土器（図28-1・2）

同一個体の口縁が2点出土している。体部形状はゆるやかで、砲弾形の深鉢と思われる。小波状口縁を呈し、口唇部に貝殻腹縁による刻みが施されている。口縁部に4本の平行沈線を巡らし、その間に縦位の貝殻腹縁圧痕を施している。胴部には縦位の貝殻条痕文、口縁部内面には横位の貝殻条痕文が施されている。胎土は緻密で、粗砂粒が全体に含まれる。外面色調は褐灰色、内面は黒褐色である。

第2類 表館Ⅵ群に相当する土器（図28-3～図31-87）

口縁に比べ底部の直径がとても小さい平底の鉢である。形状は底部から胴部にかけて緩やかに立ち上がり、胴部から口縁にかけてやや外反する。内面調整はナデ・条痕文・縄文が施されている。胎土は緻密で、細砂粒・雲母・小礫・針状の細い白色を呈する動物形珪酸体を含む。焼成はやや良好である。色調は多い順から黄褐色・黒褐色・褐色である。内面にスス状炭化物が付着したものもみられる。

〈分類基準〉

分類は部位毎に大別し、部位のなかでも口縁部は文様構成によって細分した。胴部・底部はと資料が少ないことと、特徴に差がないため一括した。口縁部は隆帯をもつものともたないものが半々である。隆帯の有無による文様の差が明確に捉えられないため、ここでは隆帯の有無をとわず、口縁部の文様の種類で細分した。

〈口縁部〉

a：押し引き刺突を施したもの（図28-3～18）

口縁に幅広い隆帯を貼り付けたものが大部分である。形状はやや外反している。施文方法は横位沈線と押し引き刺突の組み合わせたものと押し引き刺突のみのものである。刺突はすべて右方向から行われている。11は地文を擦り消した後に刺突を施している。14～16のように地文の上に格子目状沈線が施されたものもみられる。口唇部には縄文と押し引き刺突を施したものが数点出土している。地文はR L縄文の外にL Rもみられる。内面調整はオサエを主体とし、ナデ・縄文を施すものもある。

b：沈線を施したもの（図28-19～図29-25）

横位の沈線を隆帯の上に1本、隆帯の下に1本巡らすのが特徴である。13のように3本施されたものもこの部類に含めた。地文はR L縄文である。沈線は浅いもの（19・20・24・25）と深いもの（21～23）がみられる。21・22は刻みを施した隆帯を縦位に貼付けしている。内面には角状工具で浅い沈線が縦に施文されている。口唇部には押し引き刺突が施されている。内面調整はナデ（23）と縄文である。

c：地文とは異なる縄文を施したもの（図29-26～34）

口縁部に地文と異なる縄文を施したものを一括した。横位の側面圧痕が主体である。31以外は幅広い隆帯を貼り付けている。縦位・横位・斜位側面圧痕が施されている。29は隆帯を6mm幅の浅い沈線を2本施した後に縦位の側面圧痕を行っている。26～28は隆帯の接合面上下に横位側面圧痕を施し、さらに隆帯上に横位圧痕（26・27）、斜位圧痕（28）を施している。30・32・33は隆帯上に2本平行して側面圧痕を施している。地文はR Lの外にL Rもみられる。口唇部に側面圧痕がみられる。胎土に雲母が多く含まれている。

d：縄文のみもの（図29-35～図30-66）

地文文様のみが器面に施されているものを一括した。隆帯に施文しているもの（35～46）、隆帯に施文していないもの（47～50）、器面全体に施文しているもの（51～57）、無文帯を形成するもの（58～66）に大別できる。隆帯には胴部と同じ文様が施文されている。地文はR Lが大半をしめ、L Rもみられる。段状施文（42～45・47）、同一原体の方向を変えて施文した羽状縄文（49）がみられる。内面調整はナデ、オサエ、条痕文、縄文がみられる。無文帯を形成するものは比較的焼成が良好である。胎土に雲母が含まれるものが多くみられる。

〈胴部〉(図30-68～図31-79)

文様の主体はRL単節斜縄文である。浅い刺突を波状に2列施したものの、結節回転文、段状縄文、撚り戻し縄文がみられる。内面調整は縦位条痕文(72)、外面と同じ原体を施したものがみられる。72は粘土接合面が明確に残っている。

〈底部〉(図31-80～87)

小さな平底である。形状はやや張り出すものと、緩やかに立ちあがるものである。85・86は上げ底を呈する。底部外面に縄文を施している。底部文様は胴部地文と一致し、RL縄文、撚り戻し縄文が施文されている。86・87は体部に縦位側面圧痕が施されている。

第3類 赤御堂式に相当する土器(図31-88～92)

縄文を施した尖底部・胴部破片である。91はLR単節斜縄文で、その外はRL単節縄文が施文されている。90は底部から胴部への傾斜がゆるく、胴部がやや張り出した器形が想定される。91・92は焼成が良好で、緻密な土器である。色調はにぶい黄褐色である。

第4類 早稲田5類に相当する土器(図31-93～98)

撚りの異なる縄文を合わせた(綾杉状縄文)縄文を施文した土器を一括した。底部は張り出し、やや上げ底気味のものもみられる。底部が小さく、底部から胴部にかけて急に立ち上がり、胴部から口縁にかけてやや緩やかに広がる深鉢と思われる。縄文原体は撚方向が異なる1段のものを2本撚り合わせたもの(95)、3本撚り合わせたもの(94・98・97・93)、4本撚り合わせたもの(96)がみられる。内面調整にはナデ・条痕が施されている。胎土に粗砂粒・雲母、植物繊維が含まれ、軟質な土器である。色調は明褐色で、焼成は良好である。

第5類 時期が特定できない早期の土器(図31-99～101)

99～101はRLを地文とし、沈線が施文されている。口縁部には2本の平行沈線の間山形の沈線がみられる。100は3本の沈線が波状に施されて、口唇部に縄文側面圧痕がみられる。胎土に雲母・小礫が含まれている。99・100とも表館X群と思われる。

第II群(図32-102)

底部が1点出土している。胴部に縦位の楕円形文を巡らし、底部には沈線を格子目状に施文している。焼成は良く、食物繊維を多量に含む。外面色調が橙色である。

第III群(図32-103～106)

105・106は、口唇から縦に隆帯を貼付け、その隆帯の周りにU字状に沈線を複数施している。口縁は平口である。焼成は良好である。105は胎土に細砂粒が含み、内面調整は丁寧である。色調は106が両面ともににぶい黄褐色、105は外面がにぶい黄褐色、内面が褐灰色である。103・104は格子目状沈線が施されている。104は繊維を含み、内面調整が丁寧に施されている。103には粗砂粒が少量含まれ、胎

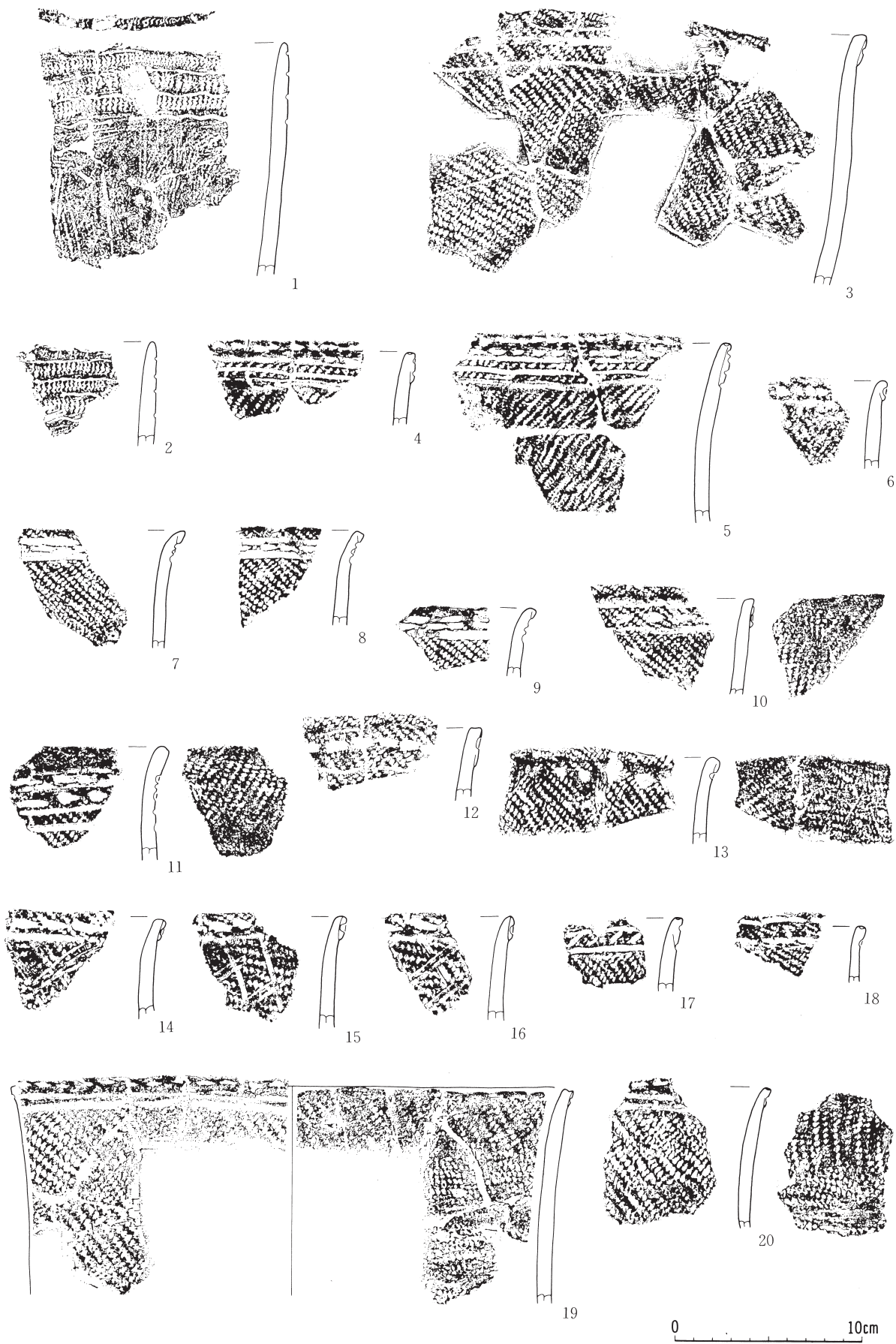


图28 遺構外出土土器①

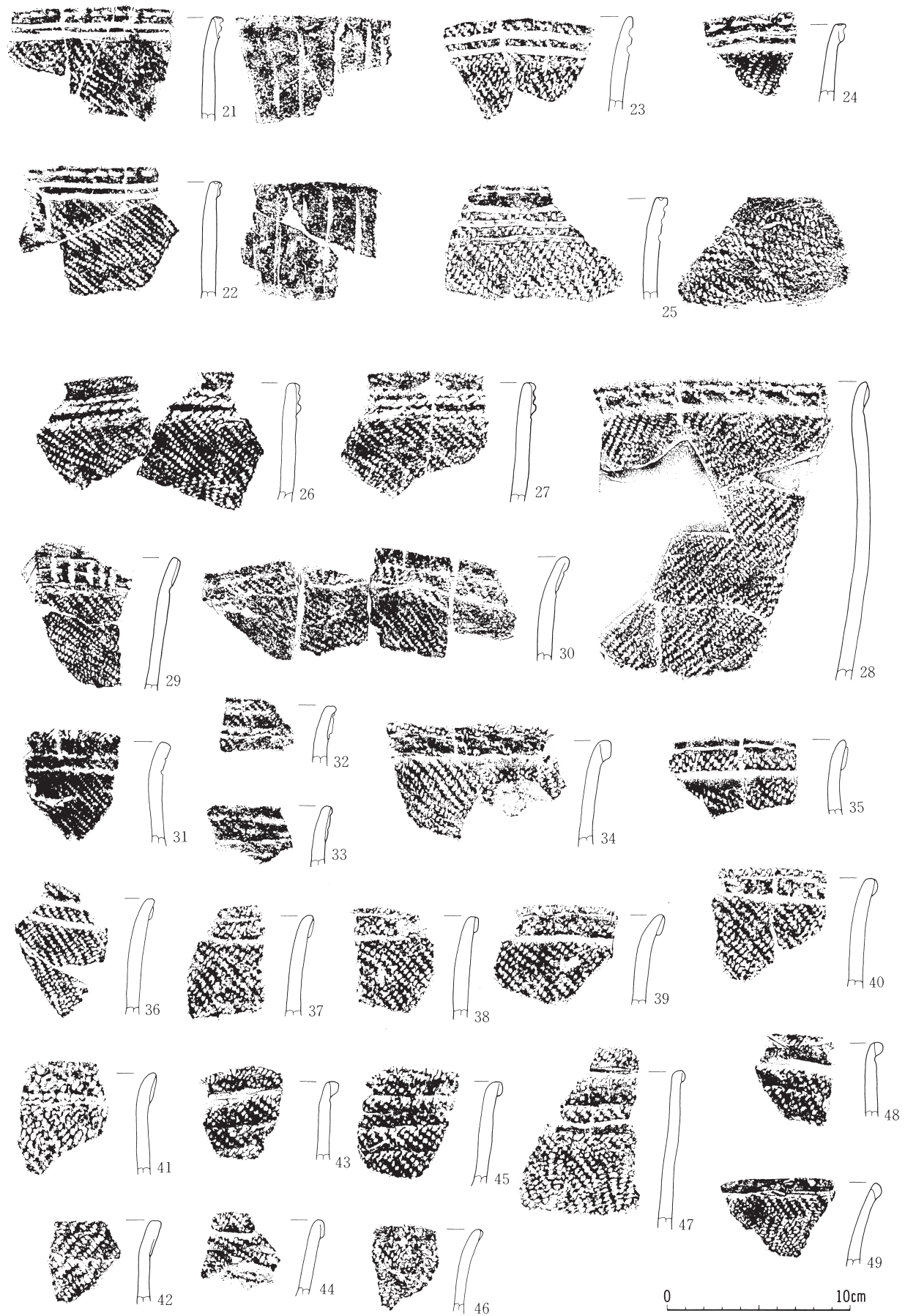


图29 遺構外出土土器②

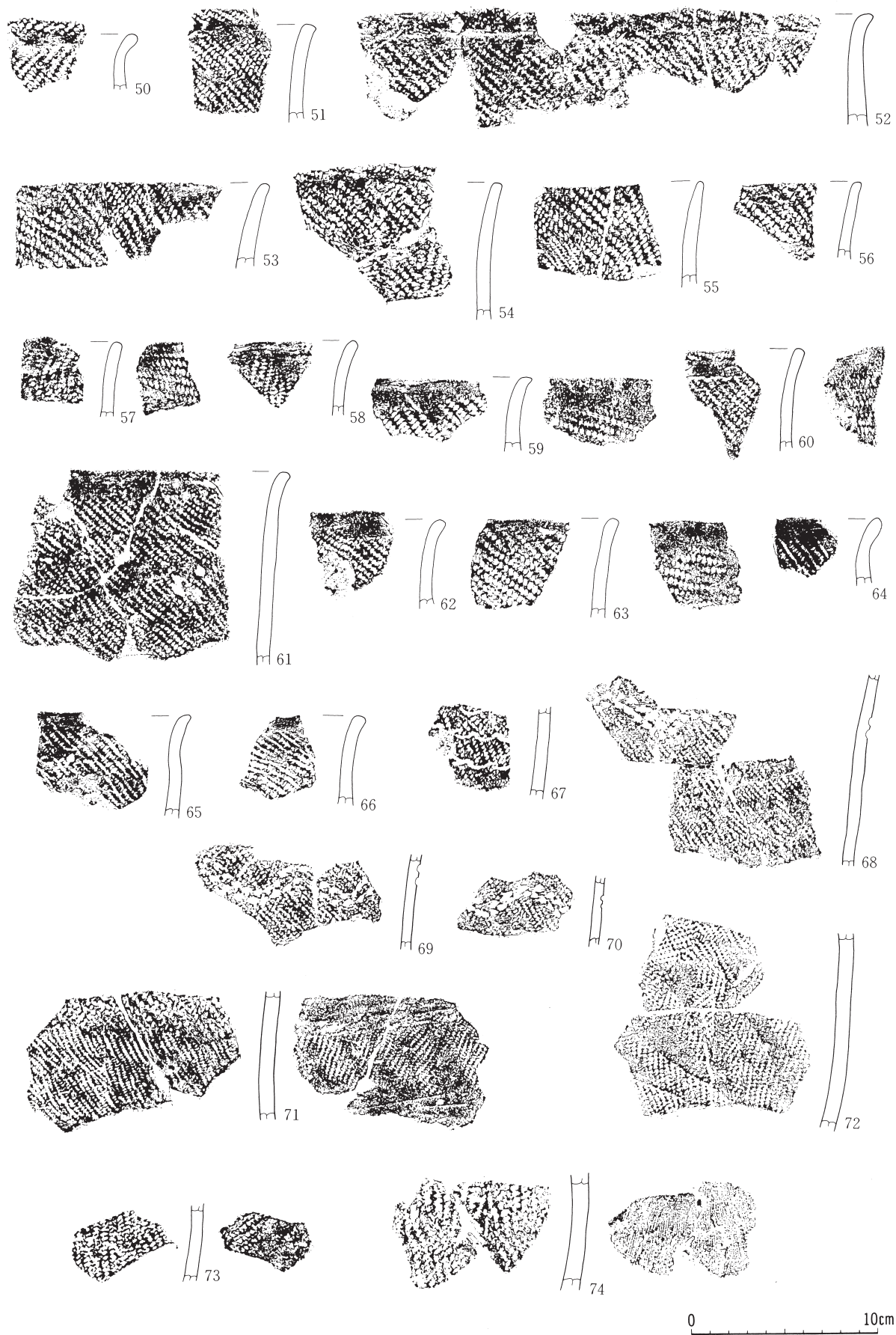


图30 遺構外出土土器③

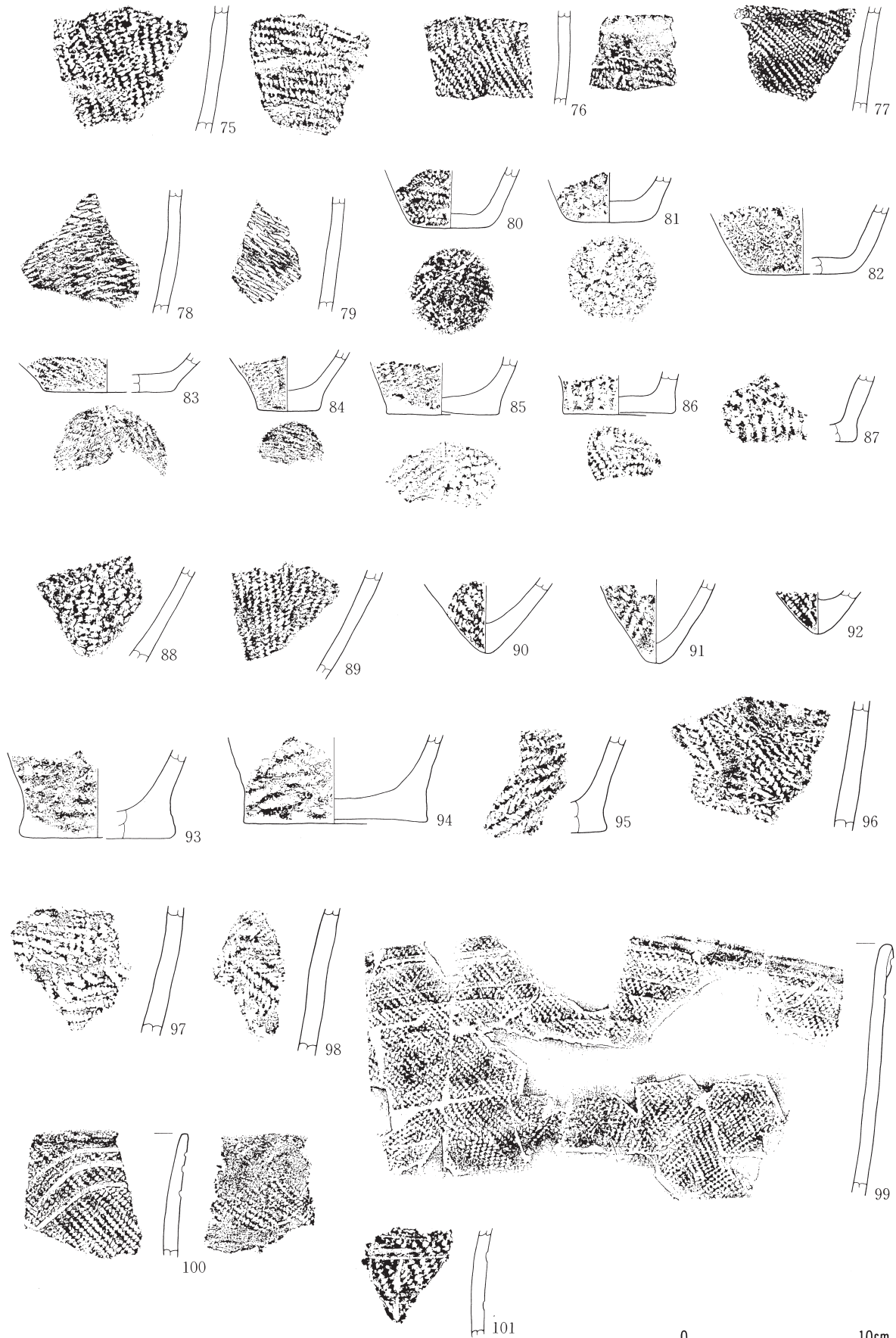


图31 遺構外出土器④

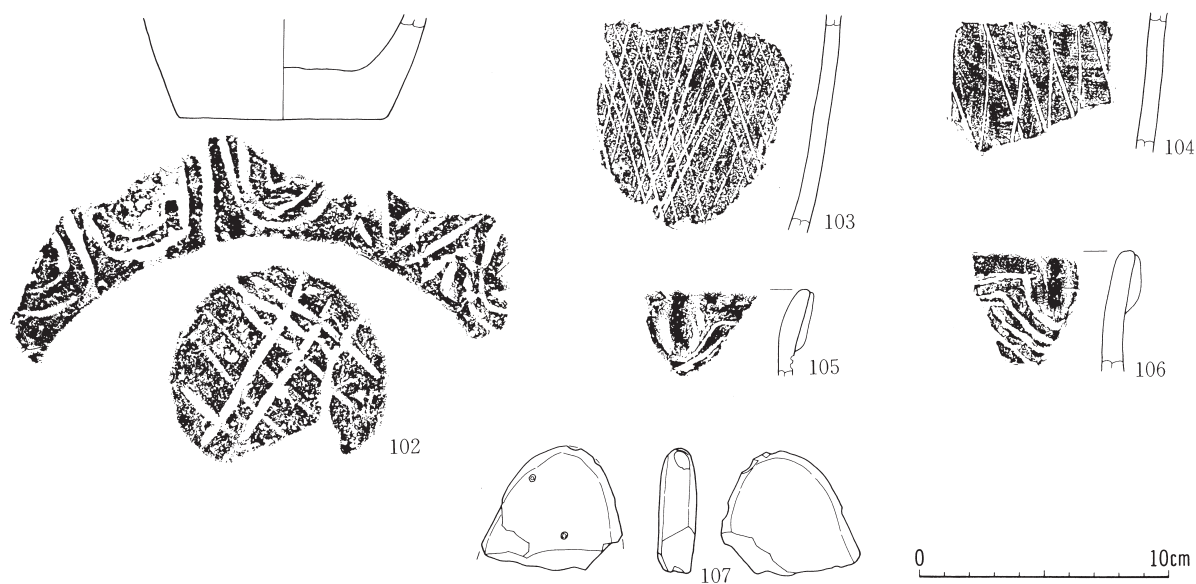


図32 遺構外出土土器⑤

土は雑である。

土製品 (図32-107)

遺物が集中しているB-145グリッドから1点出土している。中央に小さな円形の刺突を2ヶ所施した、扁平な形の土製品である。胎土はやや砂質である。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)である。

表17 遺構外出土土器観察表

図版番号	グリット	層位	分類	部位	文様 (地文)	口唇部	内面調整	備考
図28- 1	B-143	I	I-1	口縁	小波状口縁、沈線、縦位貝殻縁圧痕3段 (縦位貝殻条痕)	貝殻による刻み	貝殻条痕	2と同一個体
図28- 2	B-143	I	I-1	口縁	小波状口縁、沈線、縦位貝殻縁圧痕3段 (縦位貝殻条痕)	貝殻による刻み	貝殻条痕	1と同一個体
図28- 3	A-115	Ⅲ	I-2-a	口縁	押し引き刺突 (RL縄文)	RL縄文圧痕	オサエ	口縁部貼付隆帯
図28- 4	B-144	Ⅲ	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突 (LR縄文)	押し引き刺突		口縁部貼付隆帯
図28- 5	B-144	Ⅱ	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突 (RL縄文)	押し引き刺突		口縁部貼付隆帯
図28- 6	C-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	押し引き刺突 (RL縄文)		RL縄文	口縁部貼付隆帯
図28- 7	C-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図28- 8	C-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図28- 9	C-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突 (RL縄文)		ナデ	堅緻
図28-10	C-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	押し引き刺突 (RL縄文)	RL縄文圧痕	RL縄文	口縁部貼付隆帯
図28-11	B-146	I	I-2-a	口縁	沈線、押し引き刺突2段 (RL縄文)		縄文	雲母含む。砂質。
図28-12	A-146	Ⅲ	I-2-a	口縁	押し引き刺突 (RL縄文)	RL縄文圧痕	オサエ	口縁部貼付隆帯
図28-13	B-145	Ⅲ	I-2-a	口縁	円形押し引き刺突 (RL縄文)	RL圧痕	RL縄文	口縁部貼付隆帯
図28-14	B-143	I	I-2-a	口縁	押し引き刺突、格子目状沈線 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図28-15	B-143	I	I-2-a	口縁	押し引き刺突、格子目状沈線 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図28-16	B-144	I	I-2-a	口縁	押し引き刺突、格子目状沈線 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図28-17	B-144	I	I-2-a	口縁	沈線、斜位の押し引き刺突 (RL縄文)	刺突		口縁部貼付隆帯
図28-18	B-144	I	I-2-a	口縁	押し引き刺突2列 (RL縄文)	刺突		口縁部貼付隆帯
図28-19	A-145	Ⅲ	I-2-b	口縁	沈線 (RL縄文)	押し引き刺突	RL縄文	口縁部貼付隆帯
図28-20	C-145	Ⅲ	I-2-b	口縁	浅い沈線 (RL縄文)	押し引き刺突	RL縄文	口縁部貼付隆帯
図29-21	B-145	I	I-2-b	口縁	沈線 (RL縄文)	押し引き刺突	縦位沈線	口縁部貼付隆帯
図29-22	B-145	I	I-2-b	口縁	沈線、刻みをもつ縦位隆帯 (RL縄文)	押し引き刺突	縦位沈線	口縁部貼付隆帯
図29-23	C-144	Ⅲ	I-2-b	口縁	沈線 (RL縄文)			
図29-24	A-145	Ⅲ	I-2-b	口縁	沈線 (RL縄文)	押し引き刺突	縄文	口縁部貼付隆帯
図29-25	C-145	Ⅲ	I-2-b	口縁	沈線 (RL縄文)	押し引き刺突	RL縄文	
図29-26	B-144	I	I-2-c	口縁	側面圧痕 (RL縄文)	RL縄文圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-27	B-144	I	I-2-c	口縁	側面圧痕 (RL縄文)	RL縄文圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-28	C-143	Ⅱ・Ⅲ	I-2-c	口縁	RL側面圧痕 (LR縄文)			口縁部貼付隆帯
図29-29	C-146	Ⅱ	I-2-c	口縁	縦位側面圧痕 (RL縄文)	RL縄文圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-30	A-115	I	I-2-c	口縁	LR側面圧痕 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図29-31	A-115	I	I-2-c	口縁	側面圧痕 (RL縄文)	縄文圧痕	オサエ	
図29-32	A-115	Ⅲ	I-2-c	口縁	縁：側面圧痕 (RL縄文)			口縁部貼付隆帯
図29-33	A-115	I	I-2-c	口縁	側面圧痕		ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-34	B-145	I	I-2-c	口縁	側面圧痕 (RL縄文)	側面圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-35	B-145	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)		ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-36	B-126	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-37	B-144	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄目圧痕	オサエ	口縁部貼付隆帯
図29-38	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄目	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-39	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-40	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-41	B-143	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-42	B-144	I	I-2-d	口縁	(LR縄文)			口縁部貼付隆帯
図29-43	B-143	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-44	B-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕	ナデ	口縁部貼付隆帯
図29-45	B-143	I	I-2-d	口縁	段状施文 (RL縄文)	RL縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-46	A-146	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)			
図29-47	B-143	I	I-2-d	口縁	段状施文 (RL縄文)	RL縄文圧痕		口縁部貼付隆帯
図29-48	B-145	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄文圧痕	縄文、RL	口縁部貼付隆帯
図29-49	C-145	Ⅳ	I-2-d	口縁	羽状縄文 (RL縄文)		ナデ、RL縄文	口縁部貼付隆帯
図30-50	B-144	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕		
図30-51	B-124	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	RL縄文圧痕	RL縦縄文	
図30-52	B-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄文圧痕		
図30-53	B-147	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		オサエ	
図30-54	E-144	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)	縄文圧痕	RL縄文	
図30-55	A-146	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		ナデ	
図30-56	B-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		条痕	
図30-57	C-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		RL縄文	
図30-58	B-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		ナデ	口縁部に無文帯を形成
図30-59	B-144	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)		RL縄文	

図版番号	グリット	層位	分類	部位	文様 (地文)	口唇部	内面調整	備考
図30-60	B-145	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		縄文	
図30-61	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL縄文)		ナデ	
図30-62	B-148	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)		ナデ	
図30-63	B-144	I	I-2-d	口縁	(RL縄文)		RL縄文	
図30-64	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL絡条体)		ナデ	
図30-65	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL絡条体)		ナデ	
図30-66	C-144	Ⅲ	I-2-d	口縁	(RL絡条体)		ナデ	
図30-67	B-115	Ⅲ	I-2	胴	綾絡文 (RL縄文)			
図30-68	B-145	I	I-2	胴	連続刺突2列 (RL縄文)		条痕	
図30-69	B-145	I	I-2	胴	連続刺突2列 (RL縄文)		条痕	
図30-70	B-145	I	I-2	胴	連続刺突2列 (RL縄文)			
図30-71	C-146	Ⅲ	I-2	胴	段状施文 (RL縄文)		ナデ	
図30-72	C-145	Ⅲ	I-2	胴	綾絡文 (RL縄文)		縄文	
図30-73	A-146	Ⅲ	I-2	胴	(RL縄文)		RL縄文	外面炭化物付着
図30-74	B-144	Ⅲ	I-2	胴	(RL縄文)		条痕	
図31-75	C-145	Ⅲ	I-2	胴	(RL縄文)		RL	
図31-76	A-144	I	I-2	胴	(RL縄文)		RL	
図31-77	C-145	Ⅲ	I-2	胴	(RL縄文)		ナデ	雲母含む
図31-78	A-115	Ⅲ	I-2	胴	(燃戻し縄文)		条痕	
図31-79	A-116	I	I-2	胴	(燃戻し縄文)		条痕	
図31-80	C-146	Ⅱ	I-2	底	縄文 (RL縄文)		ナデ	
図31-81	B-146	I	I-2	底	縄文 (縄文)			
図31-82	B-117	I	I-2	底	(RL縄文)		ナデ	
図31-83	A-115	Ⅲ	I-2	底	燃り戻し縄文 (燃戻し縄文)		ナデ	
図31-84	B-144	I	I-2	底	RL縄文 (RL縄文)			
図31-85	A-145	Ⅲ	I-2	底	RL縄文 (RL縄文)			
図31-86	A-119	I	I-2	底	LR縄文 (RL縦位縄文)			
図31-87	A-119	Ⅲ	I-2	底	(結節回転文)			
図31-88	C-145	Ⅲ	I-3	胴	尖底	(RL縄文)		
図31-89	A-144	I	I-3	胴	尖底	(RL縄文)		
図31-90	C-144	Ⅲ	I-3	底	尖底	(RL縄文)		
図31-91	B-142	Ⅲ	I-3	底	尖底	(LR縄文)		
図31-92	B-136	I	I-3	底	尖底	(RL縄文)		
図31-93	B-140	Ⅲ	I-4	底	(綾杉状縄文)			
図31-94	B-141	I	I-4	底	(綾杉状縄文)		条痕	
図31-95	A-139	Ⅲ	I-4	底	(綾杉状縄文)			
図31-96	B-141	I	I-4	胴	(綾杉状縄文)		ナデ	
図31-97	A-143	I	I-4	胴	(綾杉状縄文)		条痕	
図31-98	B-143	I	I-4	胴	(綾杉状縄文)			
図31-99	C-146	Ⅱ	I-5	口縁	沈線による幾何学紋様 (RL縄文)		オサエ	
図31-100	B-145	I	I-5	口縁	沈線による波状文様 (RL縄文)			外面炭化物付着
図31-101	D-143	I	I-5	胴	縦位・横位沈線 (RL縄文)			
図32-102	B-141	I	Ⅱ	底	底：格子目状沈線、胴：楕円形沈線文			
図32-103	A-152	Ⅲ	Ⅲ	胴	格子目状沈線			
図32-104	C-149	I	Ⅲ	胴	格子目状沈線			
図32-105	B-179	Ⅲ	Ⅲ	口縁	貼付隆帯、沈線			平口縁
図32-106	B-149	Ⅲ	Ⅲ	口縁	貼付隆帯、沈線			平口縁
図32-107	B-145	I		土製品	円孔2個：φ3mm			下部欠損

2 石器

幸畑（4）遺跡からは石鏃7点、石銛状石器1点、石匙2点、石篋29点、不定形石器27点、磨製石斧2点、敲磨器類15点、二次加工剥片142点、剥片914点、被熱した剥片7点の総計1146点が出土している。石器はグリットライン108から127間の斜面と138から147間の住居跡周辺の平坦面に分布している。

石鏃（図33-1～7）

I c) 無茎で抉りがあるもの（1～4）

1は返し部分が非対照である。

I a) 無茎で基部が直線的なもの（6・7）

II b) 有茎で丸味をおびるもの・尖るもの（5）

石銛状石器（図33-8）

1点出土している。主要剥離面側に不連続な周縁調整が施されている。

石匙（図33-9・10）

a) 縦形（10）

c) 横形（9）

石篋（図33-11～図35-33）

定形石器の中で最も出土点数の多い器種である。29点出土している。刃部調整が表面中央まで行われているものと刃部縁辺にのみ施されたものがある。

I a) 明瞭な基部を作り出したもので、刃部が平刃のもの（12・13）

12は平刃の小形石篋で、刃部角は約80度である。

I b) 明瞭な基部を作り出したもので、刃部が円刃・偏刃のもの（11・14～16）

円刃のものが4点出土している。刃部角は60～70度である。

II a) 刃部が平刃のもの（17～29）

器形は三角形・二等辺三角形が多くみられる。17は片側のみが撥形に整形されている。

II b) 刃部が円刃・偏刃のもの（30～33）

不定形石器（図35-34～49）

34は片側縁に細部調整が施され、自然面を打面としている。35・37は端部につまみ状の加工が施されている。石匙の未製品の可能性がある。形状から41・42は石篋の基部、43～47は石篋の刃部と考えられる。



图33 遺構外出土石器①

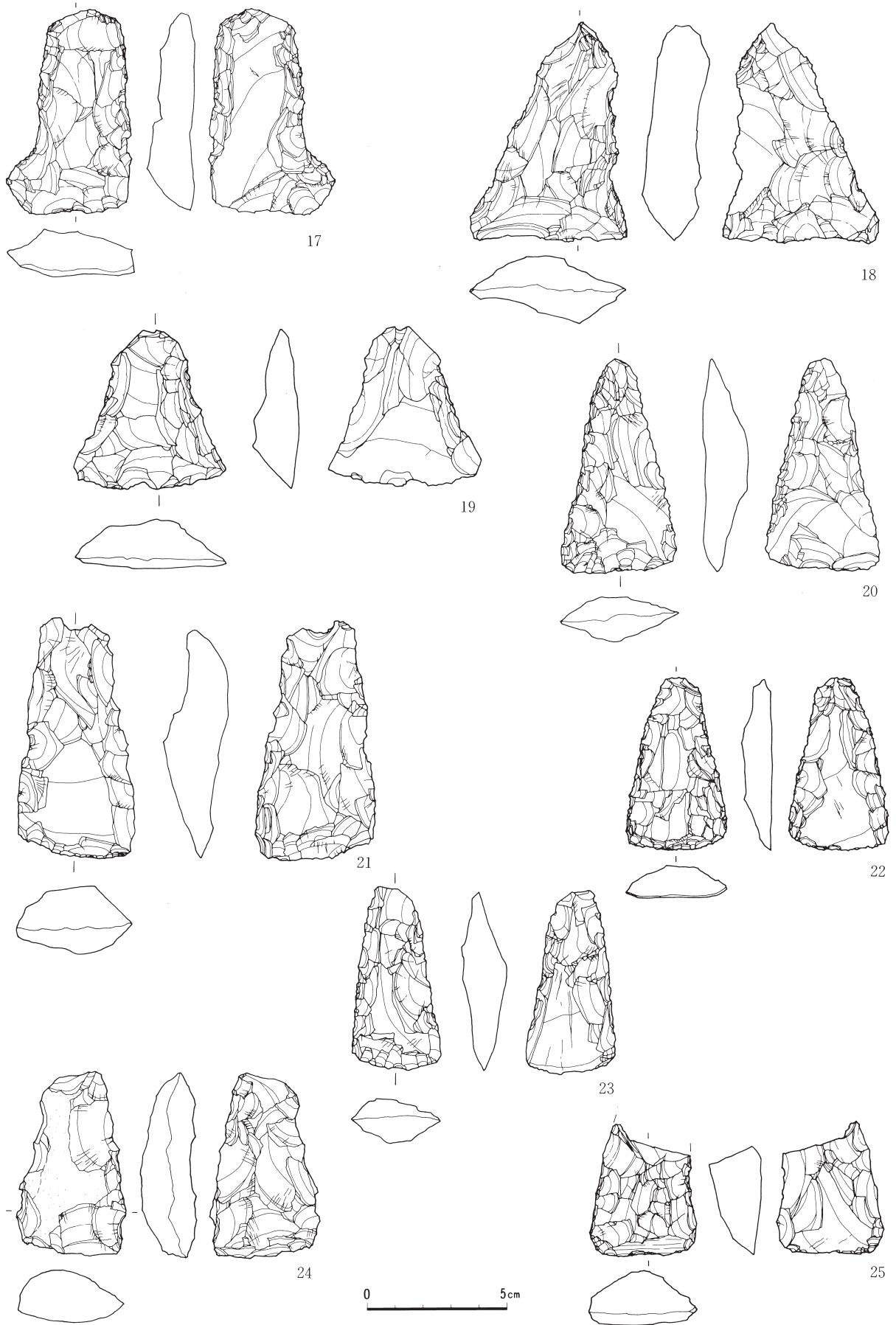


图34 遺構外出土石器②

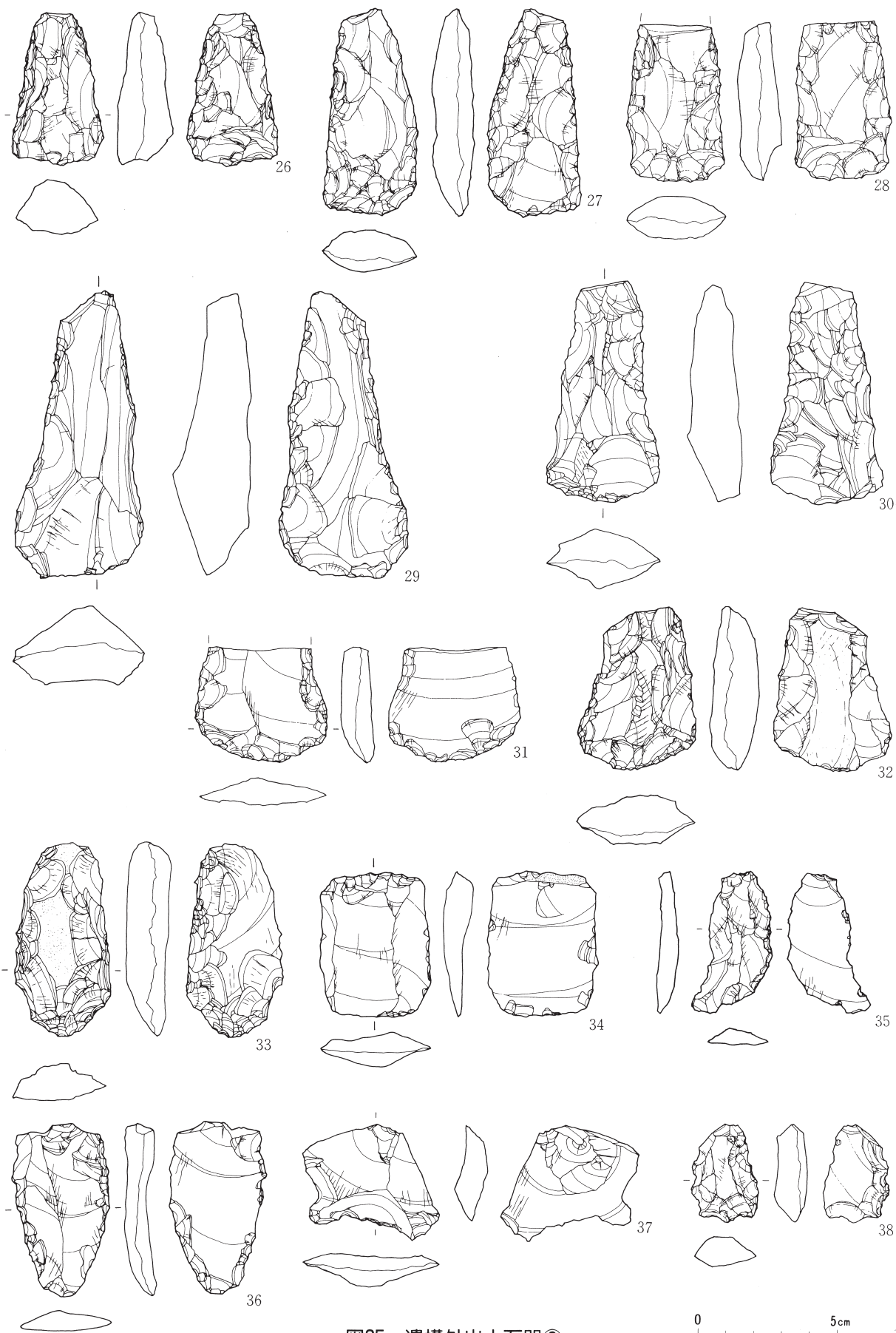
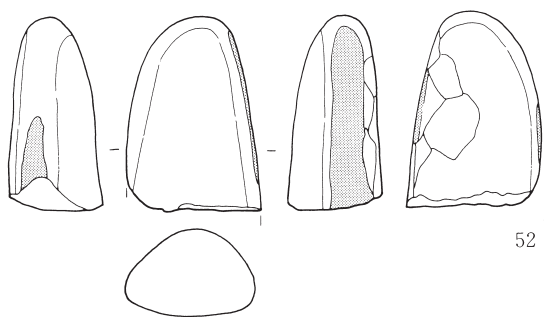


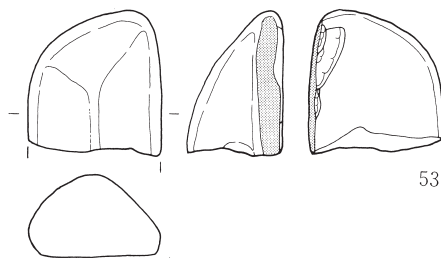
图35 遺構外出土石器③



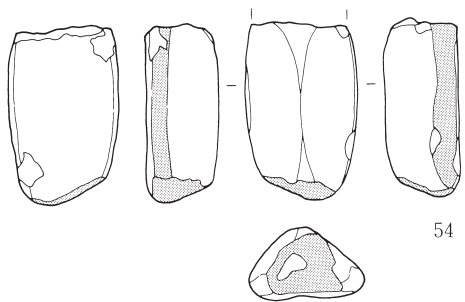
图36 遺構外出土石器④



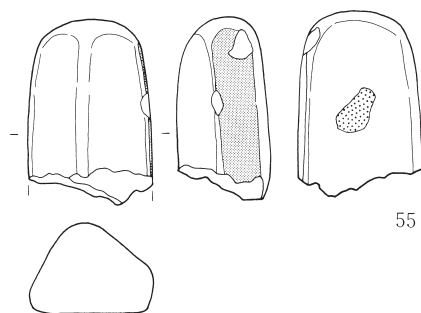
52



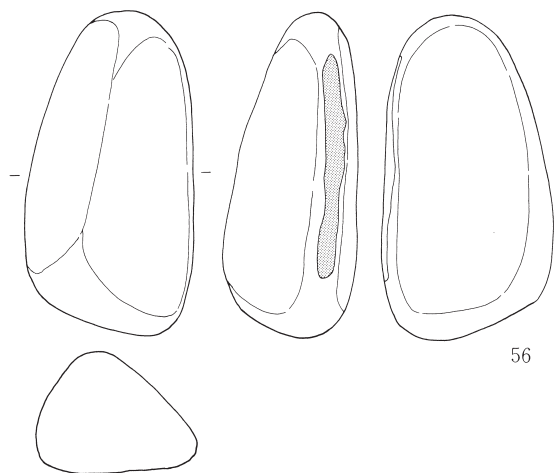
53



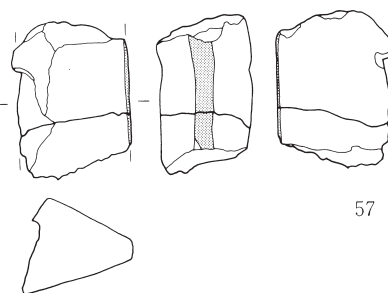
54



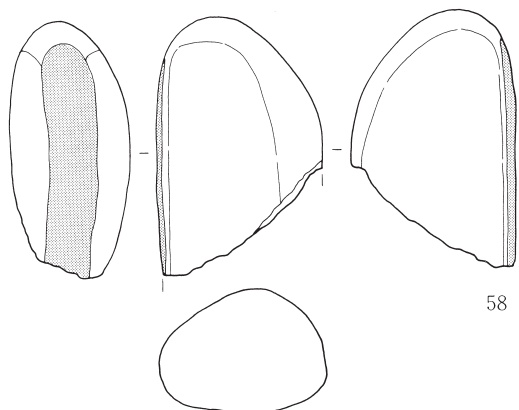
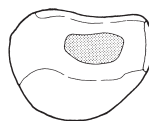
55



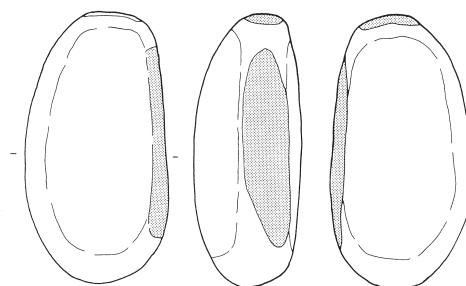
56



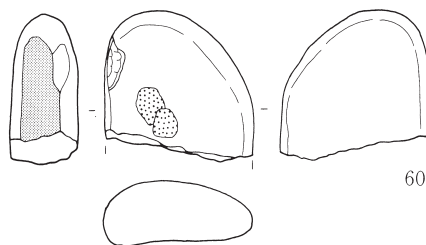
57



58



59



60

0 10cm

图37 遺構外出土石器⑤

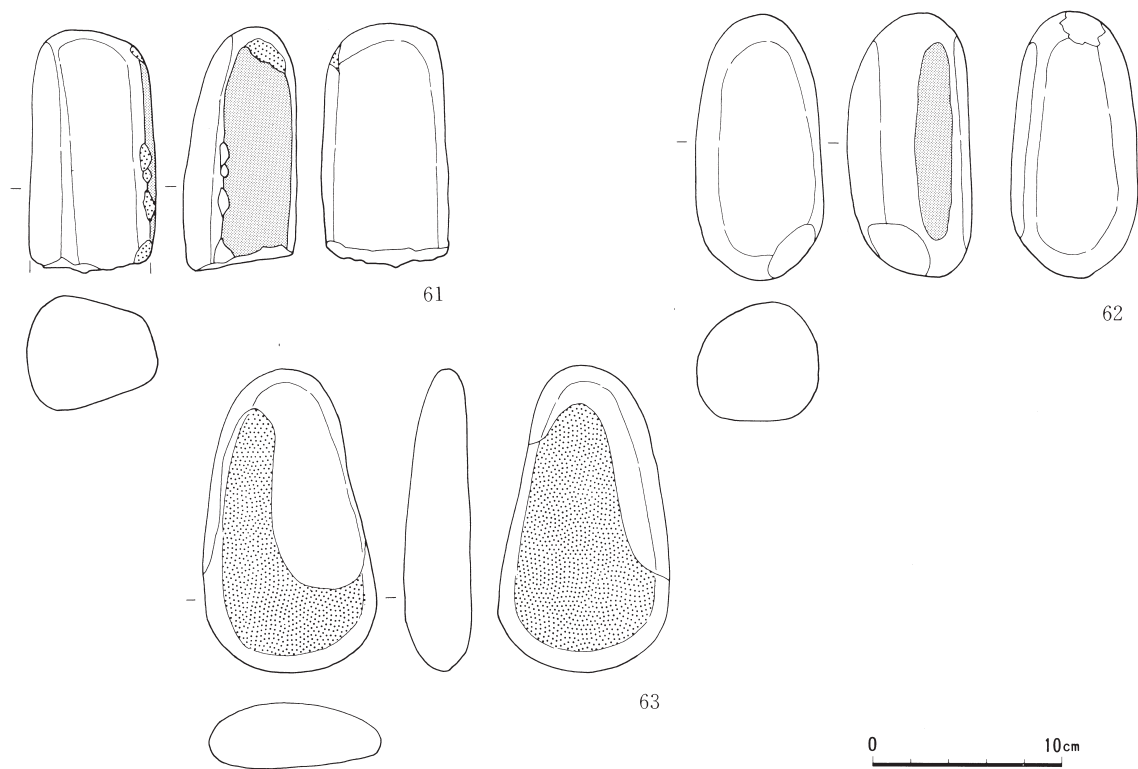


図38 遺構外出土石器⑥

磨製石斧（図35-51・52）

刃部が円刃である。2点とも上部が欠損している。50は磨き・擦りの痕跡が顕著である。51は刃部の磨きが丁寧に施されている。

敲磨器類（図37-52～63）

a) 側面を加工したもの（図37-52～図38-62）

側面を加工した擦り石が大部分である。一稜面を加工した断面が三角形の柱状擦り石がみられる。側面のほかに端部を擦ったもの、敲打痕のあるものがみられる。

c) 中央を加工したもの（図38-63）

表裏面の中央全体に比較的弱い叩き痕がみられる。

（杉野森淳子）

表18 遺構外出土石器観察表

図版番号	器種	分類	出土地点	層位	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石材	備考
図33-1	石鏃	I c	C-126	Ⅲ	21.0	12.5	4.0	7.0	珪質頁岩	両面全面連続調整
図33-2	石鏃	I c	2H付近	Ⅱ	27.0	15.5	4.0	1.0	珪質頁岩	両面周縁連続調整
図33-3	石鏃	I c	2H付近	—	25.5	14.0	5.5	1.3	珪質頁岩	両面全面調整
図33-4	石鏃	I c	103右1	Ⅱ	32.0	18.0	4.5	1.4	珪質頁岩	片面全面・片面周縁調整
図33-5	石鏃	Ⅱ b	1H付近	—	42.5	15.5	8.0	3.1	珪質頁岩	両面全面調整
図33-6	石鏃	I a	B-144	Ⅲ	37.5	16.0	6.0	1.9	珪質頁岩	両面周縁調整
図33-7	石鏃	I a	104左1	Ⅲ	28.0	16.0	4.0	1.6	珪質頁岩	両面周縁調整
図33-8	石銛状石器		A-144	Ⅲ	75.5	38.5	12.5	24.1	珪質頁岩	
図33-9	石匙	c	表採	—	33.0	46.5	8.5	7.6	珪質頁岩	
図33-10	石匙	a	B-146	I	68.0	23.0	12.0	15.9	珪質頁岩	

図版番号	器種	分類	出土地点	層位	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石材	備考
図33-11	石鏡	I b	101左3	Ⅲ	72.0	53.0	18.0	54.4	頁岩	円刃
図33-12	石鏡	I a	B-146	I	32.0	37.5	9.5	7.4	珪質頁岩	平刃、撥形
図33-13	石鏡	I a	A-109	Ⅳ	82.0	64.0	18.0	55.0	珪質頁岩	平刃
図33-14	石鏡	I b	A-112	I	88.5	50.0	15.0	54.5	珪質頁岩	円刃、頭部折断整形
図33-15	石鏡	I b	B-141	I	61.5	50.0	14.0	22.1	珪質頁岩	円刃、撥形、
図33-16	石鏡	I b	A-144	Ⅲ	56.0	44.0	15.5	28.5	珪質頁岩	円刃、
図34-17	石鏡	Ⅱ a	103左1	Ⅲ	75.0	45.0	17.0	49.0	珪質頁岩	平刃
図34-18	石鏡	Ⅱ a	C-146	I	80.0	56.0	24.0	68.0	珪質頁岩	平刃、三角形
図34-19	石鏡	Ⅱ a	A-109	Ⅳ	57.0	54.0	17.0	36.0	珪質頁岩	平刃、三角形
図34-20	石鏡	Ⅱ a	A-144	Ⅲ	76.0	42.0	16.0	36.6	珪質頁岩	平刃
図34-21	石鏡	Ⅱ a	A-144	Ⅲ	86.0	42.0	24.0	63.3	珪質頁岩	偏刃
図34-22	石鏡	Ⅱ a	A-146	Ⅲ	62.0	36.0	11.0	24.5	珪質頁岩	平刃
図34-23	石鏡	Ⅱ a	2H付近	I	66.0	32.0	16.0	26.7	珪質頁岩	平刃
図34-24	石鏡	Ⅱ a	表採	—	66.0	39.0	30.5	48.7	珪質頁岩	平刃
図34-25	石鏡	Ⅱ a	A-146	Ⅲ	(43.0)	38.0	19.0	30.2	珪質頁岩	上部欠損
図35-26	石鏡	Ⅱ a	C-146	Ⅲ	55.0	32.5	20.0	29.4	珪質頁岩	平刃、頭部：折断整形
図35-27	石鏡	Ⅱ a	2H付近	I	74.5	33.5	15.0	34.8	珪質頁岩	円刃
図35-28	石鏡	Ⅱ a	B-141	Ⅳ	(57.0)	35.0	15.0	32.0	珪質頁岩	円刃、上部欠損
図35-29	石鏡	Ⅱ a	B-144	Ⅲ	10.3	46.0	28.0	96.4	珪質頁岩	円刃
図35-30	石鏡	Ⅱ b	126~141	—	(79.0)	41.0	21.0	53.8	珪質頁岩	円刃、上部欠損
図35-31	石鏡	Ⅱ b	103左1	Ⅲ	(41.0)	47.0	12.0	20.4	珪質頁岩	円刃、上部欠損
図35-32	石鏡	Ⅱ b	A-117	Ⅲ	58.0	42.0	17.5	38.5	珪質頁岩	円刃
図35-33	石鏡	Ⅱ b	2H付近	I	68.5	35.0	13.0	36.3	珪質頁岩	円刃
図35-34	不定形石器		B-146	I	51.5	39.5	12.5	20.9	珪質頁岩	
図35-35	不定形石器		B-144	Ⅲ	50.5	28.5	8.0	6.9	珪質頁岩	縦形石匙の未成品
図35-36	不定形石器		A-145	Ⅲ	61.5	35.0	11.5	18.4	珪質頁岩	
図35-37	不定形石器		B-126	I	41.0	49.0	12.0	16.7	珪質頁岩	横形石匙の未成品
図35-38	不定形石器		A-119	Ⅲ	35.0	24.0	12.5	9.4	珪質頁岩	鋸歯縁状加工
図36-39	不定形石器		110左1	I	26.5	21.5	9.0	5.3	玉髓質珪質 頁岩	
図36-40	不定形石器		2H付近	Ⅱ	25.0	34.0	15.0	11.0	珪質頁岩	
図36-41	不定形石器		A-188	I	62.0	39.0	20.0	32.5	珪質頁岩	下部欠損、石鏡の基部？
図36-42	不定形石器		B-145	I	(60.5)	38.0	16.5	34.6	珪質頁岩	石鏡の刃部・基部？
図36-43	不定形石器		B-144	Ⅲ	(40.0)	30.0	14.0	16.8	珪質頁岩	石鏡の刃部？
図36-44	不定形石器		C-146	Ⅲ	(46.0)	40.0	22.5	35.6	珪質頁岩	石鏡の刃部？
図36-45	不定形石器		B-145	I	(19.5)	35.0	8.5	6.1	珪質頁岩	
図36-46	不定形石器		A-141	Ⅳ	24.0	23.0	7.0	4.1	黒曜石	上部欠損
図36-47	不定形石器		B-146	Ⅱ	(31.5)	24.0	11.5	6.5	珪質頁岩	上部欠損
図36-48	不定形石器		A-115	Ⅲ	74.0	51.0	24.5	100.8	珪質頁岩	上部切断整形
図36-49	不定形石器		A-117	Ⅲ	(77.0)	38.0	18.0	64.2	珪質頁岩	上部欠損
図36-50	磨製石斧		E-158	Ⅲ	(64.0)	42.0	26.5	111.9	頁岩	擦り、敲き
図36-51	磨製石斧		103左1	Ⅲ	(100.0)	40.0	20.5	98.7	頁岩	全面：磨き
図37-52	敲磨器	a	A-141	I	(102.5)	71.0	50.0	502.0	安山岩	両側面欠損
図37-53	敲磨器	a	2H付近	I	(76.5)	70.5	50.5	329.9	緑色細粒凝 灰岩	片側面：擦
図37-54	敲磨器	a	A-141	I	(93.5)	57.5	37.7	282.1	安山岩	両側面、上端：擦
図37-55	敲磨器	a	A-145	Ⅲ	(97.0)	66.5	60.0	460.8	安山岩	片側面：擦
図37-56	敲磨器	a	103左1	Ⅲ	171.0	88.5	64.5	1362.1	安山岩	片側面：擦
図37-57	敲磨器	a	102左1	I	(82.5)	(59.5)	50.5	279.2	安山岩	片側面：擦
図37-58	敲磨器	a	102右1	Ⅲ	(135.5)	87.0	63.0	1018.2	緑色細粒凝 灰岩	片側面：擦
図37-59	敲磨器	a	103-3	Ⅲ	153.0	75.5	59.0	959.6	安山岩	片側面、片端部：擦
図37-60	敲磨器	a	A-118	Ⅲ	(78.0)	79.0	35.0	306.7	緑色細粒凝 灰岩	片側面：擦、表面：敲き
図37-61	敲磨器	a	C-139	Ⅲ	(128.5)	67.0	60.0	724.8	頁岩	片側面：擦、敲
図37-62	敲磨器	a	114~126	—	150.0	67.0	62.5	877.5	流紋岩	片側面：擦
図37-63	敲磨器	c	105左2	I	160.5	90.5	36.5	695.7	砂岩	全面：敲き

第Ⅲ章 幸畑（1）遺跡A区

遺構は段丘の比較的平坦な部分と平坦面からつづく斜面（建設用道路中心杭No119～124の間）に分布する。今回の調査では縄文時代の竪穴住居跡3軒、土坑13基、溝状土坑2基、焼土遺構1基を検出している。

第1節 検出遺構と出土遺物

1 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡（図40～42）

〔位置〕 B・C-21・22グリッドの緩斜面に位置する。

〔平面形・規模〕 東側がやや直線的な不整形である。長軸4.99m、短軸4.21mである。深さ45cmを測る。炉の南側に張り出し部がみられる。

〔壁・床面〕 床面は東から西側にわずかに傾斜している。壁はやや斜めに立ち上がる。

〔柱穴・ピット〕 検出されなかった。

〔炉〕 炭化物が集中する炉がやや南寄りで検出された。粘土と礫で囲まれた炉である。炭の下には焼土混じりの暗褐色土が堆積している。

〔堆積土〕 自然堆積である。

〔出土遺物〕 覆土から折返口縁の深鉢形土器が出土している（図41-1）。胴部が若干張り出した砲弾形の深鉢である。器厚は0.8cmである。遺物は住居西側に分布している。後期初頭から十腰内I式土器に比定する土器および時期不明の石器が出土している。

〔小結〕 出土遺物から後期初頭及び十腰内I式の住居と思われる。

第2号竪穴住居跡（図43・44）

〔位置〕 B・C-19・20グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 西側が削平を受けているため正確な形状は不明であるが、楕円形を呈する。推定長軸4.08m、短軸3.50m、深さ35cmである。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦である。

〔柱穴・ピット〕 3個のピットが確認された。床面からの深さはピット1が16cm、ピット2は44cm、ピット3が10cmである。

〔炉〕 やや西寄りに長径50cmの焼土が検出された。地床炉と思われる。

〔堆積土〕 自然堆積である。

〔出土遺物〕 遺物は住居東側に分布している。覆土から沈線を用いたものや無文の十腰内I式に相当する土器が出土している。

〔小結〕 出土遺物から十腰内I式に相当する住居である。

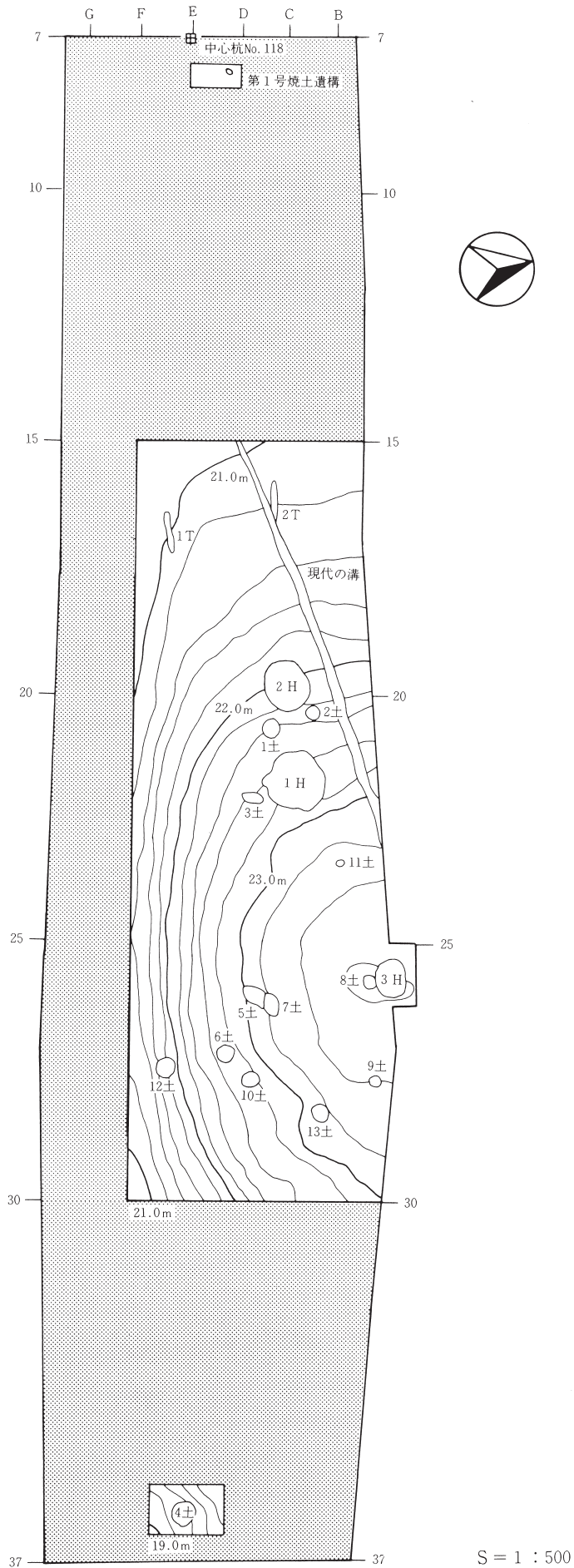


図39 幸畑(1)遺跡A区遺構配置図

第3号竪穴住居跡 (図45~47)

[位置] A・Z-25グリッドの比較的平坦面に位置する。

[重複] 8号土坑と隣接している。

[平面形・規模] 長軸2.99m、短軸2.54mの長円形を呈し、確認面からの深さは47cmである。

[壁・床面] 東壁は底面から緩やかに立ち上がり、他の壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[柱穴・ピット] なし。

[炉] 中央に石囲炉が検出されている。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 床面から折返し口縁の深鉢が出土している (図46-1)。器形と文様から後期初頭に相当する土器である。覆土からは網目状捺糸文を施した深鉢や、鐸形土製品2点が出土している。他に石鏃や接合剥片などの石器が出土している。

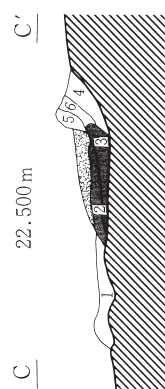
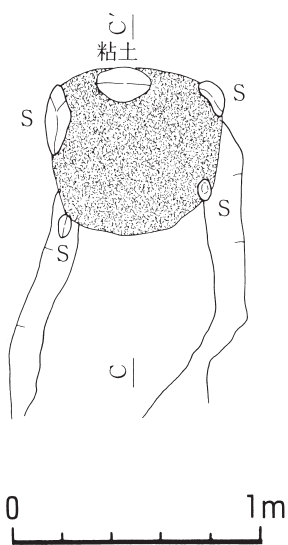
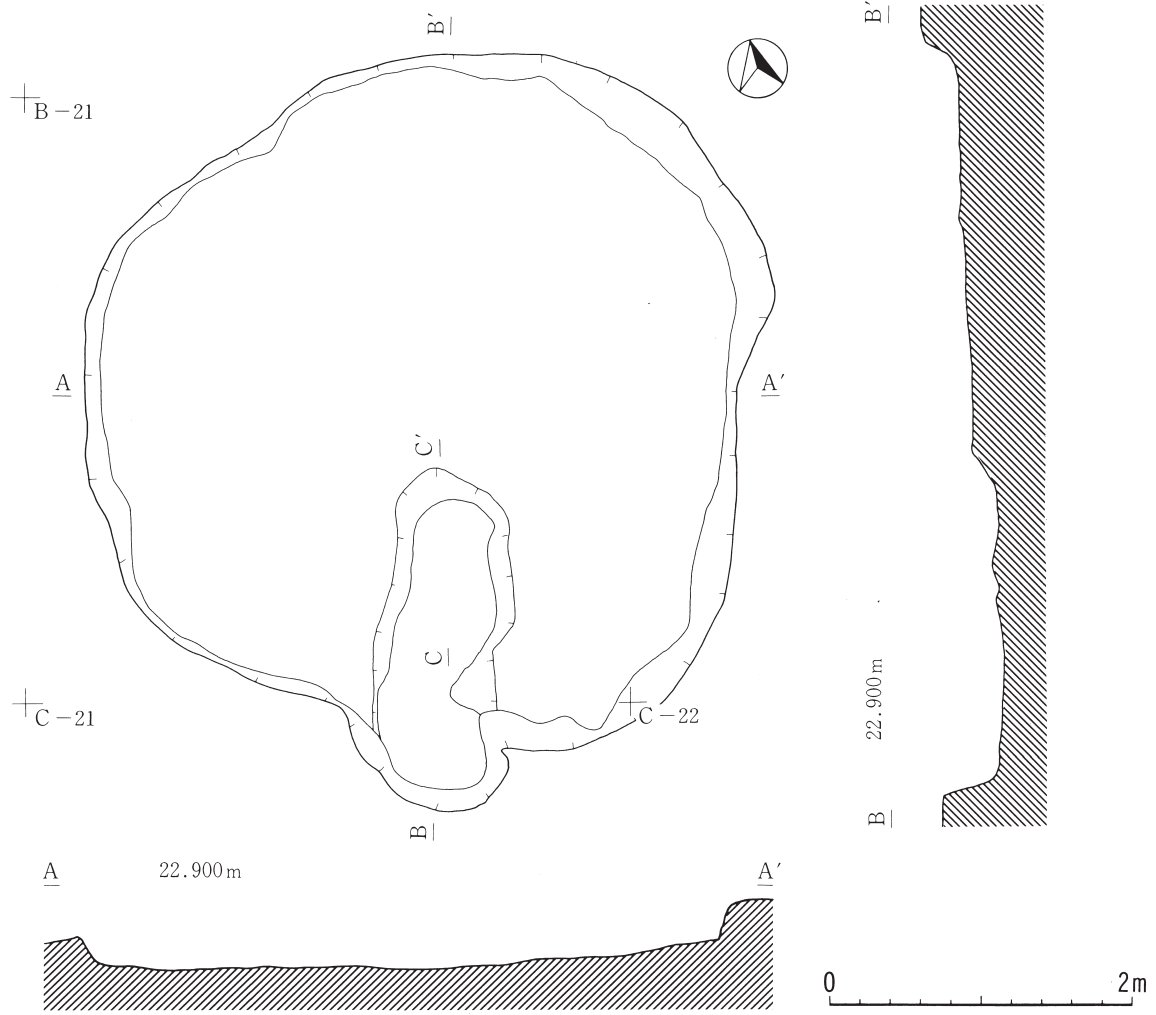
[小結] 出土遺物と住居形態から後期初頭と考えられる。

表19 第1号住居跡出土土器観察表

図版番号	層位	器形	分類	部位	文 様	備 考	胎 土	焼成
図41-1	覆土	深鉢	Ⅱ-2	口・胴	折返口縁、縄文 (LR横位)	口径18.1cm	砂・雲母	不良
図41-2	覆土	鉢	Ⅱ-4	口・底	小波状口縁、無文	内面輪積み痕顕著	緻密・繊維	良
図41-3	覆土	深鉢	Ⅱ-1-B	口・胴	波状口縁、頂端部刻み、沈線+磨消縄文 (R)	外面炭化物付着、内側調整丁寧なナデ	緻密・繊維・粗砂粒	不良
図41-4	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	平口縁、沈線		緻密	良
図41-5	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	波状口縁、沈線	内面調整ナデ	緻密	良
図41-6	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	平口縁、沈線		雑:粗砂粒含む	不良
図41-7	覆土	(壺)	Ⅱ-1-A	胴・底	沈線 (入組文)	底径(5.6cm)	緻密	良好
図41-8	覆土	深鉢	Ⅱ-1-B	口縁	波状口縁、頂端部に刻み、沈線 (入組文)	磨消縄文 (R)	雑:粗砂粒・繊維含む	不良
図41-9	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	口縁	波状口縁、沈線	内面調整ミガキ	緻密	良
図41-10	覆土	(鉢)	Ⅱ-4	口縁	折返口縁		緻密	良
図41-11	覆土	(鉢)	Ⅱ-4	口縁	波状口縁、貼付隆帯、無文	隆帯部に朱彩	雑:粗砂粒・小礫	堅緻
図41-12	覆土	(鉢)	Ⅱ-4	口縁	平口縁、細沈線	内面調整丁寧なナデ	緻密	良好
図42-13	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		雑:粗砂粒含む	良好
図42-14	覆土	深鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		緻密	不良
図42-15	覆土	深鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		雑	不良
図42-16	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線		雑	良
図42-17	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線	内面調整丁寧なナデ	雑:粗砂粒	不良
図42-18	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		雑:小礫含む	良
図42-19	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		雑:粗砂粒・小礫含む	良
図42-20	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		緻密	良
図42-21	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-B	胴	沈線+磨消縄文 (L無節)		緻密:粗砂粒含む	良
図42-22	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		緻密:礫含む	良
図42-23	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-B	胴	櫛歯状沈線		緻密:小礫含む	良
図42-24	覆土	(鉢)	Ⅲ	胴	RL縄文+沈線	内面赤褐色、外面炭化物付着	普通	良
図42-25	覆土		Ⅲ	胴	LR縄文		雑:粗砂粒多量	良
図42-26	覆土		Ⅲ	胴	縄文 (LR横位、LR縦位)		緻密	良
図42-27	覆土		Ⅲ	胴	LR縄文		緻密	良
図42-28	覆土		Ⅲ	胴	結節回転文 (LR縄文)		緻密:細砂粒含む	良好
図42-29	覆土	(壺)	Ⅱ-1-B	頸	無文	調整:内面ミガキ	緻密	良好
図42-30	覆土		Ⅱ-1-B	底	胴:RL単節		緻密	良
図42-31	覆土		Ⅱ	底	無文	底径(3.8cm)、残存率2/3	緻密	良

表20 第1号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器 種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石 材	備 考
図42-32	覆土	不定形石器	46.1	15.8	4.9	3.1	チャート	
図42-33	覆土	打製石器	94.0	60.0	37.5	222.6	安山岩	両面加工



第1号住居跡 炉

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 焼土少量、炭化物少量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 焼土中量、炭化物微量。
- 第3層 赤褐色土 5YR4/8 砂混じり。しまりあり。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 砂混じり。しまりややあり。
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 焼土少量。しまり・粘性あり。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 しまりややあり。

图40 第1号住居跡

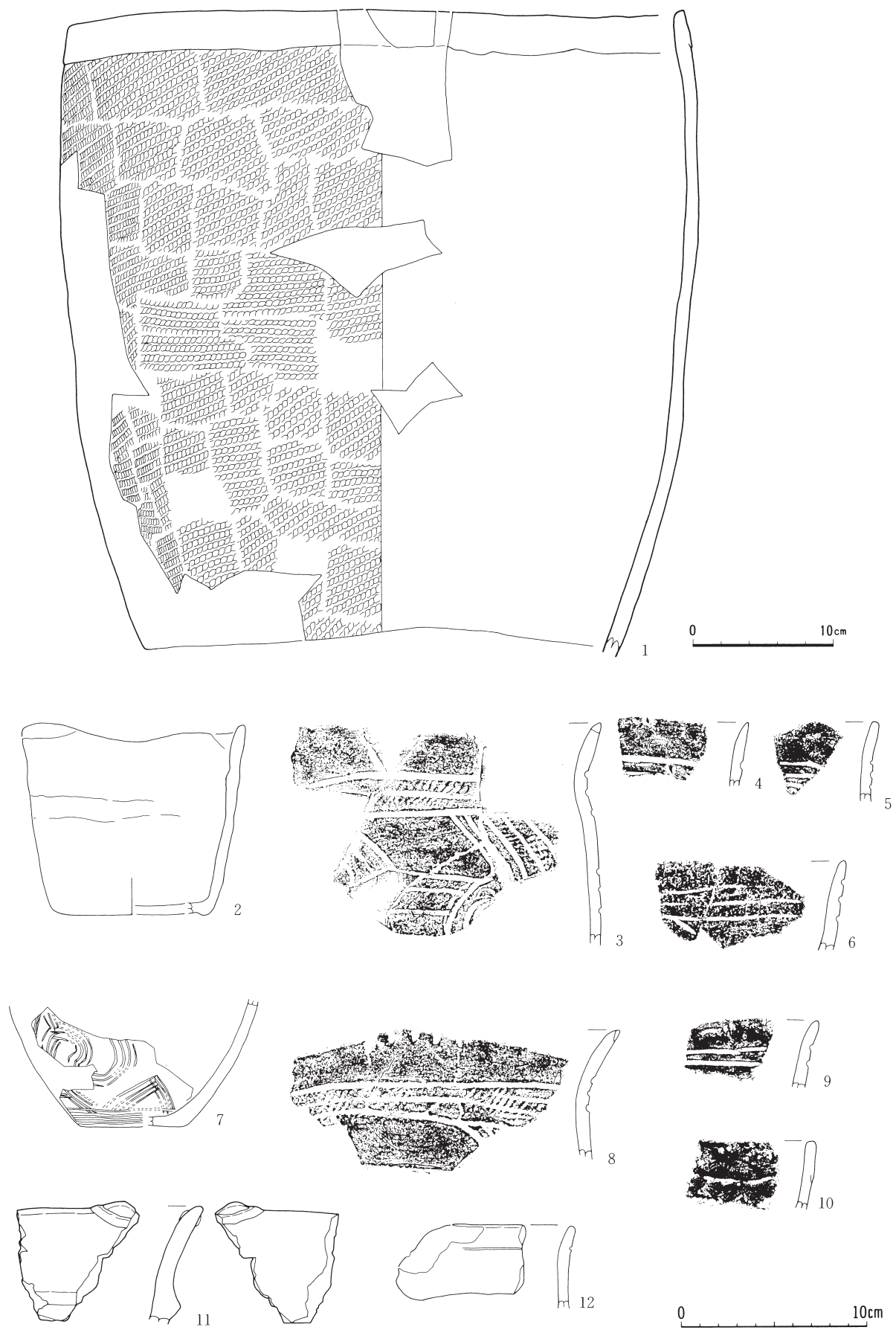


图41 第1号住居跡出土遺物①

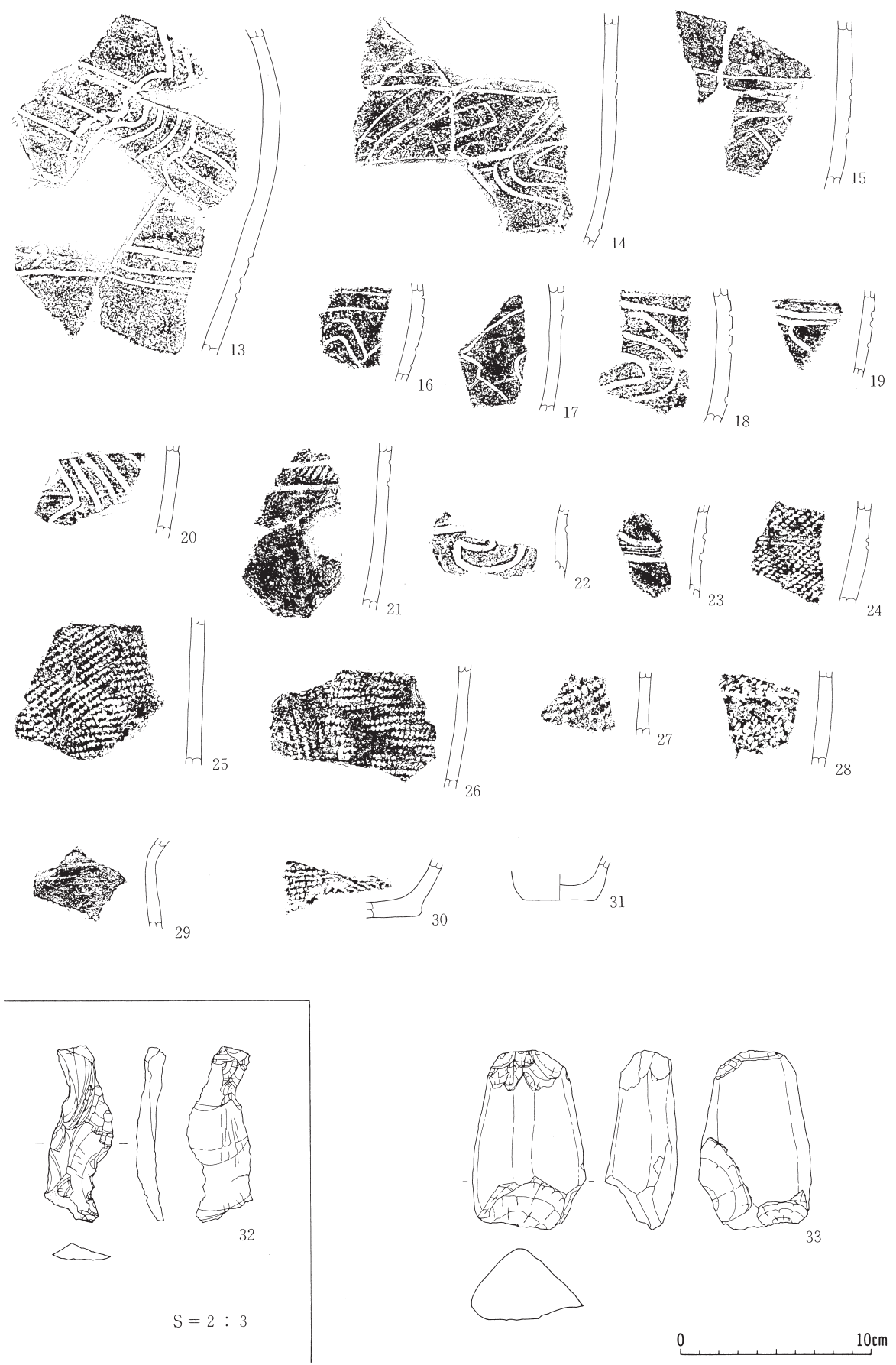
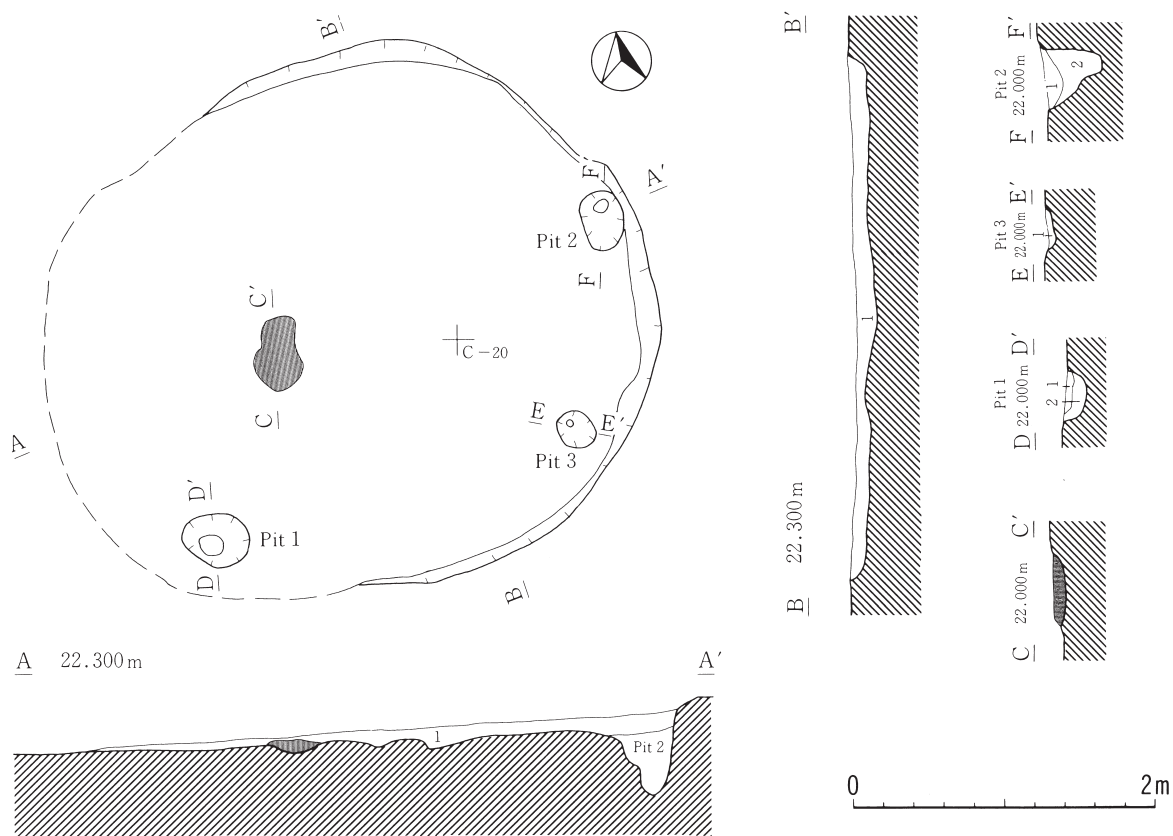


图42 第1号住居迹出土遺物②



第2号住居跡

第1層 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性あり。

第2号住居跡 焼土

第1層 赤褐色土 2.5YR4/6 しまり・粘性あり。

第2号住居跡 ビット1

第1層 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック少量。炭化物少量。しまり・粘性ややあり。
第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量。しまりあり。

第2号住居跡 ビット2

第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、炭化物少量。
第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、ロームブロック微量。

第2号住居跡 ビット3

第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量。

図43 第2号住居跡

表21 第2号住居跡出土土器観察表

図版番号	層位	器形	分類	部位	文様	備考	胎土	焼成
図44-1	覆土	深鉢	II-1-A	口・胴	波状口縁、頂端部刻み、沈線(縦位蛇行文)	口唇内側丁寧なナデ、口径(26.4cm)、残存率1/2	砂	やや良
図44-2	覆土	深鉢	II-1-A	口・胴	沈線(縦位蛇行文)		緻密	良
図44-3	覆土	(鉢)	II-1-A	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		緻密	良好
図44-4	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線(弧状)		雑小礫含む	良
図44-5	Pit1 覆土	(鉢)	II-1-B	胴	沈線+磨消縄文(無節L)		緻密	不良
図44-6	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		並	良
図44-7	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線(入組文)	外面炭化物附着	並	良
図44-8	覆土	深鉢	II-4	口縁	平口縁、無文	外面炭化物附着	緻密	良
図44-9	覆土	(鉢)	II-4	胴	無文	内面炭化物附着	緻密	良
図44-10	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線	外面調整縦位のナデ	並	良
図44-11	覆土	(鉢)	III	胴	RL縄文(内面:条痕)		並	良
図44-12	覆土	(鉢)	III	胴	RL縄文(内面:条痕)		並	良
図44-13	覆土	(鉢)	III	胴	RL縄文(内面:条痕)		並	良
図44-14	覆土	(鉢)	III	胴	RL縄文	外面調整ナデ、両面から穿孔	並	良
図44-15	覆土	(鉢)	II	底	無文	底径9cm	緻密	良

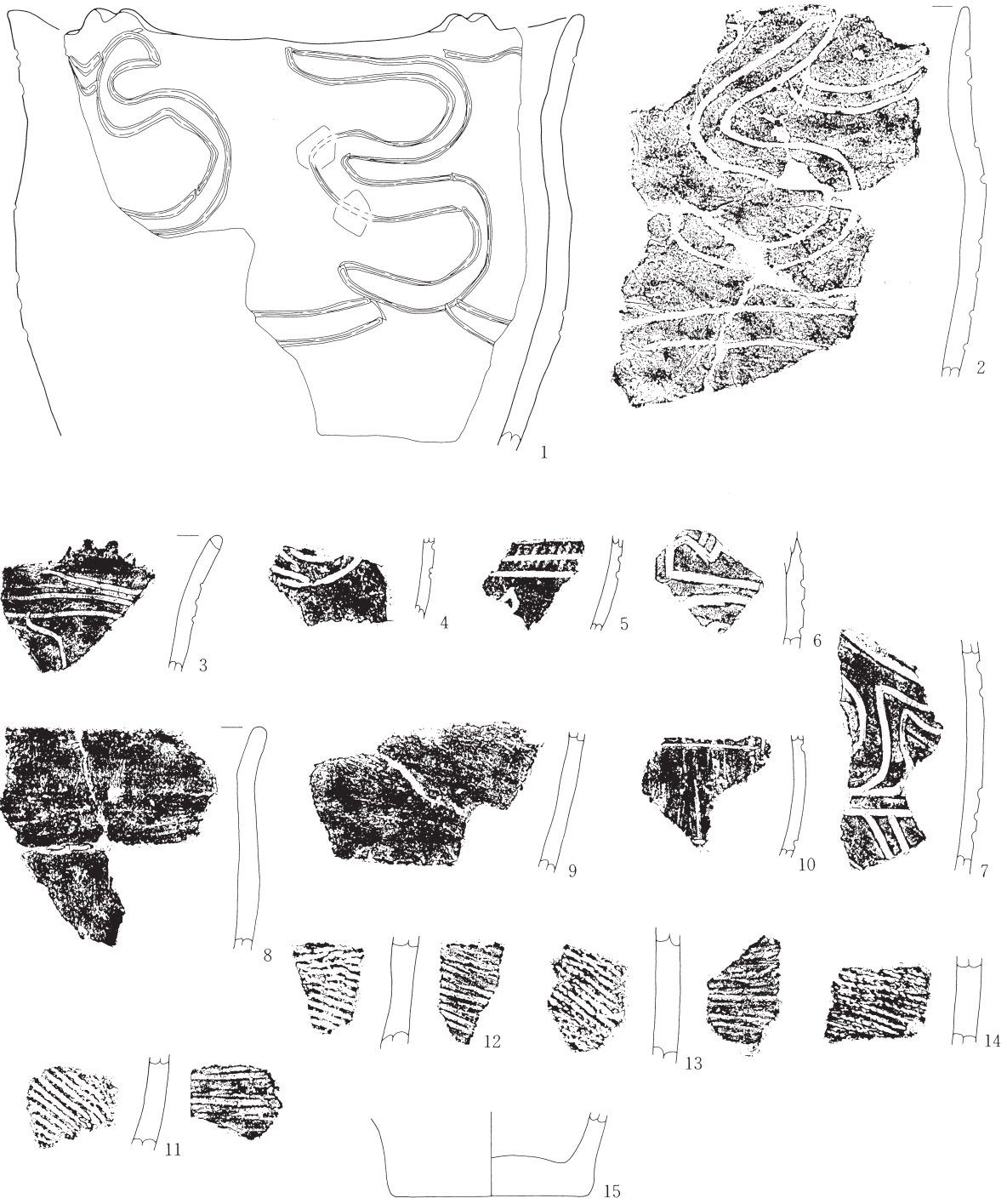


图44 第2号住居跡出土遺物

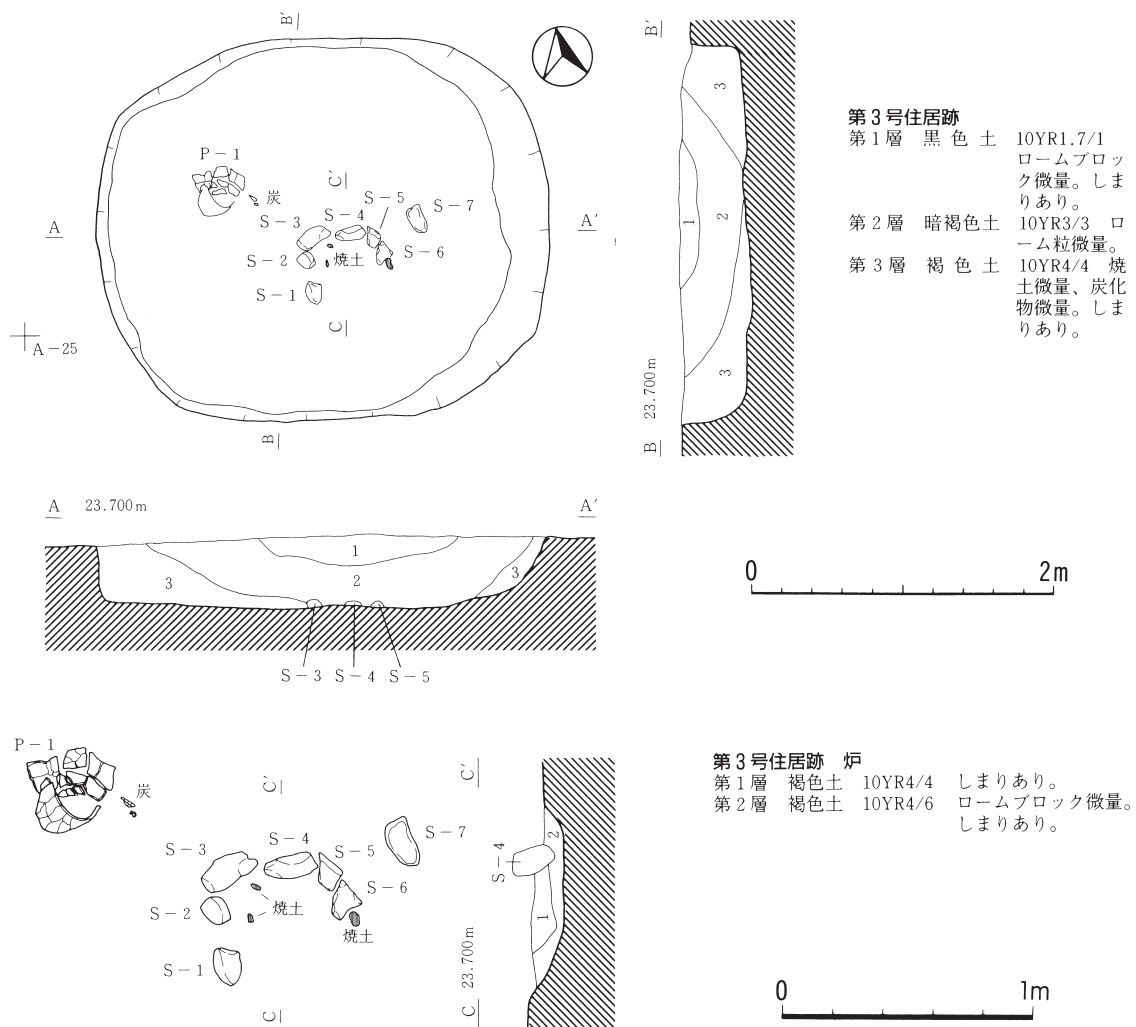


図45 第3住居跡

表22 第2号住居跡出土土器・土製品観察表

図版番号	層位	器形	分類	部位	文 様	備 考	胎 土	焼成
図46-1	床面	深鉢	Ⅱ-2	口・胴	折返口縁、胴LR横縄文、縁LR斜縄文	口径23.8cm	砂・雲母	良
図46-2	確認面	深鉢	Ⅱ-2	口・胴	網目状燃文(L)	口唇部ナデ整形	雑	良
図46-3	1層	深鉢	Ⅱ-1-B	口縁	沈線(山形文)+磨消縄文	内面調整縦位ナデ	緻密	良
図46-4	1層	深鉢	Ⅱ-2	胴	網目状燃文(L)		雑	良
図46-5	覆土	深鉢	Ⅱ-2	胴	網目状燃文(L)		雑・小礫多量	良
図46-6	確認面	深鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線(入組文)+磨消縄文(RL)		並	良
図46-7	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		並	良
図46-8	覆土	(鉢)	Ⅱ-4	口縁	波状口縁、頂端部み		並	良好
図46-9	覆土	壺	Ⅱ-1-A	胴	沈線(入組文)		雑	良
図46-10	1層	深鉢	Ⅱ-2	口縁	網目状燃文(L)	口唇部ナデ整形	雑・小礫多量	良
図46-11	覆土		Ⅲ	胴	RL斜縄文		緻密	良
図46-12	覆土	鐮形土製品	完形		長さ4.8cm、幅3.8cm、無文	外面調整ミガキ、片面から穿孔	雲母・石英含む	良好
図46-13	覆土	鐮形土製品	完形		長さ4cm、幅2.4cm、無文	外面調整ナデ、両面から穿孔	小礫・石英含む	良

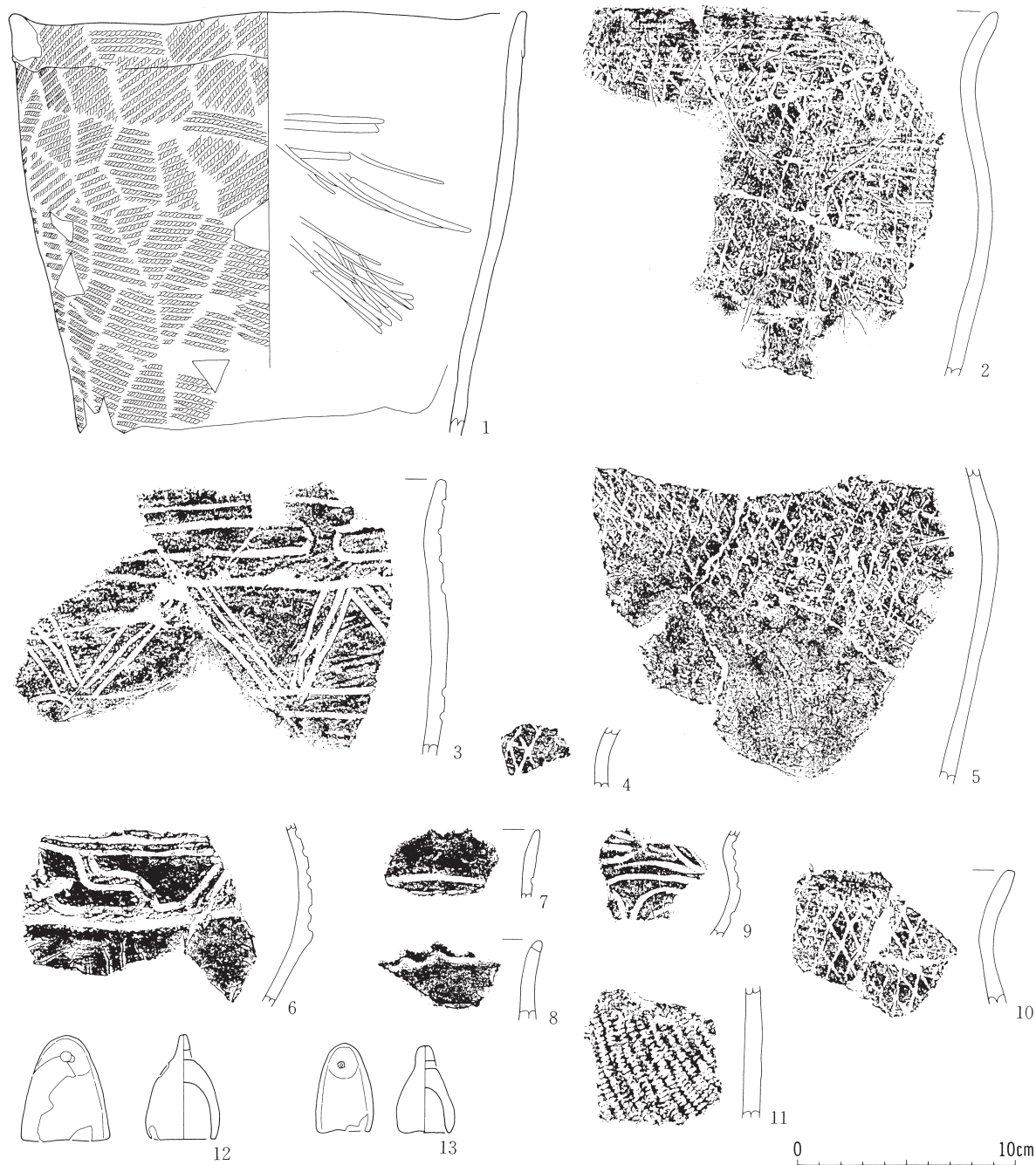


図46 第3号住居跡出土遺物①

表23 第3号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材	備考
図47-14	覆土	不定形石器	(20.5)	12.0	5.0	1.5	チャート	上部欠損
図47-15	覆土	石鏃	24.5	11.5	4.0	0.9	珪質頁岩	a類
図47-16	覆土	打製石器	119.5	81.0	22.5	245.9	安山岩	両面加工
図47-17	覆土	剝片	102.0	80.0	28.0	184.3	珪質頁岩	18と接合
図47-18	確認面	剝片	78.5	40.5	12.4	37.1	珪質頁岩	17と接合

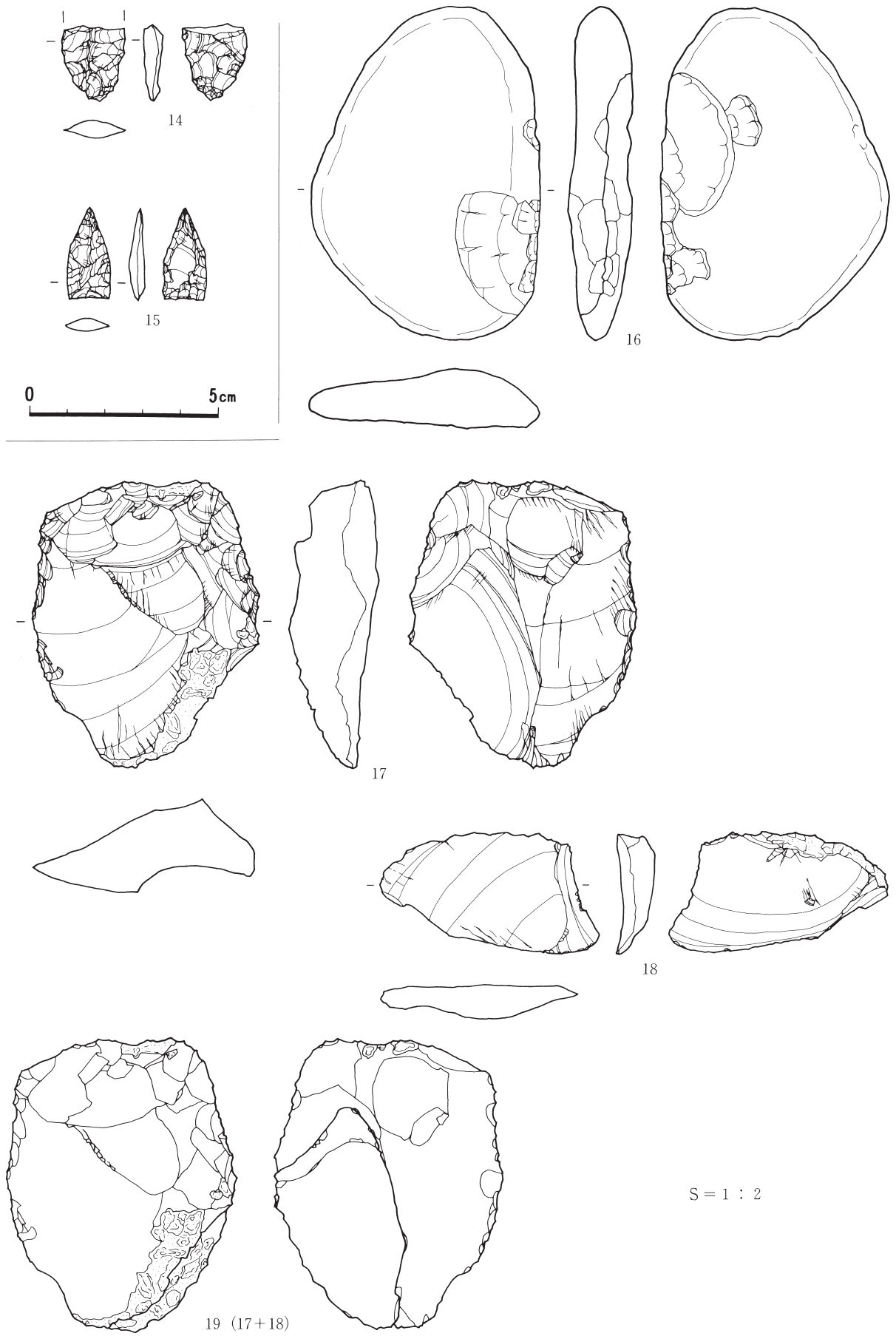


图47 第3号住居迹出土遺物②

2 土坑

第1号土坑 (図48・51)

[位置] C-20グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部長軸1.42m・短軸1.30m、底面長軸1.14m・短軸1.11mの円形である。土坑の深さは65cmである。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は南西から北東に緩やかに傾斜している。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土中から多量の土器が出土している。十腰内I式に相当する深鉢が出土している。

[小結] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第2号土坑 (図48・52・53)

[位置] B-19・20グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 直径1.54m、深さ84cmの円形土坑である。

[壁・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 人為堆積である。

[出土遺物] 覆土中から多量の土器と石器が出土している。A区の中で最も多くの遺物が出土した土坑である。口縁部幅が狭く、胴部にふくらみをもつ深鉢が出土している。十腰内I式に相当する土器である。石器は両面中央を磨いた片縁両面加工の打製石器が出土している。

[小結] 出土遺物から後期の土坑と思われる。

第3号土坑 (図48)

[位置] C-21・22グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸1.72m、短軸0.86m、深さ45cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] なし。

[小結] 時期不明である。

第4号土坑 (図48・54)

[位置] A区の東端の斜面、D・E-35・36グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部長軸1.44m・短軸1.34m、底面長軸2.07m・短軸1.75mのフラスコ形である。深さは84cmである。

[壁・底面] 底面は斜面とは逆方向に傾斜している。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土から中期最終末の最花式の土器が出土している。

[小結] 出土遺物から縄文中期末の土坑と思われる。

第5号土坑 (図49)

[位置] C-25・26グリッドに位置する。

[重複] 第7号土坑と重複している。本土坑の方が古いものである。

[平面形・規模] 開口部短軸1.35m、現存長軸1.80mの楕円形である。深さは98cmである。

[壁・底面] 中央が緩やかに凹んだ底面で、東壁はほぼ垂直に立ち上がる。西壁は急な立ち上がりを呈する。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土から縄文土器の破片が数点出土している。

[小結] 縄文時代の土坑である。

第6号土坑 (図49・54)

[位置] C・D-26・27グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部、底面とも円形である。開口部長軸1.48m、短軸1.30m、底面長軸1.57m、短軸1.54mである。深さは85cmである。

[壁・底面] ほぼ平坦な底面である。北西側の壁は内湾し、南東側はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土から後期前葉の土器破片が出土している。

[小結] 縄文時代の土坑である。

第7号土坑 (図49・54)

[位置] B・C-26グリッドに位置する。

[重複] 第5号住居と重複する。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 開口部・底面とも長円形を呈する。開口部長軸1.78m、短軸1.18m、底面長軸1.67m、短軸0.98m、深さ112cmである。

[壁・底面] 浅い凹凸のみられる底面である。北東壁はフラスコ状を呈する。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土中から石器と土器の破片が出土した。

[小結] 縄文時代の土坑である。

第8号土坑 (図49・54)

[位置] A-25グリッドに位置する。

- [重複] 第3号住居跡と隣接する。
- [平面形・規模] 開口部長軸0.71m、底面長軸0.50m、深さ33cmの円形である。
- [壁・底面] 床面から壁面にかけてU字状に立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [出土遺物] 覆土中から深鉢と思われる土器の破片が出土している。十腰内I式と思われる。
- [小結] 出土遺物から縄文時代の土坑である。

第9号土坑 (図50・54)

- [位置] A-27グリッドに位置する。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 開口部長軸0.93m、底面長軸0.75mの円形である。深さは34cmである。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、北から南に緩やかに傾斜している。壁は急に立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [出土遺物] 覆土から石器と土器片が数点出土している。
- [小結] 縄文時代の土坑である。

第10号土坑 (図50・54)

- [位置] C-27グリッドに位置する。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 開口部長軸1.32m、底面長軸1.00mの円形土坑である。深さは55cmである。
- [壁・底面] 底面はU字状で、北から南に傾斜している。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [出土遺物] 覆土から縄文土器の破片が出土している。
- [小結] 縄文時代の土坑である。

第11号土坑 (図50)

- [位置] A-23グリッドに位置する。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 開口部長軸0.65m、底面長軸0.44mの円形である。深さ30cmである。
- [壁・底面] U字状を呈する。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [出土遺物] なし。
- [小結] 時期不明の土坑である。

第12号土坑 (図50・54・55)

- [位置] E-27グリッドに位置する。
- [重複] なし。

[平面形・規模] 開口部長軸1.60m、底面長軸1.50m、深さ100cmの円形である。

[壁・底面] 底面はやや平坦で、壁は急に立ち上がる。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土から中量の土器破片が出土している。口縁内面に沈線を施した壺や、格子目状沈線を施したものの数点出土している。十腰内I式に相当するものである。

[小結] 出土遺物から縄文時代後期に属する土坑と思われる。

第13号土坑 (図50・55)

[位置] B-28グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部長軸1.35m、底面長軸1.20mの円形である。深さは84cmである。

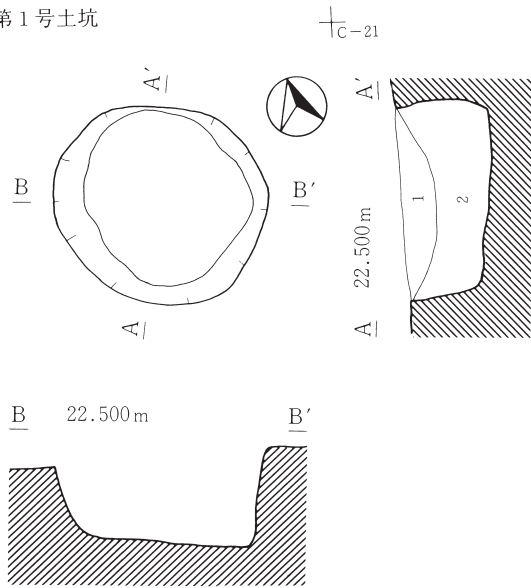
[壁・底面] 底面はやや平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 人為堆積である。

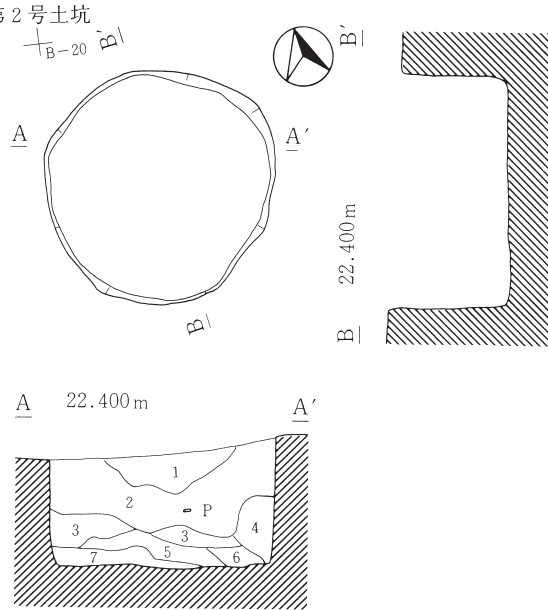
[出土遺物] 覆土から土器片が出土している。

[小結] 縄文時代の土坑である。

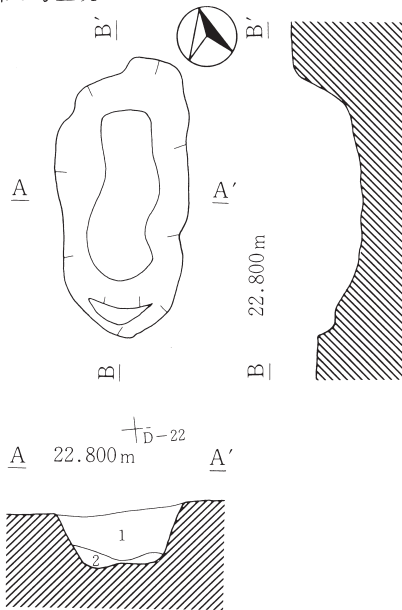
第1号土坑



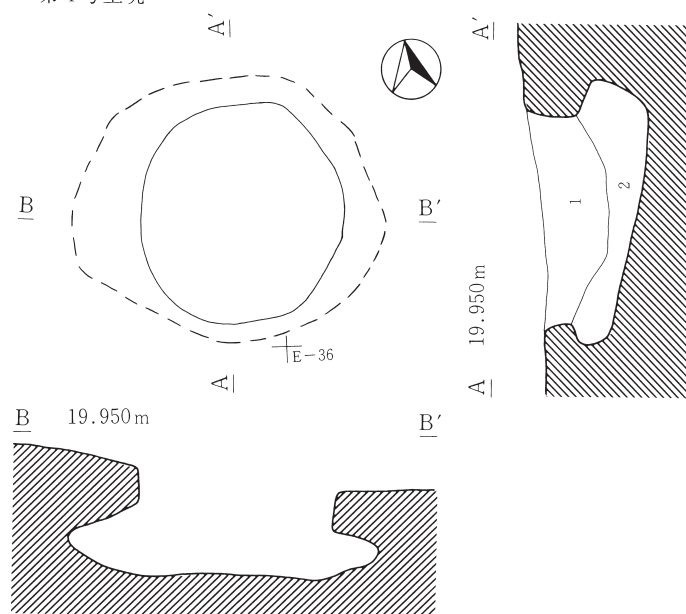
第2号土坑



第3号土坑



第4号土坑



第1号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック・炭化物微量。

第2号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物少量。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量、炭化物少量。
- 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量、炭化物微量。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック微量。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・ロームブロック微量、炭化物微量。
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化物少量。

第3号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック微量。
- 第2層 鈍い黄褐色土 10YR4/6

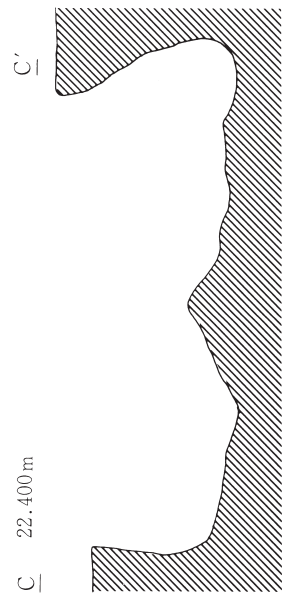
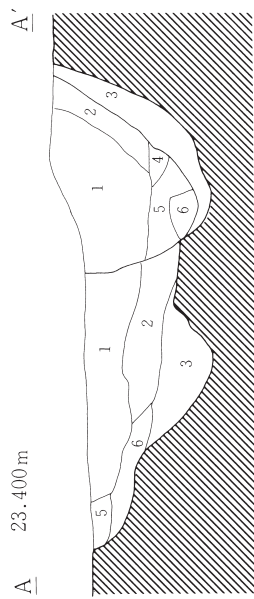
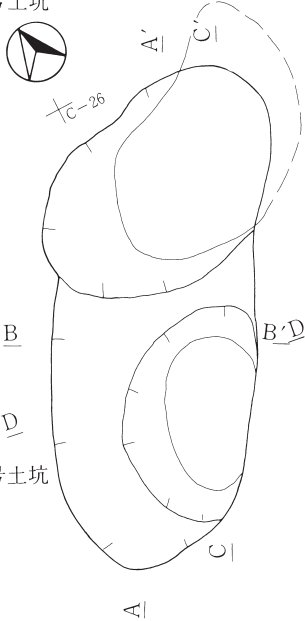
第4号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化物微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR4/3 ローム粒微量、ロームブロック少量。

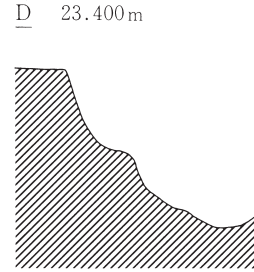
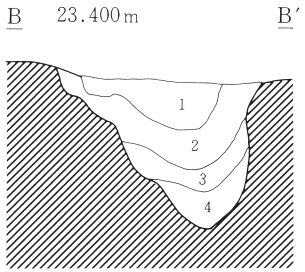


図48 土坑(1) [1土~4土]

第7号土坑



第5号土坑



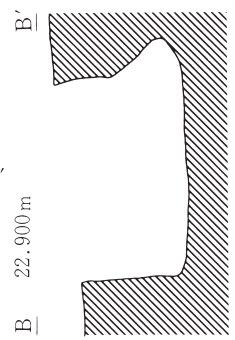
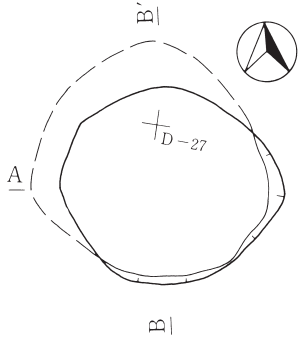
第5号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック中量。しまりあり。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム50%混入、黒色土10%混入。しまりあり。
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 ローム多量。火山灰極微量、黒色土少量。

第7号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム・ロームブロック・火山灰微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・ロームブロック・炭化物微量。しまりあり。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム・黒色土中量。
- 第4層 暗褐色土 10YR5/6 ローム粒多量、ロームブロック微量、炭化物微量。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物少量。
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。

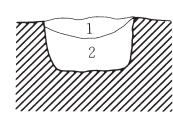
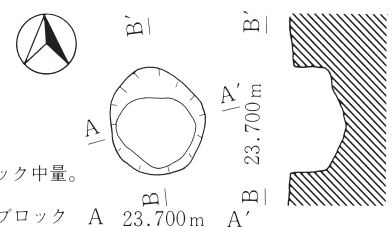
第6号土坑



第6号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック中量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック多量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、ロームブロック少量。
- 第4層 鈍い黄褐色土 10YR5/3 ローム粒微量、粘土を部分的に含む。しまり・粘性あり。
- 第5層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量、ロームブロック少量。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物少量。
- 第7層 褐色土 10YR4/6 ローム粒・ロームブロック少量。
- 第8層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物少量。
- 第9層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒全体的に含む。粘性あり。

第8号土坑



第8号土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/6 ローム粒・ロームブロック少量、パミス微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量。

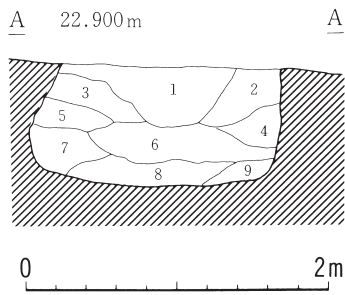
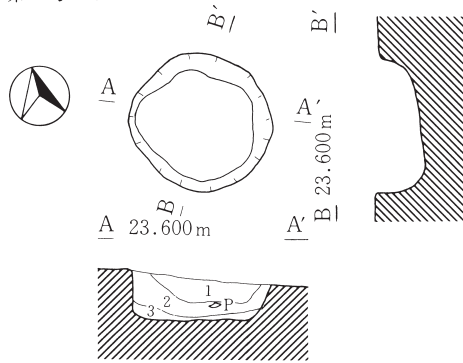
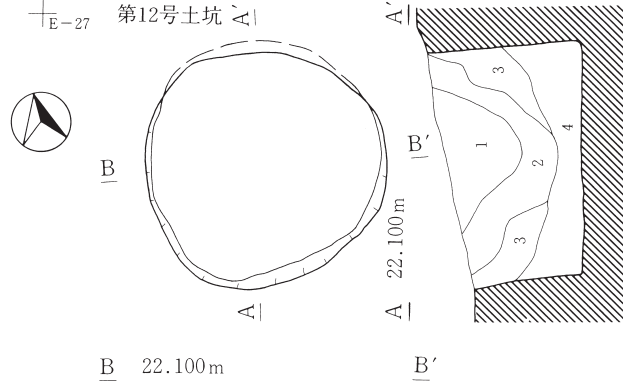


図49 土坑(2) [5土~8土]

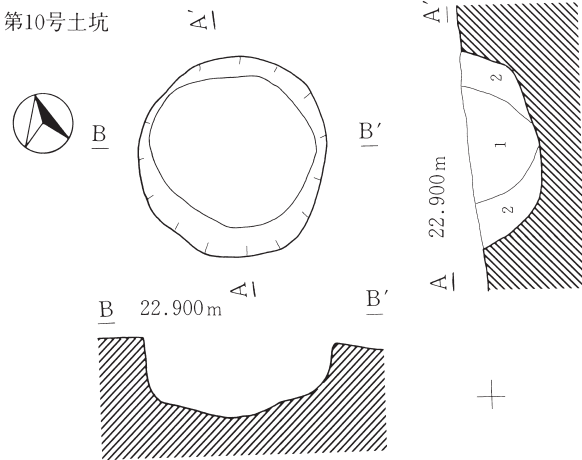
第9号土坑



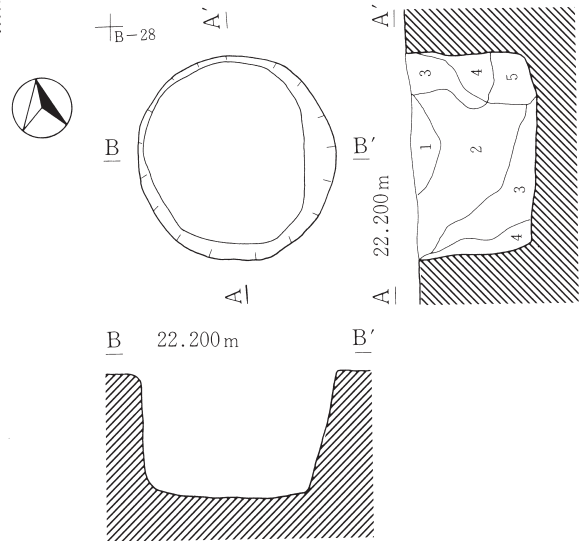
第12号土坑



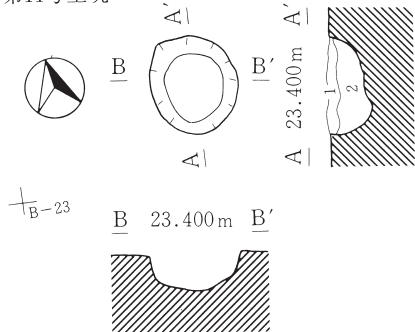
第10号土坑



第13号土坑



第11号土坑



0 2m

第9号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒中量。

第10号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック・炭化物・火山灰微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物・微量。

第11号土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ややしまりあり。

第12号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、ロームブロック・炭化物微量。しまりあり。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・ロームブロック少量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量。粘性あり。
- 第4層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック・炭化物中量、パミス少量。

第13号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・ロームブロック少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック中量、炭化物少量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ロームブロック中量、炭化物少量。
- 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量、炭化物微量。
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物少量。

図50 土坑(3) [9土~13土]

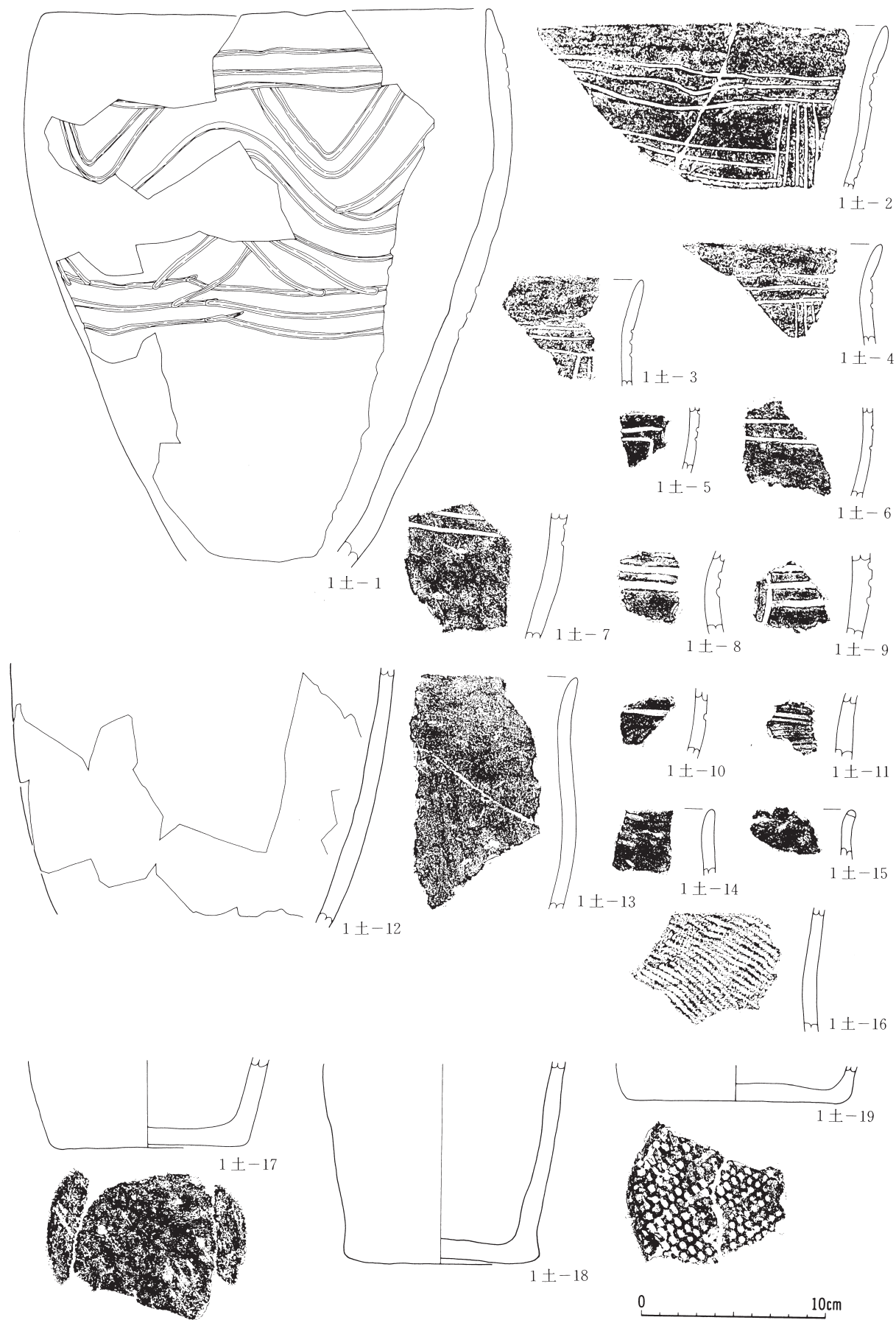


图51 土坑出土遺物①

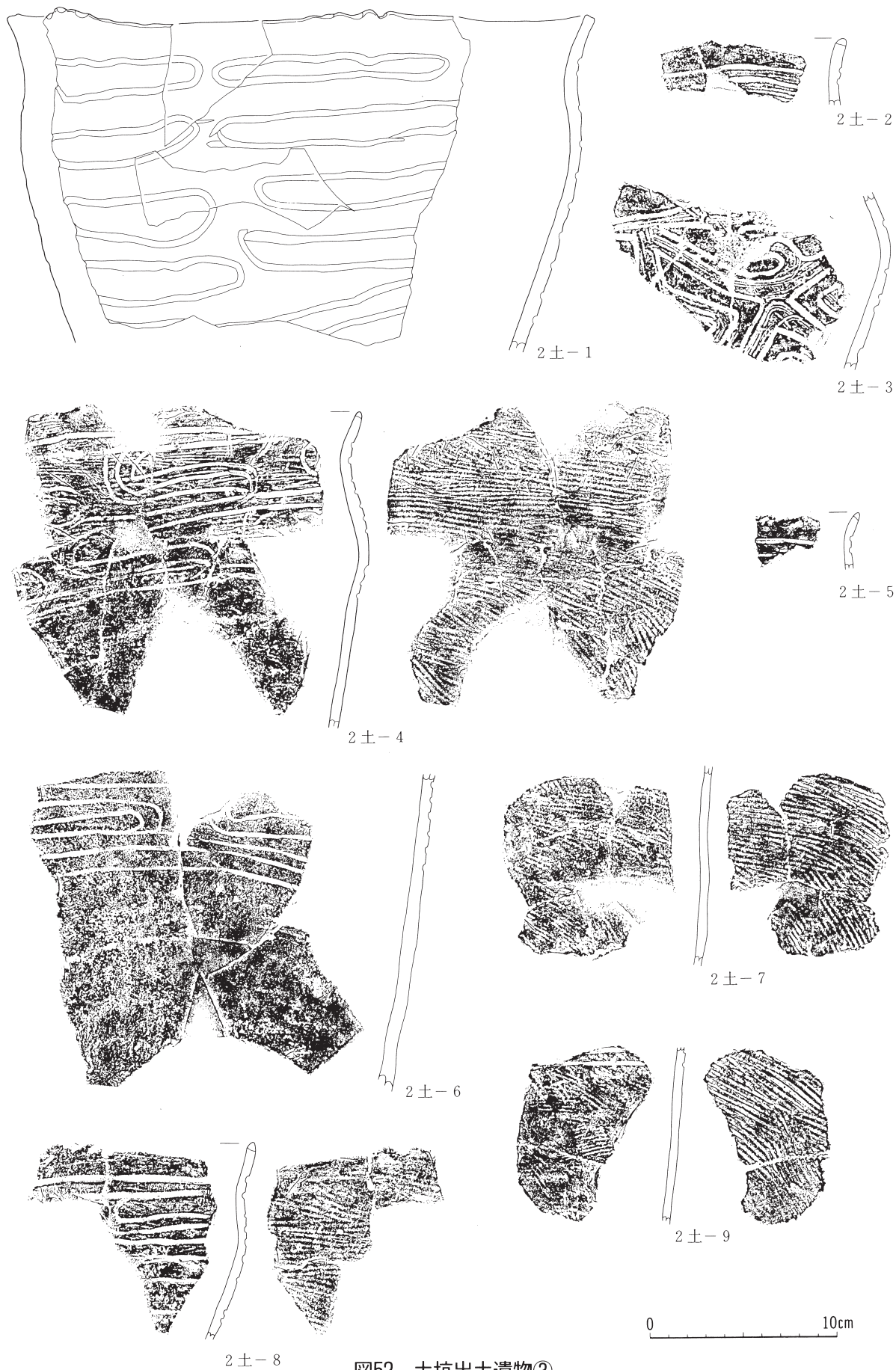


图52 土坑出土遺物②

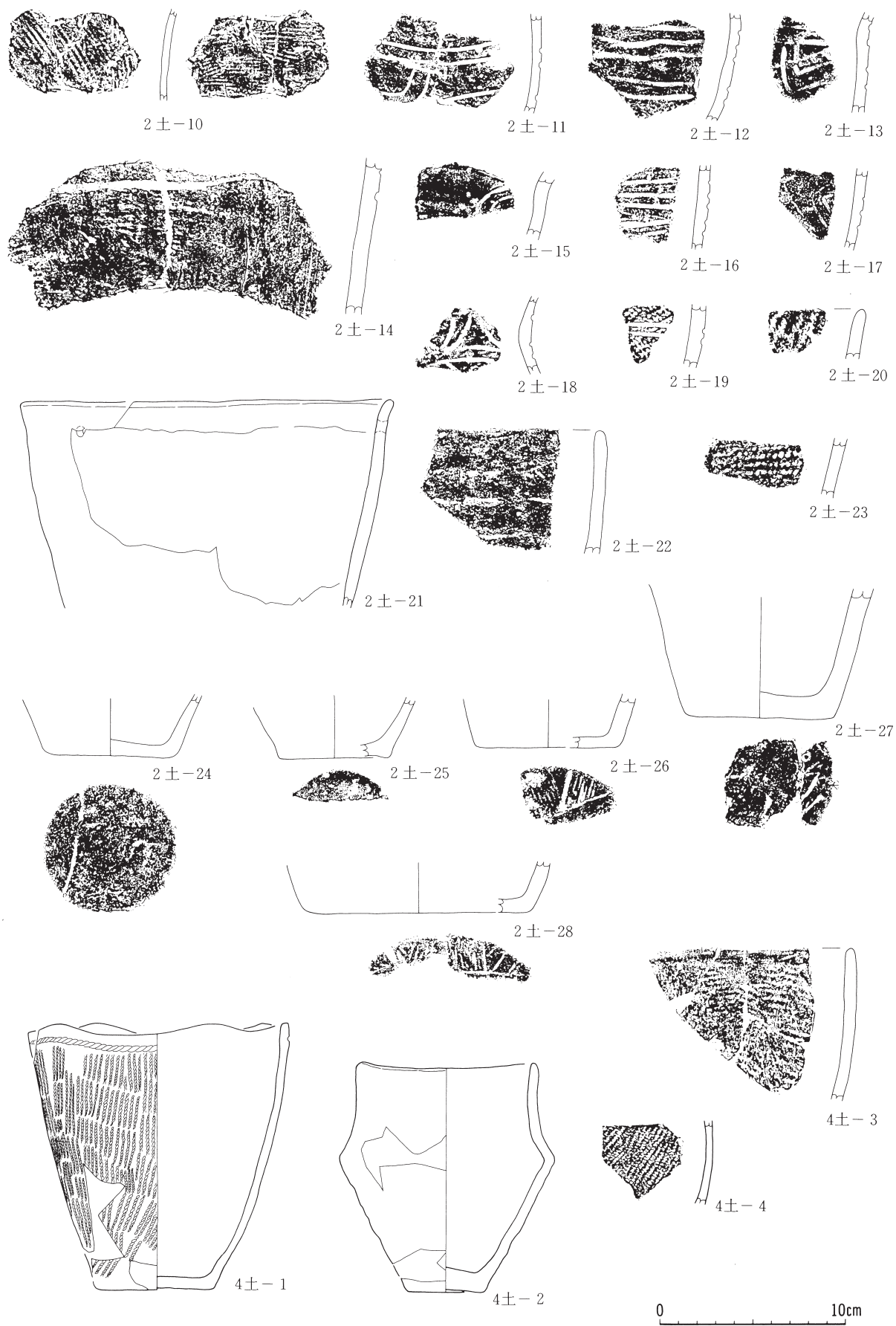


图53 土坑出土遺物③

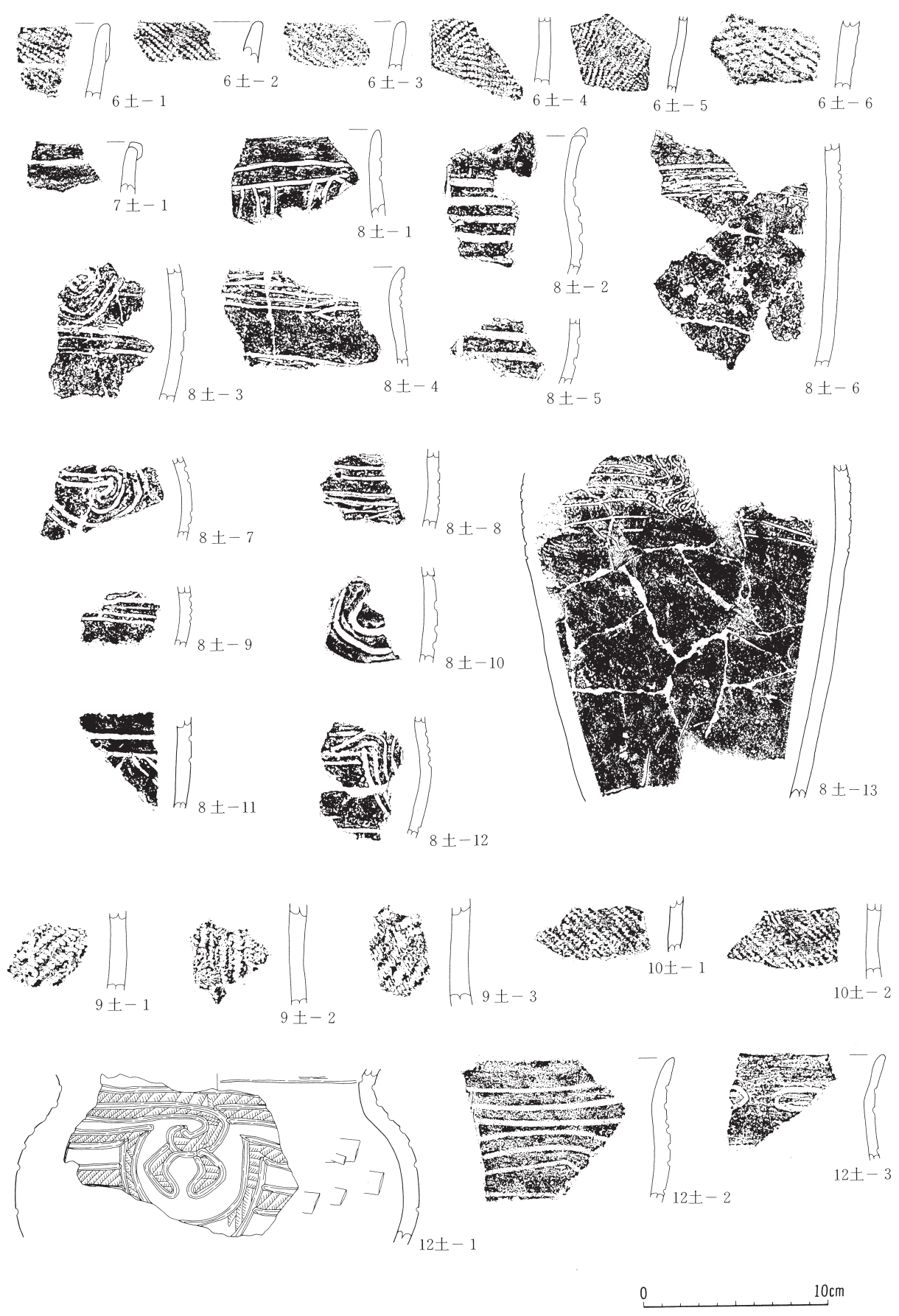


图54 土坑出土遺物④

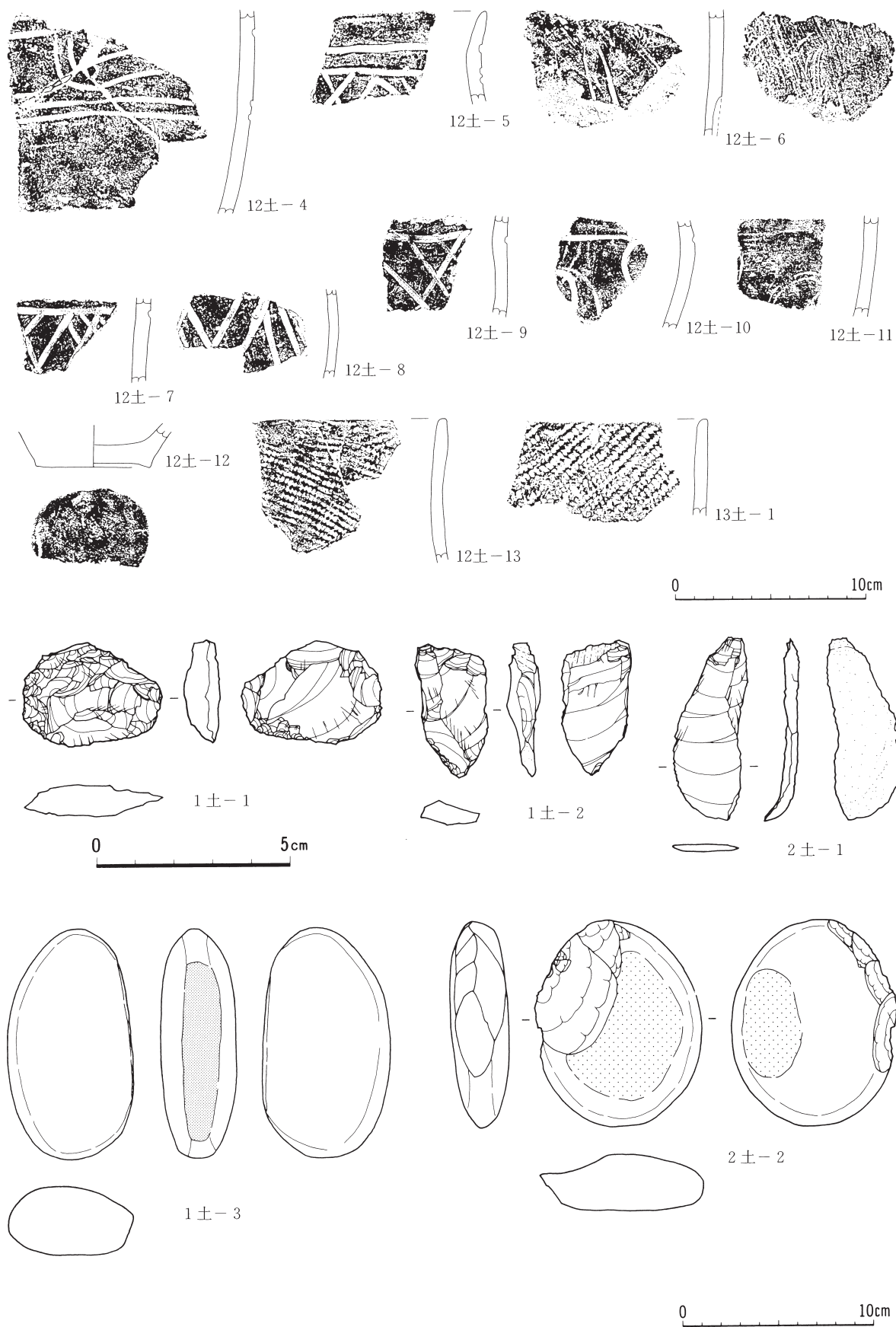


图55 土坑出土遺物⑤

表24 土坑出土土器観察表

図版	遺物番号	層位	器形	分類	部位	文 様	備 考	胎 土	焼成
51	1土-1	覆土	深鉢	II-1-A	口・胴	平口縁、沈線（入組文）	内面炭化物付着、口径(24.2cm)	緻密:粗砂粒	やや良
51	1土-2	覆土	深鉢	II-1-A	口縁	平口縁、沈線		雑:粗砂粒・石英・雲母	やや良
51	1土-3	覆土	深鉢	II-1-A	口縁	平口縁、沈線	外面炭化物付着	雑:粗砂粒・石英・雲母	やや良
51	1土-4	覆土	深鉢	II-1-A	口縁	平口縁、沈線	外面炭化物付着	雑:粗砂粒・石英・雲母	やや良
51	1土-5	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線		緻密:石英・雲母	良好
51	1土-6	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線	内面炭化物付着	並:粗砂粒含む	良好
51	1土-7	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線	外面炭化物付着	並:細砂粒・石英	良
51	1土-8	覆土	(壺)	II-1-A	口頸	沈線		並:粗砂粒	良
51	1土-9	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線		並:粗砂粒	良
51	1土-10	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線		緻密	良好
51	1土-11	覆土		III	胴	条痕文		並	良
51	1土-12	覆土	深鉢	II-4	胴	無文	内面炭化物付着	緻密	良
51	1土-13	覆土	深鉢	II-4	口縁	平口縁、無文	外面炭化物付着	並:粗砂粒	良
51	1土-14	覆土	鉢	II-4	口縁	平口縁、無文		並	良
51	1土-15	覆土	鉢	II-4	口縁	波状口縁、頂端部刻み、無文		並	良
51	1土-16	覆土		III	胴	L R 縄文		緻密:細砂粒・雲母含む	良好
51	1土-17	覆土	深鉢	II	底	無文、底外面擦痕		緻密:細砂粒を含む	良好
51	1土-18	覆土	深鉢	II	胴・底	無文底	径10.6cm	並	やや良
51	1土-19	覆土	深鉢	II	底	無文、底外面網代痕	内面炭化物付着	緻密:細砂粒含む	やや良
52	2土-1	覆土	深鉢	II-1-A	口・胴	波状口縁、頂端部に刻み、沈線（楕円形）	口径(31.4cm)	雑:粗砂粒・小石含む	やや良
52	2土-2	覆土	鉢	II-1-B	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		緻密	良
52	2土-3	覆土	(鉢)	II-1-B	胴	櫛歯状沈線		雑:小石含む	良
52	2土-4	覆土	深鉢	II-1-A	口・胴	波状口縁、頂端部刻み、沈線（入組文）		雑	やや良
52	2土-5	覆土	(鉢)	II-1-A	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		並	良
52	2土-6	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線（入組文）		並:雲母・細砂粒含む	良
52	2土-7	覆土	深鉢	III	胴	外内面条痕		並	良
52	2土-8	覆土	(鉢)	II-1-A	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線（入組文）		並	良
52	2土-9	覆土	深鉢	II-1-A	胴	条痕+沈線		並	良
53	2土-10	覆土	深鉢	II	胴	外内面条痕		並	良
53	2土-11	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		並:小礫含む	良
53	2土-12	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		雑	良
53	2土-13	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		雑	良好
53	2土-14	覆土	深鉢	II-1-A	胴	沈線		雲母	良
53	2土-15	覆土	(鉢)	II-1-A	頸・胴	沈線		緻密	良
53	2土-16	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		雑	良
53	2土-17	覆土	(鉢)	II-1-A	胴	沈線		並	良
53	2土-18	覆土	(壺)	II-1-A	胴	沈線（山形文）		雑	良
53	2土-19	覆土		II-1-C	胴	R L 縄文+沈線		並	良
53	2土-20	覆土		III	口縁	L R 圧痕		雑:雲母	良
53	2土-21	覆土	深鉢	II-4	口・胴	折返口縁、無文		緻密	やや良
53	2土-22	覆土	深鉢	II-4	口縁	平口縁、無文	内面輪積み痕有り	並	良
53	2土-23	覆土		III	胴	L R 縄文		雑	良
53	2土-24	覆土		II-4	底	無文		並	不良
53	2土-25	覆土		II-4	底	無文		並	良
53	2土-26	覆土		II-4	底	無文、底外面細沈線		並:	良
53	2土-27	覆土		II-4	底	無文		並	良好
53	2土-28	覆土		II-4	底	無文、底外面沈線		緻密	良
53	4土-1	覆土	鉢	II-2	完形	波状口縁、R L 縄文（縦位）、L R 縄文圧痕、口唇部貼付	外面炭化物付着、口径14.4cm、底径6.4cm	並:砂・雲母含む	不良

図版	遺物番号	層位	器形	分類	部位	文 様	備 考	胎 土	焼成
53	4土-2	確認	鉢	Ⅲ	完形	無文	最花式、口径9.4cm、 底径4.1cm	緻密	良好
53	4土-3	確認	深鉢	Ⅱ-2	口縁	L R縄文 (横位)	外面炭化物付着		良
53	4土-4	覆土		Ⅲ	胴	R L縄文	内面炭化物付着	緻密	良好
54	6土-1	覆土	深鉢	Ⅱ-2	口縁	折返口縁、R L縄文	後期初頭	雑:粗砂粒含む	良好
54	6土-2	覆土		Ⅱ-2	口縁	平口縁、R L縄文		雑	不良
54	6土-3	覆土		Ⅱ-2	口縁	平口縁、R L縄文		雑	良
54	6土-4	覆土		Ⅱ-2	胴	L R縄文 (横位・斜位)		緻密	良
54	6土-5	覆土		Ⅱ-2	胴	R L縄文		緻密	良好
54	6土-6	覆土		Ⅲ	胴	R L縄文		雑	良
54	7土-1	覆土		Ⅲ	口縁	折返口縁		雑	良
54	8土-1	覆土	鉢	Ⅲ	口縁	平口縁、沈線	口唇部ミガキ顯著	緻密	良好
54	8土-2	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	口縁	波状口縁、沈線	外面炭化物付着	雑	良
54	8土-3	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (渦巻文)		雑:小礫含む	良
54	8土-4	覆土	鉢	Ⅱ-1-B	口縁	波状口縁、沈線	外面炭化物付着	雑	良
54	8土-5	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線		雑	良
54	8土-6	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線		雑:小礫・粗砂粒含む	良
54	8土-7	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (渦巻文)	内面炭化物付着	雑	良
54	8土-8	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線		雑	良
54	8土-9	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線		雑	良
54	8土-10	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (渦巻文)		緻密	良
54	8土-11	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線	内面炭化物付着	緻密	良好
54	8土-12	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線、稚拙な入組文		雑	良
54	8土-13	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (入組文)		並	良
54	9土-1	覆土		Ⅲ	胴	R L縄文		緻密	良
54	9土-2	覆土		Ⅲ	胴	L R縄文 (縦位)		緻密	良
54	9土-3	覆土		Ⅲ	胴	R L縄文		緻密	良
54	10土-1	覆土		Ⅲ	胴	L R縄文		緻密:石英含む	良好
54	10土-2	覆土		Ⅲ	胴	R L縄文		雑	良好
54	12土-1	覆土	壺	Ⅱ-1-B	胴	沈線 (かばさみ様) + 磨消 縄文 (無節L)	口縁内面に沈線	緻密	良好
54	12土-2	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	平口縁、沈線		並:細砂粒含む	良
54	12土-3	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	平口縁、沈線 (楕円)		雑	良
55	12土-4	覆土	鉢	Ⅱ-1-A	胴	沈線 (楕円)		緻密	良
54	12土-5	覆土	(鉢)	Ⅱ-1-A	口縁	平口縁、沈線 (格子目状)		雑	良好
54	12土-6	覆土		Ⅲ	胴	沈線	内面調整ミガキ顯著	雑	良
55	12土-7	覆土		Ⅱ-1-A	胴	沈線 (格子目状)		緻密	良好
55	12土-8	覆土		Ⅱ-1-A	胴	沈線 (格子目状)		緻密	良
55	12土-9	覆土		Ⅱ-1-A	胴	沈線 (格子目状)		緻密	良好
55	12土-10	覆土		Ⅱ-1-A	胴	沈線 (楕円形)		雑	良
55	12土-11	覆土		Ⅱ-1-A	胴	細沈線		緻密	良好
55	12土-12	覆土		Ⅱ	底	無文、上げ底	底径(6.0cm)	雑	良好
55	12土-13	覆土	(鉢)	Ⅲ	口縁	平口縁、L R縄文		緻密	良好
55	13土-1	覆土	(鉢)	Ⅲ	口縁	平口縁、L R縄文		緻密	良

表25 土坑出土石器観察表

図版番号	遺構	層位	器種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石材	備 考
図55	1土-1	覆土	不定形石器	25.9	35.2	8.1	8.4	珪質頁岩	
図55	1土-2	覆土	不定形石器	30.0	16.0	8.0	4.9	珪質頁岩	
図55	1土-3	覆土	敲磨器	118.0	66.0	37.0	435.4	安山岩	b類、擦痕
図55	2土-1	覆土	不定形石器	47.0	17.0	3.8	3.3	珪質頁岩	微細剝離痕を有する
図55	2土-2	覆土	打製石器	105.0	86.0	29.0	356.8	流紋岩	両面加工、磨痕

3 溝状土坑

表26 溝状土坑観察表

No	グリッド	長軸上(下)×短軸×深さ	長軸方向	平面形	長軸断	短軸断	堆積土	出土遺物	備考
1	E-16・17	331(296)×53×125	NW-SE	A	B	A	自然	土器、石器	
2	C-15・16	346(286)×38×125	E-W	A	B	A'	自然	土器	

4 焼土遺構

第1号焼土遺構 (図56)

[位置] A区西側斜面のD-7グリッドに位置する。

[平面形・規模] 北側に張り出した不整形円形である。規模は長径60cm、短径50cmである。

[堆積土] 2層に区分した。

[小結] 時期不明である。

(杉野森 淳子)

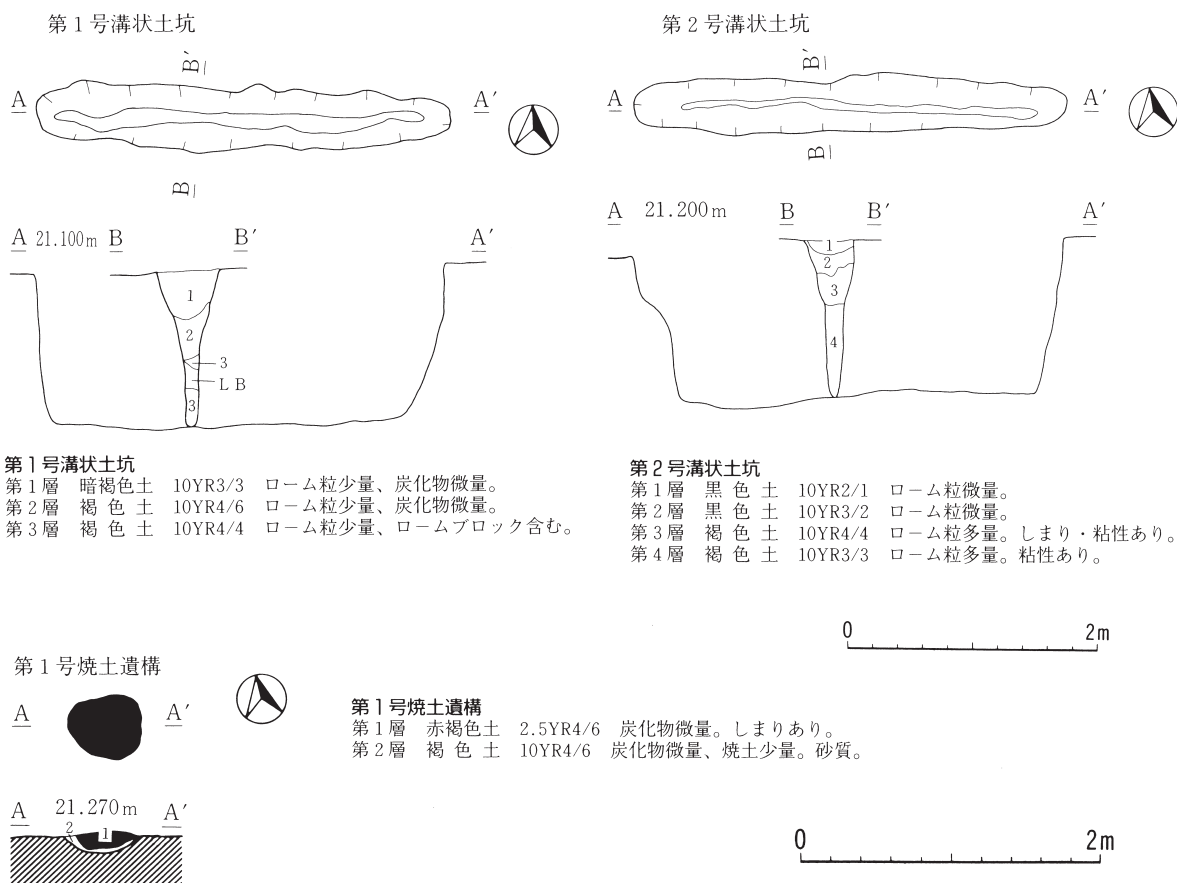


図56 溝状土坑、焼土遺構

第2節 遺構外出土遺物

遺構外からは、ダンボール箱で土器8箱、石器6箱分の遺物が出土した。出土範囲はグリッドライン15から30の間、南側斜面との境であるDラインに集中している。小谷へ続く西側斜面で比較的多く出土している。

1 土器

土器は早期と後期のものが出土している。後期の土器が大部分をしめる。後期の土器は文様に分類基準をおき、器形毎に深鉢・浅鉢形土器、壺形土器にまとめた。

第I群 早期の土器 (図57-1～3)

胴部破片が3点出土している。1は沈線で横位羽状文を形成している。1列のみ太い沈線が施されている。3は羽状沈線と平行沈線が組み合わせたものである。2は格子目状に沈線が施文されている。ムリシI式に相当すると思われる。

第II群 後期初頭・十腰内I式に相当する土器 (図57-4～図60-111)

1. 深鉢・浅鉢形土器

破片がほとんどで、その中で器形が分かるのは一部である。特に深鉢と浅鉢の区別が不明瞭なものが多いので、ここでは一括した。破片から胴部が張り出した形状の深鉢が想定される。内面調整はナデ・ミガキが行われている。胎土は緻密なものが多く、繊維・雲母・小礫が含まれ、焼成は良好なものが多い。色調は鈍い黄褐色が大半をしめ、黒褐色・明赤褐色がみられる。炭化物が付着したものが目立つ。第1類B・Cの一部と第2類・第3類が後期初頭に相当する以外は、十腰内I式に位置する土器と考えられる。

第1類 沈線を施文したもの

A：沈線のみのも (図57-4～47)

沈線文様には入組文、山形文、楕円形文、蛇行文、かに状文がみられる。文様は縦位転回より横位転回の方が多いようである。口縁形状は波状と平口縁が半々である。沈線は浅いものと沈線の両側がやや盛り上がる深い沈線がある。入組文は稚拙なものが多い。中には細い工具で沈線を施したものもみられる(43～47)。内面調整は胴部より口縁部の方が丁寧に撫でられている。胎土は混入物が多く、小礫・粗砂粒・雲母・石英が含まれている。焼成はやや良好である。色調は灰黄褐色が多く、明褐色・黒褐色がみられる。

B：沈線と沈線の上に施文が見られるもの (図58-48～図59-66・69)

施文の種類は円形刺突・櫛歯状の沈線・縄文の3種類である。

円形刺突を施文したものは2点出土している(48・49)。48は3段のV字状沈線の両端とその隣に直径3mmの円形刺突が施されている。49は幅3mmの平行沈線で文様帯(幅:0.7mm)と無文帯(幅:1.2mm)を区画している。文様帯には直径4mmの浅い円形刺突を2mm間隔で施文している。外面色調は光沢のある黒褐色である。

櫛歯状沈線を施文したものが9点出土している(50~56)。一般に幅3mmの2本の沈線の間6mm幅に細い櫛目状の沈線が施されている。50は波状口縁の突起部に幅5mmの隆帯を施している。51と52は同一個体で口縁内面が磨かれている。

磨消縄文が施されたものは14点である(57~67・69)。縄文は無節が多く、原体が密なRL縄文やLR縄文がみられる。縄文は幅0.8~1.0cmの間に施文されている。内面調整が丁寧なものが多い。66・69は後期初頭の土器と思われる。その他は十腰内I式相当である(57~65・68)。

C: 縄文地文に沈線が施されたもの(図59-68・70・71)

焼成はあまり良くない。68と70は同一個体である。無節縄文を地文とし、その上に幅0.4mmの太い沈線で蛇行した文様が描かれている。71はRL縄文に沈線が施された、緻密な土器である。後期初頭の土器と考えられる。

第2類 縄文を施文したもの(図59-72~78)

72・73の口縁を外側に折り返して幅広の無文帯を形成している。胴部にはRL縄文が施されている。72は口縁部がやや外反している。74~77は縄文を格子目状に施文したものである。74と77は同一個体である。底部外面に沈線がみられる。胎土に石英・雲母・小礫・砂粒が多量に混入し、焼成は良好で堅緻である。75の胎土には繊維が目立つ。78は無節縄文を施した深鉢である。底部が上げ底を呈する。後期初頭から十腰内I式に相当するものと思われる。

第3類 隆帯を貼り付けたもの(図59-79~82)

4点出土している。80~82の帯状の隆帯を貼り付けた胴部片は胎土に雲母・小礫・石英・粗砂粒を大量に含んでいる。内面は丁寧なナデ調整が行われている。79と80は内外面とも明赤褐色をした、同一個体と考えられる。80は粘土接合面が明瞭である。82は隆帯の上を直径4mmの棒状工具で刺突されている。内面色調は黒褐色で、胎土に細砂粒を含んでいる。後期初頭の土器と思われる。

第4類 無文(図60-93~102)

口縁の大半は平口であり、一部波状のものがある。比較的器形が厚い。口縁が外反するもの・内湾するもの、胴部が張り出すもの・外反するものと形状は様々である。外面色調は黒褐色が多く、鈍い黄褐色もみられる。内面は黒色で炭化物が付着したものが多い。外面よりも内面の調整が丁寧である。胎土に繊維・粗砂粒・雲母が含まれる。

2. 壺形土器(図59-83~92)

壺と思われる口縁部・頸部・胴部の破片が30点出土している。頸部片が比較的多い。色調は明褐色・橙色が多い。胎土に粗砂粒が含まれ、焼成は良好である。調整はナデが多く、一部ミガキがみられる。

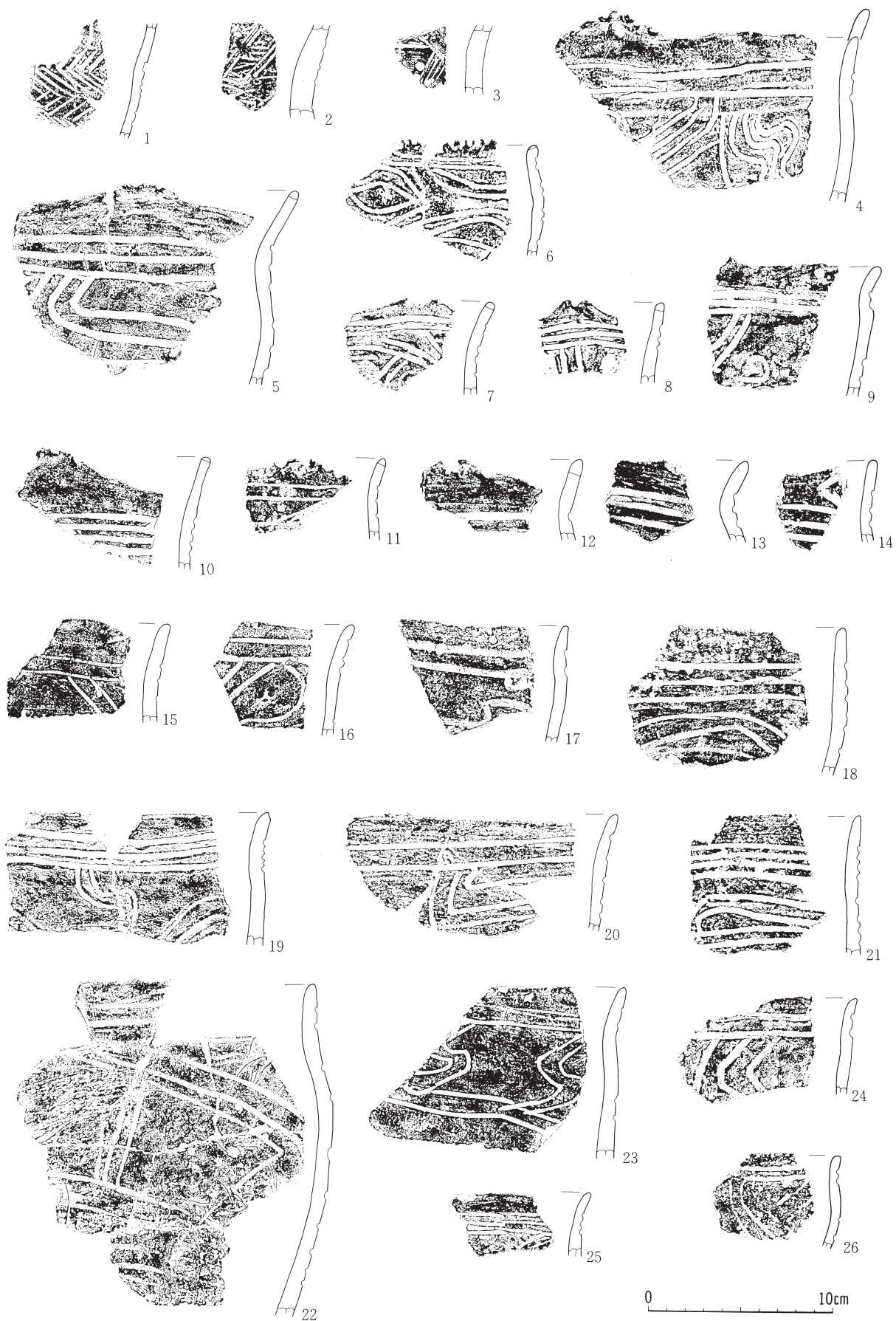


图57 遺構外出土土器①

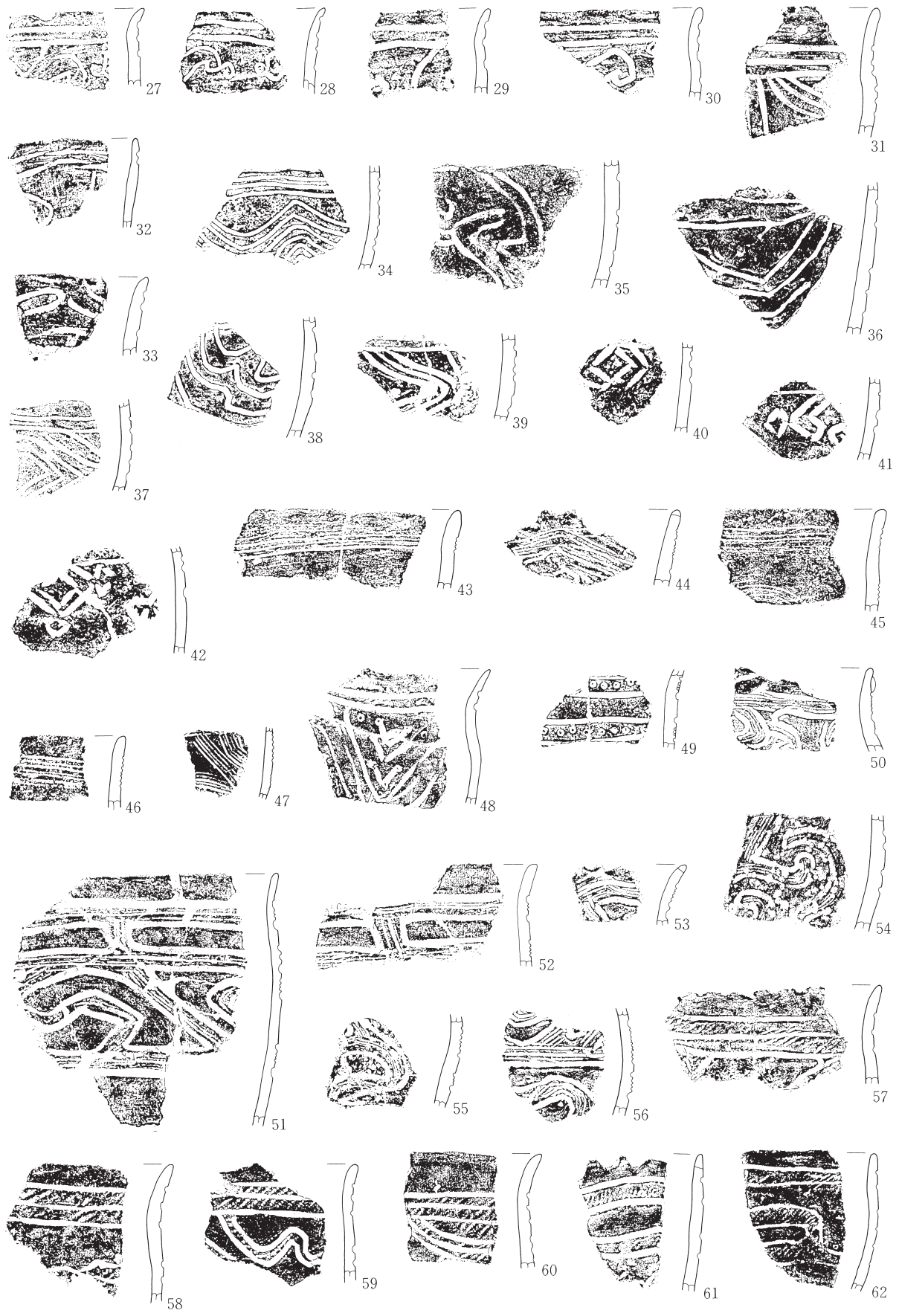


图58 遺構外出土土器②

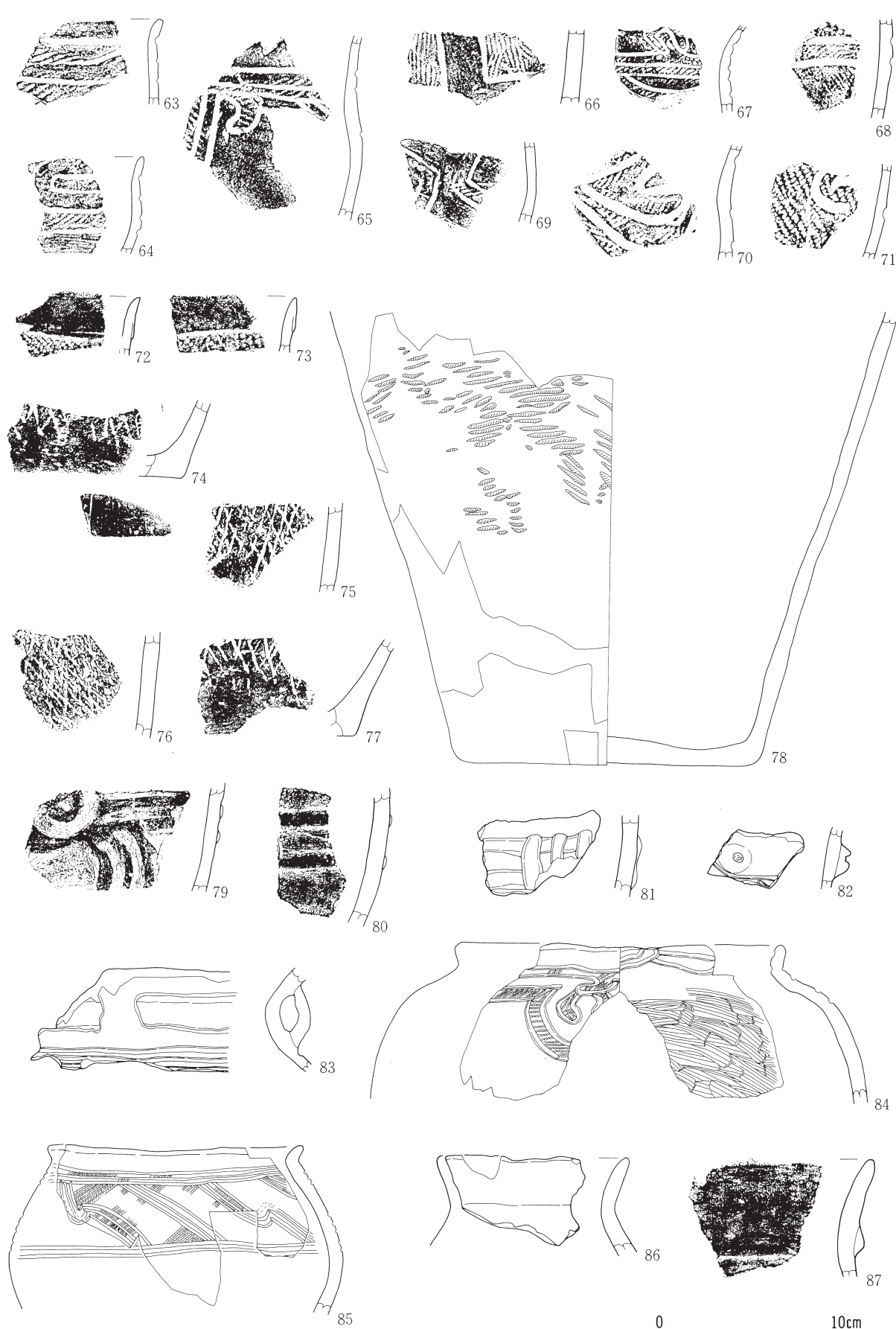


图59 遺構外出土土器③

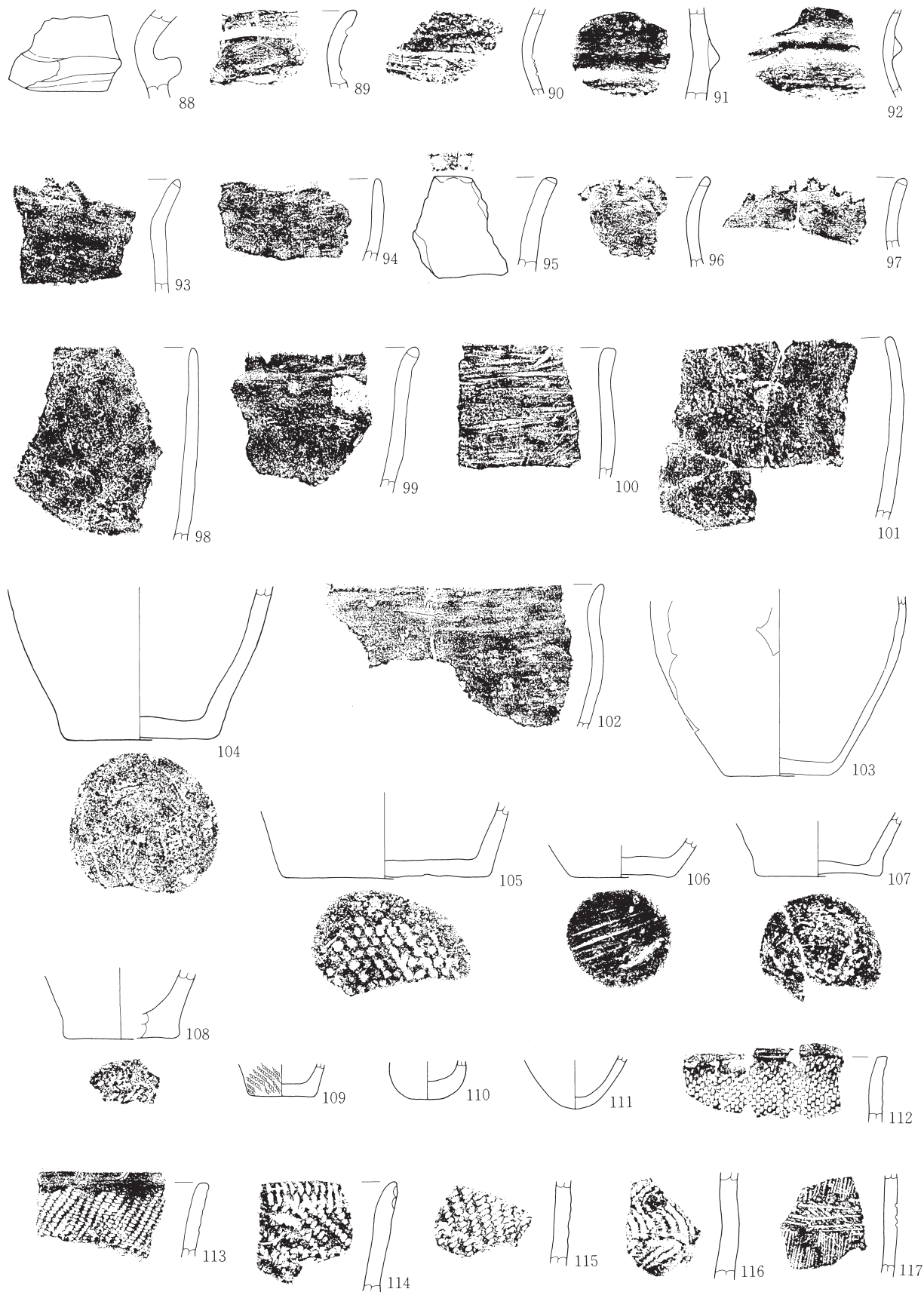


图60 遺構外出土土器④

頸部は隆帯をはりつけたものや沈線を施している。83は頸部に把手を持ち、把手の下に沈線を施している。84は口縁内面に沈線が施されている口縁部である。内面調整は丁寧な条痕である。十腰内I式に相当する。

〈底部〉 (図60-102~111)

底部片は30点出土している。底部が完全に残っているものは4点のみである。底部直径は12~3.4cmで、6~8cmのものが多くみられる。底部の厚さは1.4~0.5cmを測り、0.8~1.0cmが大半である。底部外面には施文されているものが多く、縄文圧痕・網代痕・木葉痕・笹の葉状圧痕・擦痕がみられる。無文の底部には丁寧なナデ調整がみられる。胎土は緻密で、小礫・石英・雲母が多く含まれるものと細砂粒が含まれるものに分かれる。焼成は良好である。109~111は小形の壺形土器と思われる。

第Ⅲ群 時期・型式を特定できない土器 (図60-112~117)

112・113は縄文を地文とし、口縁が平口である。112は口縁がやや外反している。114は胴部にR L結節回転を、口縁に縦位の刺突を2段施文している。115は114と同一個体と思われる胴部片である。116はL Rの結節回転文が施されている。胴部厚は1.0cmである。117はL R縄文を地文に、3本の平行沈線と縦位に細い沈線が密に施されている。

表27 遺構外出土土器観察表

図版番号	出土地点	層位	分類	器形	部位	文 様	備 考	胎土	焼成
図57- 1	D-19	Ⅳ	I		胴	羽状沈線		雑	良好
図57- 2	E-18	I	I		胴	沈線(幾何学文様)		雑	良
図57- 3	119-a	Ⅱ	I		胴	沈線		緻密	良好
図57- 4	D-17	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線(入組文)		雑	良好
図57- 5	B-21	Ⅱ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線(入組文)		雑	良好
図57- 6	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	浅鉢	口縁	平口縁、口唇刻み、沈線(レンズ状)		雲母	良
図57- 7	D-17	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線	外面炭化物付着	小石	良
図57- 8	D-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		雑・小礫含む	良
図57- 9	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、沈線(渦巻き文)		雑・繊維含む	良
図57- 10	C-5	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		緻密	良
図57- 11	E-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、細沈線		緻密	良
図57- 12	D-19	Ⅱ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、沈線		緻密	良好
図57- 13	D-22	Ⅳ	Ⅱ-1-A(浅鉢)	口縁	波状口縁、沈線		緻密	良好
図57- 14	C-18	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、沈線	外面炭化物付着	雑	不良
図57- 15	E-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	小波状口縁、沈線	内面調整ナデ顕著	緻密	良好
図57- 16	D-12	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線		雲母多量	良
図57- 17	D-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(入組文)		雑	良好
図57- 18	D-21	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線		密・粗砂粒	良
図57- 19	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(入組文)		雑	良
図57- 20	E-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(入組文)	外面黒褐色、内面鈍い黄褐色	雑	不良
図57- 21	C-5	Ⅲ	Ⅱ-1-A	深鉢	口縁	平口縁、沈線		緻密	良
図57- 22	B-18	Ⅲ	Ⅱ-1-A	深鉢	縁・胴	平口縁、沈線	外面炭化物付着	雑・小礫多い	良
図57- 23	E-18	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(蛇行文)		緻密	良好
図57- 24	D-12	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線		雑・雲母含む	良
図57- 25	E-17	Ⅱ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線		雑	不良
図57- 26	E-19	I	Ⅱ-1-A	浅鉢	口縁	平口縁、沈線、胴部張り出し		雑	不良
図58- 27	C-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	(鉢)	口縁	平口縁、沈線(入組文)	外面炭化物付着	緻密	良
図58- 28	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	(鉢)	口縁	平口縁、沈線(入組文)	口唇内面ケズリ	雑・雲母含む	良好
図58- 29	C-7	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(入組文)		雑	良
図58- 30	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(入組文)		雑	良好

図版番号	出土地点	層位	分類	器形	部位	文 様	備 考	胎土	焼成
図58- 31	D-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線		緻密	良好
図58- 32	E-19	I	Ⅱ-1-A	(鉢)	口縁	平口縁、沈線(弧状)	内面調整丁寧なナデ、口径(9.6cm)	緻密	良好
図58- 33	C-20	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、沈線(楕円形)		緻密	良好
図58- 34	G-11	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(山形状)		緻密	堅緻
図58- 35	B-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(入組文)	内面調整丁寧なナデ	雑	良
図58- 36	E-17	I	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(山形状)		雑	良好
図58- 37	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-A	浅鉢	胴	沈線		雲母	良
図58- 38	E-17	I	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(波状)		雲母	良好
図58- 39	E-16	Ⅳ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(蛇行文)		並	不良
図58- 40	C-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(蛇行)		雑	不良
図58- 41	C-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(球根状)	外面炭化物付着	雑	良
図58- 42	C-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	沈線(球根状)		並	良
図58- 43	E-19	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、細沈線		緻密	良
図58- 44	B-21	Ⅱ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、細沈線		緻密	良好
図58- 45	E-20	I	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、細沈線		細砂粒	良
図58- 46	E-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	口縁	平口縁、細沈線		雑	不良
図58- 47	E-19	Ⅲ	Ⅱ-1-A	鉢	胴	細沈線		雑・小石多い	良好
図58- 48	A-16	Ⅲ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	沈線+円形刺突		雑	良好
図58- 49	D-15	I	Ⅱ-1-B	鉢	胴	沈線+円形刺突	外面光沢のある黒褐色	雑	良
図58- 50	B-11	I	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	波状口縁、貼付隆帯、櫛歯状沈線		緻密	良
図58- 51	D-21	Ⅲ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、櫛歯状沈線(入組文)	内面調整ミガキ	緻密	良
図58- 52	D-21	Ⅳ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、櫛歯状沈線	調整内面ミガキ	緻密	良
図58- 53	E-19	Ⅲ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	波状口縁、櫛歯状沈線		雑	良
図58- 54	A-20	I	Ⅱ-1-B	鉢	胴	櫛歯状沈線		雑	良
図58- 55	E-20	Ⅳ	Ⅱ-1-B	(鉢)	胴	櫛歯状沈線		雑・小石多い	不良
図58- 56	C-20	Ⅲ	Ⅱ-1-B	(鉢)	胴	櫛歯状沈線		雑	良
図58- 57	D-22	Ⅳ	Ⅱ-1-B	(壺)	口縁	口唇刻み、沈線+磨消縄文		雑	不良
図58- 58	D-11	I	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、沈線+磨消縄文(無節)		雑	良
図58- 59	F-29	Ⅲ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	波状口縁、沈線+磨消縄文(R L)		緻密	堅緻
図58- 60	E-19	I	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、沈線+磨消縄文(無節)		緻密	良
図58- 61	G-19	I	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	波状口縁、口唇刻み、沈線+磨消縄文		緻密	不良
図58- 62	E-19	Ⅳ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、沈線+磨消消文(無節)	内外面炭化物付着	雑	良
図59- 63	116-f	I	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、沈線+磨消縄文		緻密	良
図59- 64	116-f	Ⅳ	Ⅱ-1-B	鉢	口縁	平口縁、沈線+磨消縄文(無節)	内面炭化物付着	雑	良
図59- 65	B-19	Ⅱ	Ⅱ-1-B	鉢	胴	沈線+磨消縄文(無節)		緻密	良好
図59- 66	B-26	Ⅳ	Ⅱ-1-B	鉢	胴	沈線+磨消縄文(LR)		礫	良
図59- 67	D-15	Ⅱ	Ⅱ-1-B	鉢	胴	沈線+磨消縄文		並	良好
図59- 68	E-16	I	Ⅱ-1-c	鉢	胴	縄文(無節)+沈線		粗砂粒・小礫	不良
図59- 69	E-18	I	Ⅱ-1-B	鉢	胴	沈線+磨消縄文	外面炭化物付着	並	良
図59- 70	E-19	I	Ⅱ-1-c	鉢	胴	縄文(無節)+沈線		雑	不良
図59- 71	E-29	Ⅲ	Ⅱ-1-c	鉢	胴	縄文(無節)+沈線		緻密	良好
図59- 72	Z-25	I	Ⅱ-2	(鉢)	口縁	折返口縁、RL縄文	外面炭化物付着	緻密	良
図59- 73	C-17	Ⅲ	Ⅱ-2	(鉢)	口縁	折返口縁、RL縄文		緻密	良
図59- 74	E-27	I	Ⅱ-2	(鉢)	底	網目状燃糸文(RL単節)、底面細沈線	底径(12cm)	緻密	良好
図59- 75	F-29	I	Ⅱ-2	(鉢)	胴	網目状燃糸文(LR単節)		緻密	良
図59- 76	D-19	I	Ⅱ-2	(鉢)	胴	網目状燃糸文	外面炭化物付着	繊雑	良
図59- 77	E-27	I	Ⅱ-2	(鉢)	底	網目状燃糸文(RL単節)		粗砂粒	良
図59- 78	D-25	Ⅲ	Ⅱ-2	鉢	胴・底	L無節縄文、底面無文	内面炭化物付着、底径15cm	緻密・砂含む	良好
図59- 79	B-21	Ⅲ	Ⅱ-2			貼付隆帯2本	内面調整丁寧なナデ	礫	良
図59- 80	E-23	Ⅲ	Ⅱ-3			貼付隆帯2本		小石含む	良
図59- 81	B-21	I	Ⅱ-3			貼付隆帯、縦位・横位	内外面調整丁寧なナデ・ミガキ	緻密・小礫多い	良
図59- 82	C-17	Ⅲ	Ⅱ-3			貼付け突起、突起部に円形刺突、沈線		緻密	良好
図59- 83	B-22・ D-21	I・ Ⅲ	Ⅱ	壺	口頸	把手付、平行沈線	頸部径(12cm)	粗砂	良
図59- 84	E-20	I	Ⅱ	壺	縁・胴	平口縁、沈線+磨消縄文(LR)、口縁内面沈線	内面調整ヘラナデ顕著、口径17cm	緻密	良好
図59- 85	D-12	Ⅲ	Ⅱ	壺	縁・胴	平口縁、沈線+磨消縄文(L無節縄文)	口径13.5cm、残存率1/2	緻密	良好
図59- 86	E-19	Ⅳ	Ⅱ	壺	口縁	無文	口径(9cm)	緻密	良好
図59- 87	E-19	Ⅲ	Ⅱ	壺	口縁	貼付隆帯		緻密	良好
図60- 88	D-19	I	Ⅱ	(壺)	頸	隆帯		緻密	良好

図版番号	出土地点	層位	分類	器形	部位	文 様	備 考	胎土	焼成
図60-89	D-18	I	II	壺	口縁	平口縁、沈線	内外面調整丁寧なナデ	雲母含む	良好
図60-90	D-19	I	II	壺	口縁	細沈線		雑	良好
図60-91	D-20	I	II	壺	胴	貼付隆帯		粗砂粒	良好
図60-92	D-21	I	II	壺	口頸	貼付隆帯		緻密	良好
図60-93	D-7	III	II-4	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、無文	外面炭化物付着	緻密	良好
図60-94	A-20	I	II-4	鉢	口縁	平口縁、無文		緻密	良好
図60-95	C-24	IV	II-4	鉢	口縁	口唇部刺突、無文		雲母、繊維	良
図60-96	D-7	III	II-4	(鉢)	口縁	波状口縁、頂端部刻み、無文		雑	良
図60-97	C-19	I	II-4	鉢	口縁	波状口縁、頂端部刻み、無文		緻密	良好
図60-98	D-21	II	II-4	鉢	口縁	平口縁、無文	内外面炭化物付着	雑	良
図60-99	C-20	III	II-4	鉢	口縁	平口縁、口唇部刻み、無文		緻密	良
図60-100	G-19	I	II-4	鉢	口縁	平口縁	調整/外面ナデ顕著、内面:ミガキ	緻密	良好
図60-101	C-7 D-12	III	II-4	鉢	口縁	平口縁、無文		雑	不良
図60-102	D-20 C-19	I III	II-4	鉢	口縁	平口縁、無文		石英、繊維	良
図60-103	D-21	III	II	(鉢)	胴・底	無文	内外面調整ナデ顕著、底径5.6cm	緻密	良好
図60-104	D-17	I	II	(深鉢)	底	無文、底外面:ナデ顕著	底径8cm	礫・雲母・小石	良
図60-105	E-20	I	II	(鉢)	底	無文、底外面:網代痕	底径11cm	緻密	良好
図60-106	B-21	I	II	(鉢)	底	無文、底外面:擦痕	底径5.4cm	雑	良好
図60-107	E-19	IV	II	(鉢)	底	無文、底外面:網代痕	底径6.6cm	雑	良
図60-108	A-29	I	II	(壺)	底	無文、底外面:縄文圧痕	内面色調黒色・外面色調鈍黄橙色、底径6cm	緻密	良好
図60-109	C-18	I	II	壺	底	RL縄文、底外面:擦痕	内外面色調赤褐色、底径3.4cm	雑	良
図60-110	D-7	I	II	壺	底	無文、丸底	底径1.8cm	緻密	良好
図60-111	D-21	I	II	(壺)	底	無文、丸底	調整/内面ナデ、外面:ケズリ	緻密	良
図60-112	B-17	I	II		口縁	平口縁、LR縄文	口唇丁寧なミガキ	緻密	堅緻
図60-113	C-20	III	III		口縁	平口縁、RL縄文	口唇ナデ	緻密	堅緻
図60-114	B-19	III	III		口縁	口縁:爪形刺突2段、RL結節回転	口縁内面ミガキ	雑	良好
図60-115	C-20	I	III		胴	RL結節回転文		緻密	良好
図60-116	D-36	I	III		胴	羽状、LR結節回転文		雑	良好
図60-117	C-5	I	III		胴	LR縄文+沈線		緻密	良

2 石器

グリッドライン15から30の間に散在している。小谷へ続く西側斜面に集中している。E-17グリッドとD-27グリッドが比較的多い。剥片素材の定形石器が15点、剥片素材の不定形石器6点、礫石器20点、二次加工剥片49点、剥片379点が出土している。

石鏃 (図61-1~6)

- I b : 無茎で基部が丸味をおびるもの・尖るもの (1)
- I c : 無茎で基部に抉りのあるもの (2)
- II a : 有茎で基部が直線的なもの (5・6)
- II b : 有茎で基部が丸味をおびるもの・尖るもの (4)

石槍 (図61-7)

1点出土している。幅広の木の葉形である。

石匙 (図61-8~12)

a : 縦長剥片を素材とし、細身の縦型。刃部が直線的なもの。背面に全面調整、腹面に片側周縁調整を施している。(9~11)

b : 横長剥片を素材とした幅広の縦型。刃部に丸味をもつもの。両面とも深めの周縁調整を施している。(8・12)

石篋 (図61-13~15)

小形のもものが3点出土している。基部を作出し、平刃のもの2点(13・15)、丸刃のもの1点(14)である。

不定形石器 (図61-16~21)

一定の調整が行われた剥片は比較的少ない。17は横長剥片を素材とし、腹面の一側縁に両面から調整が施されている。18は背面に連続した周縁加工を行っている。20は剥片の端部と片側縁に細かい調整を施し、先端部を作り出している。21は刃部形状から石匙の可能性はある。

打製石斧 (図61-22~25)

礫を素材としたものと一次調整剥片を素材としたもの(23)がある。22と24は自然面全面を磨いている。

磨製石斧 (図61-26~28)

26は刃部が丁寧に磨かれ、側面に擦り・敲き痕がみられる。27・28は刃部を中心に全体が磨かれ、頭部調整が行われている。

打製石器 (図62-29・30)

2点出土している。29は礫の両端を両面から加工したもので、石錘の一種と思われる。30は円礫の周囲に擦りと敲き加工を施し、さらに部分的に加工を施したものである。

擦り石・敲き石 (図61-31~40)

a : 側面に擦り・敲き痕がみられるもの。(32・33・35~37)

b : 端部に擦り痕がみられるもの。(31・34)

c : 中央部に擦り・敲き痕、くぼみがみられるもの。(39・40) 石皿・台石の類と思われる。

石棒 (図63-42)

第1号住居跡付近から出土している。柱状節理が発達した安山岩を石材とし、粗い加工が施されている。未製品である。

(杉野森 淳子)



图61 遺構外出土石器①

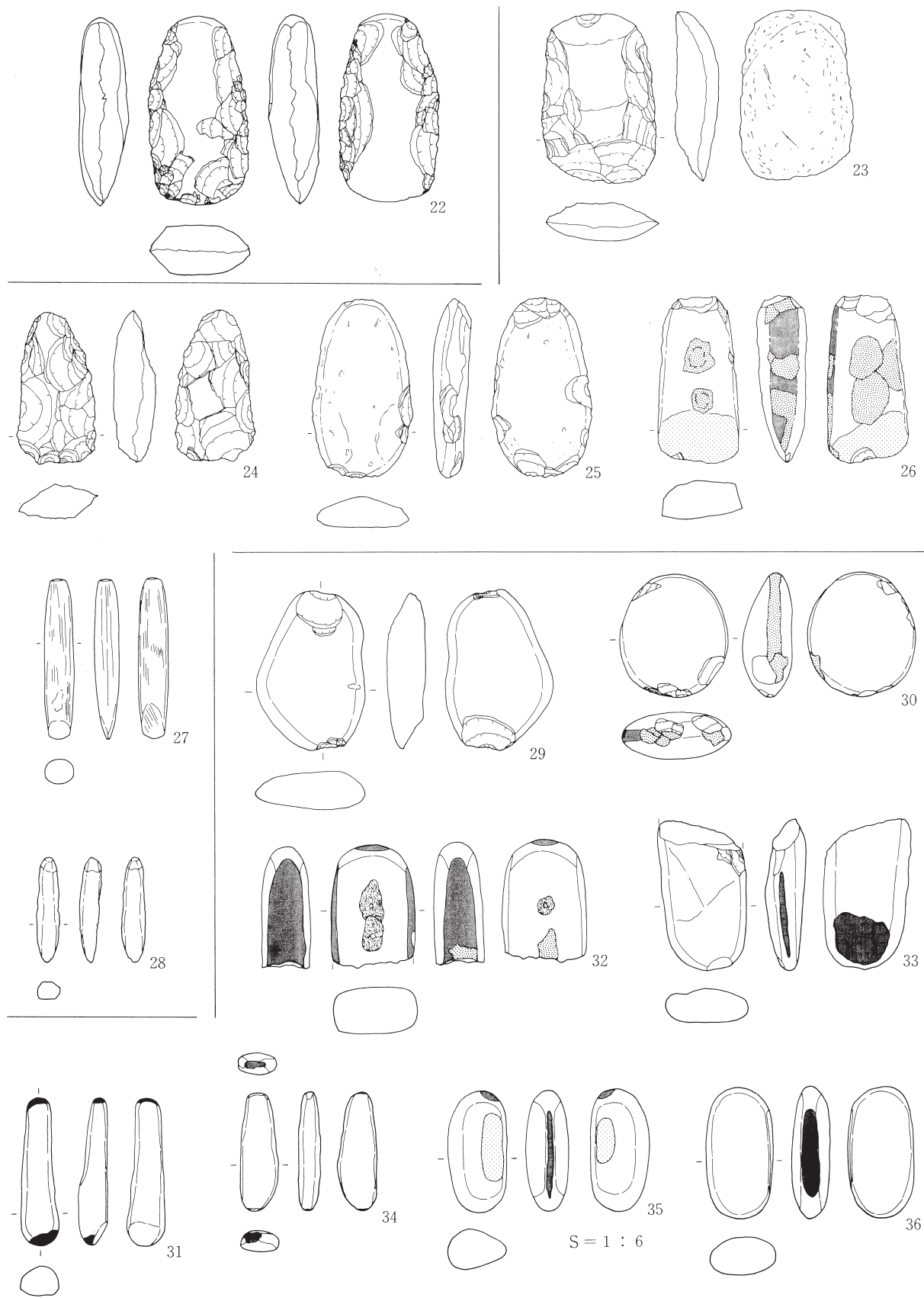


图62 遺構外出土石器②

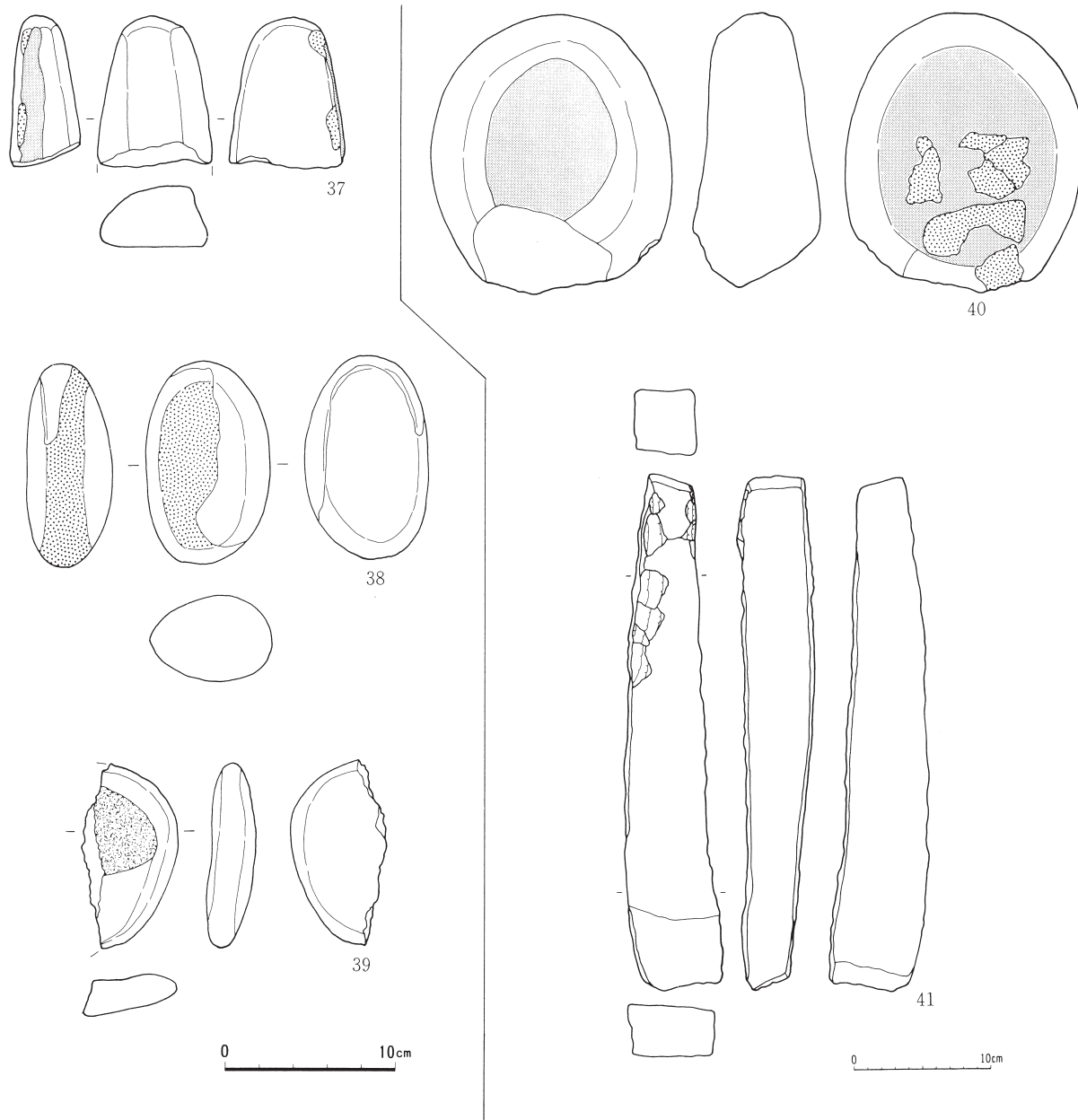


图63 遺構外出土石器③

表28 遺構外出土石器観察表

図版番号	器種	分類	出土地点	層位	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石材	備考
図61-1	石鏃	I b	C-15	I	27.5	13.0	7.0	2.3	珪質頁岩	表面に自然面残る
図61-2	石鏃	I c	C-22	I	50.5	19.0	5.5	4.7	珪質頁岩	
図61-3	石鏃	I	B-21	IV	(24.0)	14.0	8.5	2.6	珪質頁岩	基部欠損、頭部摩耗
図61-4	石鏃	II b	E-19	III	23.9	20.3	4.7	1.6	珪質頁岩	上部欠損
図61-5	石鏃	II a	不明	II	22.5	18.5	5.0	1.0	玉髓	両面全面加工
図61-6	石鏃	II a	不明	II	20.0	13.0	3.5	0.6	珪質頁岩	基部欠損
図61-7	石槍		B-21	I	84.0	34.5	9.5	22.1	珪質頁岩	木葉形
図61-8	石匙	b	不明	—	57.0	30.0	11.0	16.3	珪質頁岩	片面片縁調整
図61-9	石匙	a	不明	—	58.0	20.0	5.3	6.6	珪質頁岩	片面片縁調整
図61-10	石匙	a	F-29	III	61.0	21.0	6.0	9.3	珪質頁岩	片面片縁調整
図61-11	石匙	a	不明	—	81.3	22.2	7.0	13.8	珪質頁岩	片面片縁調整
図61-12	石匙	b	B-17	I	76.0	38.5	10.0	19.2	珪質頁岩	周縁調整
図61-13	石筥	II a	E-19	I	31.0	20.0	6.7	3.7	珪質頁岩	
図61-14	石筥	II b	C-25	IV	38.0	24.0	7.5	8.4	珪質頁岩	
図61-15	石筥	II a	F-11	III	47.0	22.0	10.7	7.5	珪質頁岩	
図61-16	不定形石器		D-29	I	50.0	31.0	10.1	17.5	珪質頁岩	
図61-17	不定形石器		B-21	III	44.0	38.0	14.0	30.6	珪質頁岩	
図61-18	不定形石器		B-15	I	6.0	44.0	12.7	38.9	珪質頁岩	
図61-19	不定形石器		F-9	III	66.0	55.0	12.3	32.7	珪質頁岩	
図61-20	不定形石器		A-16	III	34.0	51.0	6.0	19.0	珪質頁岩	
図61-21	不定形石器		F-29	IV	(27.0)	14.5	4.6	2.2	珪質頁岩	上部欠損
図62-22	打製石斧		A-17	I	134.0	70.0	34.0	416.3	珪質頁岩	自然面磨き
図62-23	打製石斧		C-27	I	89.0	64.0	22.1	153.6	安山岩	
図62-24	打製石斧		A-23	I	80.0	42.0	22.2	72.7	石英	自然面擦り
図62-25	打製石斧		B-16	I	94.0	52.0	19.8	139.2	安山岩	側面・敲き、摩耗痕
図62-26	磨製石斧		C-15	III	87.0	42.0	26.0	153.1	珪質頁岩	擦り、磨き
図62-27	磨製石斧		B-19	III	84.0	16.0	13.0	28.1	珪質頁岩	擦り
図62-28	磨製石斧		E-18	I	55.0	12.0	10.5	9.1	珪質頁岩	両端部・摩耗痕
図62-29	打製石器		B-15	I	112.0	75.5	26.0	310.2	頁岩	両端両面加工
図62-30	打製石器		C-16	I	86.0	78.0	34.0	307.2	砂岩	側面・擦り、敲き
図62-31	敲磨器	b	E-17	I	102.0	27.0	21.0	71.5	チャート	両端面・擦り
図62-32	敲磨器	a	C-18	I	(85.0)	59.0	34.5	313.9	安山岩	両側面・擦り
図62-33	敲磨器	a	Z-25	I	105.0	61.5	28.0	244.6	安山岩	片側面・裏面・擦り
図62-34	敲磨器	b	B-15	I	81.5	27.0	15.5	49.7	安山岩	両端部・擦り
図62-35	敲磨器	a	E-24	III	126.0	61.0	43.5	493.8	安山岩	端・片側・擦り、両面・磨き
図63-36	敲磨器	a	B-20	III	91.5	46.0	26.5	180.5	砂岩	片側面・擦り
図63-37	敲磨器	a	B-15	I	88.5	66.5	41.5	286.3	安山岩	片側面・擦り
図63-38	敲磨器	c	C-18	I	119.5	72.5	51.0	627.2	安山岩	表・片側・磨き
図63-39	敲磨器	c	C-23	I	107.0	(56.5)	22.9	196.4	安山岩	凹み石
図63-40	敲磨器	c	D-5	I	205.0	178.5	93.5	4925.9	安山岩	擦り・敲き、石皿
図63-41	石棒		A-21	III	368.0	71.0	38.5	2059.7	安山岩	

第Ⅳ章 幸畑（１）遺跡B区

幸畑（１）遺跡B区は市柳沼へ続く低位段丘面の標高12m～15mに位置する。B区西側はほぼ平坦で、グリッドライン210から東側へ緩やかに傾斜している。検出遺構は竪穴住居跡2軒、溝状土坑58基、円形土坑2基、溝2条である。

第1節 検出遺構と出土遺物

1 竪穴住居跡

第4号竪穴住居跡（図65）

[位置] C・D-151・152グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 確認面長軸4.10m、短軸2.5m、底面長軸3.9m、短軸2.42mの東西方向に膨らんだ楕円形である。掘り込みが浅く、深さは34cmである。

[壁・床面] 床面はほぼ平坦で、東から西へ緩やかに傾斜している。壁は緩く立ち上がる。

[柱穴・ピット] ピットは10個検出された。ピット2からピット10は壁寄りに位置し、直径が10～15cmと規模が一定している。柱穴の可能性ある。ピットの深さはピット1が13cm、ピット4が8cm、ピット5が12cm、ピット7は34cm、ピット8は32cm、ピット10は14cmである。

[炉] 明確なものは確認されなかった。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土から剥片、礫が出土している。

第5号竪穴住居跡（図66～71）

[位置] E-169グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸3.62m、短軸2.72m、底面長軸3.25m、底面短軸2.44mの楕円形である。確認面からの深さは38cmである。

[壁・床面] 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

[柱穴・ピット] ピットは7個検出された。深さはピット1が56cm、ピット2が10cm、ピット3が55cm、ピット4が10cm、ピット5が30cm、ピット6が10cm、ピット7が13cmである。ピット2からピット7は規格が一定していることと壁寄りに位置することから柱穴の可能性ある。

[炉] 床面東寄りに焼土および炭化物のまとまりが検出されている。地床炉と考えられる。

[堆積土] 自然堆積である。

[出土遺物] 覆土・床面から早期の白浜式土器に比定される土器が出土した。この中には完成品に



图64 幸畑（1）遺跡B区遺構配置図

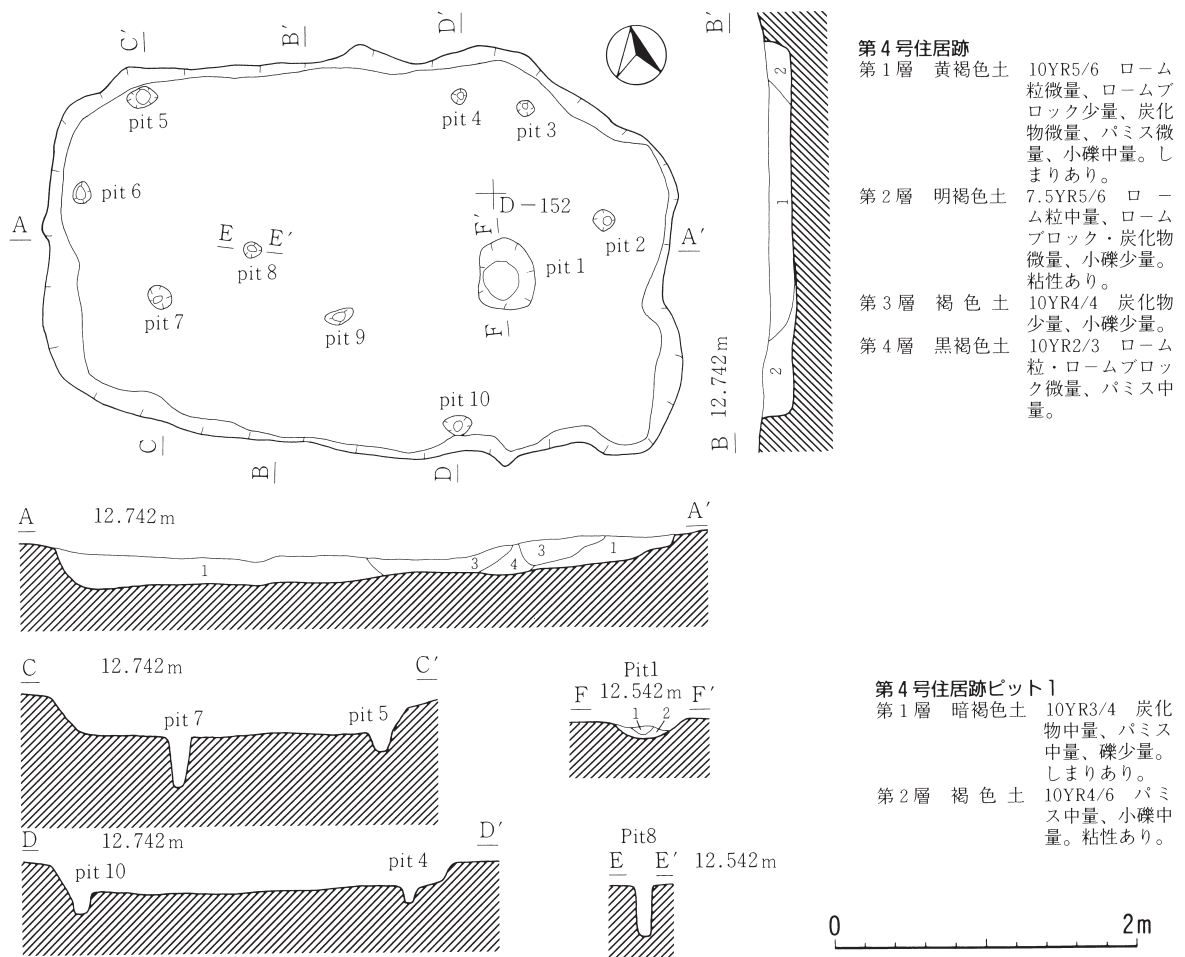
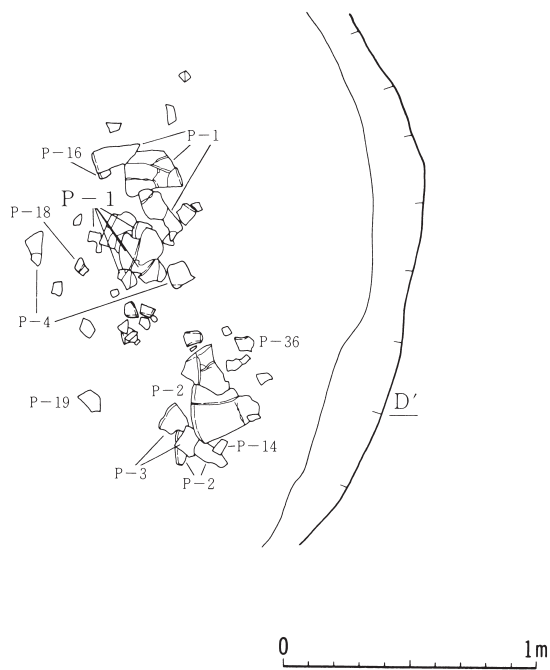
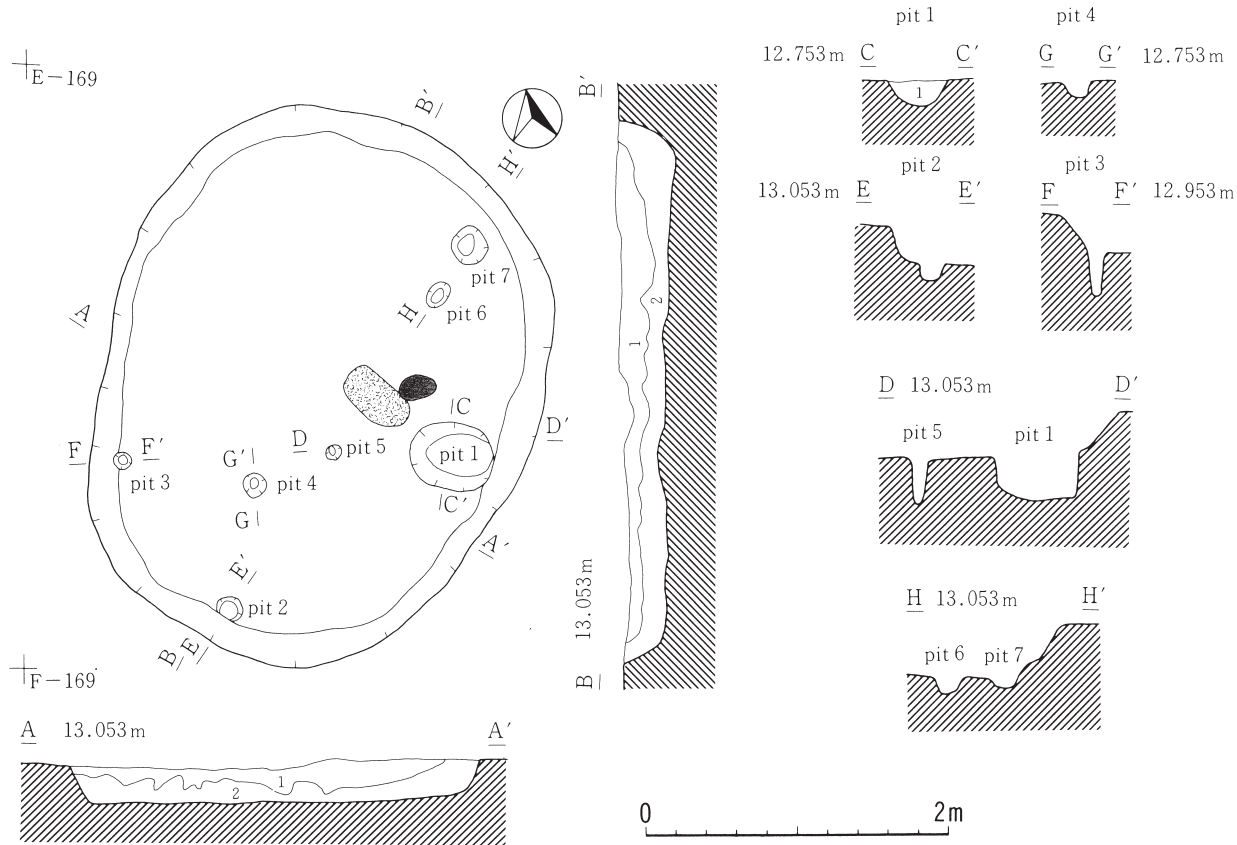


図65 第4号住居跡

近いものが4点含まれ、器形は尖底深鉢である。また早期の土器では稀な突瘤を口縁内側にもつ土器が出土した(図67-1)。1は床面から出土したもので口縁部に縦爪3段を施文し、中段の縦爪に内瘤を施文している。瘤は縦爪2~3個おきに14個(φ4.0~7.0mm)を施している。瘤の厚さは1.0mmと極めて薄いものである。2は口縁部に横爪とLR側面圧痕文を施文している。3は口縁部に縦爪3段と横爪3段を交互に帯状に施文している。4は外面に貝殻条痕を施した無文の土器である。18は口縁部に横爪と貝殻腹縁文を層状に施文している。19は口縁部に格子目状沈線を施した後、縦爪を施文している。20は口縁部を斜位沈線を施している。21は貝殻条痕文で横位に調整した後、胴部に竹管状の円形刺突文(φ8.0mm)と縦爪を合わせて施文している。27は胴部を沈線を格子目状に施文している。40・43・44は胴部内部を貝殻条痕と貝殻背圧痕で調整している。37~39は外面を貝殻条痕で調整し、内面に丁寧なみがきを行っている。45は底部外面・内面を横位・縦位による貝殻条痕で調整している。石器は擦り石、不定形石器が出土している。



第5号住居跡

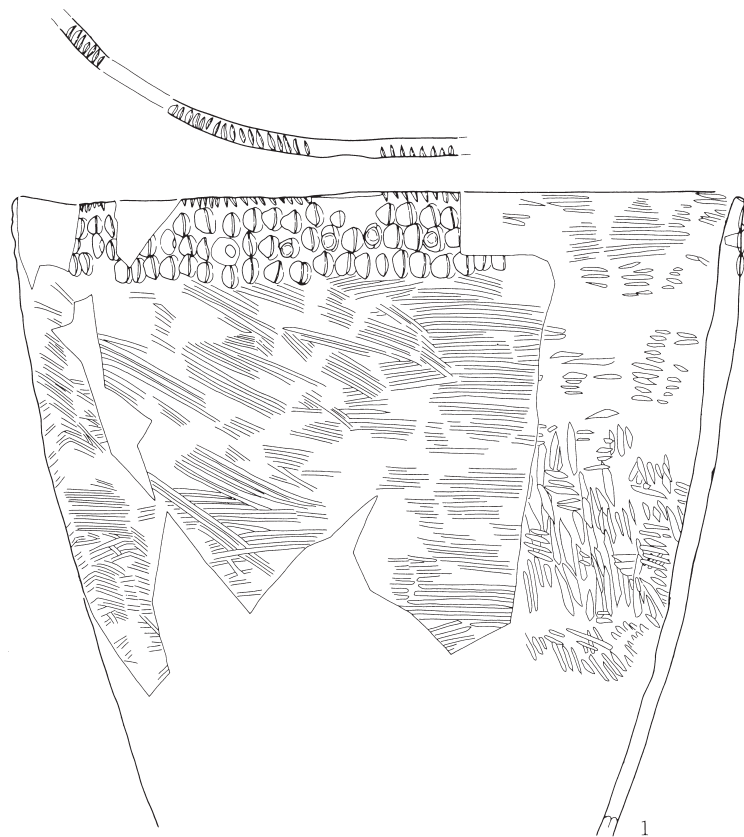
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物少量、パミス少量。

第2層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム粒・浮石・パミス中量。

第5号住居跡 ビット1

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物中量、パミス微量。粘性あり。

図66 第5号住居跡



口縁部内面

0 10cm

表29 第5号住居跡出土土器観察表(1)

図版番号	層位	分類	部位	文様	刻目	器高:cm	口径:cm	備考
図67-1	1層	I-2-a	縁-胴	縦爪3段、内瘤14個(φ4.0~7.0mm)	上	(25.5)	29.5	補修孔有り
図68-2	1層	I-2-a	完	横爪2段、LR圧痕文	斜	30.6	28.0	補修孔有り
図68-3	覆土	I-2-a	縁-胴	縦爪・横爪(層状)		(29.4)	24.0	
図68-4	1・2層	I-6-a	縁-胴	無文	斜	(27.6)	24.0	外面貝殻条痕

図67 第5号住居跡出土遺物①

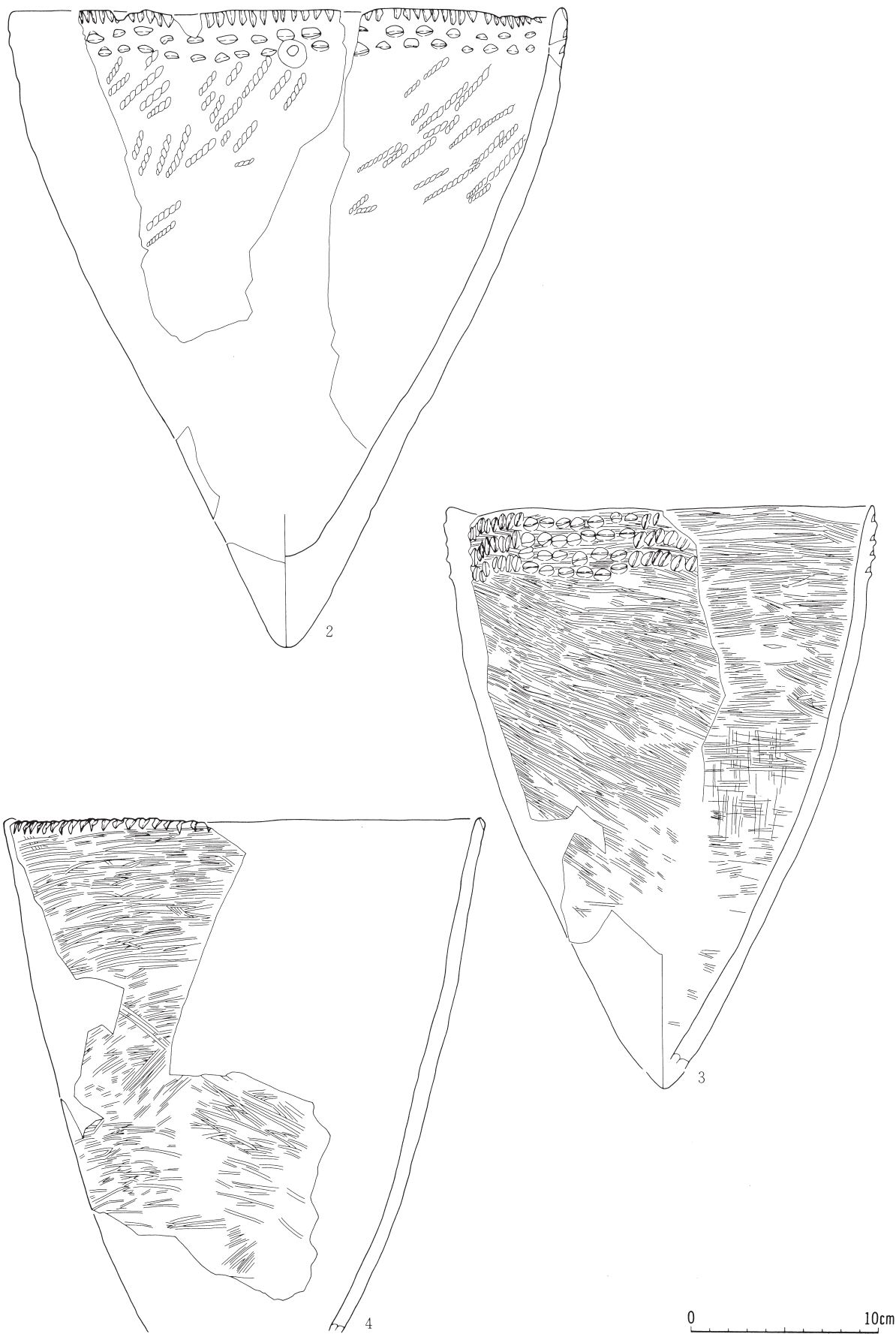


图68 第5号住居迹出土遗物②

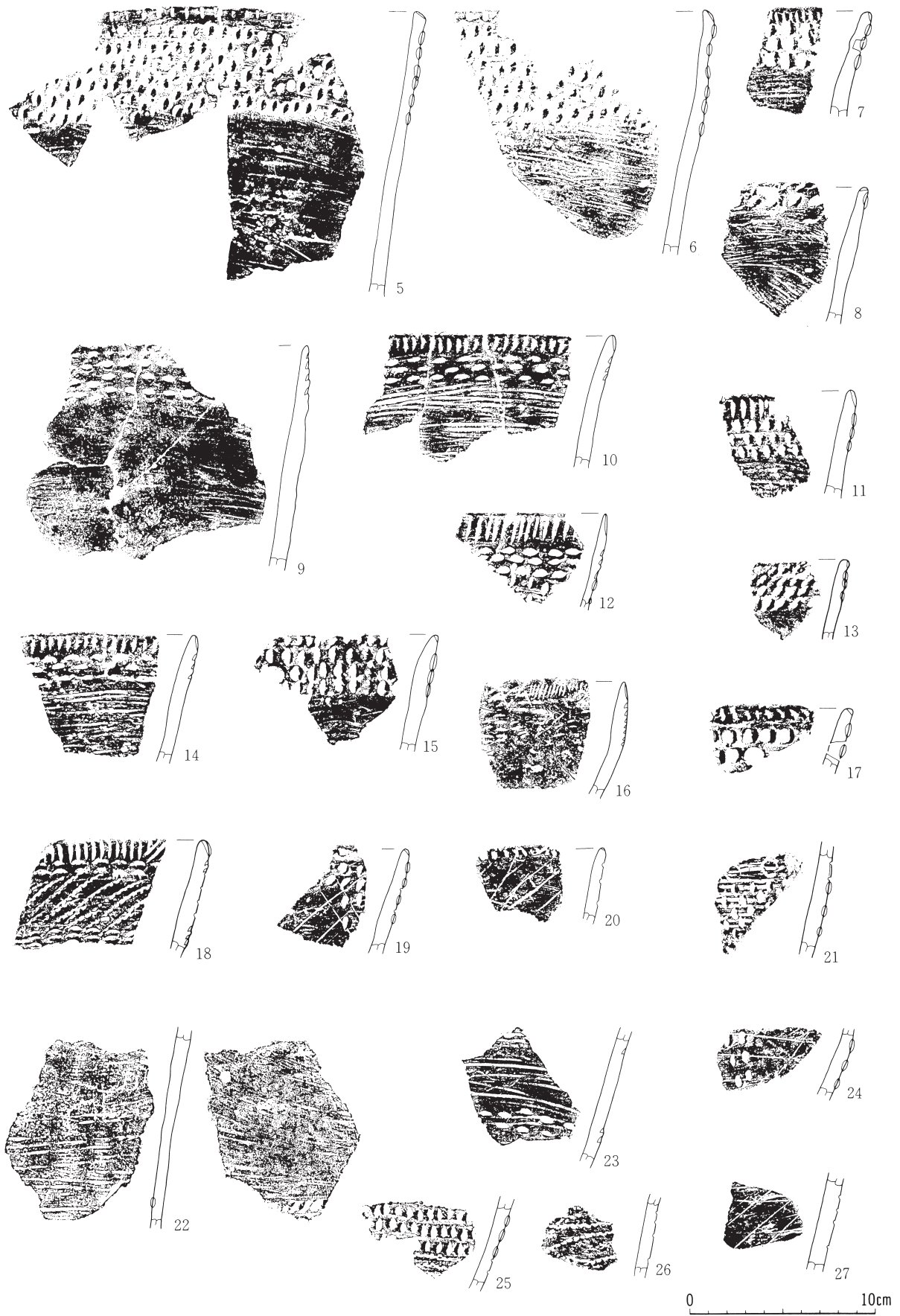


图69 第5号住居迹出土遺物③

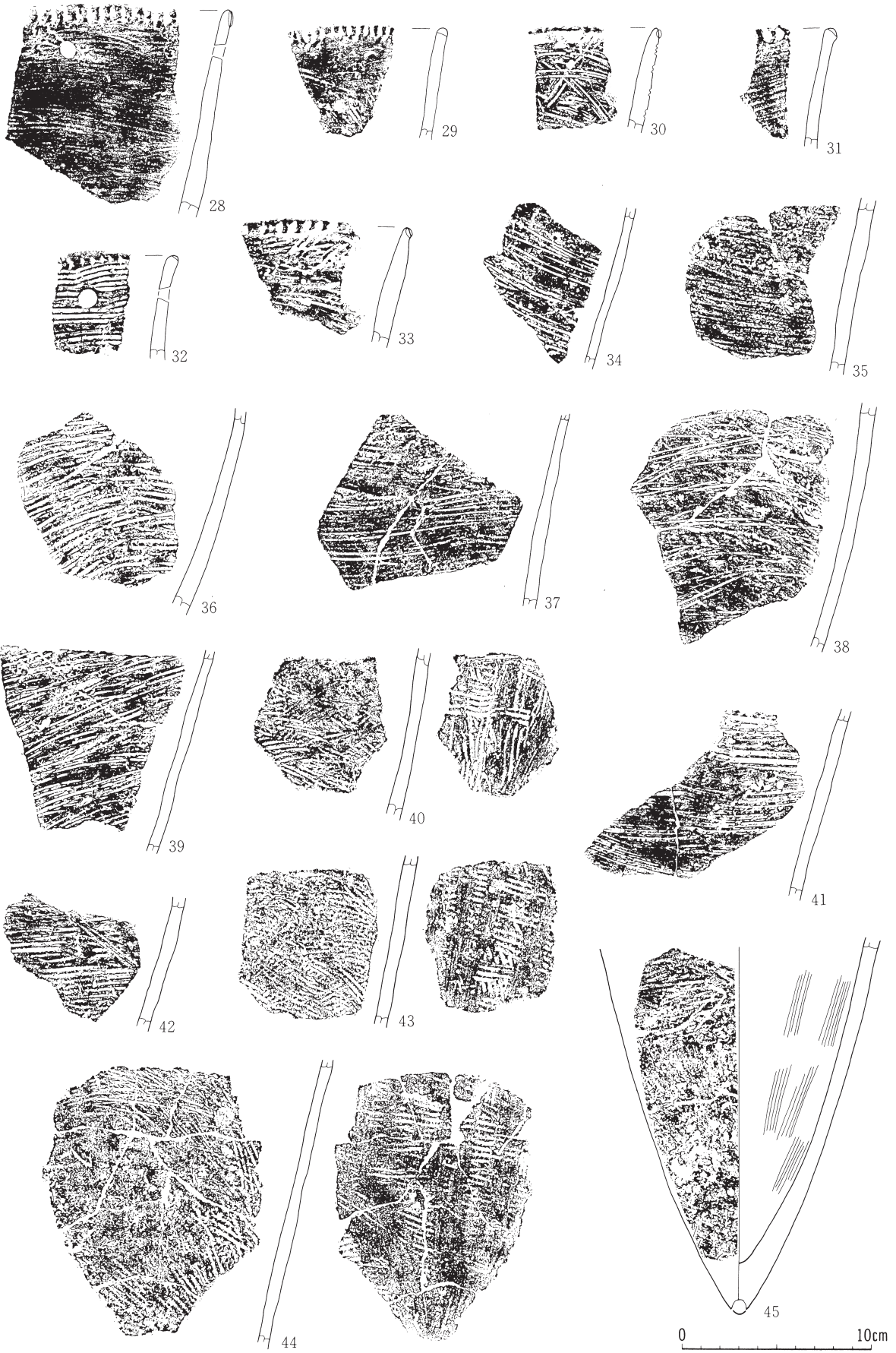


图70 第5号住居迹出土遺物④

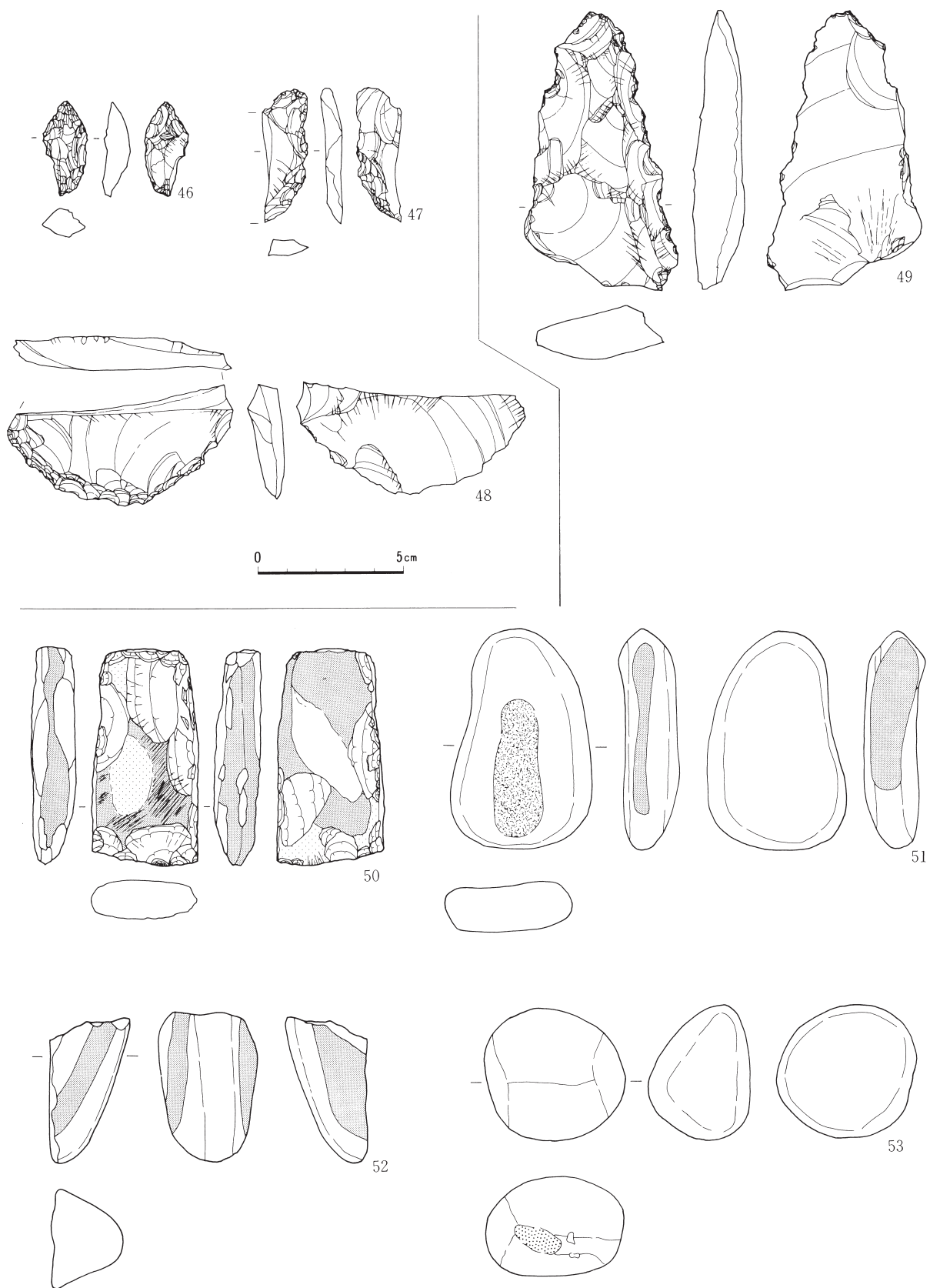


图71 第5号住居跡出土遺物⑤

表29 第5号住居跡出土土器観察表(2)

図版番号	層位	分類	部位	文様	刻目	備考
図69-5	1層	I-2-a	口縁	縦爪6段	上	33と同一個体
図69-6	覆土	I-2-a	口縁	縦爪6段	上	34と同一個体
図69-7	1層	I-2-a	口縁	縦爪3段、内瘤(φ7.0mm)	斜	1と同一個体
図69-8	2層	I-2-a	口縁	縦爪1段	上	
図69-9	覆土	I-2-a	口縁	横爪4段		
図69-10	1層	I-2-a	胴	横爪3段	横	
図69-11	覆土	I-2-a	口縁	縦爪3段	横	
図69-12	覆土	I-2-a	口縁	縦爪、横爪	横	
図69-13	覆土	I-2-a	口縁	縦爪3段	横	
図69-14	覆土	I-2-a	口縁	横爪3段	横	
図69-15	覆土	I-2-a	口縁	縦爪3段	上	補修孔有り
図69-16	2層	I-2-a	口縁	横爪	横	頸部内湾
図69-17	確認面	I-2-a	口縁	縦爪	斜	補修孔有り
図69-18	覆土	I-2-b	口縁	横爪・斜位貝殻腹縁文(層状)	横	
図69-19	覆土	I-2-c	口縁	縦爪縦位、沈線(格子目状)	斜	24と同一個体
図69-20	2層	I-4	口縁	斜位沈線	上	
図69-21	確認面	I-1-a	胴	円形刺突(φ8.0mm)、縦爪		
図69-22	1層	I-2-a	胴	縦爪		
図69-23	1層	I-2-a	胴	横爪		
図69-24	覆土	I-2-c	胴	縦爪、沈線(格子目状)		19と同一個体
図69-25	覆土	I-2-b	胴	縦爪3段・貝殻腹縁文(層状)		
図69-26	確認面	I-2-a	胴	貝殻腹縁文		
図69-27	覆土	I-4	胴	沈線(格子目状)		
図70-28	2層	I-6-a	口縁	無文	横	補修孔有り
図70-29	覆土	I-6-a	口縁	無文	上	
図70-30	覆土	I-6-a	口縁	無文	横	貝殻条痕(格子目状)
図70-31	覆土	I-6-a	口縁	無文	上	
図70-32	覆土	I-6-a	口縁	無文	上	補修孔有り
図70-33	1層	I-6-a	口縁	無文	斜	
図70-34	覆土	I	胴	無文		
図70-35	覆土	I	胴	無文		
図69-36	覆土	I	胴	無文		
図70-37	1層	I	胴	無文		
図70-38	1層	I	胴	無文		
図70-39	覆土	I	胴	無文		
図70-40	確認面	I	胴	無文		内面：貝殻背圧痕
図70-41	覆土	I	胴	無文		
図70-42	覆土	I	胴	無文		
図70-43	覆土	I	胴	無文		内面：貝殻背圧痕
図70-44	覆土	I	胴	無文		
図70-45	覆土	I-7	胴-底	無文		

表30 第5号住居跡出土石器観察表

図版番号	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材	備考
図71-46	2層	不定形石器	32.5	(15.0)	11.0	3.5	珪質頁岩	石鏃の未製品
図71-47	2層	不定形石器	46.2	(15.4)	6.0	4.6	珪質頁岩	石匙の未製品
図71-48	覆土	不定形石器	(40.0)	78.0	12.0	33.9	珪質頁岩	片縁鋸齒縁状加工
図71-49	覆土	不定形石器	144.0	79.0	27.0	240.5	珪質頁岩	上部欠損
図71-50	2層	磨製石斧	140.0	55.0	23.0	250.9	緑色細粒凝灰岩	擦痕・磨耗痕を有する
図71-51	確認面	敲磨器	150.0	96.0	37.0	777.0	安山岩	a類、側面擦り、表面磨き
図71-52	1層	敲磨器	(74.0)	(41.0)	51.0	368.5	安山岩	c類、両面中央を擦り
図71-53	床面	敲磨器	68.0	72.0	51.0	323.3	安山岩	c類、敲き痕を有する

2 溝状土坑

B区から溝状土坑は58基検出された。以下の基準を基に観察表を作成した。なお、第Ⅱ章・第Ⅲ章の溝状土坑観察表も当基準に基づくものである。

- [計測値] 長軸上場、長軸下場、短軸上場、深さ (単位cm)
- [長軸方向] エレベーションラインを取った部分を長軸として測った
- [平面形状] A 幅が狭く、細長いもの
B 幅が広いもの
C 両端が広がるもの
- [長軸断面形状] A 開口部と底面の幅がほぼ同じもの
B 開口部より底面が狭いもの
C 開口部より底面が広いもの
- [短軸断面形状] A 開口部から底面まで一様に傾斜するもの、垂直なもの
B 途中で傾斜角度が狭くなるもの
C 開口部より底面が広がるもの
- [堆積土] 自然 混じりの少ない黒色土
人為 確認面で黒色土中にローム粒が全体に混じるもの

形状

A-A-A型が23基である。平面形C型4基、長軸断面が広がるB型は17基である。断面形はA型が最も多い。短軸の幅は上場が22～90cmと規格にばらつきがあるが、短軸底面は幅が10cm～30cmと先細り形の土坑が多い。大きさは長さ3m～4m前後まで、深さも30cmから1mを超えるものまでと土坑規模は多様である。

配列状態

溝状土坑はグリッドライン190～195、223～231、236～242間の比較的傾斜の緩やかな部分に集中する。緩斜面の等高線に直交する方向、NW-S E方向を長軸とした土坑が大半をしめる。土坑は1.5～2m以上の間隔をあけて2または3列をなしている。グリッド150～175間は標高12m前後の平坦地である。この間の溝状土坑の配列は不規則である。

堆積土

自然堆積42基、人為堆積16基である。断面形状から自然の崩落によるものは少ない。

構築時期

早期中葉以降と考えられる。

表31 溝状土坑観察表

No	グリット	長軸上(下)×短軸×深さ	長軸方向	平面形	長軸断	短軸断	堆積土	出土遺物	備 考
3	B-169・170	397(369)×67×124	W-E	B	B	B	自然	石器、土器	
4	E-171	263(263)×22×79	NW-SE	A	A	A	自然	土器	
5	C-186・187	406(397)×45×117	W-E	A	A	A	自然		
6	E-213・214	295(290)×54×147	NW-SE	A	C	A	自然	土器	
7	E-219・220	332(325)×31×76	W-E	A	A	A	自然		
8	C-201・202	332(340)×45×99	NW-SE	B	C	A	人為		
9	C-200・201	314(300)×54×120	NW-SE	C	B	A	人為		
10	C-199・200	313(275)×31×72	NW-SE	A	A	A	人為		
11	B-119・200	380(380)×39×130	NW-SE	A	A	A	人為		
12	F-168・169	318(276)×26×94	NW-SE	A	B	A	自然	土器	
13	B-125,C-151・152	392(376)×39×113	W-E	A	A	A	自然		
14	D-170・171	450(373)×42×125	W-E	A	A	A	自然	石器、土器	
15	B-156・157	414(377)×46×140	W-E	A	A	A	自然		
16	B-172	317(266)×50×99	NW-SE	A	B	B	自然	土器	
17	D・E-190,D・E-191	388(348)×66×122	W-E	B	B	B	自然	石器、土器	
18	D-191・192	342(320)×50×110	NW-SE	A	A	A	自然	土器	
19	C・D-192,D-193	324(304)×60×123	W-E	B	A	A	自然	土器	
20	E-192・193	297(285)×42×105	NW-SE	B	A	A	自然	土器	
21	E-193・194	436(466)×69×180	NW-SE	B	C	A	人為	土器	
22	C-192・193	395(355)×68×144	NW-SE	A	B	A	人為	石器、土器	
23	F-190・191	391(344)×61×125	NW-SE	B	A	B	自然	土器	
24	C-190・191	371(344)×60×125	NW-SE	A	A	B	自然		
25	C・D-193,D-194	450(427)×82×190	NW-SE	B	A	A	人為		
26	F-193・194	408(393)×81×164	NW-SE	B	C	C	人為	土器	
27	F-192・193	323(277)×49×118	NW-SE	A	B	A	人為	石器、土器	
28	Z・A-230・231	427(450)×29×63	NW-SE	C	C	A	人為		
29	B-230	421(397)×60×157	NW-SE	A	A	B	自然		
30	B-229・230	357(349)×61×147	NW-SE	A	A	A	自然	土器	
31	B・C-230	339(361)×40×117	NW-SE	A	C	A	自然		
32	Z-229・230	325(310)×32×148	NW-SE	A	A	A	自然		
33	B-223・224	328(349)×38×90	W-E	A	C	A	自然		
34	D-226・227	331(346)×47×122	W-E	A	C	A	人為		
35	C-227・228	359(394)×55×120	NW-SE	A	C	A	自然		
36	B-240・241	362(307)×52×144	NW-SE	A	B	B	自然	石器	
37	Z-240・241	349(310)×49×119	NW-SE	A	A	B	自然	石器	
38	A-241・242	321(288)×41×123	NW-SE	A	B	B	自然		
39	Z・A-239,Z・A-240	393(376)×53×147	NW-SE	A	C	B	自然		40Tを切っている
40	Z-239・240	252(278)×32×70	W-E	A	A	A	自然		39Tに切られている
41	Y-238・239	361(374)×42×129	W-E	A	C	A	人為	石器	42Tに切られている
42	Y-237・238	324(330)×35×66	NW-SE	A	C	A	自然	石器	41Tを切っている
43	Y-236・237	342(296)×34×135	NW-SE	A	B	A	自然		
44	Z・A-238	368(379)×41×128	NW-SE	A	C	A	自然		
45	A-237・238	332(321)×60×139	NW-SE	A	A	A	人為		54Tと切り合う
46	B-237	259(252)×74×135	W-E	A	A	B	人為		
47	D-227・228	338(362)×42×94	W-E	A	C	A	自然	石器、土器	
48	D・E-228	290(259)×42×108	W-E	A	B	A	人為	石器	
49	D-228・229	342(322)×37×126	NW-SE	A	A	A	自然	石器	
50	D-228・229	407(438)×41×78	W-E	C	C	A	自然		
51	A-228・229	294(268)×57×163	NW-SE	A	A	A	自然		
52	Y-236・237	197(215)×90×97	W-E	B	C	B	自然		
53	X-239・240	396(371)×29×108	W-E	A	A	A	自然		
54	A-237	176(177)×46×85	NW-SE	C	A	C	人為		45Tと切り合う
55	Y-238,239	375(390)×46×78	NW-SE	A	C	A	自然		
56	Y・Z-237	178(166)×31×136	W-E	A	C	A	自然		
57	F-174・175	397(376)×49×133	W-E	A	A	A	自然	土器	
58	D-181	337(317)×50×125	W-E	B	A	A	自然		
59	B-179	347(328)×64×150	W-E	B	A	A	自然		
60	B-230・231	109(84)×63×147	NW-SE	A	B	A	自然		

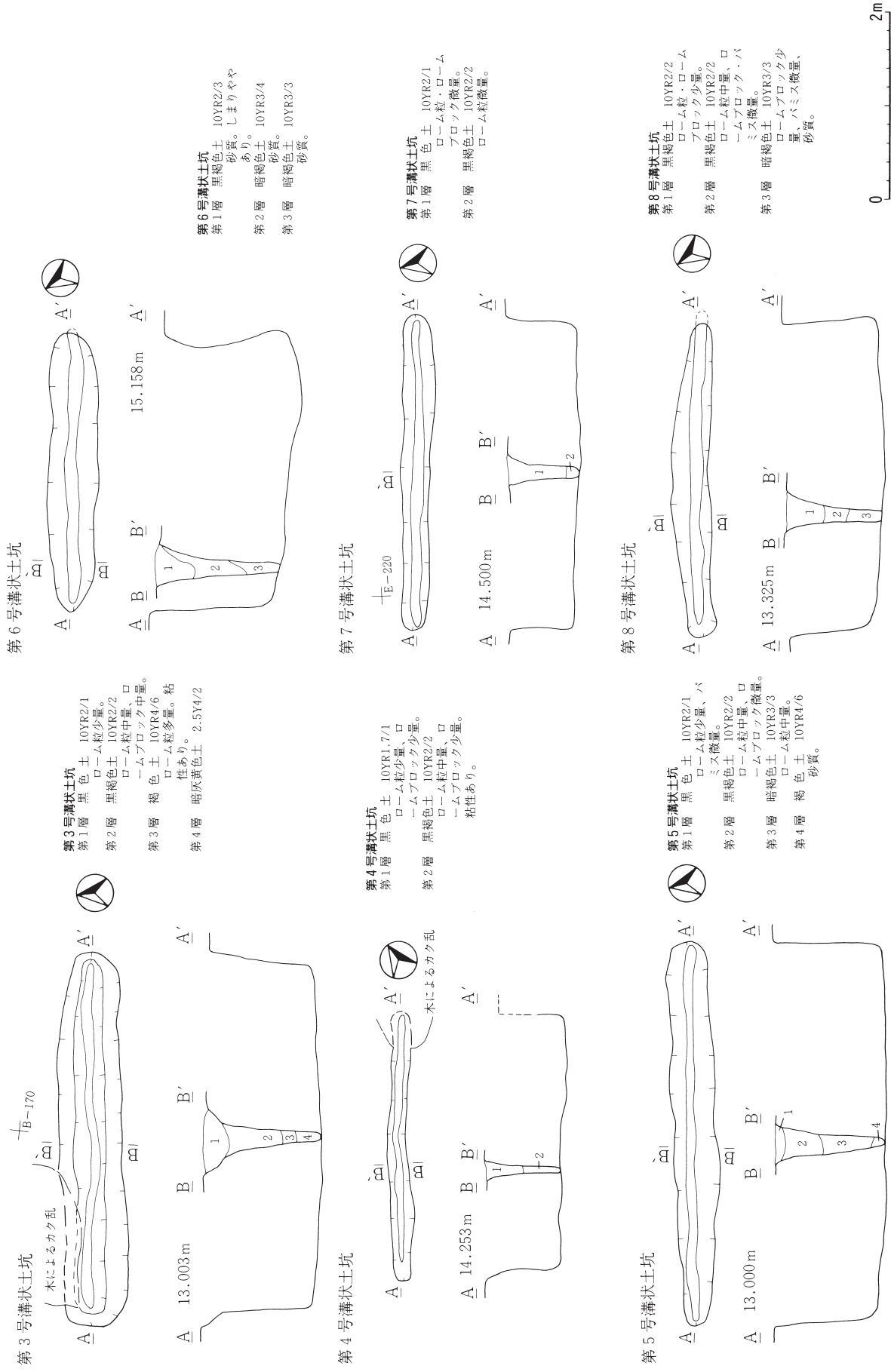
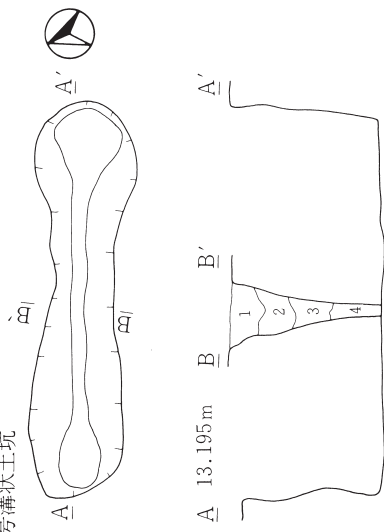


図72 溝状土坑 (1) [3 T ~ 8 T]

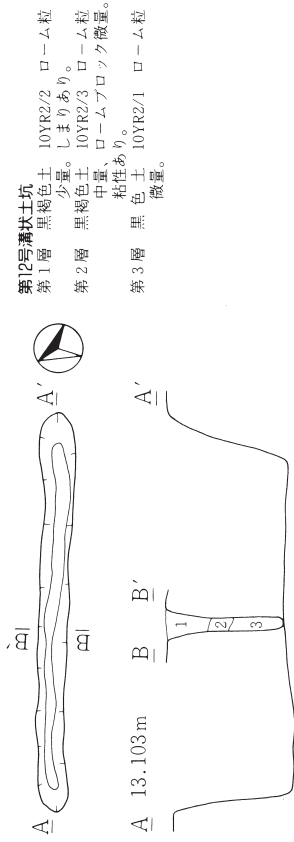


第9号溝状土坑



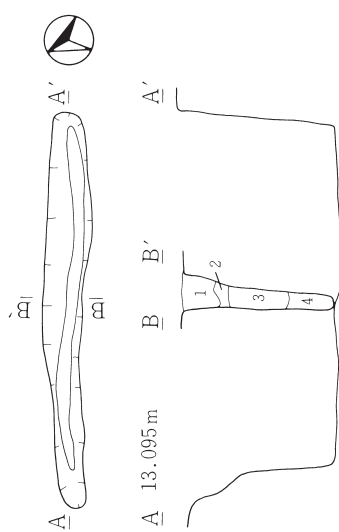
- 第9号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、パミス微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量、パミス微量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ロームプロック多量、粘土粒微量。
 第4層 褐色土 10YR4/6 ロームプロック微量、砂質。

第12号溝状土坑



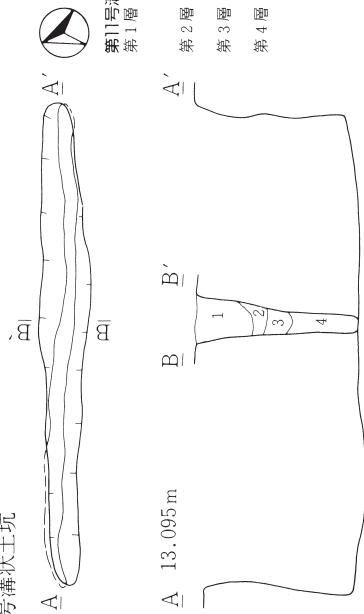
- 第12号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量。しまりあり。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、ロームプロック微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒微量。

第10号溝状土坑



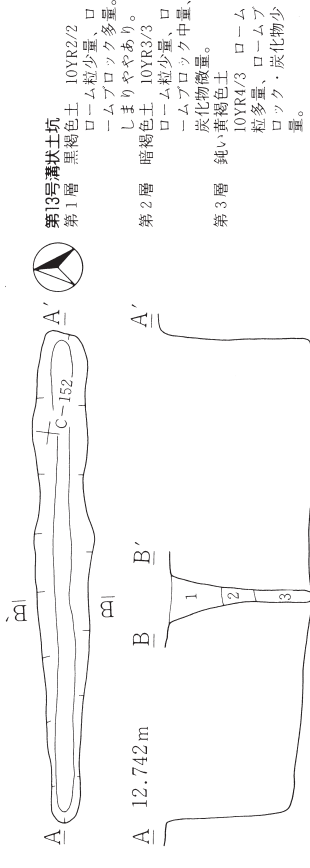
- 第10号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒、ロームプロック、パミス微量。しまりあり。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームプロック微量。粘性あり。
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量、粘土粒多量。
 第4層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム粒微量、砂質。

第11号溝状土坑



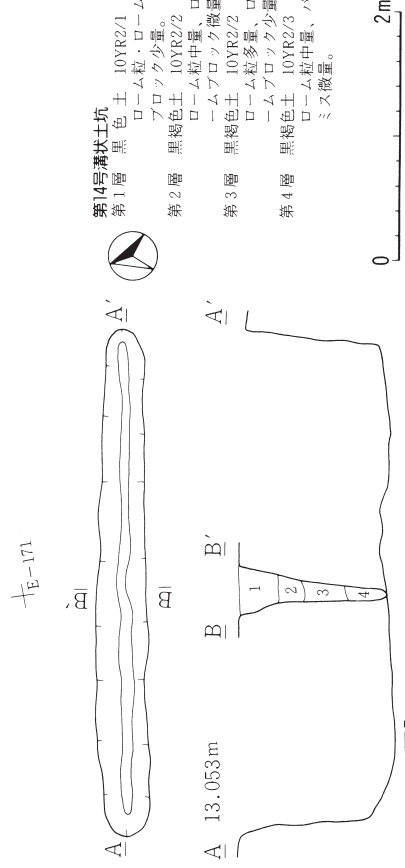
- 第11号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒、ロームプロック少量、パミス微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。
 第3層 明黄褐色土 10YR6/8 ローム主体。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、パミス微量。

第13号溝状土坑



- 第13号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームプロック多量。しまりややあり。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、ロームプロック中量、炭化物微量。
 第3層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム粒多量、ロームプロック・炭化物少量。

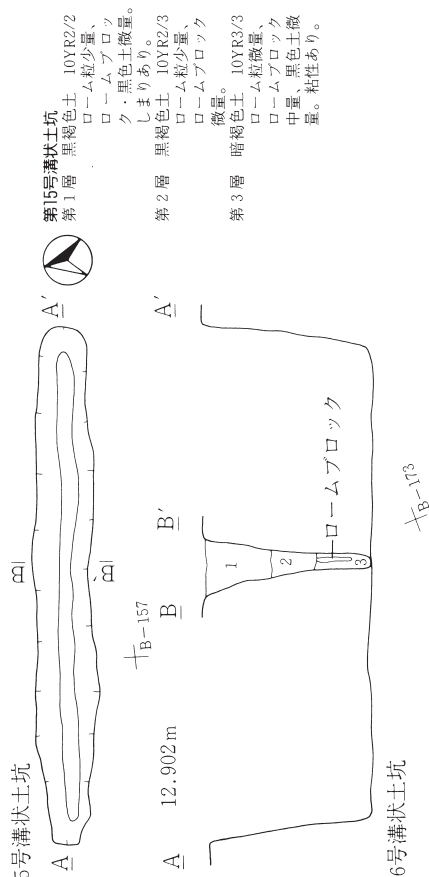
第14号溝状土坑



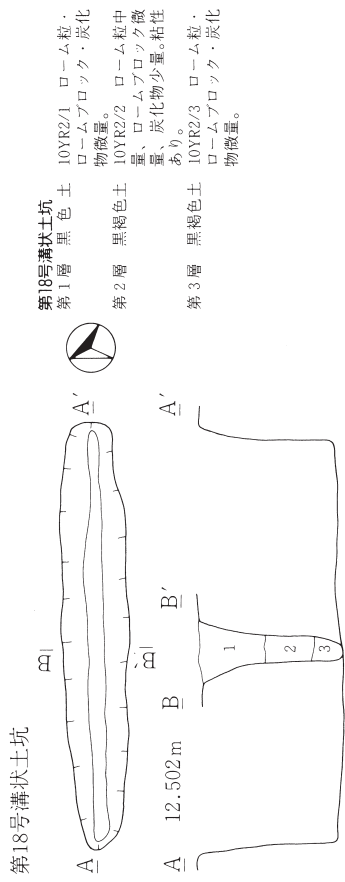
- 第14号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒、ロームプロック少量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームプロック微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量、ロームプロック少量。
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、パミス微量。

図73 溝状土坑 (2) [9T~14T]

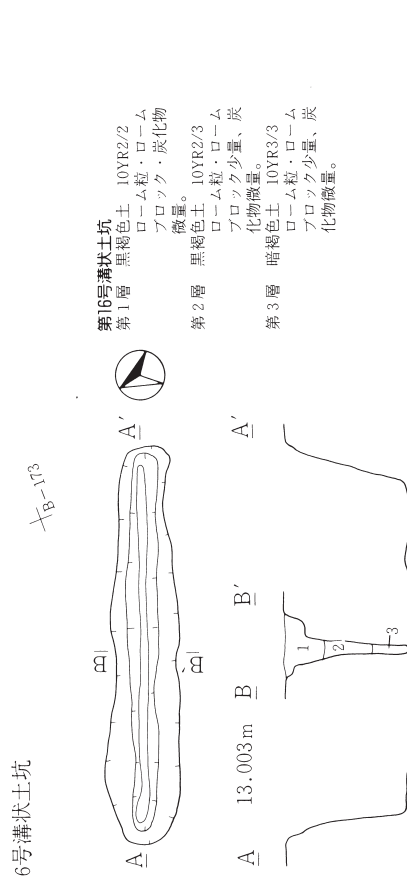
第15号溝状土坑



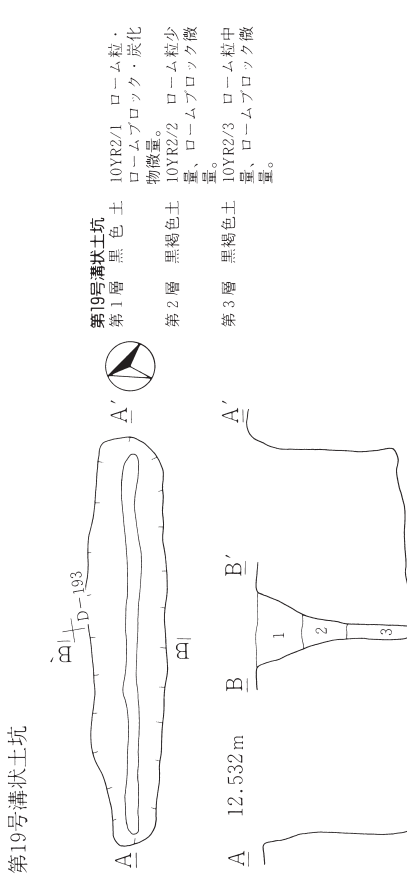
第18号溝状土坑



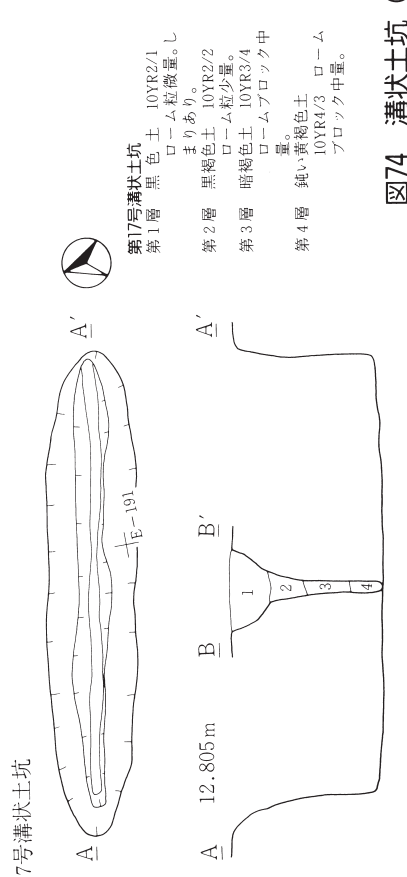
第16号溝状土坑



第19号溝状土坑



第17号溝状土坑



第20号溝状土坑

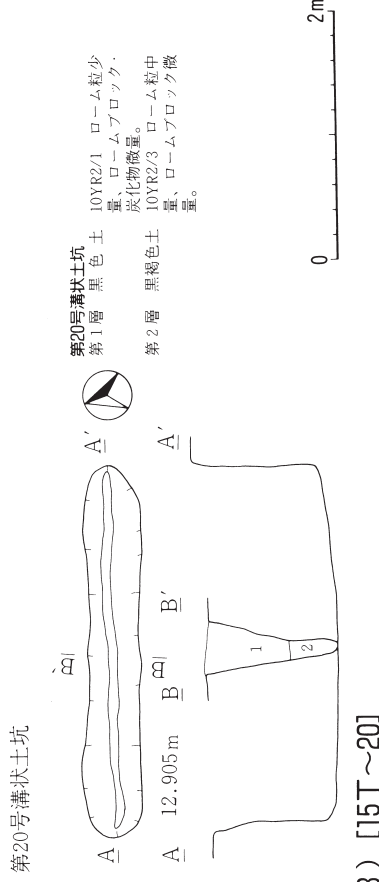
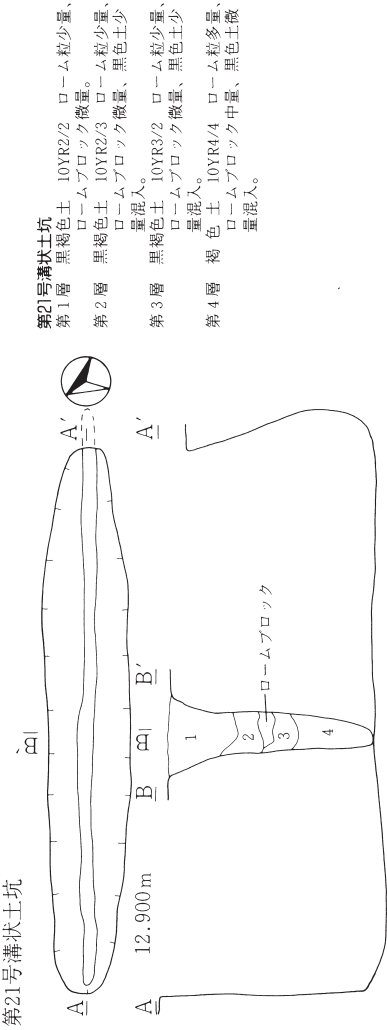


図74 溝状土坑 (3) [15T~20]

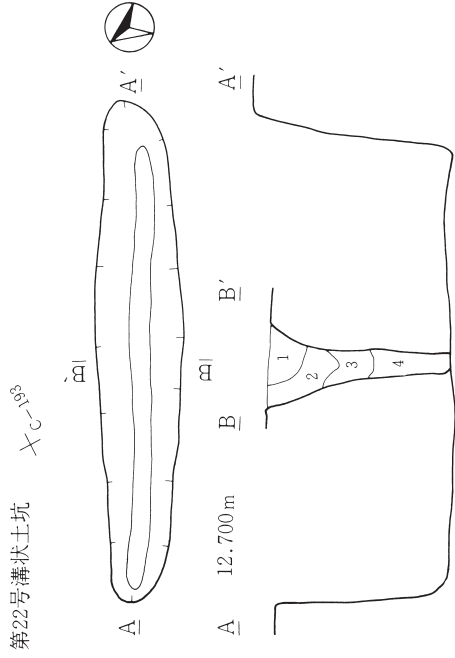


第21号溝状土坑



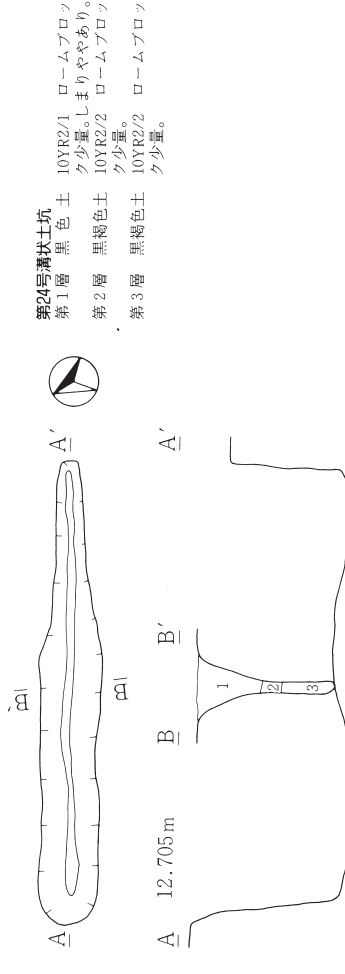
第21号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、ロームブロック微量、黒色土少量混入。
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック微量、黒色土少量混入。
 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、ロームブロック中量、黒色土微量混入。

第22号溝状土坑



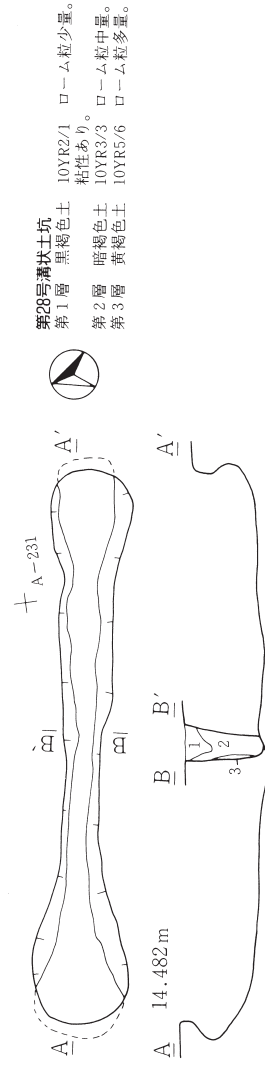
第22号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・ロームブロック・炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物微量、黒色土少量混入。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、ロームブロック微量。

第24号溝状土坑



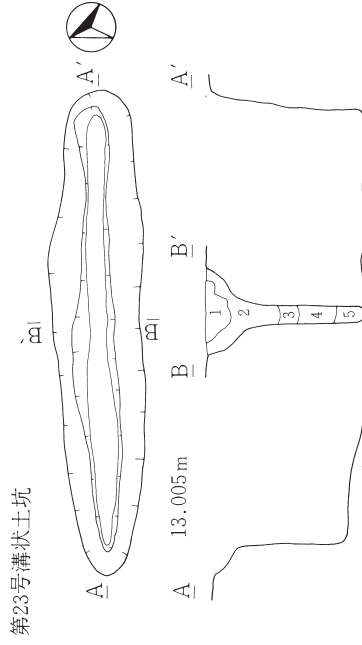
第24号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック少量、しまりややあり。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック少量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック少量。

第28号溝状土坑



第28号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒少量、粘性あり。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒多量。

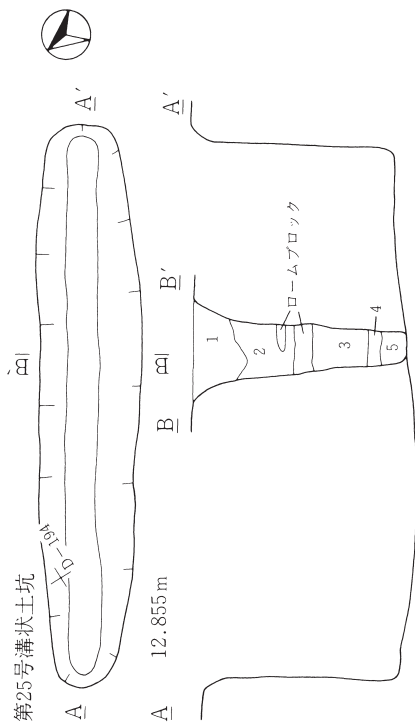
第23号溝状土坑



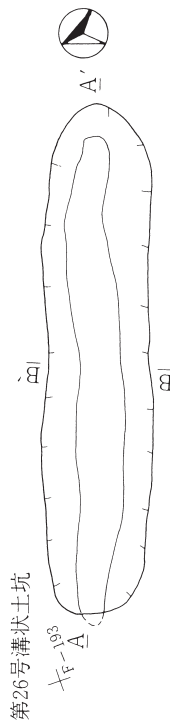
第23号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・ロームブロック微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック多量、黒色土微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量。
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム・ロームブロック中量。
 第5層 黒色土 10YR2/3 ローム粒・ロームブロック少量、黒色土少量混入。



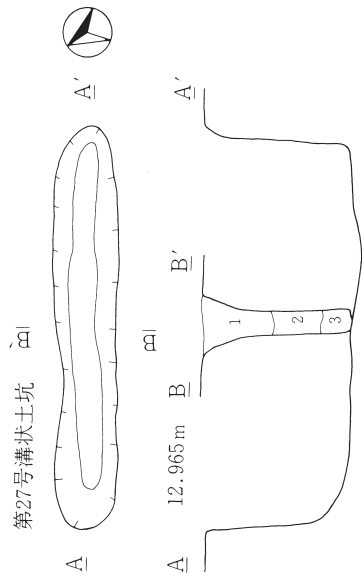
図75 溝状土坑 (4) [21T~24T、28T]



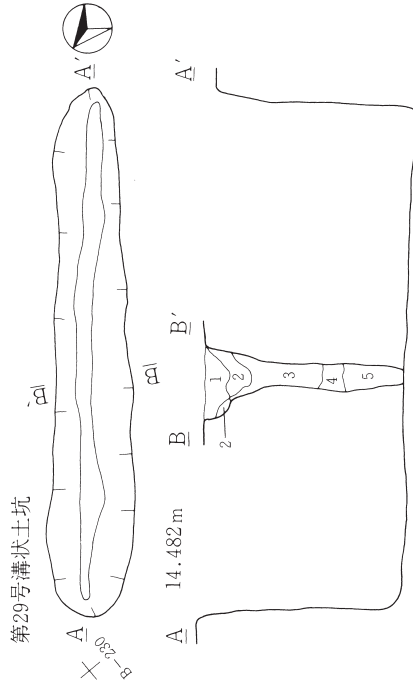
第25号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームブロック混入、炭化物微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック混入。し
 第4層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック微量、砂質。
 第5層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム粒中量、黒色土多量混入。



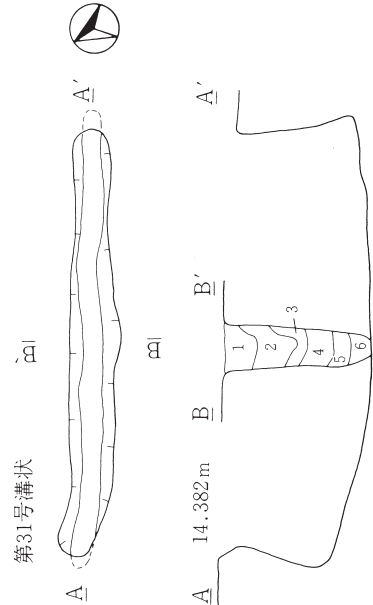
第26号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック中量。
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量、ロームブロック中量、炭化物微量。
 第3層 黒色土 10YR2/1



第27号溝状土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒、ロームブロック少量、炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒、ロームブロック少量、炭化物微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化物微量。



第29号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒、ロームブロック微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、ロームブロック混入、ローム粒、ロームブロック微量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ミス微量、粘土ブロック混入。
 第5層 黒褐色土 10YR3/2 黒色土混入、砂質。

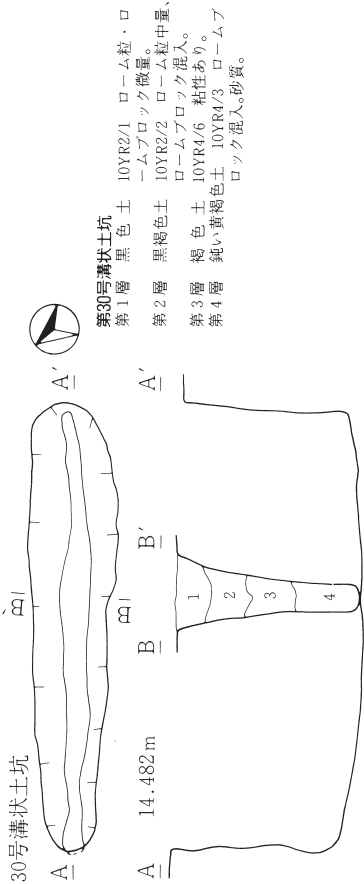


第31号溝状土坑
 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒、ロームブロック微量。し
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、粘土ブロック微量、粘性あり。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒、バミス微量、砂質。
 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量、粘土粒微量。
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、ロームブロック微量、砂質。
 第6層 暗褐色土 10YR3/4 しまりあり、砂質。

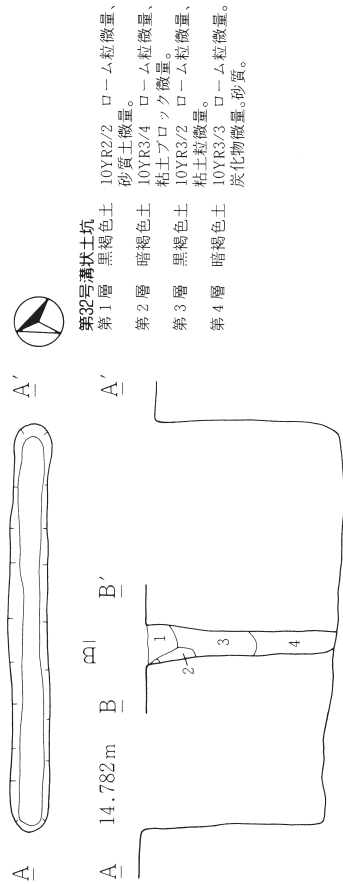


図76 溝状土坑 (5) [25T~27T、29T、31T]

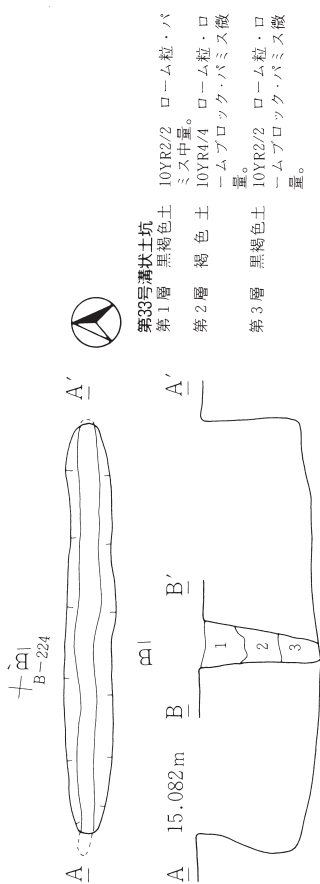
第30号溝状土坑



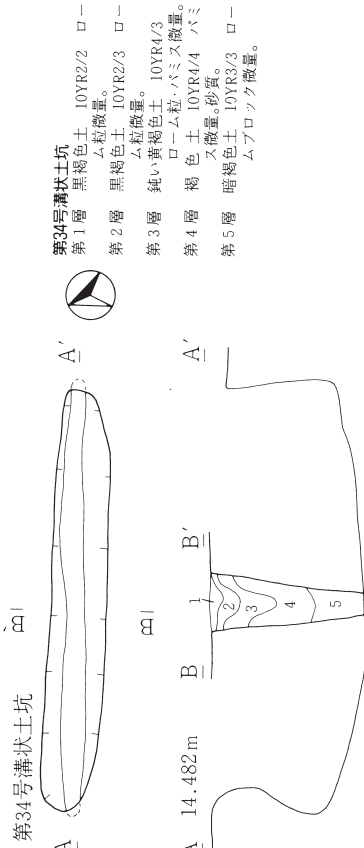
第32号溝状土坑



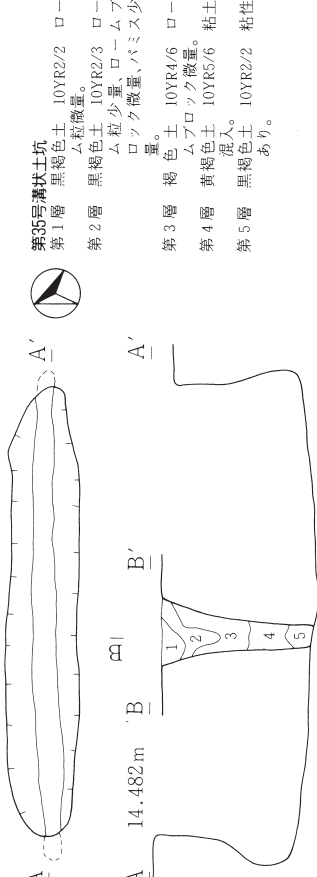
第33号溝状土坑



第34号溝状土坑



第35号溝状土坑



第36号溝状土坑

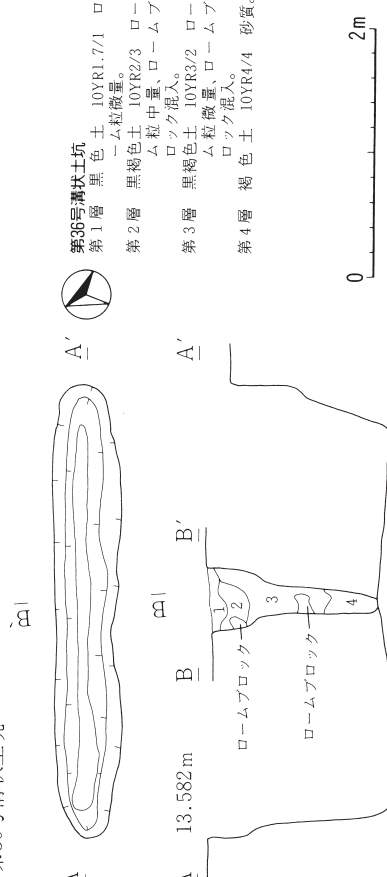
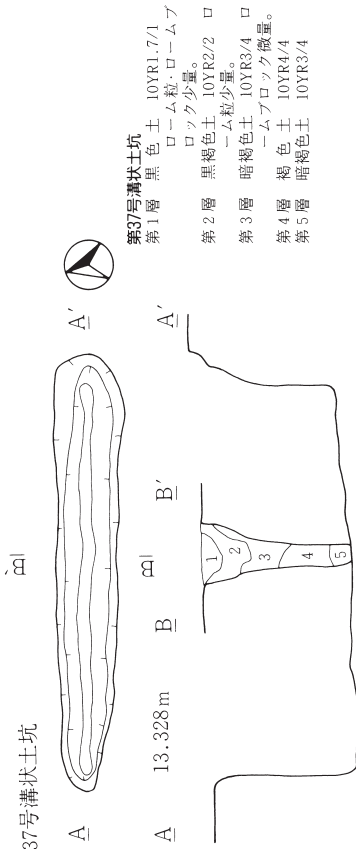


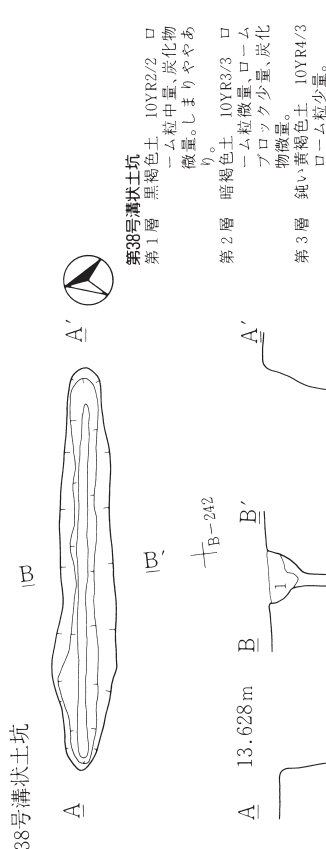
図77 溝状土坑 (6) [30T、32T~36T]



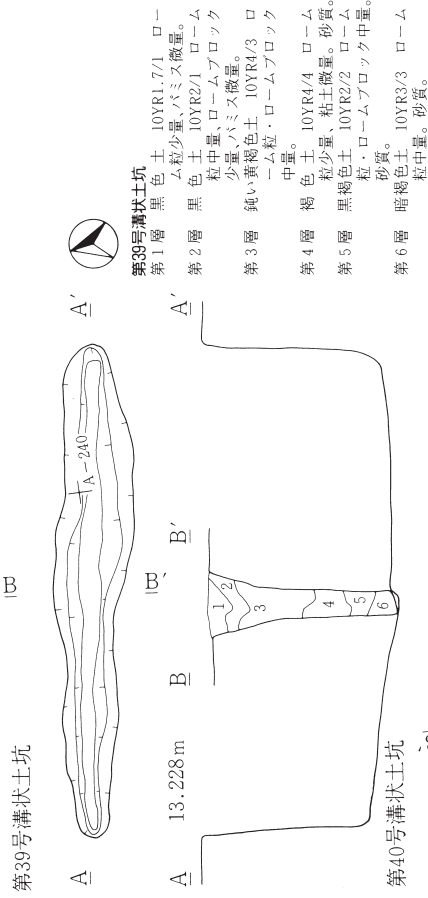
第37号溝状土坑



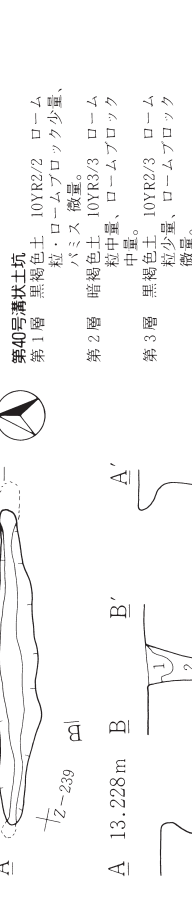
第38号溝状土坑



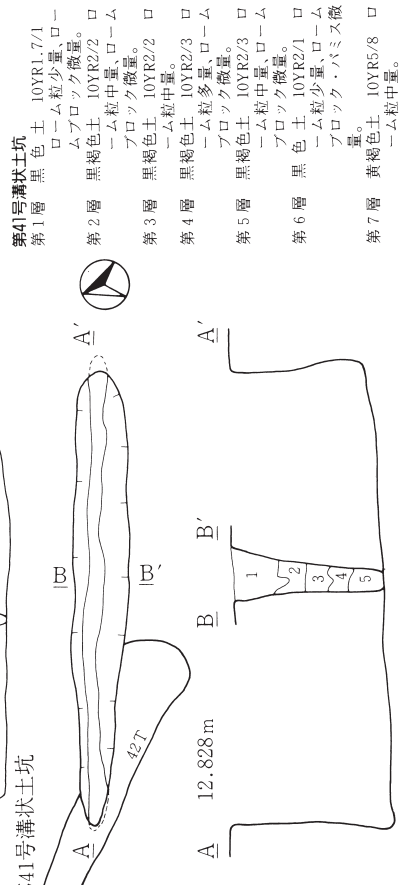
第39号溝状土坑



第40号溝状土坑



第41号溝状土坑



第42号溝状土坑

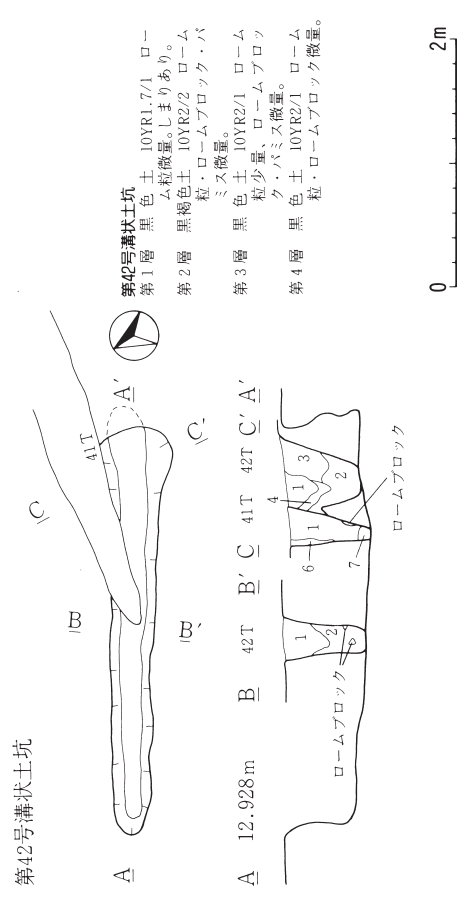
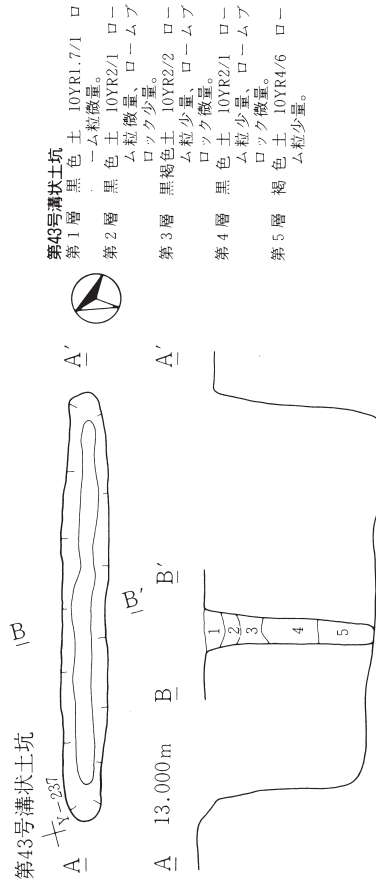
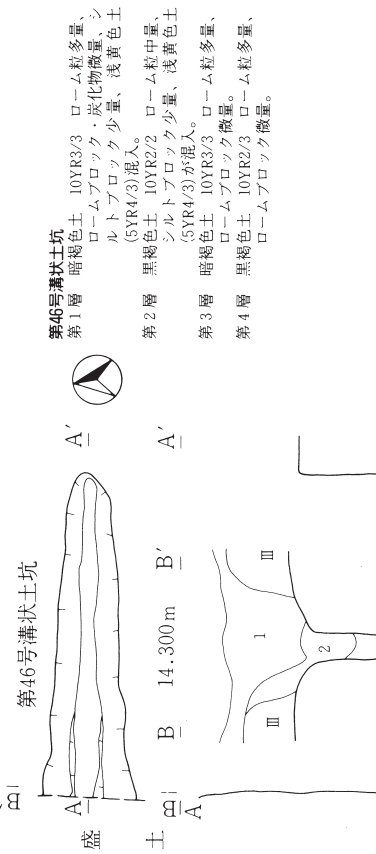


図78 溝状土坑 (7) [37T~42T]

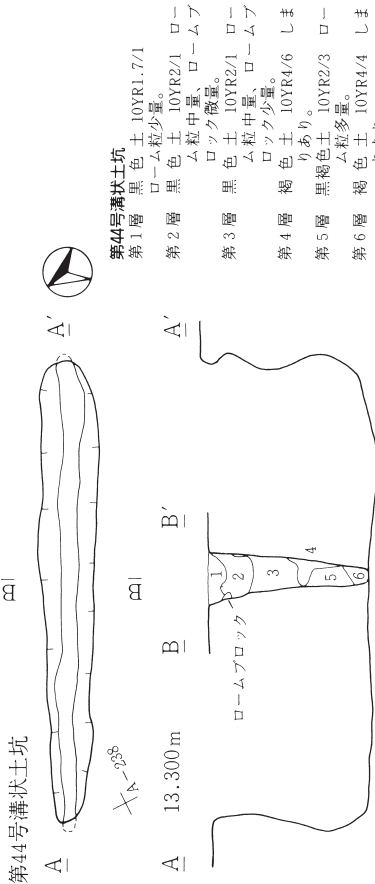
第43号溝状土坑



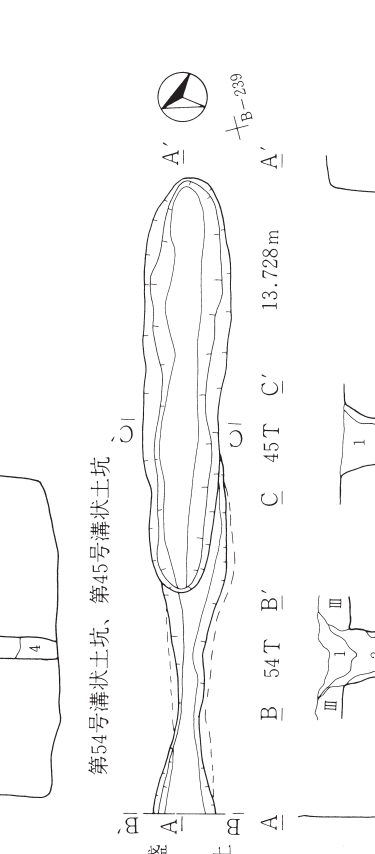
第46号溝状土坑



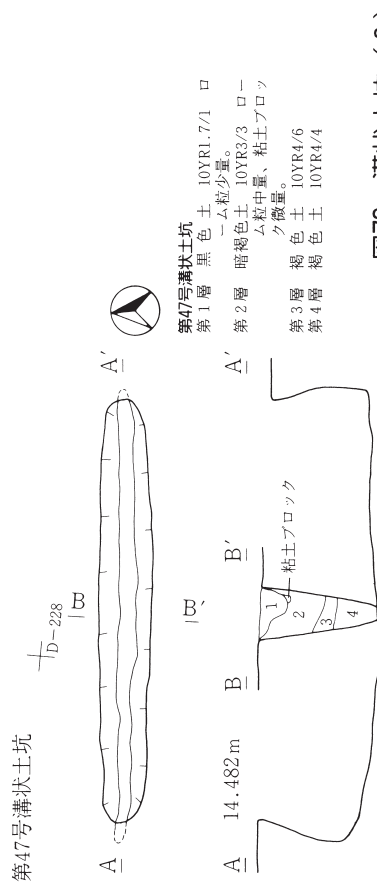
第44号溝状土坑



第54号溝状土坑、第45号溝状土坑



第47号溝状土坑



第54号溝状土坑

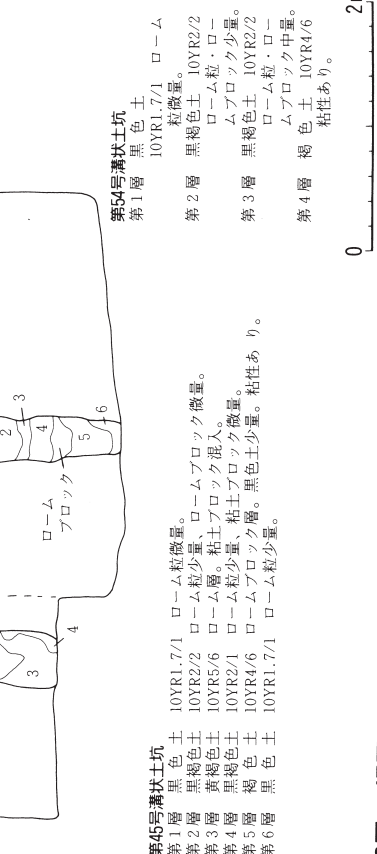


図79 溝状土坑 (8) [43T~47T、54T]

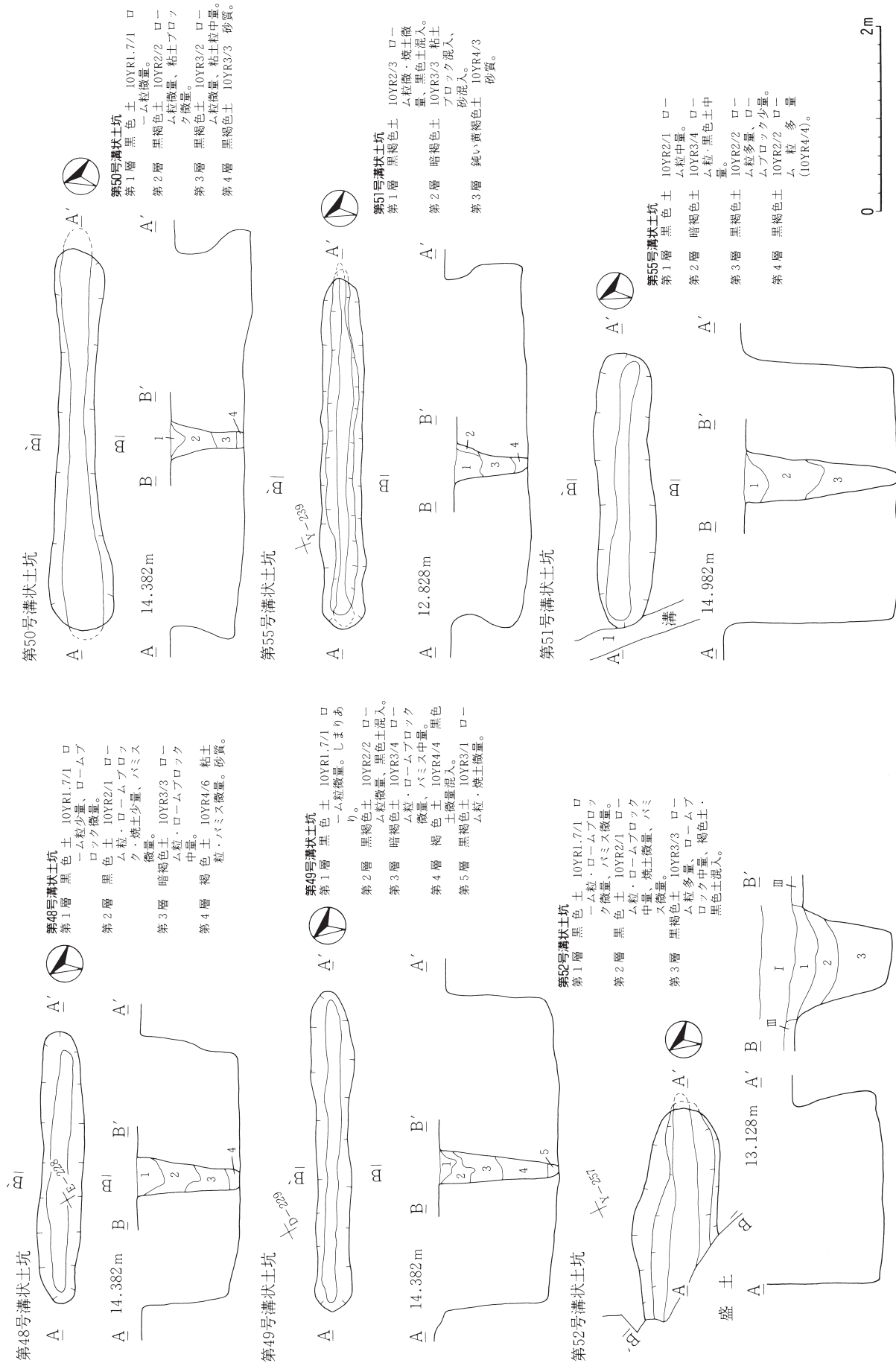
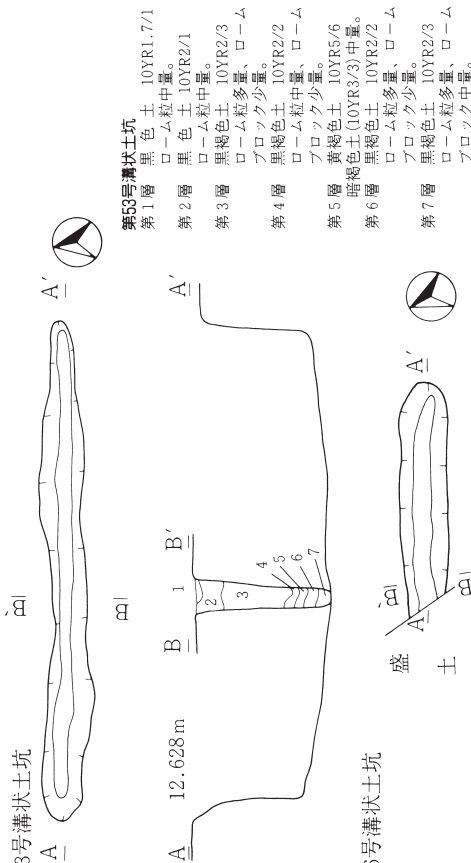


図80 溝状土坑 (9) [48T~52T、55T]

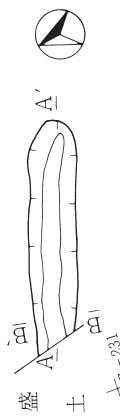
第53号溝状土坑



第53号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒中量。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、ロームブロック少量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームブロック少量。
- 第5層 黄褐色土 10YR5/6 暗褐色土(10YR3/3)中量。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量、ロームブロック少量。
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、ロームブロック中量。

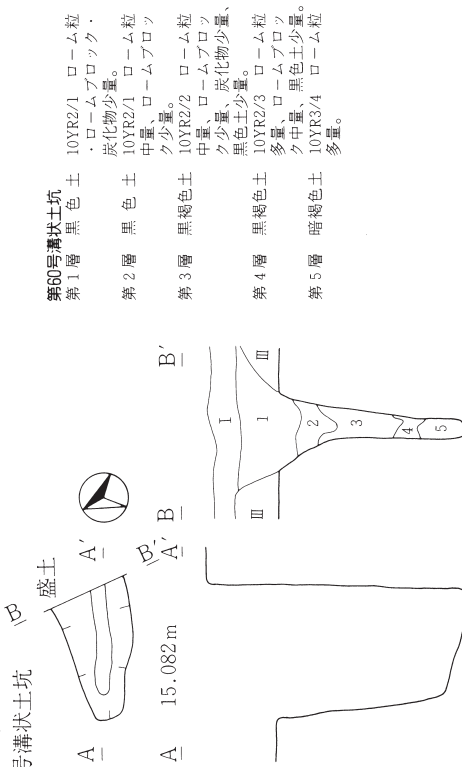
第56号溝状土坑



第56号溝状土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームブロック微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、炭化物微量。

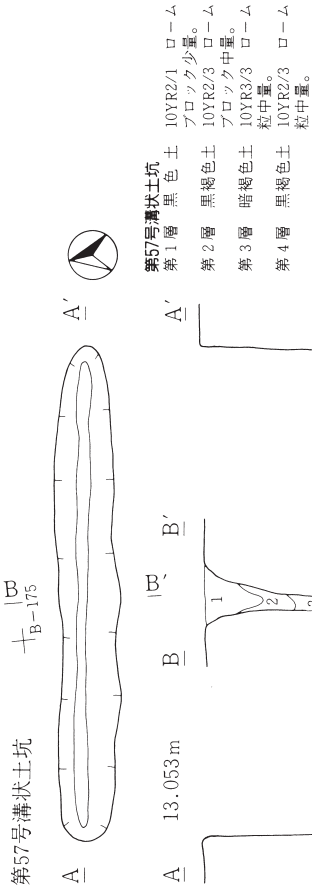
第60号溝状土坑



第60号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒、ロームブロック、炭化物少量。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量、ロームブロック少量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化物少量、黒色土少量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、ロームブロック中量、黒色土少量。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量。

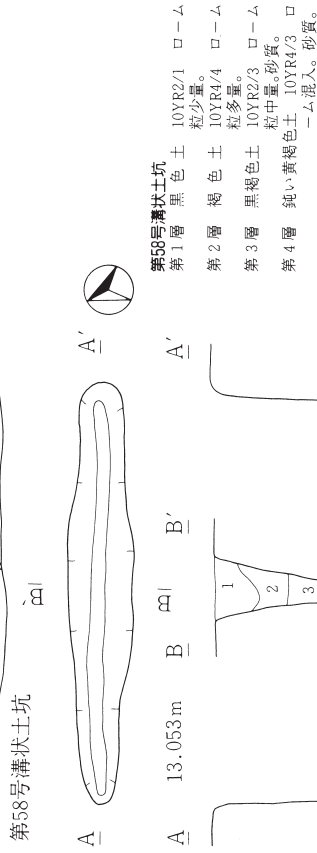
第57号溝状土坑



第57号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック中量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量。

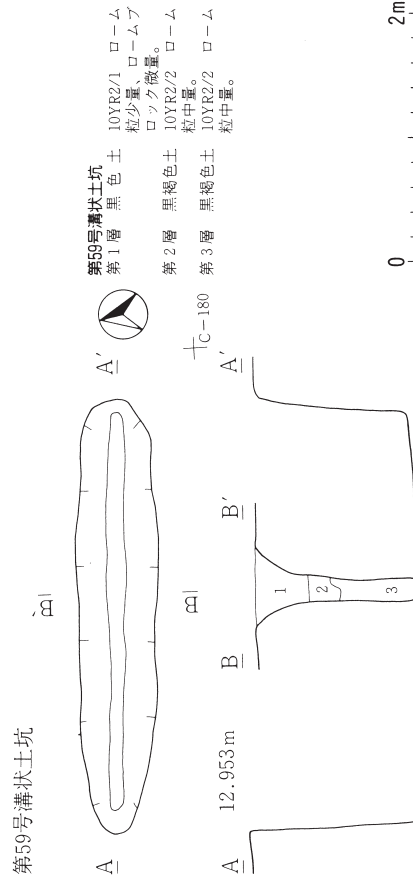
第58号溝状土坑



第58号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、砂質。
- 第4層 鈍い黄褐色土 10YR4/3 ローム混入。砂質。

第59号溝状土坑



第59号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量、ロームブロック微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。

図81 溝状土坑 (10) [53T、56~60T]



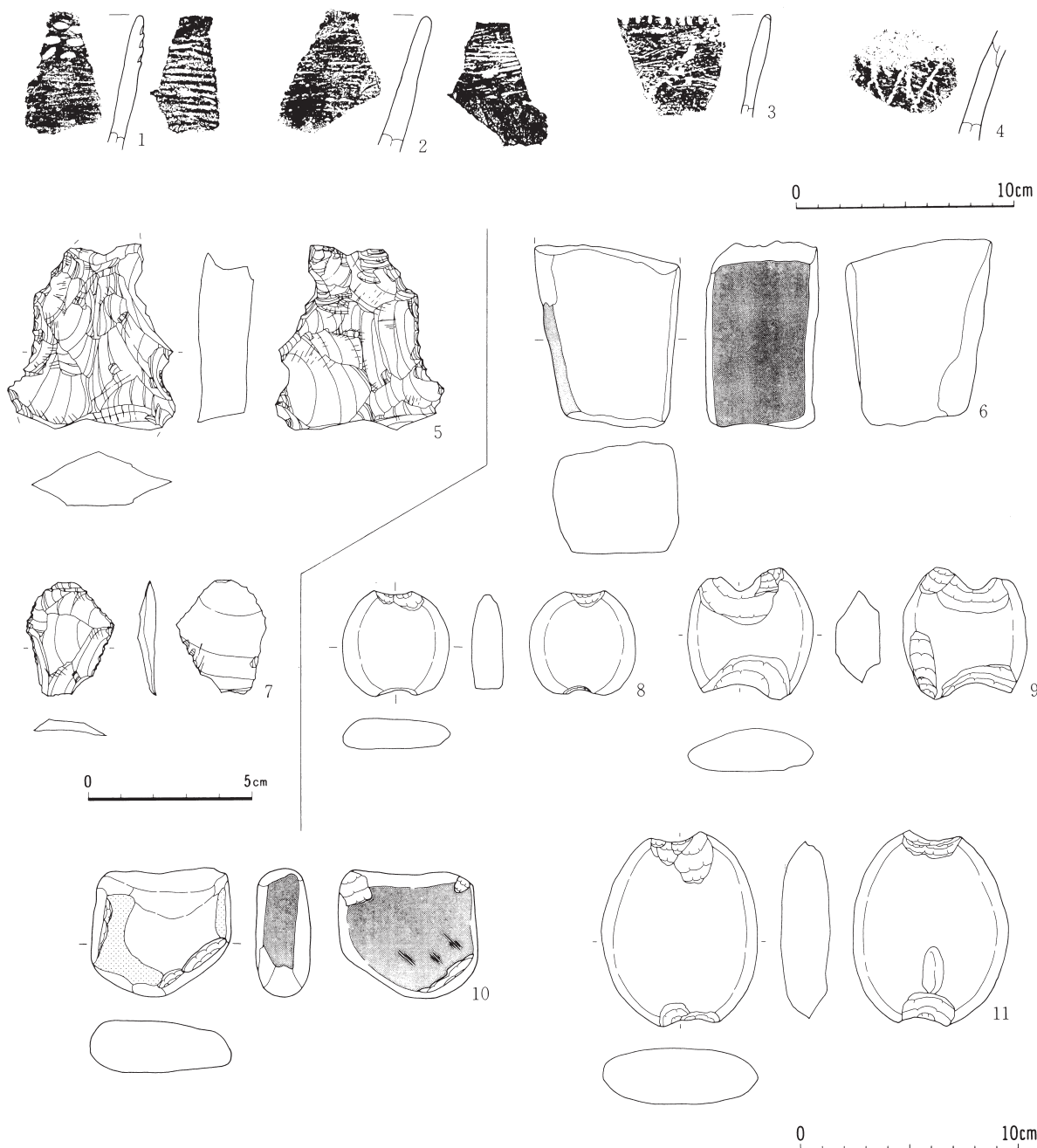


表32 溝状土坑出土土器観察表

図版番号	遺構	層位	分類	部位	文 様	刻目	備 考
図82-1	3T	覆土	I-2-a	縁-胴	横爪3段		両面：貝殻条痕
図82-2	18T	1層	I-6-b	縁-縁	無文		内面：貝殻条痕、炭化物付着
図82-3	20T	1層	I-6-a	完形	無文	上	外面：貝殻条痕
図82-4	22T	覆土	I-3-a	縁-胴	貝殻腹縁文（格子目状）		胎土に繊維含む

表33 溝状土坑出土石器観察表

図版番号	遺構	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材	備 考
図82-5	41T	1層	不定形石器	(54.9)	50.3	17.0	45.2	珪質頁岩	上下折損
図82-6	26T	覆土	敲磨器	(86.0)	67.0	47.0	457.2	安山岩	a類、擦痕
図82-7	3T	覆土	剝片	34.4	26.7	5.0	3.9	珪質頁岩	
図82-8	37T	1層	石錘	48.5	49.5	16.0	50.2	安山岩	I d類
図82-9	3T	覆土	石錘	60.5	57.5	21.0	85.6	安山岩	I d類
図82-10	17T	覆土	敲磨器	60.0	65.0	25.0	163.1	安山岩	c類、擦痕・敲打痕
図82-11	36T	確認面	石錘	88.0	71.5	22.0	229.7	安山岩	I d類

図82 溝状土坑出土遺物

3 土 坑

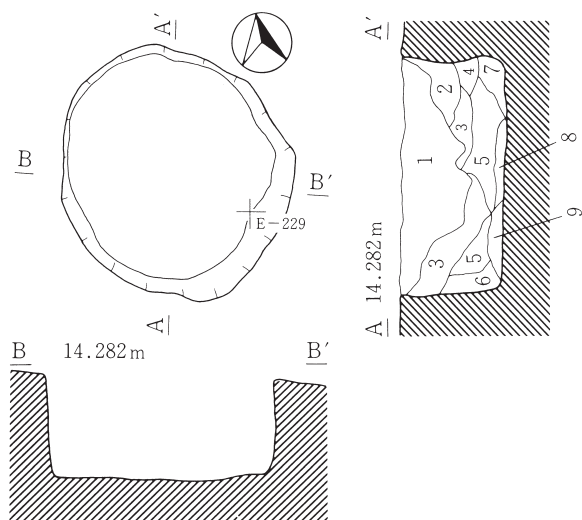
第14号土坑 (図83)

- [位置] D・E-228・229グリッドに位置する。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 開口部長径1.60m、底面長径1.30mの円形である。深さは68cmを測る。
- [壁・底面] 底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [堆積土] 人為堆積である。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第15号土坑 (図83)

- [位置] E・F-161グリッドに位置する。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 開口部長径1.43m、底面長径1.36mの円形である。深さは35cmである。
- [壁・底面] 底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- [堆積土] 自然堆積である。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

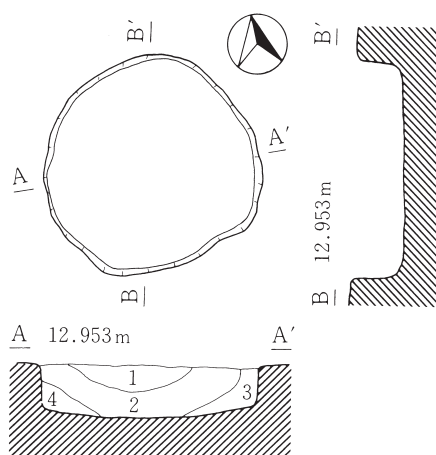
第14号土坑



第14号土坑

- | | | | |
|-----|--------|-----------|--------------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | ローム粒・ロームブロック少量。 |
| 第2層 | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒多量、ロームブロック中量。 |
| 第3層 | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒中量、ロームブロック少量。 |
| 第4層 | 鈍い黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒多量、粘性あり。 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒中量、ロームブロック中量。 |
| 第6層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒中量、黒色土混入。粘性あり。 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒微量、全体的に砂質。 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒・ロームブロック微量。 |
| 第9層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒中量。 |

第15号土坑



第15号土坑

- | | | | |
|-----|------|-----------|--------------------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | ローム粒微量、パミス微量。 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒中量、パミスブロック中量。しまりあり。 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | パミスブロック中量、小礫微量。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒中量、ロームブロック微量、黒褐色土混入。 |

0 2m

図83 第14・第15号土坑

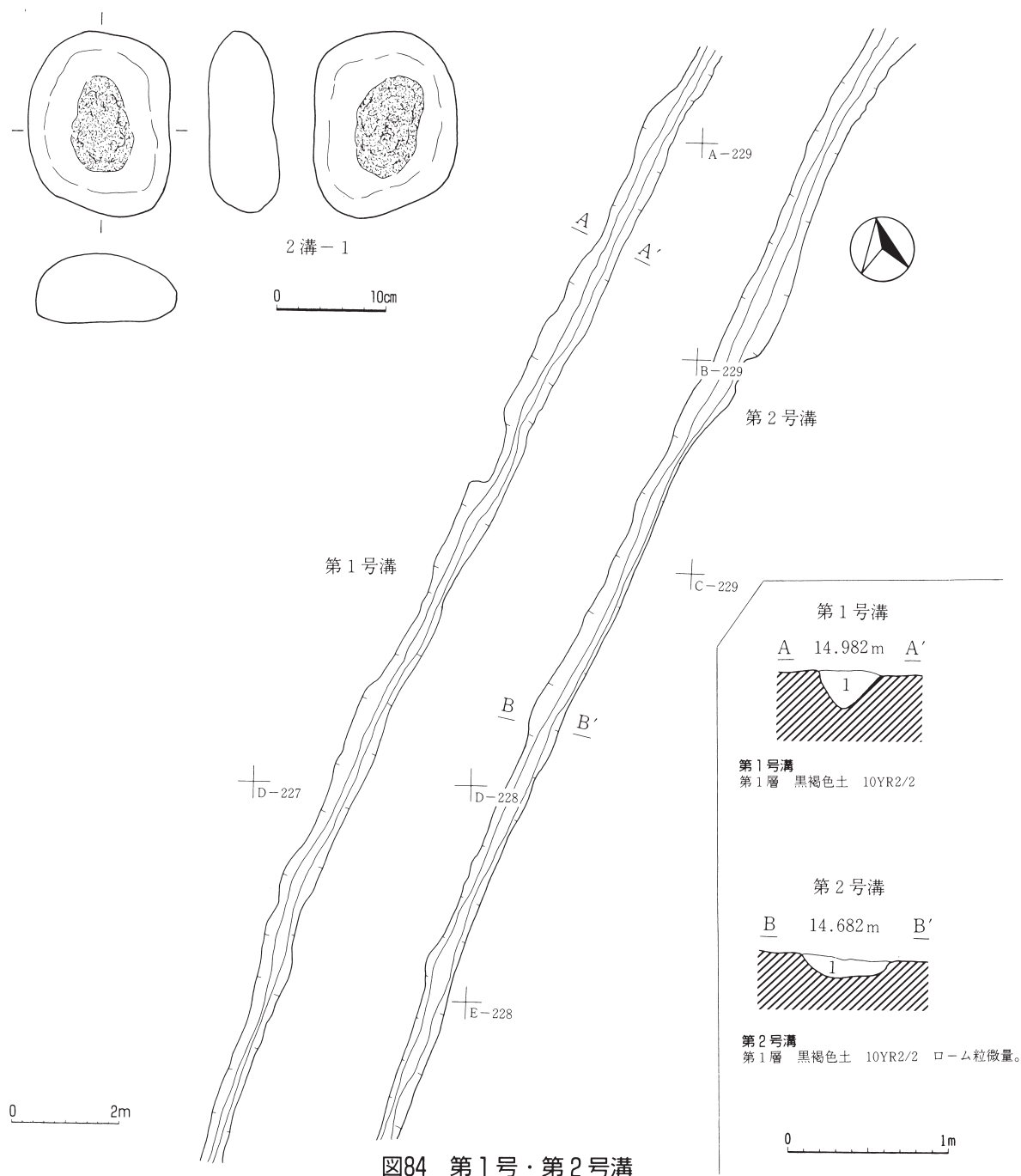
4 溝

溝が2条検出されている。第Ⅲ層を確認面とし、第Ⅳ層を浅く掘り込んでいる。部分的に第Ⅳ層まで達していない箇所もある。溝状土坑との切り合いから縄文時代以降のものである。

(杉野森 淳子)

表34 溝出土石器観察表

図版番号	遺構	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材	備考
図84-1	2溝	覆土	敲磨器	85.0	65.0	30.0	280.8	安山岩	c類、凹み石



第2節 遺構外出土遺物

1 土器

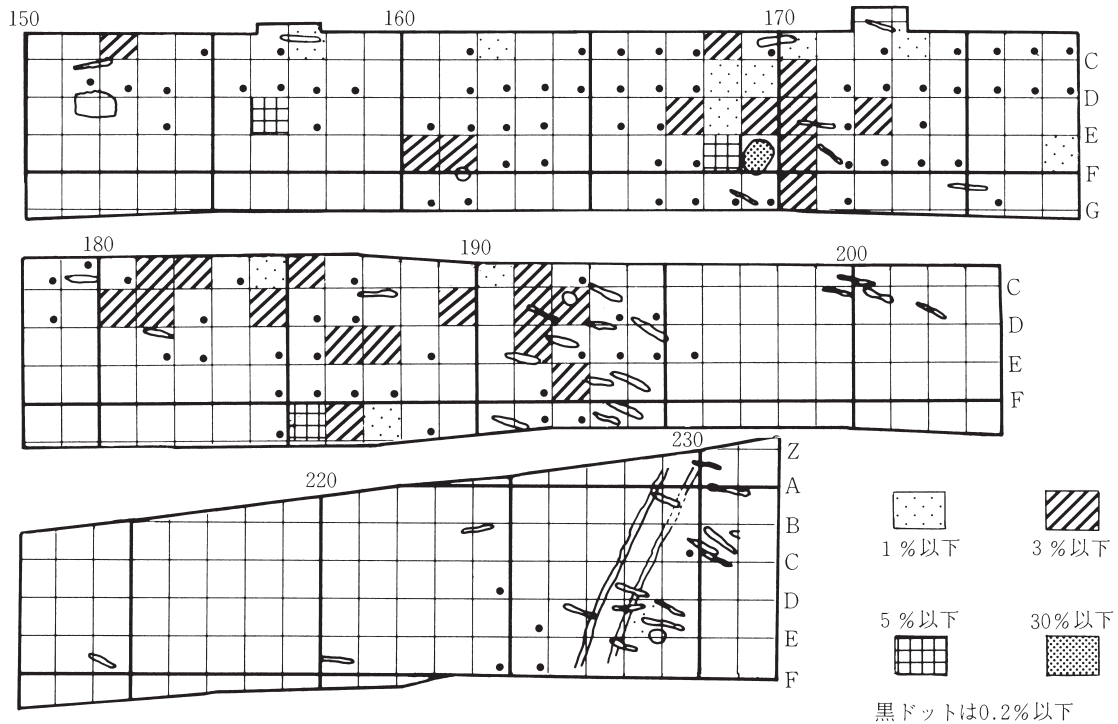


図85 遺構外出土土器分布図

〈土器の分類〉

B区から出土した土器は、縄文時代早期の土器が大半を占める。早期中葉貝殻文系土器群が主体となり、その他はこれに後続する土器群である。分布状況については第5号住居跡とその周辺(グリッド167~173)及びグリッド180~193を中心に分布している(図85)。土器の大半は第Ⅲ層から出土している。土器は時期毎に類別し、全体の器形が知り得るものが少ないため主に口縁部の主体文様とその他の要素との組み合わせで細分した。なお、遺構内出土土器と遺構外出土土器を含めて分類する。用語については、口唇部に対して垂直又は斜傾して施文した爪形状刺突文を「縦爪」、平行して施文したものを「横爪」とした。突瘤・円孔をもつものについては、内から外へ向けて施文したものをそれぞれ「突瘤」・[IO]、外から内へ向けて施文したものを「内瘤」・[OI]と呼称する。(参考文献 杉下1965参照)

- 第Ⅰ群 白浜・小舟渡平式に比定される土器
- 第Ⅱ群 第Ⅰ群に近いと考えられる土器
- 第Ⅲ群 表館Ⅵ群と早稲田5類に比定される土器
- 第Ⅳ群 早期と思われるが、比定する土器が不明な土器

器形 復元できたものは1点のみで、深鉢形の尖底土器である(2)。口唇部の形状は丸み・△状・丸みを呈し内傾するものが大半を占める。他に丸みを呈し外傾するもの・平坦なものもみられる。
胎土・焼成 胎土には微細砂粒から砂、細礫、針状粉末など含まれている。焼成は概ね良好である。

調整 外面調整は横位・斜位の貝殻条痕が圧倒的に多い。底部は横位・縦位の貝殻条痕が多い。縄文による調整(100)やなげによる調整(16・130～132・138～145)もあるが全体的に少ない。内面調整は横位・縦位の貝殻条痕となで占められる。口縁部は横位、底部は縦位のものが多い。

施文方法・施文工具 施文要素には刺突文(竹管状・棒状工具による刺突文、半裁竹管状工具による爪形状刺突文)・貝殻文(腹縁文・背圧痕文)・沈線文(篋状工具)・縄文及び絡条体がある。これらを単独または組合わせて横位・斜位・縦位・層状・鋸歯状・格子目状・レンズ状に施文している。区画を意図したと思われるものもある(18・84・92)。刻目は、篋状工具・貝殻(27・100・125)・棒状工具(136)を用い、工具を浅く入れる(20など)・工具を鋭角に当て刺突する(19など)・口唇部の横から下方へ工具を引きずる(16など)類がある。文様帯は口唇部～口縁部が大半である。

第I群(図69・70、図86～図92-168)

第1類 円形又は棒状刺突文が主体となるもの(図69-21、図86-1～13)

a：円形または棒状刺突のみ施文したもの(1～3、7・8)

同一個体で口縁部に円形刺突を3段施文している。7・8は棒状工具を左から右へ移動させながら刺突し、胴部に3段の文様を施文している。

b：他の施文を組み合わせたもの(図69-21、図86-4～6・11・12)

縦爪・横爪を施文しているもの(図69-21、図86-4・5)、沈線文を施文しているもの(11)、縦爪と貝殻腹縁文を施文しているもの(6)、縄文を施文しているもの(12)がみられる。

第2類 縦爪・横爪を主体とするもの(図67、図68-2・3、図69-5～25、図86-14～20、図87～89-92)

横爪のみを施文するもの(図67、図68-3、図69-5～17・22・23、図86-14～図89-92)

口縁部に縦爪・横爪を1～5段施文しているものが大半である。14は口縁部外内面に縦爪を斜位に施文している。27は口縁部を縦爪で施文し口唇部の内外に貝殻腹縁文を施文している。57・58・59は口縁部に縦爪と横爪を組合せて施文している。

b種 縦爪・横爪と貝殻腹縁文を施文しているもの(図69-18・25、図89-82～90)

84は口縁部に貝殻腹縁文・横爪・縦爪を層状に施文している。86・87は口縁部に貝殻腹縁文と縦爪を層状に施文している。88は口縁部に貝殻腹縁文と横爪を層状に施文している。

c種 縦爪と沈線文を施文しているもの(図69-19・24、図89-91・92)

92は沈線文を平行・縦位・斜位に施文した後、間に縦爪を施文している。

d種 横爪と縄文を施文しているもの(図68-2)

第3類 貝殻腹縁文を主体としたもの(図89-93～100)

a種 貝殻腹縁文のみを施文しているもの(93～99)

93は口縁部に貝殻腹縁文を格子目状に施した後、孔[IO]を2個施文している。

b種 貝殻腹縁文と縄文を施文しているもの (100)

口縁部をLR縄文で調整した後、口縁上部を平坦に調整した上で貝殻腹縁文を施文している。

第4類 沈線のみ施文したもの (図69-20・27、図89-101~107)

101は口縁部を沈線で平行に施文している。102・103・105は胴部を沈線で格子目状に施文している。

第5類 縄文のみ施文したもの (図89-108・109)

108は口唇部が外反し、LR縄文で施文した後、口縁部に内瘤を3こ施文している。109は口縁部に絡条体(LR)を回転させて施文している。

第6類 無文の土器 (図68-4、図70-28~33、図90-110~151)

a種 刻目を有するもの (図68-4、図90-112・114~123・図91-124~136)

刻目は口唇部に対して上・横・斜方向から入れている。外面調整は横位・斜位の貝殻条痕が大半で、なでは130~132である。134は口縁部に円孔[OI]を3個施文し、割れ口部に円孔痕が2カ所確認される。135は口縁部に円孔[OI]を施文している。136は口縁部に棒状工具を2回刺突して1つの内瘤を形成し、割れ口部に内瘤痕が2カ所確認される。

b種 刻目を有しないもの (図90-110・111、図91-137~145)

外面調整は貝殻条痕によるもの (110・111、137~141) となで (142~145) によるものがある。137は貝殻条痕で外面調整した後、口縁部に円孔[OI]を施文している。

第7類 底部の土器 (図92-152~157)

外面調整は横位・縦位の貝殻条痕によるものである。156の底先の変形は、制作途中の加圧によるものと思われる。

第Ⅱ群 沈線で区画した間に縦爪・貝殻押し引き文を施文したもの (図92-158~168)

口縁部に7条の沈線を施文しその上に縦爪を1段施文している。口唇部の刻目は第Ⅰ群のものより深い。胴部は3~4条横位・縦位・斜位沈線で区画し、間に縦爪または貝殻押し引き文を施文している。沈線幅は1.5~2.0mmと第Ⅰ群に比べて広く、間隔を概ね均等に保ちながら施文している。

第Ⅲ群 縄文時代早期後葉：表館Ⅵ群、早稲田5類に比定されるもの (図92-170~180)

第1類 表館Ⅵ群に比定されるもの (図92-170~178)

斜縄文(RL複節圧痕文)を口縁部・胴部に施文している。

第2類 早稲田5類に比定されるもの (図92-179・180)

179は器厚が厚く加熱前に口縁上部が剝離し、その上に側面圧痕文(LR)を施文している。

第Ⅳ群 縄文時代早期と思われるが、比定する土器が不明な土器 (図92-169)

刻目は絡条体(LR複節)である。口縁部は絡条体(RL)を施文している。口唇部形状は丸みを呈している。胎土には微細砂・雲母・針状粉末が含まれ繊維は含まれていない。焼成は良好である。

(相馬 良仁)

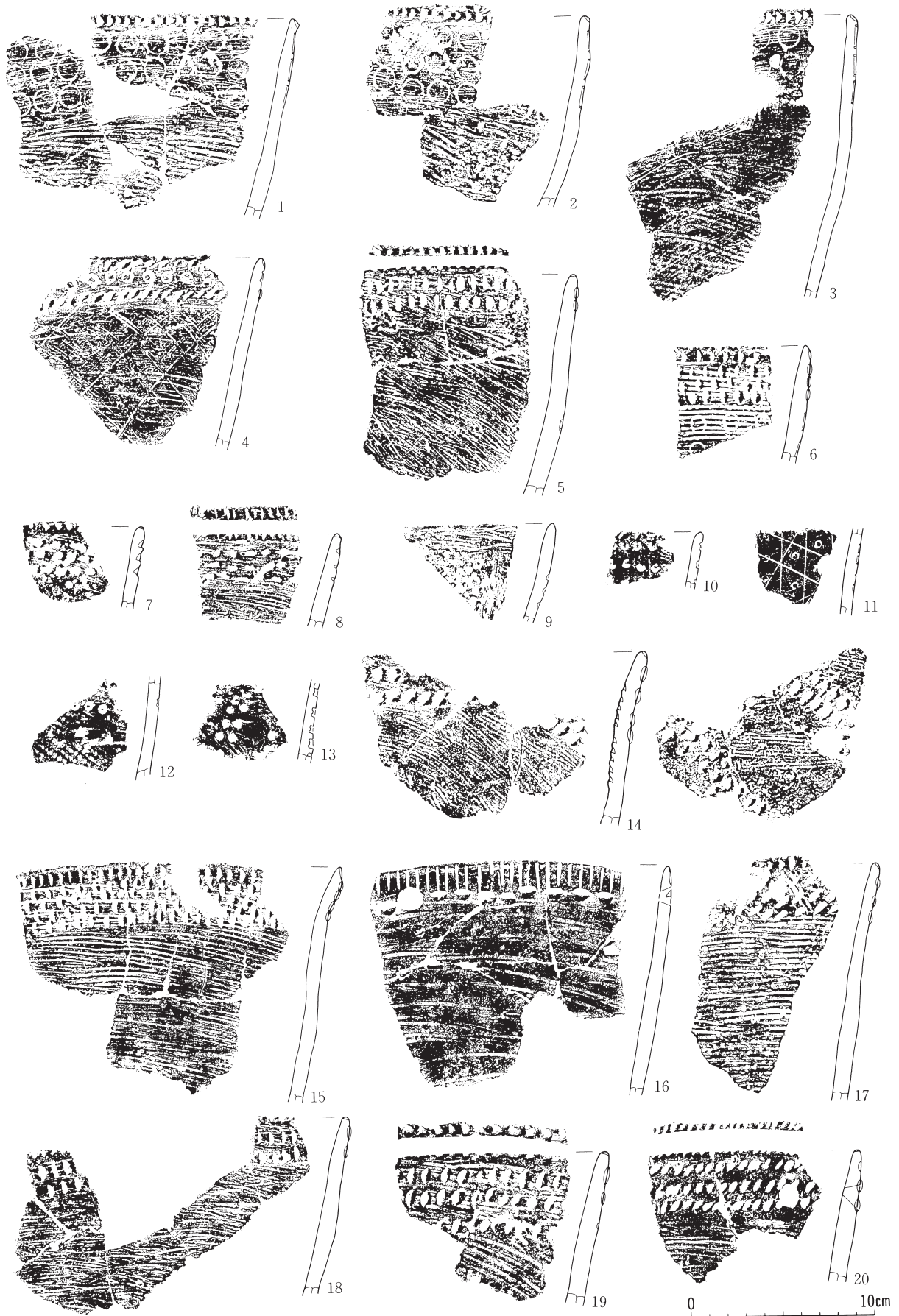


图86 遺構外出土土器①

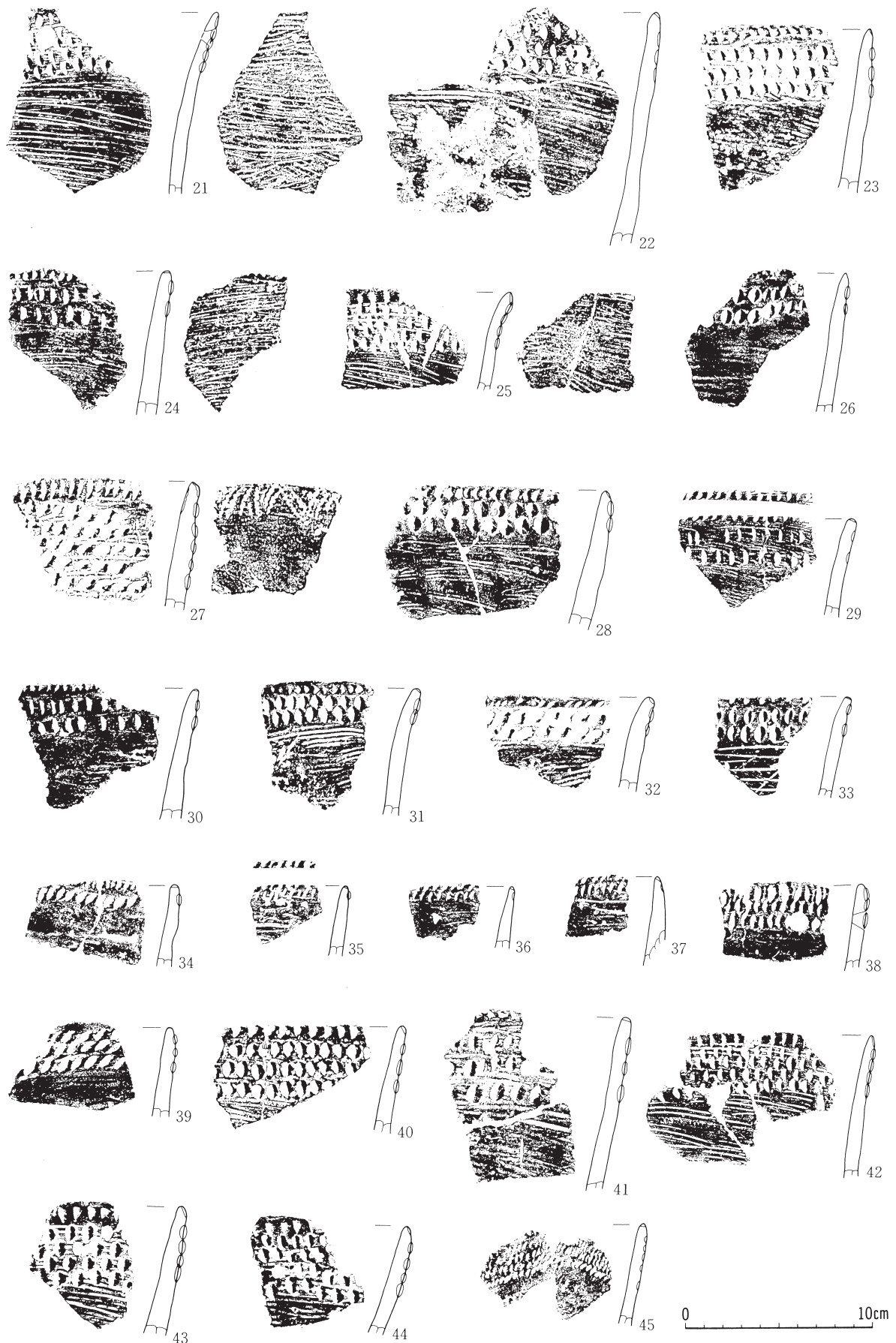


图87 遺構外出土土器②

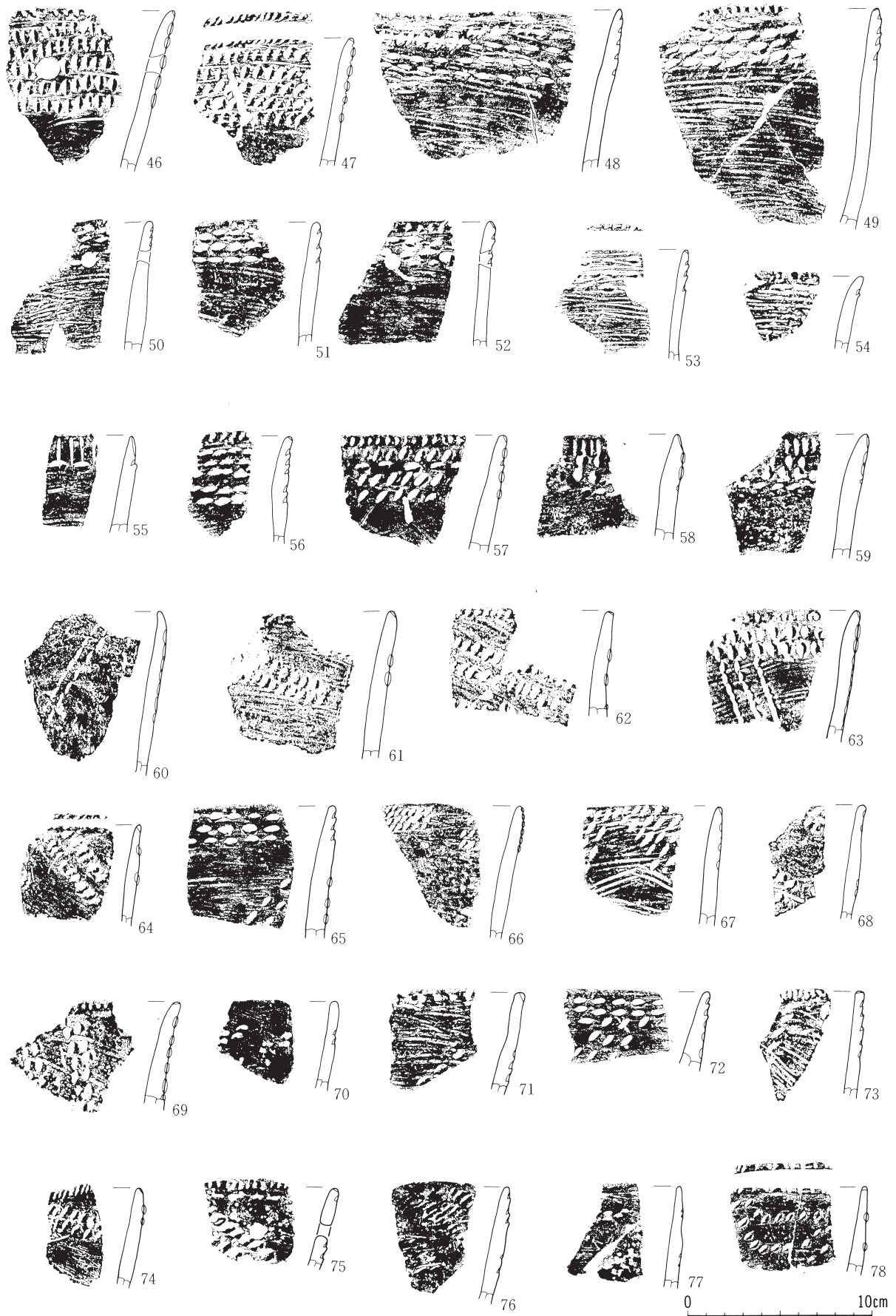


图88 遺構外出土器③

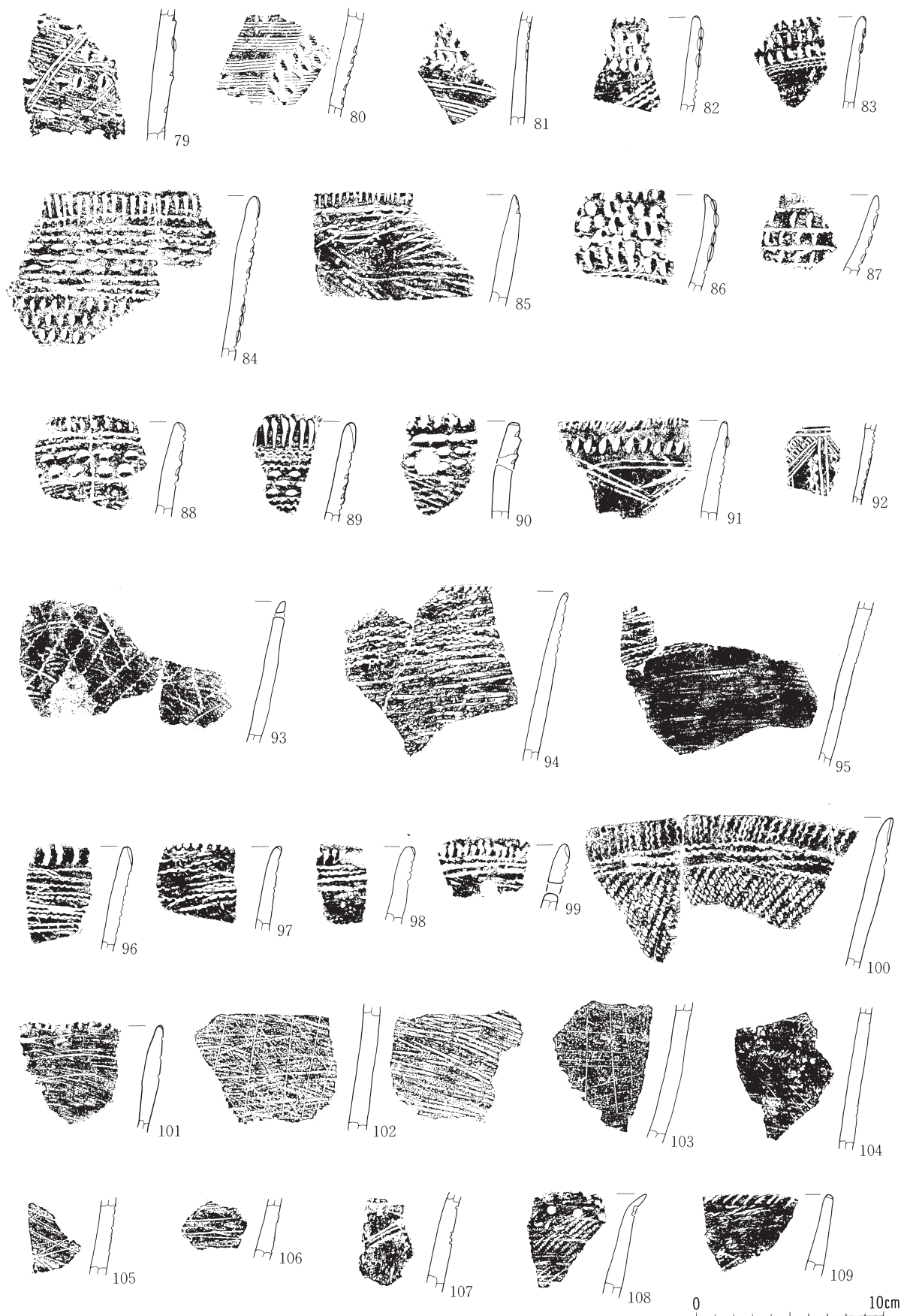


图89 遺構外出土土器④

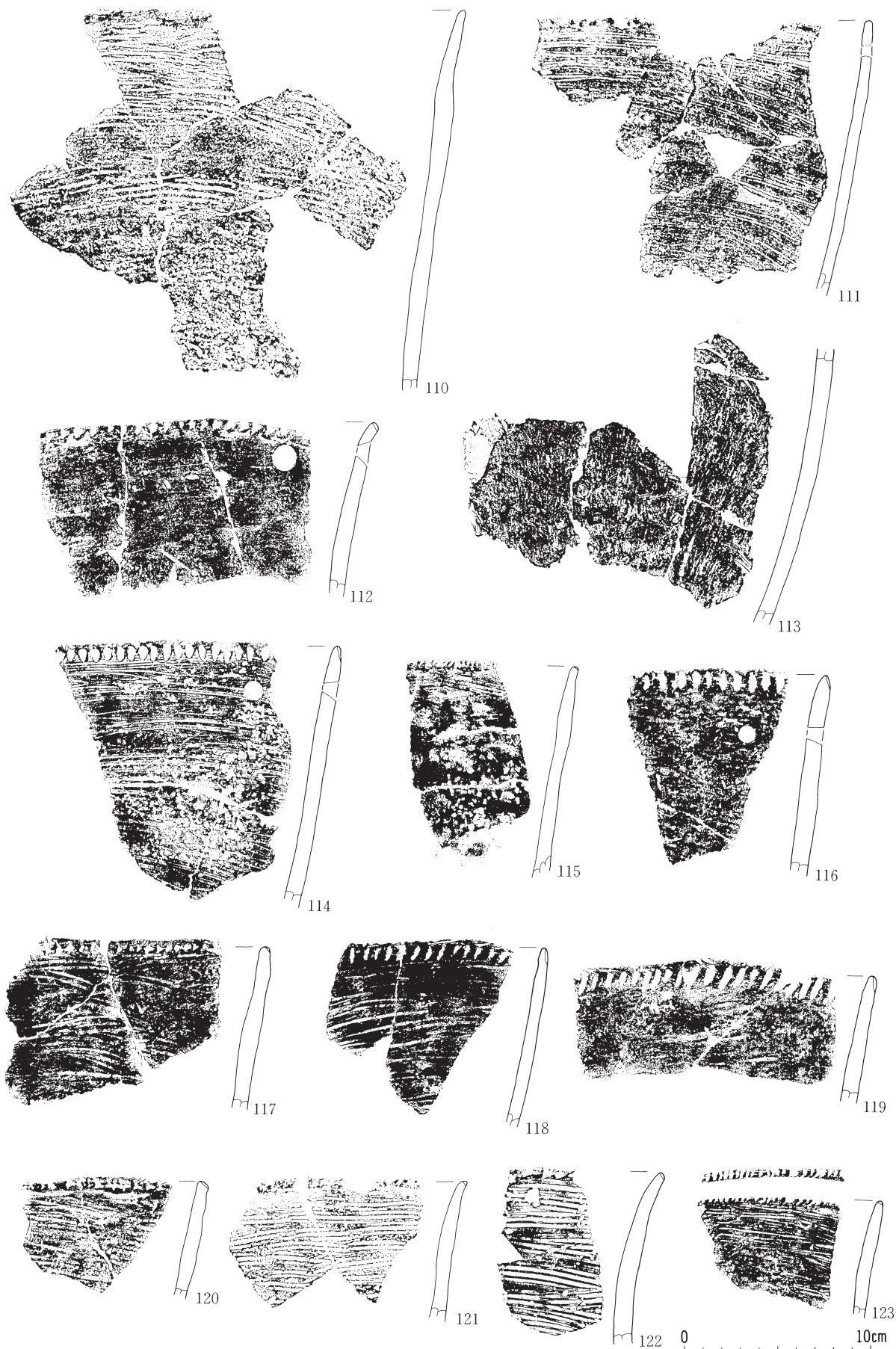


图90 遺構外出土土器⑤

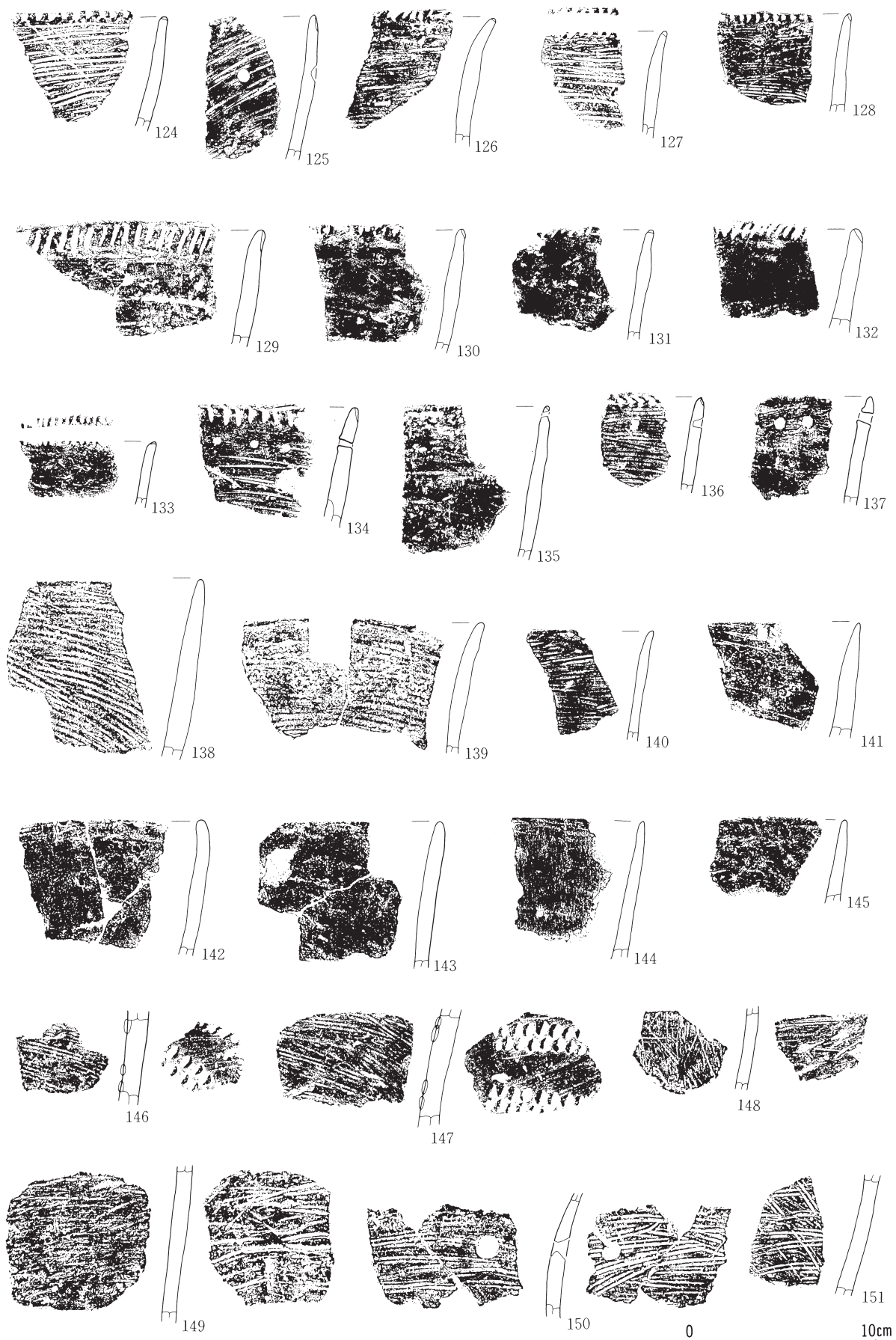


图91 遺構外出土土器⑥

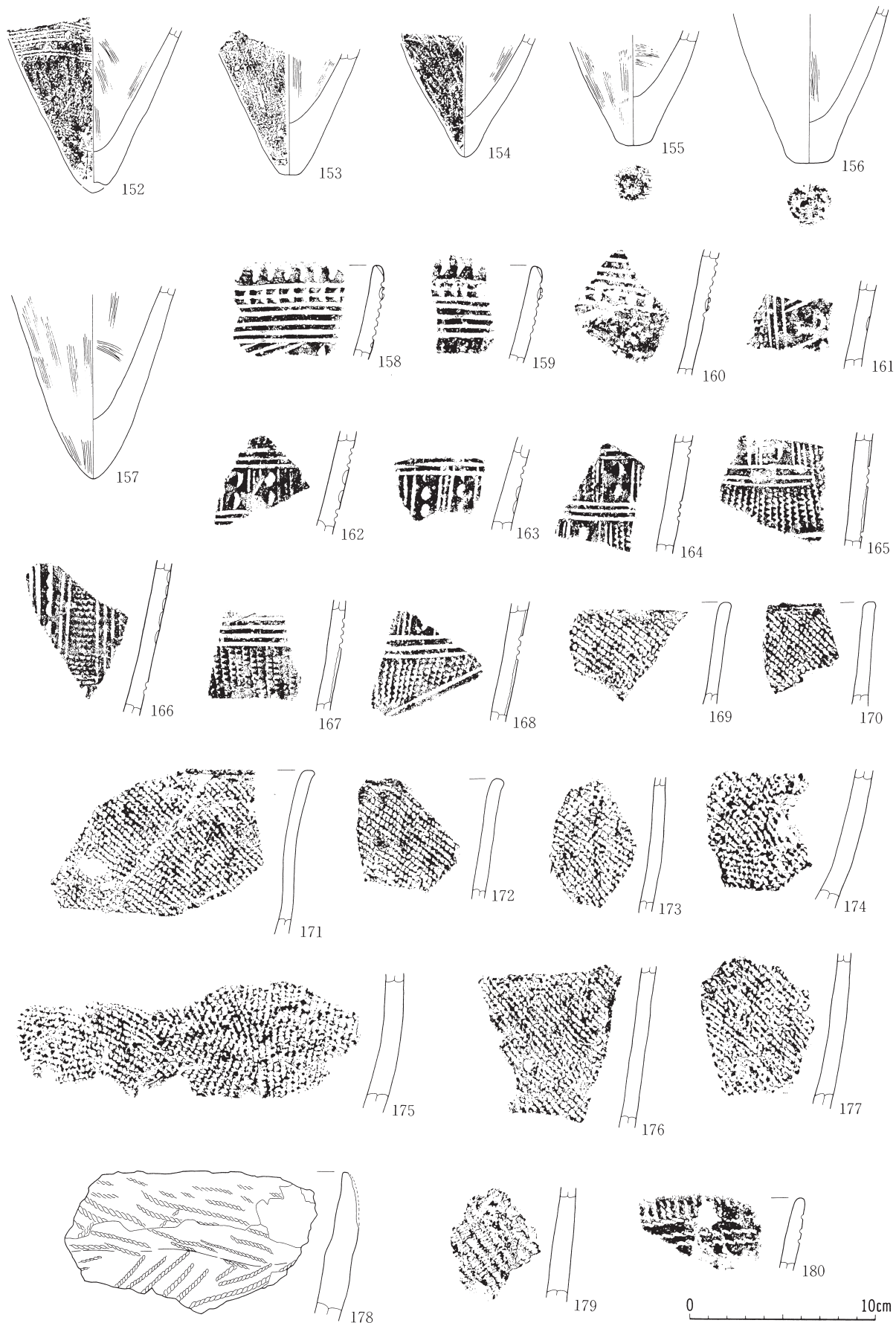


图92 遺構外出土器⑦

表35 遺構外出土土器観察表

図版番号	出土地点	層位	分類	部位	文 様	刻目	備 考
図86- 1	E-168	I	I-1	口縁	円形刺突3段	斜	2・3と同一個体
図86- 2	E-188	Ⅲ	I-1	口縁	円形刺突3段	斜	1・3と同一個体、補修孔有り
図86- 3	D-191	Ⅲ	I-1	口縁	円形刺突(φ11.5mm)3段	斜	8・9と同一個体
図86- 4	D- 18	Ⅳ	I-1-a	口縁	円形刺突(φ6.0mm)1段・縦爪1段(層状)		条痕文(格子目状)
図86- 5	C-185	Ⅲ	I-1-a	口縁	円形刺突(φ5.0mm)、縦爪2段	上	
図86- 6	C-180	Ⅲ	I-1-a	口縁	円形刺突(φ7.5mm)・縦爪3段(層状)	横	
図86- 7	E-168	Ⅲ	I-1	口縁	棒状刺突(φ2.5mm)3段	上	
図86- 8	F-190	Ⅲ	I-1	口縁	棒状刺突(φ1.5mm)3段、左→右へ刺突	上	
図86- 9	B-179	Ⅲ	I-1	口縁	棒状刺突(φ1.5mm)3段斜位、左→右へ刺突		
図86-10	E-191	Ⅲ	I-1	口縁	円形刺突(φ3.5mm)		
図86-11	E- 21	I	I-1-b	胴	円形刺突(φ3.0mm)、沈線(格子目状)		補修孔有り
図86-12	E- 21	I	I-1-b	胴	円形刺突(φ4.0mm)、単節斜縄文(R L)		
図86-13	C-165	Ⅲ	I-1	胴	円形刺突(φ4.0~4.5mm)斜位		
図86-14	E-168	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	斜	内面横爪斜位、補修孔有り
図86-15	E-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段		口頸外反
図86-16	C-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪1段	横	補修孔有り
図86-17	D-181	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	斜	
図86-18	C-184	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	上	
図86-19	E-170	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	上	41と同一個体
図86-20	C-155	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	上	補修孔有り
図87- 21	C-190	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段	横	口縁外反、補修孔有り
図87- 22	C-155	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	斜	
図87- 23	E-170	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	横	
図87- 24	C-155	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	上	
図87- 25	F-168	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段	横	口縁外反
図87- 26	C-163	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段		
図87- 27	B-181	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪	横	口唇部内面貝殻腹縁(鋸歯状)
図87- 28	E-189	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	横	
図87- 29	C-190	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	上	30と同一個体
図87- 30	E-169	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	上	29と同一個体
図87- 31	C-155	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	斜	口縁外反
図87- 32	B-182	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	斜	口縁外反
図87- 33	B-190	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	上	
図87- 34	C-182	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪1段	上	
図87- 35	F-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪1段	上	36・37と同一個体
図87- 36	D-173	I	I-2-a	口縁	縦爪1段	上	35・37と同一個体
図87- 37	C-175	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪1段	上	35・36と同一個体
図87- 38	B-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段	横	補修孔有り
図87- 39	F-170	I	I-2-a	口縁	縦爪3段		
図87- 40	F-169	I	I-2-a	口縁	縦爪3段	斜	
図87- 41	E-170	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段	上	19と同一個体
図87- 42	D-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段	横	
図87- 43	E-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段	横	
図87- 44	F-193	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪4段	横	
図87- 45	D-191	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪5段	上	篋状工具
図88- 46	C-176	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪5段	斜	補修孔有り
図88- 47	C-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪5段	上	
図88- 48	D-167	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪5段		一部縦爪→横爪
図89- 49	C-171	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪4段	上	
図88- 50	D-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪3段		補修孔有り
図88- 51	B-181	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪3段		内面横爪2段
図88- 52	F-170	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪3段	斜	補修孔有り
図88- 53	C-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪3段	斜	
図88- 54	E-168	I	I-2-a	口縁	横爪1段		口縁外反
図88- 55	F-161	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪1段	横	
図88- 56	C-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪5段	上	口縁部外反
図88- 57	C-181	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪・横爪(層状)	斜	
図88- 58	C-151	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦2段、横爪1段	横	59と同一個体
図88- 59	C-151	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段、横爪1段	横	58と同一個体
図88- 60	E-170	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段斜位		口縁外反
図88- 61	F-170	I	I-2-a	口縁	縦爪2段斜位		

図版番号	出土地点	層位	分類	部位	文 様	刻目	備 考
図88-62	C-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪斜位	上	
図88-63	C-182	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段、縦爪斜位	斜	
図88-64	F-193	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段斜位	上	
図88-65	B-192	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪3段、縦爪斜位		
図88-66	C-169	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪3段(ブロック状)		
図88-67	E-190	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪(鋸歯状)	斜	条痕文(鋸歯状)
図88-68	D-166	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪斜位		
図88-69	C-185	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪縦位	上	
図88-70	E-191	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪2段(ブロック状)		
図88-71	D-169	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪斜位	斜	
図88-72	F-160	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪、縦爪3段斜位		
図88-73	E-189	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪縦位	上	
図88-74	E-168	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪2段斜位	斜	
図88-75	D-172	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪1段、横爪斜位	上	補修孔有り
図88-76	E-191	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪斜位(ブロック状)		
図88-77	E-162	Ⅲ	I-2-a	口縁	横爪(ブロック状)		
図88-78	D-169	Ⅲ	I-2-a	口縁	縦爪(レンズ状)	上	
図89-79	E-170	Ⅲ	I-2-a	胴	縦爪・横爪(層状)		
図89-80	E-170	Ⅲ	I-2-a	胴	横爪(ブロック状)		
図89-81	F-185	Ⅲ	I-2-a	胴	縦爪(羽状)		
図89-82	F-187	Ⅲ	I-2-b	口縁	縦爪3段、貝殻腹縁文斜位	上	
図89-83	F-185	Ⅲ	I-2-b	口縁	縦爪2段、貝殻腹縁文	斜	
図89-84	F-160	Ⅲ	I-2-b	口縁	縦爪、横爪3段・貝殻腹縁文(層状)	横	
図89-85	C-172	Ⅱ	I-2-b	口縁	横爪1段、貝殻腹縁文	横	
図89-86	C-191	Ⅲ	I-2-b	口縁	縦爪4段、貝殻腹縁文	上	口縁内湾
図89-87	D-170	Ⅲ	I-2-b	口縁	縦爪、貝殻腹縁文(層状)		
図89-88	E-169	Ⅲ	I-2-b	口縁	横爪2段、貝殻腹縁文(層状)	斜	
図89-89	C-191	Ⅲ	I-2-b	口縁	横爪2段、貝殻腹縁文(層状)	横	
図89-90	F-160	Ⅲ	I-2-b	口縁	横爪3段、貝殻腹縁文	上	補修孔有り
図89-91	E-190	Ⅲ	I-2-c	口縁	縦爪1段、沈線文	上	筥状工具
図89-92	E-185	Ⅲ	I-2-c	胴	沈線(鋸歯状に区画)、縦爪		
図89-93	E-193	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文(格子目状)、円孔(φ1.5mm)		
図89-94	C-151	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文	斜	97と同一個体
図89-95	B-180	Ⅲ	I-3-a	胴	貝殻腹縁文		
図89-96	E-167	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文	横	
図89-97	C-191	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文	斜	94と同一個体個体
図89-98	E-178	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文	横	99と同一個体
図89-99	B-189	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文	横	98と同一個体、補修孔有り
図89-100	C-182	Ⅲ	I-3-a	口縁	貝殻腹縁文、L R回転縄文	横	
図89-101	E-169	Ⅲ	I-4	口縁	沈線(平行)	上	
図89-102	B-191	Ⅲ	I-4	胴	沈線(格子目状)		
図89-103	C-170	Ⅲ	I-4	胴	沈線(格子目状)		
図89-104	F-170	Ⅲ	I-4	胴	沈線		
図89-105	F-171	Ⅲ	I-4	胴	沈線		
図89-106	E-169	Ⅲ	I-4	胴	沈線(平行)		
図89-107	C-158	Ⅲ	I-4	胴	沈線		
図89-108	C-192	Ⅲ	I-5	口縁	内瘤(φ6.0mm)、L R回転縄文	上	口縁外反
図89-109	D-191	Ⅲ	I-5	口縁	絡条体(L R)	上	
図90-110	E-170	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		炭化物付着
図90-111	D-170	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		補修孔有り
図90-112	C-168	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	炭化物付着、補修孔有り
図90-113	F-185	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		
図90-114	B-157	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	補修孔有り
図90-115	C-170	I	I-6-a	口縁	無文	上	
図90-116	B-182	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	横	補修孔有り
図90-117	C-172	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	炭化物付着
図90-118	D-182	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	横	
図90-119	C-186	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	横	
図90-120	D-185	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	
図90-121	E-186	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	口縁外反
図90-122	B-179	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	口縁外反

図版番号	出土地点	層位	分類	部位	文 様	刻目	備 考
図90-123	F-185	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	
図90-124	F-185	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	
図90-125	F-187	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	横	
図90-126	不明	不明	I-6-a	口縁	無文	上	口縁外反
図90-127	F-160	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	
図90-128	E-170	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	
図91-129	E-190	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	横	
図91-130	B-182	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	
図91-131	F-170	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	
図91-132	C-194	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	斜	
図91-133	C-150	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文	上	
図91-134	C-165	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文、円孔(φ3.0~3.5mm、OI)	横	
図91-135	F-185	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文、円孔(φ3.0mm、OI)	斜	
図91-136	E-160	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文、内瘤(φ5.5mm、孔間13.0mm)	斜	
図91-137	D-191	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文、円孔(φ5.5mm、孔間9.5mm、OI)		
図91-138	F-170	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		
図91-139	F-169	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		口縁外反
図91-140	F-190	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		
図91-141	B-172	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		
図91-142	F-169	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		口縁内湾
図91-143	B-179	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		補修孔有り
図91-144	E-170	Ⅲ	I-6-b	口縁	無文		
図91-145	C-181	Ⅲ	I-6-a	口縁	無文		
図91-146	C-181	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		147と同一個体
図91-147	F-160	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		146と同一個体、内面縦爪
図91-148	B-185	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		
図91-149	E-173	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		
図91-150	E-170	Ⅲ	I-6-a	胴	無文	上	口縁外反、補修孔有り
図91-151	F-168	Ⅲ	I-6-b	胴	無文		貝殻条痕格子目状
図92-152	B-179	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢
図92-153	B-170	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢、尖底部摩耗
図92-154	D-185	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢
図92-155	E-170	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢、尖底部摩耗
図92-156	E-190	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢、尖底部摩耗
図92-157	B-155	Ⅲ	I-7	底	無文		尖底深鉢
図92-158	B-180	Ⅲ	Ⅱ	口縁	沈線、縦爪1段	斜	
図92-159	E-190	Ⅲ	Ⅱ	口縁	沈線、縦爪1段	斜	
図92-160	E-169	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪		
図92-161	D-191	Ⅲ	Ⅱ	胴	縦爪、貝殻押し引き文、沈線		
図92-162	F-190	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪		
図92-163	D-170	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪		
図92-164	D-184	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪、貝殻押し引き文		
図92-165	E-170	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪、貝殻押し引き文		
図92-166	F-188	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪、貝殻押し引き文		
図92-167	E-192	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、貝殻押し引き文		
図92-168	E-170	Ⅲ	Ⅱ	胴	沈線、縦爪、貝殻押し引き文		
図92-169	C-171	Ⅲ	Ⅲ-1	口縁	絡条体RL(複節)		
図92-170	F-169	I	Ⅲ-1	口縁	絡条体RL(複節)		
図92-171	D-154	Ⅲ	Ⅲ-1	口縁	絡条体RL(複節)		
図92-172	C-188	Ⅲ	Ⅲ-1	口縁	絡条体RL(複節)		
図92-173	C-171	Ⅲ	Ⅲ-1	胴	絡条体RL(複節)		
図92-174	C-171	Ⅲ	Ⅲ-1	胴	絡条体RL(複節)		
図92-175	F-186	Ⅲ	Ⅲ-1	胴	絡条体RL(複節)		
図92-176	E-169	Ⅲ	Ⅲ-1	胴	絡条体RL(複節)		
図92-177	E-169	Ⅲ	Ⅲ-1	胴	絡条体RL(複節)		
図92-178	E-188	Ⅲ	Ⅲ-2	口縁	L R斜行		
図92-179	F-186	Ⅲ	Ⅲ-2	胴	L R圧痕文(0段多条)		
図92-180	C-152	Ⅲ	Ⅳ	口縁	絡条体(L R)回転	上	刻目：絡条体回転

2 石器・石製品

定形石器27点、不定形石器10点、礫石器81点、二次加工剥片79点、剥片197点の総計394点が出土している。石器の分布は遺構周辺に中心に、グリッドライン150～195付近に分布している。第5号住居付近のD-170とE-170で最も多く出土している。

石鏃 (図93-1～5)

- I a : 無茎で基部が直線のもの。(1)
- I b : 無茎で基部が丸味をおびるもの・尖るもの。(2～4)
- II b : 有茎で基部が尖るもの。(5)

石匙 (図93-6～8)

- a : 細身の縦形(6・7) 6は背面全面を加工し、腹面片側縁辺に細かい調整を施している。7は主要剥離面右側縁に、微細剥離痕がみられる。
- c : 横形(8) 8は背面刃部に微細剥離痕がみられる。

石錐 (図93-9～12)

11は先端部に磨耗がみられる。12は背面に連続調整を施し、腹面右側縁には微細剥離がみられる。

石篋 (図93-13～22)

- I a : 明瞭な基部を作り出し、平刃のもの。(13・16)
- I b : 明瞭な基部を作り出し、円刃・偏刃のもの。(14・15・17)
- II a : 平刃のもの。(19・22)
- II b : 円刃・偏刃のもの。(20・21)

不定形石器 (図94-23～32)

23は器体に全面加工を施した平刃の刃部である。24は先端部に細かい調整が施されている。24は両面を加工した尖状の基部である。28は主要剥離面片側縁と端部に浅い連続調整が行われている。素材と調整から石匙未製品の可能性が窺える。

打製石斧 (図94-33・37)

33は不連続な打撃による器面整形を行っている。37は器面全体を擦った後に、打撃を行っている。

磨製石斧 (図95-38～40)

器面全体に擦り・磨きが行われている。側面には素材である礫の元の形状を変える程度の強い擦りがみられる。背面・腹面には側面に比べ弱い擦りがみられる。刃部には磨きが施されている。

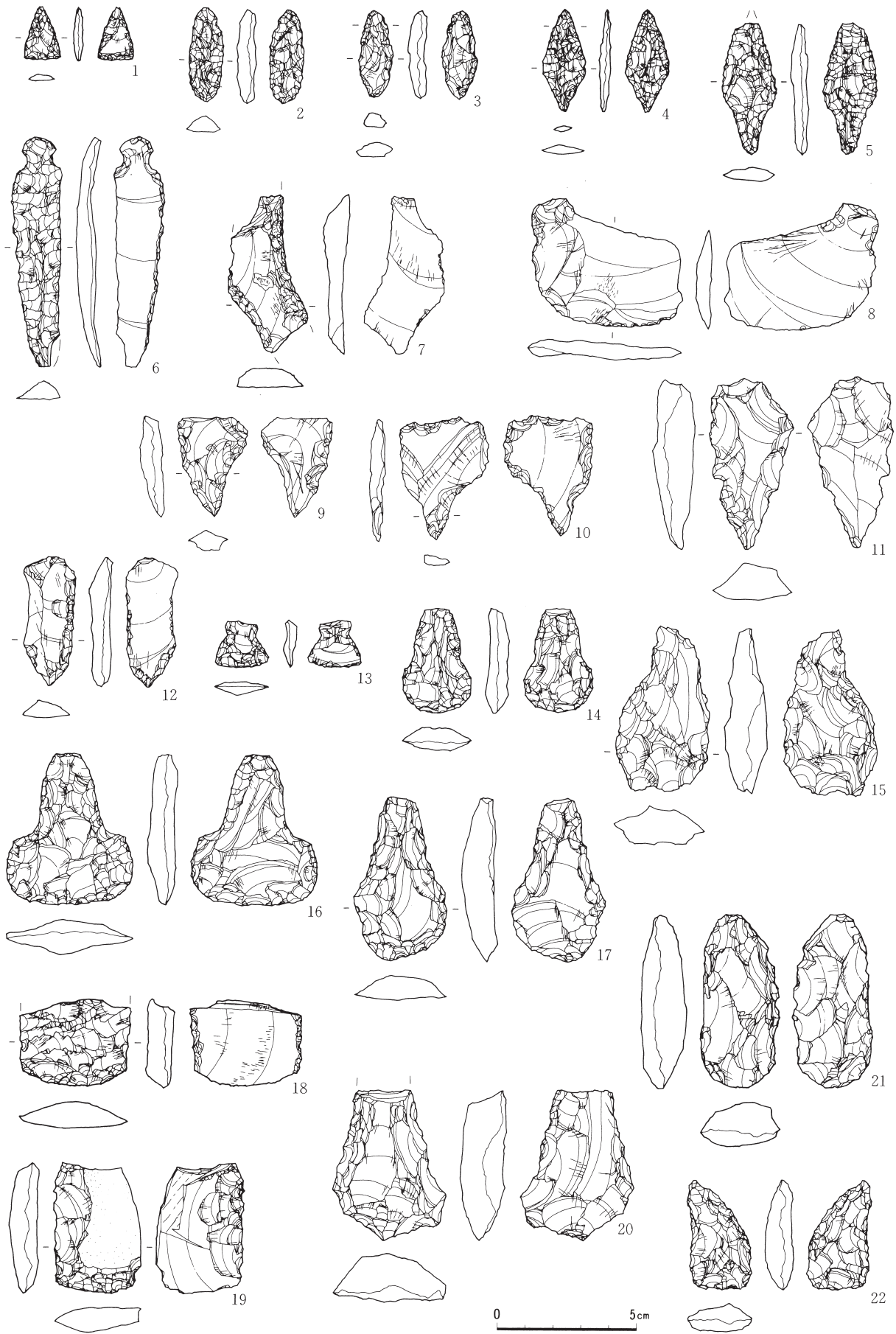


图93 遺構外出土石器①

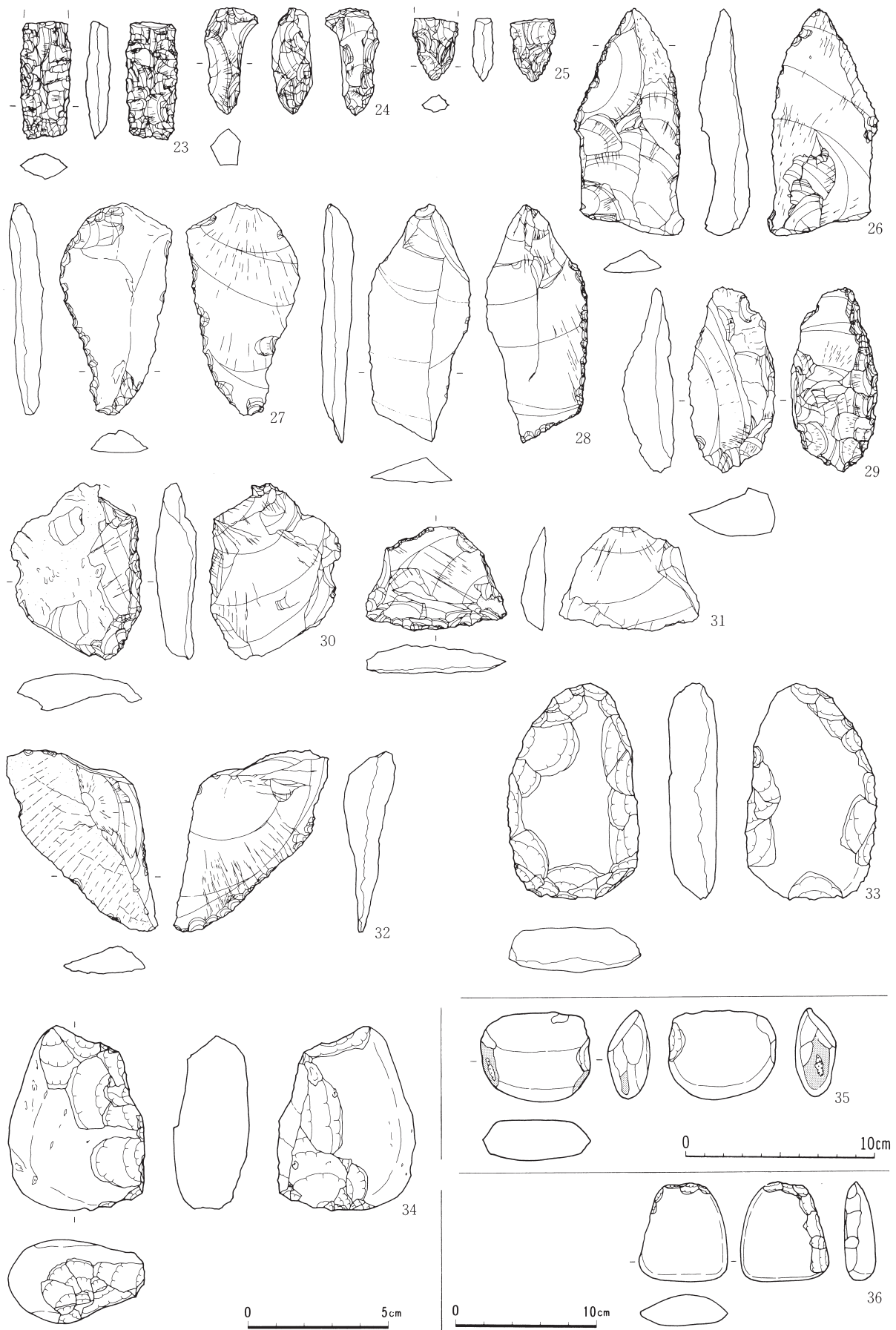


图94 遺構外出土石器②

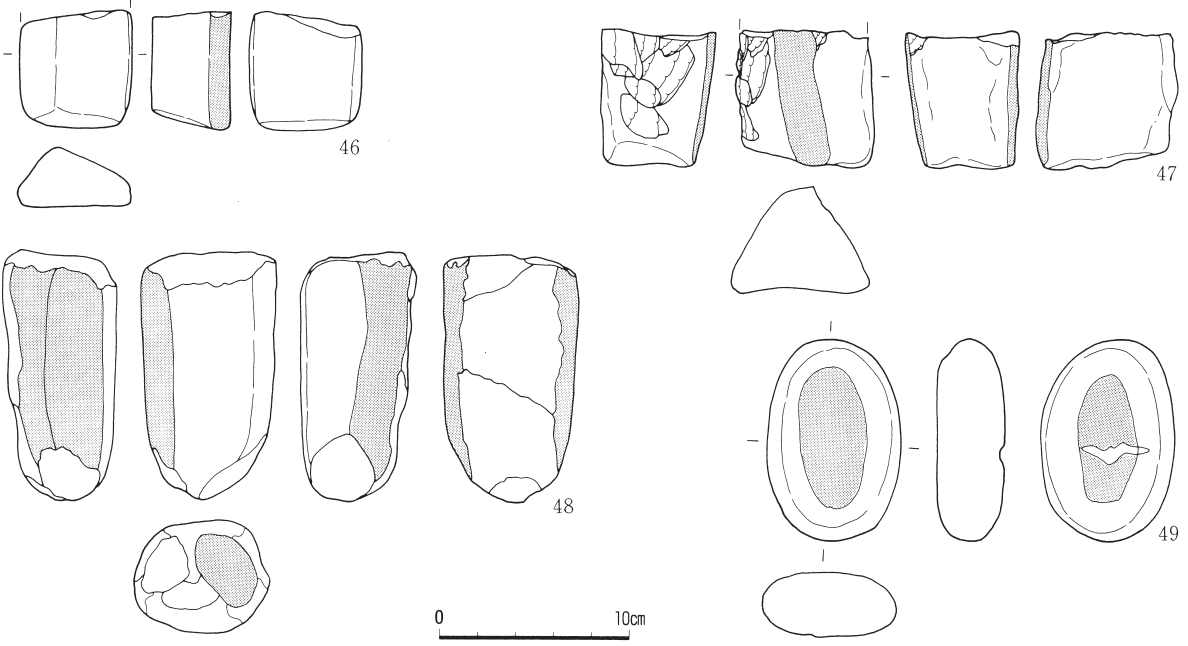
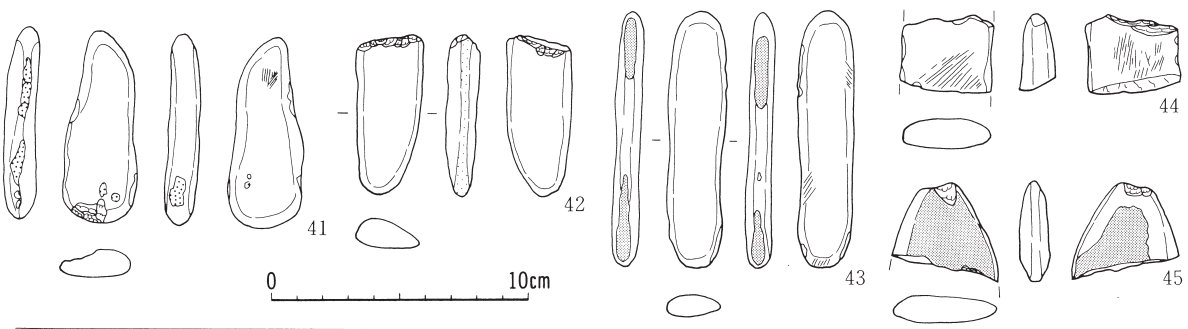
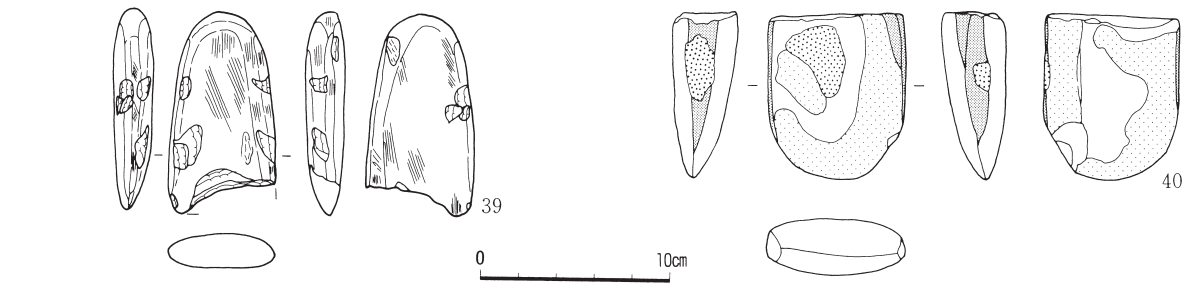
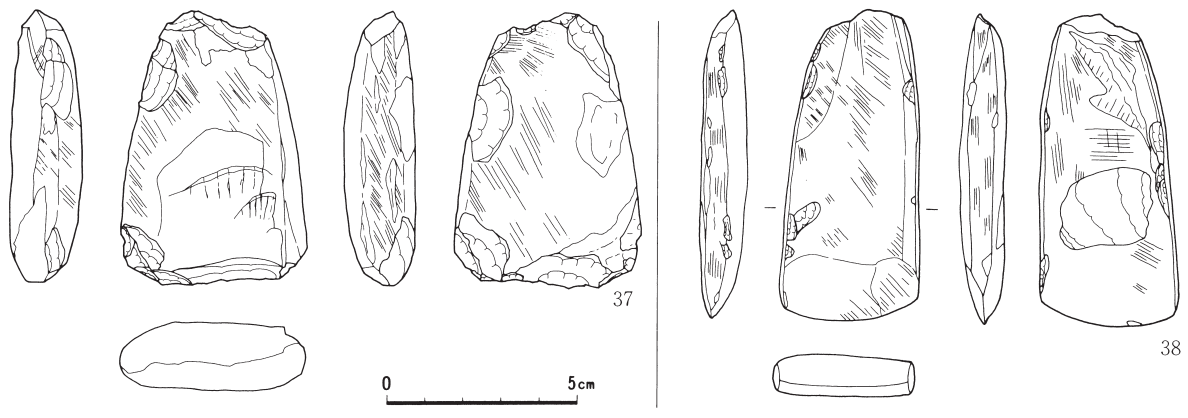


图95 遺構外出土石器③

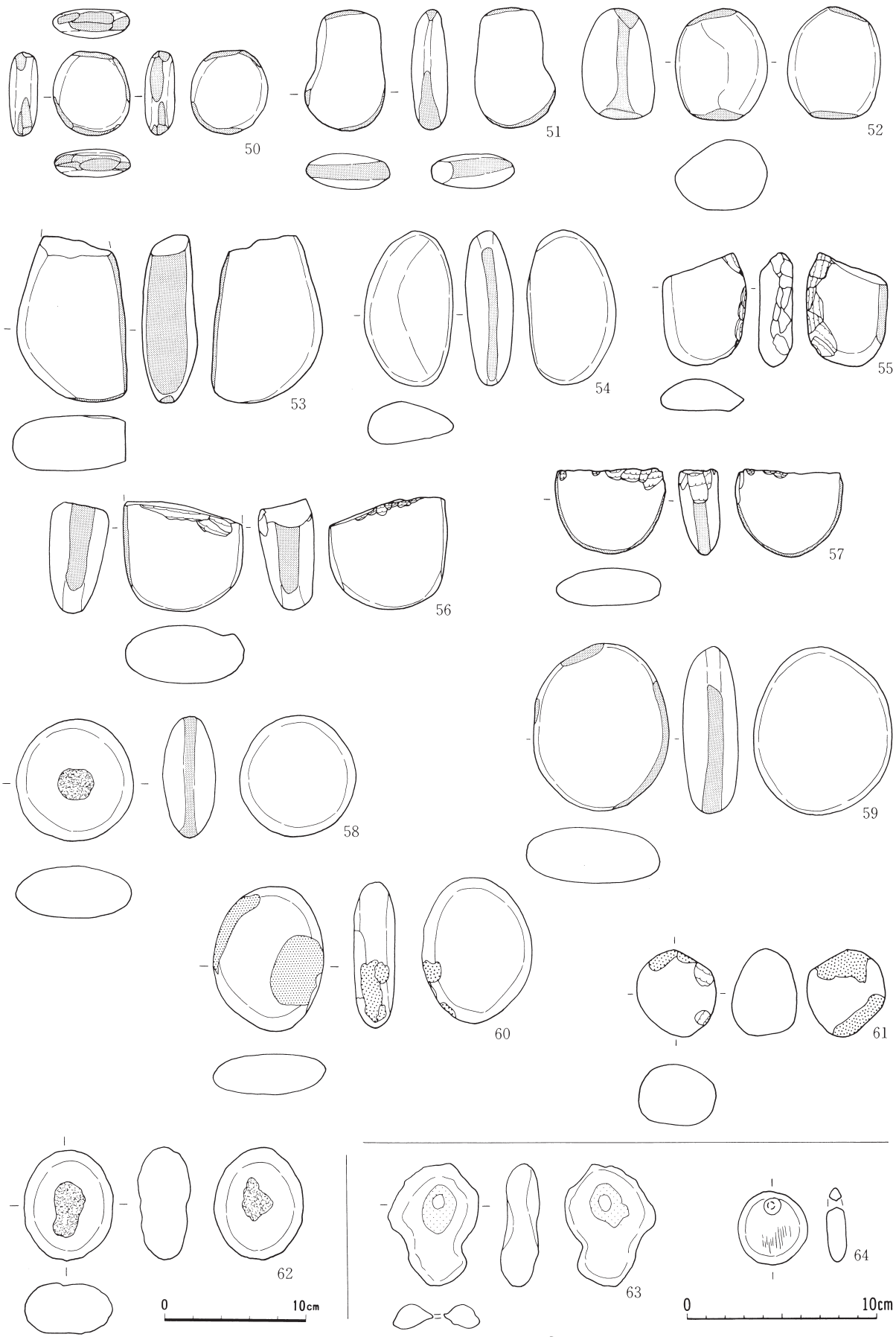


图96 遺構外出土石器④



图97 遺構外出土石器⑤



图98 遺構外出土石器⑥

打製石器 (図34～36)

34は片側縁を両面加工している。35は側面を加工後、上部に折れによる整形を施している。36は片側を片面連続加工を施している。

敲磨器類 (図95-41～96-62)

- a) 側面に加工がみられるもの。(41～43、46～48、53～60)
- b) 端部に加工がみられるもの。(50～52・61)
- c) 中央部に加工がみられるもの。(44・45・49・62)

石錘 (図97、図98)

- I a : 1点 (65)、I b : 3点 (66～68)、I c : 3点 (69～71)、I d : 46点 (72～82)
- II b : 1点 (83)、II c : 2点 (84・85)、II d : 2点 (86・87)
- III c : 1点 (88)、III d : 6点 (88・90～92)

I d型がもっとも多く44点を数える。この中で擦り・敲击・磨き痕のみられるものを図化した。素材の大きさは5cmから12cmの間で、8cm前後の礫が一番多く用いられている。

石製品 (図96-63・64)

2点出土している。63の孔は自然によるものである。この自然にあいた孔の周囲を磨いている。64は全面が磨かれ両面から穿孔されている。

(杉野森 淳子)

表36 遺構外出土石器観察表

図版番号	器種	分類	出土地点	層位	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石材	備考
図93-1	石鏃	I a	A-123	I	19.0	13.0	3.0	0.7	珩質頁岩	
図93-2	石鏃	I b	D-181	III	34.0	12.0	7.0	2.8	珩質頁岩	
図93-3	石鏃	I b	F-170	I	31.0	13.0	5.9	2.5	珩質頁岩	
図93-4	石鏃	I b	C-154	III	36.0	15.0	3.5	1.4	黒曜石	
図93-5	石鏃	II b	B-181	III	(47.0)	(19.5)	6.5	4.3	珩質頁岩	先端部欠損
図93-6	石匙	a	C-155	III	(83.0)	18.0	9.0	8.3	珩質頁岩	先端部欠損
図93-7	石匙	a	B-156	III	57.0	23.0	9.0	9.3	珩質頁岩	上下欠損
図93-8	石匙	c	C-159	III	46.0	55.0	5.7	12.7	珩質頁岩	
図93-9	石錐		C-171	III	35.0	25.0	7.7	6.0	珩質頁岩	
図93-10	石錐		E-171	III	43.0	32.0	5.6	6.4	珩質頁岩	
図93-11	石錐		152-c	III	61.0	30.5	15.5	19.5	珩質頁岩	先端部磨耗
図93-12	石錐		155-a	III	46.5	18.5	8.0	6.0	珩質頁岩	
図93-13	石筥	I a	—	III	17.0	19.0	5.0	1.0	玉髓質珩質頁岩	
図93-14	石筥	I b	F-161	III	37.5	24.5	8.5	6.8	珩質頁岩	
図93-15	石筥	I b	E-185	III	59.0	34.0	15.5	24.4	珩質頁岩	
図93-16	石筥	I a	E-184	III	54.0	45.5	11.0	18.3	珩質頁岩	
図93-17	石筥	I b	E-168	I	58.5	33.5	13.0	18.5	珩質頁岩	
図93-18	石筥	a	148-2	III	(31.0)	(40.0)	10.0	13.6	珩質頁岩	基部欠損
図93-19	石筥	II a	F-190	III	41.5	32.0	11.0	17.8	珩質頁岩	
図93-20	石筥	II b	C-192	III	53.5	(40.5)	17.0	30.0	珩質頁岩	基部欠損
図93-21	石筥	II b	C-118	I	62.0	28.5	16.5	28.8	珩質頁岩	
図93-22	石筥	II a	C-168	III	39.0	23.0	10.0	8.4	珩質頁岩	
図94-23	不定形石器		B-191	III	(42.0)	19.0	8.5	6.9	珩質頁岩	上部欠損
図94-24	不定形石器		F-167	III	38.0	17.0	13.0	8.0	珩質頁岩	
図94-25	不定形石器		B-180	III	(22.0)	(16.0)	6.9	2.7	頁岩	上部欠損
図94-26	不定形石器		C-192	III	121.0	58.0	27.0	129.3	珩質頁岩	

図版番号	器種	分類	出土地点	層位	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石材	備考
図94-27	不定形石器		E-161	Ⅲ	85.5	40.0	10.0	16.1	珪質頁岩	周縁調整
図94-28	不定形石器		D-189	Ⅲ	85.0	36.3	11.0	24.2	珪質頁岩	
図94-29	不定形石器		D-189	Ⅲ	66.0	31.0	16.9	29.7	珪質頁岩	
図94-30	不定形石器		E-169	Ⅲ	62.5	46.5	14.5	37.4	珪質頁岩	
図94-31	不定形石器		B-150	Ⅲ	37.0	50.0	10.5	15.8	珪質頁岩	
図94-32	不定形石器		F-186	Ⅲ	64.0	56.0	14.0	31.9	珪質頁岩	
図94-33	打製石斧		D-181	Ⅲ	86.0	47.0	17.0	84.5	流紋岩	
図94-34	打製石斧		E-169	Ⅲ	(65.5)	49.0	30.0	106.0	流紋岩	片側両面加工
図94-35	打製石斧		154-a	Ⅲ	46.0	57.0	22.0	72.1	砂岩	上部切断整形、側面・擦り
図94-36	打製石斧		C-153	Ⅲ	69.0	52.0	21.5	137.6	安山岩	片側片面加工
図95-37	打製石斧		E-168	Ⅳ	(73.0)	49.0	19.0	92.2	頁岩	全面・擦り
図95-38	磨製石斧		D-187	Ⅲ	164.0	73.0	23.0	479.2	緑色細粒凝灰岩	全面・擦り
図95-39	磨製石斧		C-192	Ⅲ	(105.0)	(56.0)	(20.0)	200.3	緑色凝灰岩	側面・強い擦り
図95-40	磨製石斧		D-169	Ⅲ	88.0	72.0	34.0	312.5	閃緑岩	上部切断整形、擦り・敲き・磨き
図95-41	敲磨器	a	150-2	Ⅳ	74.2	23.0	11.5	40.9	頁岩	側面・磨き
図95-42	敲磨器	a	E-169	Ⅳ	62.5	24.0	12.0	31.9	頁岩	側面・磨き
図95-43	敲磨器	a	154-c	Ⅳ	100.5	22.5	10.5	37.8	頁岩	側面・擦り
図95-44	敲磨器	c	B-181	Ⅲ	(25.0)	(36.0)	(14.0)	23.1	緑色細粒凝灰岩	擦り、上下欠損
図95-45	敲磨器	c	C-187	Ⅲ	(39.0)	(42.0)	(12.0)	20.1	安山岩	擦り、下部欠損
図95-46	敲磨器	a	152-c	Ⅲ	65.0	58.0	41.0	225.6	安山岩	1 側面・擦り、断面三角形
図95-47	敲磨器	a	148-1	Ⅲ	71.0	60.0	58.0	422.6	頁岩	3 側面・擦り、断面三角形
図95-48	敲磨器	a	F-171	Ⅲ	130.0	70.0	60.0	851.5	安山岩	2 側面・擦り
図95-49	敲磨器	c	147~149	—	106.0	70.5	34.7	395.3	安山岩	両面・擦り
図96-50	敲磨器	b	151-a	Ⅱ	59.0	54.0	20.0	97.3	砂岩	両端部・側面・擦り
図96-51	敲磨器	b	153-a	Ⅲ	86.0	57.0	25.0	189.8	安山岩	両端部・側面・擦り
図96-52	敲磨器	b	150-2	Ⅰ	80.0	65.0	50.0	370.9	砂岩	両端部・片側面・擦り
図96-53	敲磨器	a	162-2	Ⅲ	118.0	79.0	39.0	575.3	安山岩	片側面・下端部・擦り
図96-54	敲磨器	a	F-185	Ⅲ	108.0	60.0	32.0	265.5	砂岩	片側面・擦り
図96-55	敲磨器	a	150-2	Ⅰ	79.0	58.0	22.0	164.1	砂岩	片面片側加工、片側・擦り
図96-56	敲磨器	a	D-170	Ⅲ	78.0	84.0	41.0	383.7	頁岩	上部切断整形、両側面・擦り
図96-57	敲磨器	a	152-C	Ⅲ	60.0	76.0	27.0	199.0	砂岩	上部切断整形、側面・擦り
図96-58	敲磨器	a	F-18	Ⅲ	85.9	82.2	37.0	366.7	砂岩	側面・擦り、表面・凹み
図96-59	敲磨器	a	147~149	—	118.0	96.0	38.0	599.7	流紋岩	側面・擦り
図96-60	敲磨器	a	D-190	Ⅲ	102.0	79.0	29.0	353.4	流紋岩	側面・磨耗、敲き
図96-61	敲磨器	b	B-181	Ⅲ	61.0	55.0	46.0	204.6	チャート	両端部・敲き
図96-62	敲磨器	c	F-18	Ⅲ	77.5	62.5	36.5	227.9	安山岩	両面・凹み
図96-63	石製品		C-180	Ⅲ	63.0	48.0	19.0	43.7	流紋岩	自然孔の周囲に磨き
図97-64	石製品		D-169	Ⅲ	39.0	36.5	11.0	16.4	頁岩	両面から穿孔、全面・擦り
図97-65	石錘	I a	153-a	Ⅲ	66.0	59.0	21.0	115.5	チャート	上端部・擦り
図97-66	石錘	I b	151-d	Ⅲ	89.0	67.0	32.0	231.3	チャート	
図97-67	石錘	I b	D-170	Ⅲ	72.0	61.0	30.3	185.0	チャート(再堆積)	
図97-68	石錘	I b	F-185	Ⅲ	59.0	51.0	13.7	45.7	頁岩	
図97-69	石錘	I c	F-169	Ⅲ	90.0	88.0	31.0	333.7	凝灰岩	
図97-70	石錘	I c	149-2	Ⅲ	79.0	56.0	31.2	159.3	チャート	上部欠損
図97-71	石錘	I c	B-163	Ⅲ	84.0	56.5	19.0	144.5	凝灰岩	表面・凹み
図97-72	石錘	I d	149-2	Ⅲ	43.0	51.0	23.5	74.7	チャート	
図97-73	石錘	I d	F-118	Ⅳ	52.0	49.5	16.5	47.8	頁岩	
図97-74	石錘	I d	B-183	Ⅲ	82.5	66.0	27.0	211.7	チャート	側面・敲き
図97-75	石錘	I d	E-191	Ⅲ	86.0	80.0	32.0	304.2	安山岩	側面・敲き
図97-76	石錘	I d	D-181	Ⅲ	71.5	57.5	22.0	111.8	頁岩	側面・敲き
図97-77	石錘	I d	D-190	Ⅲ	85.0	66.5	23.5	136.1	安山岩	裏面・凹み
図98-78	石錘	I d	D-185	Ⅲ	92.0	74.5	27.0	245.8	チャート	側面・敲き
図98-79	石錘	I d	C-192	Ⅲ	73.5	53.0	26.5	137.5	安山岩	側面・敲き、擦り
図98-80	石錘	I d	153-a	Ⅲ	85.5	57.0	24.0	175.8	安山岩	表面・擦り
図98-81	石錘	I d	B-184	Ⅲ	85.0	69.0	22.3	170.2	安山岩	裏面・磨耗痕
図98-82	石錘	I d	155-1	Ⅲ	94.0	72.0	22.0	256.7	チャート	側面・敲き
図98-83	石錘	Ⅱ b	154-4	Ⅲ	94.0	39.0	9.5	41.6	粘板岩	
図98-84	石錘	Ⅱ	153-3	Ⅲ	69.5	41.0	21.0	87.6	チャート	表面・磨耗痕、上部欠損
図98-85	石錘	Ⅱ c	151-c	Ⅲ	83.0	50.0	23.0	117.0	チャート	
図98-86	石錘	Ⅱ d	F-185	Ⅲ	83.0	42.0	15.5	83.0	頁岩	
図98-87	石錘	Ⅱ d	149-2	Ⅲ	83.0	43.0	24.5	118.2	チャート	
図98-88	石錘	Ⅲ d	F-187	Ⅲ	65.5	66.0	22.5	141.8	安山岩	
図98-89	石錘	Ⅲ c	E-169	Ⅲ	68.5	82.5	31.0	210.3	チャート	
図98-90	石錘	Ⅲ d	D-190	Ⅲ	55.5	55.5	20.5	83.8	チャート	
図98-91	石錘	Ⅲ d	E-167	Ⅲ	54.0	49.0	16.0	58.3	安山岩	
図98-92	石錘	Ⅲ d	B-169	Ⅲ	47.5	57.5	13.0	44.8	チャート	

第3節 早期の土器について

幸畑（1）遺跡B区から出土した土器の大半は白浜・小舟渡平式に比定されるもので、その中に県内では稀な早期の突瘤・円孔を施した土器が含まれていることから、これらを含む第Ⅰ群・第Ⅱ群土器（第2節参照）を中心に述べる。

1 第Ⅰ群・第Ⅱ群土器について（白浜・小舟渡平式土器）

出土した土器は施文要素・施文方法・文様帯・器形・内外面調整等の面から、中野平遺跡第Ⅱ群（青森県埋文調報第134集）や根井沼（1）遺跡第Ⅰ群・小田内沼（4）第Ⅰ群1類（三沢市埋文調報第5集・10集）と共通する点が多く、白浜・小舟渡平式土器に比定するものとする。

第Ⅰ群土器の特徴としては、爪形状刺突文の出現率が高いのに対して縄文・沈線文は低いこと、絡条体回転や突瘤・円孔を施文しているものがあることなどが挙げられる。

次に第Ⅱ群土器の位置づけ及び第Ⅰ群土器との関連について考えると、第Ⅱ群土器は従来の白浜・小舟渡平式に分類される土器にはみられない施文構成（沈線で横位・縦位・斜位に区画し、区画の間に爪形状刺突文・貝殻押し引き文を施文）を持ち、根井沼式土器にある区画帯をもつ施文構成に近い要素を含んでいる。しかし直ちに根井沼式に分類されるかという点と幾つかの疑問点がある。

①施文要素が第Ⅰ群土器の施文要素を全て備えていること。

②区画の仕方の相違。

根井沼式土器の区画形態は貝殻文・沈線文・円形または爪形状刺突文を用いて施されるが、施文単位を観察すると横位・縦位に区画するものが多く、間に施文するものは区画に用いたものと同種または別の1種類のものを用いて施文する場合が多い。斜位に区画したのも同様である。これに比べ第Ⅱ群土器の形態は別のものであると考えられる。

③第Ⅰ群と同層から出土し、しかも圧倒的多数の第Ⅰ群土器の中に混じって出土したこと。

以上のことから第Ⅱ群土器が白浜・小舟渡平式と根井沼式土器の共通要素をもつ土器であり、白浜・小舟渡平式の後半から根井沼式にかけて作られた可能性が考えられる。

2 突瘤・内瘤、円孔を施した土器

幸畑（1）遺跡B区から出土した円孔・突瘤（内瘤）を施した土器（縄文時代早期）と他の地域との関連を追求する要素として、北海道で出土した同時期の円孔・突瘤（内瘤）を施した土器の資料収集を行った。その中から主な例を記載する。

- 1 幸畑（1）遺跡 白浜式に分類され口縁部に内瘤を施文したものと口縁部に円孔 [OI・IO] を施文したものがある。
- 2 上尾駱（2）遺跡 白浜式に分類され口縁部に円孔を施文している。
- 3 中野平遺跡 白浜式に分類され口縁部に円孔 [OI] を施文している。
- 4 中野B遺跡 口縁部に円孔を施文し松前町高野遺跡Ⅳ群または表館Ⅵ群相当に分類され

るものがある。

口縁部に円孔 [OI] を施文したものと内瘤を施文し住吉町式に分類されるものがある。

- 5 川上B遺跡 口縁部に突瘤を施文しているものと円孔 [OI] を施文したのものがある。
- 6 虎杖浜(3)遺跡 口縁部に内瘤を施文している。
- 7 有珠川2遺跡 口縁部に円孔 [OI] を施文している。
- 8 中野台地B遺跡 尖底深鉢土器で口縁部に円孔 [OI] を施文している。
- 9 駒場7遺跡 暁式に分類されている平底深鉢土器で、口縁部に内瘤を施文したものと円孔を施文したのものがある。
- 10 八千代A遺跡 暁式に分類され口縁部・胴部に内瘤を施文している。
- 11 上清水2遺跡 条痕文土器群に分類され口縁部に円孔 [OI] を施文している。

そのほかに、長七谷地貝塚遺跡第Ⅱ群(早期後半)に分類されたもので口縁部に内瘤を施文しているもの、小舟渡平式に分類された中に口縁部に内瘤を施文したもの(出典『世界考古大系』)などの出土例がある。

各遺跡から出土した土器の施文している方向をみると、青森県・北海道で出土した縄文時代早期のものは内側から外側へ向けて施した円孔・内瘤が多いことが言える。

(相馬 良仁)



No	遺跡名	所在地	文献	点数
1	幸畑 (1)	六ヶ所村	青森県埋蔵文化財調査報告書第236集 (H10)	5
2	上尾駁 (2)	六ヶ所村	青森県埋蔵文化財調査報告書第115集 (H 2)	1
3	中野平	下田町	青森県埋蔵文化財調査報告書第134集 (H 2)	1
4	中野 B	函館市	北埋調報97 (H 7)、108 (H 8)	4
5	川上 B	登別市	埋文調報13 (S 58)、20・27 (S 60)	13
6	虎杖浜 3	白老町	北埋調報11 (S 57)	1
7	有珠川 2	苫小牧市	道教委 (S 54)	2
8	中野台地 B	静内町		3
9	駒場 7	静内町		3
10	八千代 A	帯広市		2
11	上清水 2	清水町	北埋調報76 (H 3)	4

99図 早期の円孔を施した土器分布図

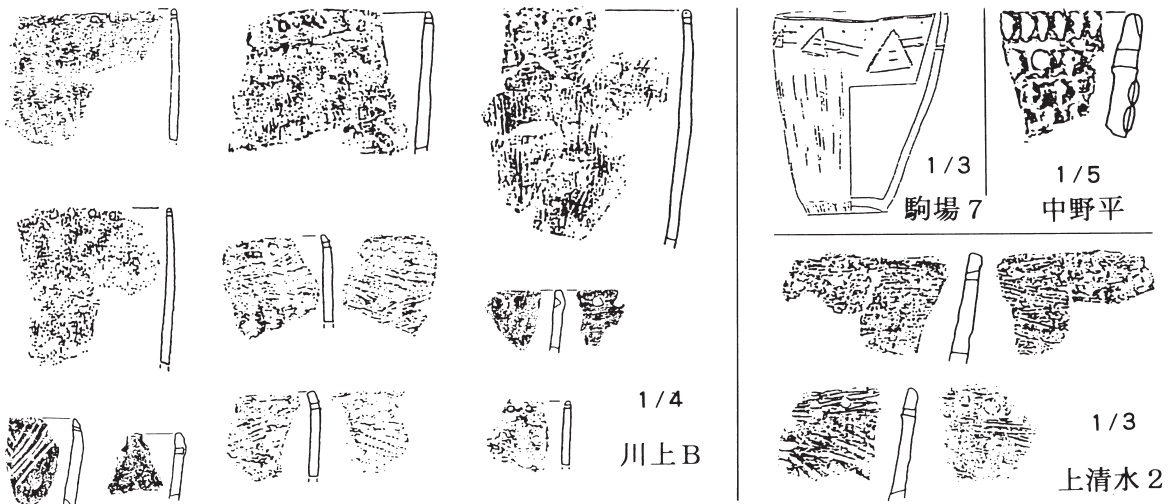
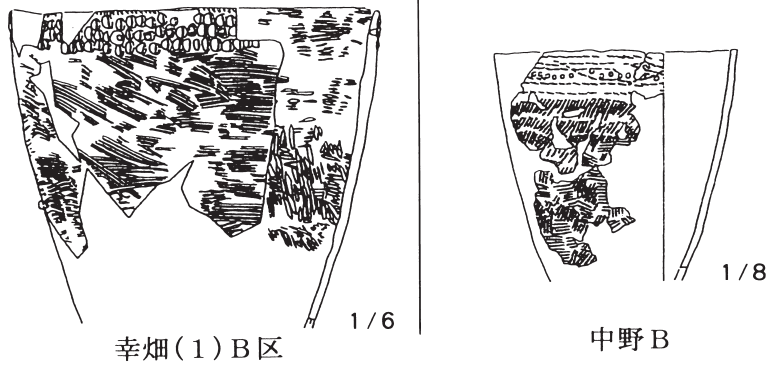
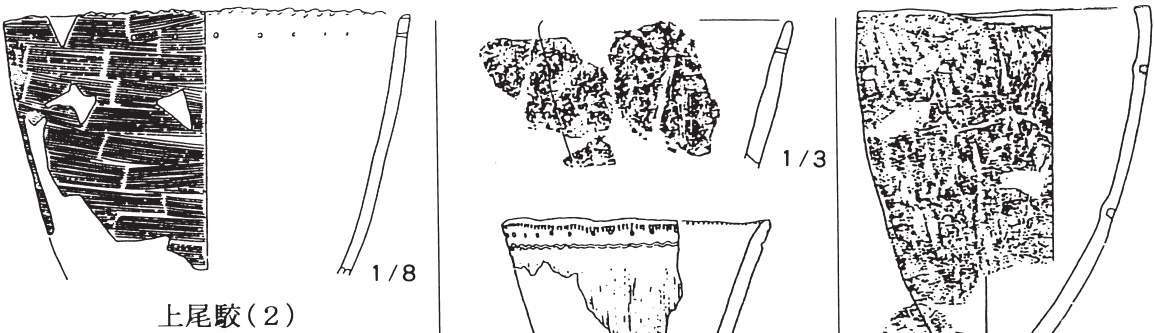
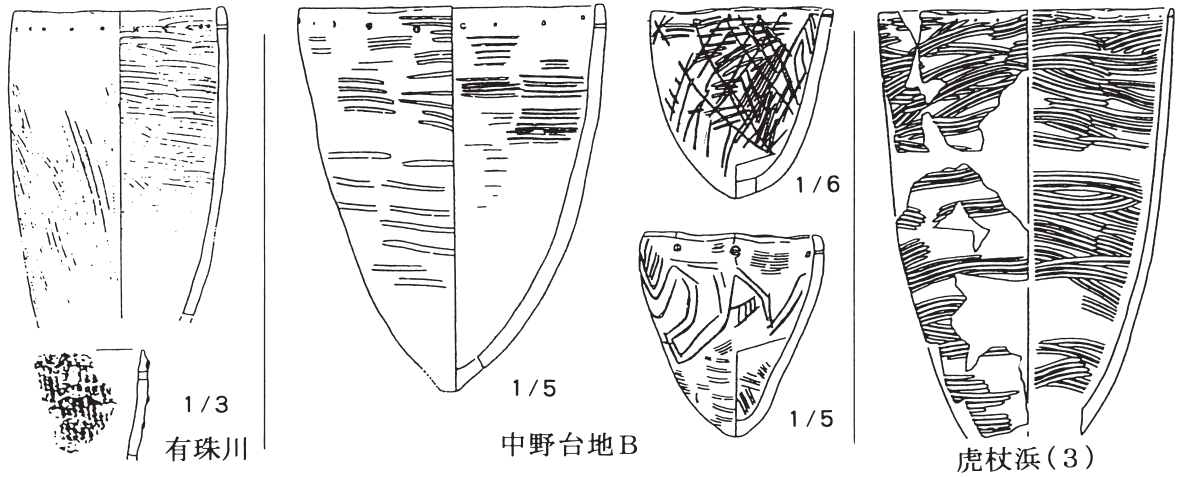


図100 早期の円孔を施した土器